授業コード	31025		
授業科目名	**PC統計学（前）**		
担当者名	森　剛志（モリ　タケシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	事前登録科目 2008年度以降入学生用 「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	与えられたデータを調理して、分析する。データから読み取れる事実を報告できるようにする。ただし、科学的な分析がおこなえるように、統計的基礎も随時身につけていく。
到達目標	データから読み取れる事実を統計学的に解析し、報告できるようにする。
講義方法	2つの課題に取り組んでもらいます。 1つは、私が統計的基礎の講義と、実際のデータを用いて、EXCELやSPSSで分析していく方法を教授しますので、各自分析結果を報告する。2つ目は、定めたテーマで各自が興味ある結果について、Power Pointで報告す
準備学習	配布した資料を事前に読んでおくこと。
成績評価	報告の質と内容。
講義構成	1.データ分析 2. 基本的記述統計分析 3. 分散と検定 4. 回帰分析
教科書	開講時にアナウンスします。
参考書・資料	授業用の資料を渡します。

授業コード	31034		
授業科目名	**PC統計学I（経済統計）（後）**		
担当者名	宇野伸孝（ウノ　ノブタカ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生はPC統計学Ｉとして履修すること。その際「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること。 2005年度以前入学生は経済統計として履修すること		

講義の内容	我々は自らの健康状態を知るために、体温や血圧、血糖値などの数値データから判断することがある。現在のデータだけではなく過去のデータも参照すれば、健康になりつつあるのか、それとも逆なのかが判断できる。 経済も同じであり、様々な状態において統計データという形で常にシグナルを発信している。一見してわかるものもあれば、組み合わせたり計算したりして初めて発見できるものもあるので、ある程度の統計手法や経済の仕組み（経済理論）も身につけておく必要がある。 本講義では、主に経済理論で取り扱うような変数が、現実の経済ではどのような名称で呼ばれているのか、推計する対象や方法とは何か、どこで入手できるのかなどの基本はもとより、実際に色々な角度からデータを眺めていくことで、自分の力で経済の状態や景気の先行きが分析できるよう練習を積み重ねていく。 なお、本講義がいわゆる統計学と異なる点は、記述統計や推測統計などの手法面よりも、現実の経済を投影したデータそのものに重点を置いていることである。したがって、数学の知識はそれほど必要としない。
到達目標	インターネットから必要な経済データを入手できる。 グラフ作成や簡単な統計分析ができる。
講義方法	インターネット上に公開されている様々なデータを収集し、簡単な計算やグラフ作成などを通して理解を深めていく。なお、毎回これらをまとめて課題として提出してもらう。
準備学習	Excelの基本操作を習得しておくこと。
成績評価	評価の目安としては、出席が30%、課題が70%

講義構成	第1日 経済関連ニュース 第2日 国の財政と地方財政 第3日 フィリップス曲線 第4日 人口ピラミッド 第5日 世界のGDP 第6日 株価 第7日 日銀短観 第8日 景気動向指数 第9日 価格指数 第10日 ローレンツ曲線 第11日 回帰分析 第12日 シミュレーション 第13日 連立方程式 第14日 産業連関分析 第15日 総復習
教科書	特に指定しない。 必要な資料等はWebで提示する。
参考書・資料	必要に応じて講義中に紹介する。
講義関連事項	マクロ経済学やミクロ経済学などの経済理論の基礎となる科目を並行して学習すると効果的。次のステップとして、PC統計学II、情報処理の上級科目、計量経済学などがある。

担当者から一言	インターネットやオフィスソフトを利用するので、あらかじめPCの基本操作を習得していることが望ましい。

授業コード	31054		
授業科目名	**PC統計学II（PC統計学）（前）**		
担当者名	宇野伸孝（ウノ　ノブタカ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生はPC統計学Ⅱとして履修すること。その際「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること。 2005年度以前入学生はPC統計学として履修すること		

講義の内容	実験データや統計データ、アンケート調査など、結果として得られた各種データの間には、何らかの関連性や傾向が潜んでいることが多い。そのままだと見過ごしてしまう、このような要素を抽出するアプローチの一つに多変量解析がある。多変量解析とは、主成分分析や因子分析、クラスター分析などいくつもの手法の総称であり、コンピュータの発展・普及とともに広く利用されるようになった。 本講義では、多変量解析の基礎をPCで実際に計算しながら習得していく。データの収集・整理には主にExcelを使用するが、分析には統計ソフトのSPSSを用いることにする。
到達目標	経済データの基本的な分析手法を習得する。 データに必要な分析方法の選択ができる、また逆に分析に必要なデータが入手・選択できること。
講義方法	講義毎に一つ以上のテーマを設け、必要な理論の説明、例題を使ったSPSSの操作方法の説明、練習問題（提出物）の順に進めていく。
準備学習	Excelの基本操作を習得しておくこと。
成績評価	評価の目安としては、出席が30%、課題が70%
講義構成	第1日 Excelの基本操作確認 第2日 SPSSの入力・加工 第3日 グラフと表の作成 第4日 代表値について 第5日 共分散と相関関係 第6～7日 回帰分析 第8～9日 判別分析 第10～11日 クラスター分析 第12～13日 因子分析 第14～15日 主成分分析

教科書	内藤統也監修・秋川卓也著『新装版 文系のためのSPSS超入門』プレアデス出版。
参考書・資料	小田利勝著『ウルトラ・ビギナーのためのSPSSによる統計解析入門』プレアデス出版。 村瀬洋一・高田 洋・廣瀬毅士著『SPSSによる多変量解析』オーム社。
講義関連事項	計量経済学、経済統計学、経済数学、情報処理関連。

担当者から一言	インターネットやオフィスソフトを利用するので、あらかじめPCの基本操作を習得していることが望ましい。統計学や数学に興味があればなお良し。

授業コード	31016		
授業科目名	**アジア経済入門（後）**		
担当者名	裴　光雄（ペ　クワンウン）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	アジアNIEs、ASEAN諸国を始めとするアジアの国々・地域の経済成長は、目を見張るものがあり、近年、世界の成長を牽引する最有力の地域となった。アジアの諸国が日本の経済発展にとっても重要であることをいまさら論じる必要もない。多くの日本企業はコストを節約するために生産拠点をアジアに移してきた。したがってアジア経済を知ることはきわめて重要な意義を持つ。講義では、多くの国の幅広い問題を取り扱うので、概説的にならざるを得ないが、アジア経済をより深く学習するための手がかりになるようにしたい。
到達目標	アジア各国の経済について、基本的な知識を習得し、正しく視ることができるようになる。アジア各国という場合、日本、NIEs、ASEAN、中国、インドについて、これらの国・地域の経済発展の歴史と特徴を理解し、これらの地域・国が今後どのように発展していこうとしているのかを考え、そして日本にいる私たちがアジア地域に住む人々と今後、どのようにより良い関係を築いていけるのか、を考えることができる。
講義方法	授業は講義のレジュメと統計資料を毎回配布し、必要に応じてパワーポイントも使用します。講義が中心ですが、時事的な問題も含めて随時ビデオも利用します。特定の教科書は指定しませんが、参考図書を参考にしてください。
準備学習	重要なことは、日頃からアジア経済に関心を持つことです。そしてできれば興味のある国を見つけて、日頃から関心を持っていただきたいと思います。
成績評価	平常点30%と期末試験70%の割合で評価します。平常点は抜き打ちの小テスト。私語をする学生は減点し退場してもらいます。試験は、用語解説と論述式の問題です。論述式の問題にはいくつかの選択肢があって、各自の関心にしたがって答えられるようにしますが必ず自分の言葉で書くことが大切です。
講義構成	1週目：オリエンテーション 2週目：アジア経済（日本、NIEs）の基本的指標（1） 人口、面積、GDP、国民所得、貿易額、産業構造、就業構造など 3週目：アジア経済（ASEAN、中国、インド）の基本的指標（2） GDP、国民所得、貿易額、産業構造、就業構造など 4週目：日本の経済発展の歴史と特徴（1） 戦後復興期、高度成長期 5週目：日本の経済発展の歴史と特徴（2） オイルショック以降の低成長期、バブル経済、平成不況 6週目：NIEsの経済発展の歴史と特徴（1） ー韓国ー 7週目：NIEsの経済発展の歴史と特徴（2） ー台湾ー 8週目：NIEsの経済発展の歴史と特徴（3） ー香港、シンガポールー 9週目：ASEANの経済発展の歴史と特徴（1） ータイ、マレーシアー 10週目：ASEANの経済発展の歴史と特徴（2） ーインドネシア、フィリピンー 11週目：ASEANの経済発展の歴史と特徴（3） ーベトナム、ミャンマーー 12週目：中国の経済発展の歴史と特徴（1） ー改革開放以前ー

	13週目：中国の経済発展の歴史と特徴（2） ー改革開放以後ー 14週目：インドの経済発展の歴史と特徴 15週目：全体のまとめ or 試験 順番の変更はありうる
教科書	特に指定しない。プリント配布。
参考書・資料	事前の購入の必要はないが、以下の図書を参考図書として薦める。 ・今井　宏他『テキストブック　21世紀アジア経済』勁草書房、2003年 ・渡辺利夫『アジア経済読本[第3版]』東洋経済新報社、2003年。 ・原洋之助『アジア経済論』NTT出版、1999年。

担当者から一言	とにかく出席して前に座り、ノートを必ずとるようにしてください。

授業コード	31017		
授業科目名	**アメリカ経済入門（前）**		
担当者名	田村太一（タムラ　タイチ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	本講義では、現代アメリカ経済をみるうえでの基礎的な知識の修得を念頭において、アメリカン・グローバリズムを検討します。
到達目標	アメリカ経済の歴史と現状の理解を通じて、理論的・歴史的・実証的な分析力の涵養を目指します。
講義方法	テキスト、レジュメを用いて講義する予定です。講義の進行に応じて、下記スケジュールを調整する可能性があります。
準備学習	講義前に、該当するテキスト、参考書の部分を予め一読しておいてください。
成績評価	学期末試験で成績評価を行います。
講義構成	1. ガイダンス＆イントロダクション――現代アメリカ経済をみる眼 ◇アメリカン・グローバリズムの国内的文脈（前半） 2. アメリカ経済の歴史（主に建国期から19世紀） 3. 産業構造の変遷 4. 企業経営と株主資本主義 5. 金融制度と金融革新 6. 財政政策の歴史的展開 7. アメリカ型福祉国家体制と雇用システム ◇アメリカン・グローバリズムの対外経済関係（後半） 8. グローバリゼーションとアメリカン・グローバリズム 9. 戦後の国際経済体制と金ドル本位制 10. 海外直接投資と多国籍企業 11. 多国籍企業の貿易構造と通商政策 12. オフショアリングとサービス貿易 13. グローバルマネー循環 14. グローバル・ガバナンスと政策協調 15. まとめ
教科書	中本 悟編『アメリカン・グローバリズム――水平な競争と拡大する格差』日本経済評論社、2007年。
参考書・資料	萩原伸次郎・中本 悟編『現代アメリカ経済――アメリカン・グローバリゼーションの構造』日本評論社、2005年。 新岡 智・増田正人・板木雅彦編『国際経済政策論』有斐閣、2005年。 池上 彰『そうだったのか！アメリカ』集英社文庫、2009年。
講義関連事項	国際経済学、国際金融論、日本経済論

担当者から一言	スミス、リカード、マルクス、ケインズなどの経済学の古典に触れてください。

授業コード	55C31		
授業科目名	**インターンシップ・ボランティア（経済）**		
担当者名	青木浩治（アオキ　コウジ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	2007年度以降入学生適用		

講義の内容	このプログラムは、企業や団体、地域社会と連携した直接的な社会体験や就業体験により、社会人としての基本的マナーや社会の求めている能力・知識を学生の皆さんに理解・習得して頂くことを目的としています。また、同時に、働くことの意味や重要性を現場体験を通じて知って頂く絶好の機会にもなるでしょう。
到達目標	大学外での貴重な現場体験を通じて、学生の皆さんが一層成長して頂くことが目標です。
講義方法	インターンシップ・ボランティア先での実体験を基礎とし、その結果をプレゼンする。
準備学習	現場体験の場を自ら発掘することが必要です。
成績評価	活動に関するレポートおよび出席状況と、11月上旬に予定されている報告会でのプレゼンテーションにより評価します。
講義構成	(1)キャリアセンターが実施するガイダンスに出席して下さい。 ・インターンシップ　4月14日（水）、4月16日（金）の12:20～12:50分。場所は、後日キャリアセンター掲　示板にて連絡しますので、各自確認して下さい。 ・ボランティア　　4月13日（火）、4月15日（木）の12:20～12:50分。場所は、後日キャリアセンター掲　示板にて連絡しますので、各自確認して下さい。 (2)インターンシップまたはボランティアを希望する学生は、キャリアセンターに登録書を提出して下さい。期限は5月13日（木曜日）午後3時までとします。 (3)キャリアセンターに紹介を希望する場合は、キャリアセンター委員会または受け入れ企業・団体が面接によって選考します。 (4)夏季休暇期間を利用して、60時間以上のインターンシップ・ボランティアに参加して下さい。ただし、企業・団体の都合により60時間に満たないケースがあるかもしれません。 (5)活動に関するレポートを指定期日までにキャリアセンターに提出して下さい。レポートの様式はキャリアセンターに直接問い合わせてください。 (6)11月上旬に、インターンシップ・ボランティアに参加した経験を発表する報告会を開催する予定です。その場において、プレゼンテーションを行うことが各自の課題として要求されます。
教科書	特定の教科書は使用しません。

その他	参加者は、キャリアセンターが実施する事前研修と事後研修に積極的に参加して下さい。

授業コード	31K11		
授業科目名	**英語で読む経済I（ 1ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	杉村芳美（スギムラ　ヨシミ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	英語テキストの講読をとおして、グローバル化した今日の経済について理解を深める
到達目標	英語文献に抵抗なく接することができるようになるとともに、内容を大きくつかんで理解できるようになること
講義方法	受講者による英語テキストの読解を中心にしながら、重要な経済事象、経済用語についての知識を増やしていく。取り上げる経済現象についての解説も適時加えていく。
準備学習	毎回の学習箇所の予習をしっかり行うとともに、取り上げられる経済事項、経済用語について下調べを行うこと。新聞を読み、ニュースを見る習慣を身につけること。

成績評価	出席、受講姿勢、期末試験などを総合的に評価します
講義構成	学習進度にしたがって、テキストを選び、授業での作業内容を深化させていきます
教科書	授業時に指示・配布します

授業コード	31K12		
授業科目名	**英語で読む経済I (2ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	東　裕三(ヒガシ　ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	ミクロ経済学の基礎的な英語文献を読むことで、英文を読む訓練をすると同時に、ミクロ経済学の基本的な考え方を理解する。
到達目標	ミクロ経済学の基本的な考え方を英語で理解することができる。
講義方法	事前に英文資料を配布し、予習を行ってもらう。授業では、担当者に訳を発表してもらい、英訳や経済理論に関して適宜、補足や解説を行う。
準備学習	どの分野の英文でもよいので、英語の長文読解に慣れておくこと。
成績評価	期末試験50%、平常点(出席＋発表)20%、小テスト30%で総合評価する。
講義構成	第1回:講義のガイダンス(講義内容・方法、成績評価についての説明) 第2回~第14回:受講生による英訳の発表、英訳や基礎的な経済理論の解説 適宜小テストを実施する予定。
教科書	各講義で教材プリントを配布する。
参考書・資料	講義にて適宜紹介する。

担当者から一言	英文や経済学の理解を深めるため、一歩一歩着実に勉強していきましょう。

授業コード	31K13		
授業科目名	**英語で読む経済I (3ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	中野沙弥香(ナカノ　サヤカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		

講義の内容	英語で書かれた経済の文献を読むことで、英語に慣れると同時に経済に関する知識を増やすことも目的としています。
到達目標	読解力の上昇と経済に対する理解を深めることを目標としています。
講義方法	英文テキストの輪読と討論を行います。
準備学習	特にありません。
成績評価	出席、発表、課題等の平常点と期末テストにより総合的に評価します。
講義構成	各講義毎に1つのテーマについて輪読・討論を行います。
教科書	開講時に教材プリントを配布します。

授業コード	31K14		
授業科目名	**英語で読む経済I（ 4ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	王　凌（ワン　リン）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		

講義の内容	英文新聞・雑誌や英文テキストから、経済的な考え方がよく示されている文章を選び、英語と経済を同時に学ぶ。この講義の目的は、経済に関する国際的な話題を英文で読むことを通して、英文の読解力を養うところにある。同時に、様々な話題に触れることで国際感覚を身につけて欲しい。
到達目標	具体的な到達目標は次の2つです。 （1） 経済学に関する基本的な英語文献を輪読して英語の読解力を高めること。 （2） 経済学の専門知識についての理解を深めること。
講義方法	英文を丹念に読みこなす力を身に付けるため、受講者全員が事前に配布した英文を翻訳する。授業では、順番に日本語訳を発表してもらいます。そして、全員で資料の内容に関して議論します。
準備学習	事前に配布した資料の英訳を準備しておくこと。
成績評価	講義出席、課題準備および期末試験成績で総合的に評価します。
講義構成	第1回　イントロダクション 第2回～第4回　経済学に関する英語資料 第5回～第7回　日本経済に関する英語資料 第8回～第10回　アジア経済に関する英語資料 第10回～第12回　アメリカ経済に関する英語資料 第13回～第14回　ヨーロッパ経済に関する英語資料
教科書	あらかじめプリントを配布する。

授業コード	31K15		
授業科目名	**英語で読む経済I（ 5ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	寺地祐介（テラジ　ユウスケ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		

講義の内容	英語で書かれた経済学の教科書をもとに、前期の入門ミクロ経済学の発展的なトピックを取り扱う。 発展的なトピックの例は、以下のとおり。 ・ 外部性（環境問題） ・ 公共財・共有地の問題（政府の役割） ・ 貿易の利益 ・ 企業間競争（市場構造） 以上のようなトピックのうち少なくとも二つを取り扱うことにする。 取り扱うトピックは受講者との相談で決めたい。
到達目標	前期で学んだミクロ経済学の基礎的な内容を踏まえ、ミクロ経済学の理論的枠組で、どのように現実の問題を考察・分析できるかを学ぶ。
講義方法	主に講義ノートをもとに授業を行う。

準備学習	準備学習は、必要なし。 ただし、宿題を通じて、毎回の授業内容を復習すること。
成績評価	成績評価は以下のとおり。 出席(宿題提出+授業参加):30% 中間テスト:20% 期末テスト:50%
講義構成	14回の授業のスケジュールは以下のとおり。 第1回　イントロダクション 第2回以降　第1回で決まったトピックに関する講義 なお、第2回以降の講義は、主に講義ノートをもとに行う。 また、トピックによっては、簡単なグループワークを行ってもらうこともある。
教科書	G. N., Mankiw "Principles of Economics fifth edition" (2008) South-Western 教科書に関する具体的な指示は第1回講義で連絡する

授業コード	31K16		
授業科目名	**英語で読む経済I (6ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	岡本　弥(オカモト　ヒサシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		

講義の内容	英字新聞の記事や英語で書かれた簡単な経済学の論文を材料に読解・大意要約および内容把握を行う。
到達目標	英語で書かれた経済に関する記事や簡単な経済学の論文を自力で読み解く力をつけることを目標としたい。
講義方法	配布資料とそれに関連する宿題をもとに授業を実施する。
準備学習	毎回の宿題の励行。
成績評価	評価の配点は、出席30%・課題70%とする。なお、課題は毎回の宿題と2回のレポートを予定している。また出席点は、授業に対する貢献度を加味して評価する。
講義構成	授業は、次のような流れで実施する 配布資料の内容把握 *各段落の内容の要約 *主張およびその根拠の把握 *経済学的な重要ポイントに関する説明
教科書	第1回の講義で指定する。
参考書・資料	適宜、講義で指定する。

担当者から一言	語学の基本はまめに辞書をひくことです(というか私の信念です)。英文解釈力に自信がなくても、そのような努力を厭わない人を歓迎します。

授業コード	31K17		
授業科目名	**英語で読む経済I (7ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	東　裕三(ヒガシ　ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	経済学に関する英語文献を読むことにより、英文を読む訓練をすると同時に、経済現象に対する理解を深める。

到達目標	短時間で英文の意味を理解できるようになること。
講義方法	・事前に資料を配り、予習を行ってもらう。 ・授業では担当者に訳を発表してもらう。 ・必要に応じて、補足や解説を行う。
準備学習	予習をすること。
成績評価	期末試験60%と平常点（出席＋発表）40%
講義構成	第1回 授業のガイダンスなど 第2回 授業開始：受講生による発表を中心に進める ・・・ 最終回まで続く
教科書	教材を配布する。

授業コード	31K18		
授業科目名	**英語で読む経済I（ 8ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	田代義次（タシロ　ヨシツグ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		
オフィスアワー	第1回目の講義で通知します。		

講義の内容	経済に関する文献を英語で読むことにより、両方に親しんでもらうことを目的とします。
到達目標	指名されなくても、積極的に発言できるようになってください。
講義方法	皆さんが気軽に発言できる講義を目指します。 受講生の発表による内容理解がメインになります。
準備学習	生活のなかで接する経済に関する事柄に興味を持ってください。
成績評価	出席点、平常点（発表による）とテストで総合的に評価します。
講義構成	英語文献の内容の理解（受講生の発表）と、それについて議論する予定です。
教科書	第1回目の講義で指定します。

担当者から一言	平常点の占める割合が高いので、積極的に発言できる方でないと、高得点は期待できません。

授業コード	31N11		
授業科目名	**英語で読む経済II（ 1ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		
オフィスアワー	火曜3限～4限		

講義の内容	市場経済がどのように機能するかを分析するミクロ経済学の基礎を学びます。 1. 市場と需要、供給 2. 弾力性概念 3. 市場と公共政策 講義内容はある程度、すでに入門ミクロ経済学で学んでいるはずですから、この講義では皆さんが習得済みの経済学の概念がどのように表現されるか、またそれらの概念がどのように分析に利用されるかを解説する。
到達目標	価格変動を通じて、市場経済でおこるさまざまな経済問題がどう解決されるか、政府の政策によって事態をどのように改善できるか、といった問題を簡単な理論的ツールで分析できるようになること、ならびに簡単な経済問

	題を英語で分析できるようになること。
講義方法	1. まず全員で文章を音読する（英語の勉強には音に強くなることも大事）。 2. 指名して、学生にパラグラフ毎に内容を説明してもらう。 3. 必要に応じて、教員が内容を詳しく解説する。 4. 自宅で、練習問題を解いて勉学内容の理解度を確認する。
準備学習	1. 自宅で教材の音読の練習。 2. 自宅でキーコンセプトを学習。 3. （講義後に）再度、講義内容を確認すること。
成績評価	1. 定期試験の結果（80%） 2. 講義中の質疑・発表（20%）
講義構成	（1～4回） 1. The Market Forces of Supply and Demand （5～8回） 2. Ealsticity and Its Application （9～14回） 3. Supply, Demand, and Government Policies
教科書	N. Gregory Mankiw, Principles of Economics, Third Edition, 2004, Part 2.
参考書・資料	「入門ミクロ経済学」の講義で使用した教科書を再度取り出して勉強してください。 伊藤元重『入門経済学（第3版）』日本評論社、ほか。
講義関連事項	経済理論の基礎を学びますので、ミクロ経済学関連の科目と内容的に関連します。他の科目についての質問もご遠慮なく！

担当者から一言	声に出して読んでみましょう。

授業コード	31N12		
授業科目名	**英語で読む経済II（ 2ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	谷口謙次（タニグチ ケンジ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		

講義の内容	テキストには『オバマ演説集』（朝日出版、2008年）を使用します。オバマ大統領の演説の素晴らしさは各方面で絶賛されており、これ以外にも多数の本が出版されています。また、インターネットでも彼の演説が動画や文章で数多く取り上げられています。彼の演説は英語も内容も分かりやすく、自らの主張がはっきりしています。その点で英語を学ぶ最良の教材と考えています。 講義では主に『オバマ演説集』から「2004年民主党大会貴重演説」の内容を取り上げます。当時オバマ氏は大統領候補どころか連邦上院議員でもなく、州上院議員でしかありませんでした。しかし、今回の選挙戦の間常に主張してきた内容は、すでにこの演説の中に数多く見られます。失業問題、戦争、医療や教育問題、こうした経済に関わる問題についてやさしく、的確に論じています。この演説を通して、彼がなぜ黒人（アフロ・アメリカン）初の大統領に選ばれたのかを知り、そしてそれについて考えてもらいたいと思います。
到達目標	本講義では英語で経済、それに関わる社会や海外事情について理解する能力を身に付けることが目的です。単に英文を訳すのではなく、その内容について理解できることが大切です。経済や社会に関係する専門用語を身に付け、文法の基礎をもう一度確認することとします。
講義方法	毎回テキストの中から文章を選び取り、そこで用いられる専門用語や文法を解説します。また、内容に関する解説も行い、理解を深めていきたいと考えています。 基本的にプリントは配りません。必ずノートかルーズ・リーフを用意してください。
準備学習	特になし。
成績評価	期末テスト50点、小テスト30点（計10回）、復習テスト20点（前期中に2度）とします。 小テストは毎回の専門用語や単語のテスト。復習テストは講義5～6回の内容。期末テストは講義中すべての内容を含みます。なお小テストは出席確認ではありません。 すべてのテストで持ち込みは不可です。
講義構成	01.オバマ大統領、テキストについての解説。 02.「格別に名誉ある夜」22頁。 03.「二つの大陸から生まれた夢」24頁。

	04.「アメリカ独立宣言の下に」26頁。 05.「素朴な夢を信じ」28頁。 06. 復習テスト 07.「我々にはもっとなすべきことがある」30頁。 08.「人々はきちんと認識している」32頁。 09. 「戦死者と家族について考える」38頁。 10. 「若者を戦地に送る者の義務」40頁。 11. 復習テスト 12.「多数からひとつへ」42頁。複 13.「リベラルなアメリカも･･･」44頁。 14.「希望の政治に参加しよう」46頁。 15.「歴史の岐路で正しい選択を」48頁。
教科書	『オバマ演説集』(朝日出版、2008年)

授業コード	31N13		
授業科目名	**英語で読む経済II (3ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	嘉陽英朗(カヨウ　ヒデアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		

講義の内容	この講義では、社会や経済における人間の活動の中に発生する、いろいろな行動パターンの合理性・非合理性を、歴史の中に探る教材(ファシズム、バブルなど)を採用してきました。本年度も引き続き大きなテーマは保ちながら、もう少し身近な現象にも触れられるような教材を選び、読むことにしたいと思います。
到達目標	(内容)経済における基本的な概念(例:インセンティブ)の英語による再確認と、 健全な懐疑主義、「自分も例外ではない」感覚の再確認。 (英語・日本語)間接的に示されている論理構造を読み解き、考えることの復習。
講義方法	(1)教材や参考資料はプリントとして配布しますので、指示に従って予習をしてください。 (1回の予習量の目安は、A4に打ったプリントで、改行やヒントのスペースも含めて、2/3～1枚程度を予定しています。) 予習は、下調べや訳が中心です。 ↓↓ (2)授業では、受講者の皆さんを指名して、訳や答えを発表していただきます。 講師は正解や訳(例)、解説、関連情報、関連するエピソードなどで応答します。 ↓↓ (3)授業の終わりに、次の授業の予習範囲などをお知らせします。
準備学習	「授業方法」の項目の通り、予習が必要です。特別な準備が必要な場合は、改めて指示します。
成績評価	平常点40%、試験60%。試験の受験だけで単位を取得することは出来ません。 平常点に関するルールは、講義開始時にあらためて説明します。
講義構成	第1回:出席者確認・説明書と教材配布・講義説明など 第2回:授業開始(基本的概念の確認、背景について) (＊最初の何回かは、新規参加者のための簡単な 再説明も、時間の許す範囲で行います。) --------

	第3回から：配布した課題や資料をもとに、授業を行います。 --------- 最終回 ：授業続き、補足、試験について。 --------- 定期試験
教科書	プリントを配布します。プリントには、直接の教材となる英文だけではなく、用語解説や背景紹介、文法解説なども盛り込みます。特に除外の指定がない限り、すべてが試験対象となります。
参考書・資料	必要に応じて、適宜、プリントとして配布、またはご紹介いたします。
講義関連事項	必修授業ではありませんが、教材を受け取り、ある程度継続したテーマについて「続きもの」の授業になりますので、できるだけ出席できるように、努力してください。

授業コード	31N14		
授業科目名	**英語で読む経済II (4ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		
オフィスアワー	火曜4限（前期）もしくは火曜5限（後期）		

講義の内容	この講義では、経済学の基礎的な考え方を英語で読んでみます。 経済学で用いられる英語はさほど難しくないので、日本語で理解するよりも簡単かもしれませんし、新たな発見があるかもしれません。適宜表やグラフがあるので、英語での表やグラフの表現方法も学びます。
到達目標	経済学の基礎的知識を習得するとともに、基礎的な英語力を養うことを目標とします。
講義方法	毎回担当箇所を英訳してもらい、発表してもらいます。
準備学習	担当した英文の和訳をし、他の受講生の前でわかりやすく発表する必要があるため、十分な事前準備をする必要があります。くれぐれも自分が発表する際には欠席をしないよう気をつけてください。
成績評価	平常点50点、期末試験50点とします。平常点は担当分の発表で評価しますので、講義中発表しなかった場合、平常点がなくなることに注意してください。
講義構成	第1回　オリエンテーション 第2～14回　各受講者による発表と解説 第15回　期末試験
教科書	Walter J. Wessels, Economics (Barron's Business Review Series) (Paperback), Barron's Educational Series; 4 edition (July 1, 2006) を用います。

担当者から一言	経済学を英語で学ぶことによって、より経済学の視野が広がると思います。 英語が好きな人も、経済学が好きな人もぜひ受講してみてください。

授業コード	31N15		
授業科目名	**英語で読む経済II (5ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	上池あつ子（カミイケ　アツコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		

講義の内容	グローバリゼーションのもと相互依存が強まっているため、世界経済の動向が日本経済の動向に大きな影響を与えている。本講義では、、世界経済の動向および日本経済の動向に関する海外の有力な経済誌の論説などを中心に輪読し、世界経済と日本経済の現状とその課題、展望について、理解を深めることを目指す。
到達目標	基本的な経済用語（英語）やその意味など英文経済誌を通読できるための語彙力の習得と同時に、現代の世界経済と日本経済が抱える諸問題について一定の知識と理解を獲得する事を目標としたい。

講義方法	講義と受講生による輪読を併用する。講義については、課題となる英文論説について、文法的な説明および経済用語の解説などを行い、論点の整理を行う。受講生は、輪読を通じて内容への理解を深める。 経済英語用語の習得、課題の内容理解を確認する一環として、復習テストを1回実施する。
準備学習	受講生は、辞書や参考資料にあげた石塚雅彦『経済英語入門』などを利用し、配布した英文の課題を通読し、文法上および内容において不明な部分を明確にしておくことが必要である。 日本経済新聞や日本の主要新聞などの経済面を読み、経済情報や知識を取得することも有用であると思われるので、ぜひ実践してほしい。
成績評価	成績評価については、出席点が20%、復習テスト40%、定期試験40%で総合評価するため、定期試験のみでの単位取得は困難である。
講義構成	第1回：講義のガイダンス（講義内容・方法、定期試験・復習テスト、成績評価について説明）。 第2回～第6回：講義と輪読。 英文課題を配布し、論点整理、文法の解説などを行う。その後受講生による輪読を行い、課題の内容の理解を深める。 第8回：復習テスト 第9回～第14回：講義と輪読。 英文課題を配布し、論点整理、文法の解説などを行う。その後受講生による輪読を行い、課題の内容の理解を深める。
教科書	主として、the Economistの経済論説記事を使用する。使用する論説記事は適宜講義において配布する。
参考書・資料	石塚雅彦『経済英語入門』日経文庫

授業コード	31N16		
授業科目名	**英語で読む経済II（ 6ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	嘉陽英朗（カヨウ　ヒデアキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		

講義の内容	この講義では、社会や経済における人間の活動の中に発生する、いろいろな行動パターンの合理性・非合理性を、歴史の中に探る教材（ファシズム、バブルなど）を採用してきました。本年度も引き続き大きなテーマは保ちながら、もう少し身近な現象にも触れられるような教材を選び、読むことにしたいと思います。
到達目標	（内容）経済における基本的な概念（例：インセンティブ）の英語による再確認と、 健全な懐疑主義、「自分も例外ではない」感覚の再確認。 （英語・日本語）間接的に示されている論理構造を読み解き、考えることの復習。
講義方法	（1）教材や参考資料はプリントとして配布しますので、指示に従って予習をしてください。 （1回の予習量の目安は、A4に打ったプリントで、改行やヒントのスペースも含めて、2/3～1枚程度を予定しています。） 予習は、下調べや訳が中心です。 　↓↓ （2）授業では、受講者の皆さんを指名して、訳や答えを発表していただきます。 講師は正解や訳(例)、解説、関連情報、関連するエピソードなどで応答します。 　↓↓ （3）授業の終わりに、次の授業の予習範囲などをお知らせします。
準備学習	「授業方法」の項目の通り、予習が必要です。特別な準備が必要な場合は、改めて指示します。
成績評価	平常点40%、試験60%。試験の受験だけで単位を取得することは出来ません。 平常点に関するルールは、講義開始時にあらためて説明します。
講義構成	第1回：出席者確認・説明書と教材配布・講義説明など 第2回：授業開始（基本的概念の確認、背景について） （＊最初の何回かは、新規参加者のための簡単な 　　再説明も、時間の許す範囲で行います。） ―――――――

	第3回から：配布した課題や資料をもとに、授業を行います。 --------- 最終回 ：授業続き、補足、試験について。 --------- 定期試験
教科書	プリントを配布します。プリントには、直接の教材となる英文だけではなく、用語解説や背景紹介、文法解説なども盛り込みます。特に除外の指定がない限り、すべてが試験対象となります。
参考書・資料	必要に応じて、適宜、プリントとして配布、またはご紹介いたします。
講義関連事項	必修授業ではありませんが、教材を受け取り、ある程度継続したテーマについて「続きもの」の授業になりますので、できるだけ出席できるように、努力してください。

授業コード	31035		
授業科目名	**開発経済（前）**		
担当者名	川畑康治（カワバタ　コウジ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限 月曜3限
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	現在、地球上で約26 億の人々が栄養失調状態にあり、3秒に1人の割合で子供が貧しさのために死んでいます。その一方で中国・インドなどアジア諸国では著しい発展を遂げ、貧困からの脱却を実現しつつあります。 このような世界は我々と全く無関係という訳ではなく、先進各国の多くの企業が世界の貧困層に低価格帯の商品を売り込むと同時に、所得向上につながる仕事を提供し、貧困削減と新市場獲得の両立を目指しています。 こうした世界の現実を理解するために、現在、地球上で何が起き、どのような問題が生じているのかを、現実のデータを用いてわかりやすく解説します。またそうした現状の改善に向けて、国際社会はどうあるべきか、また私たちは何をすべきか、という観点から、これまで行われてきた様々な取り組みを紹介します。 さらにこのような現実を理解し、考察するためには、その背後にどのようなメカニズムが働き、あるいは働いていないのかを考えることが有益です。そこでこれまで皆さんが学んできた経済学のツールを用いて、国際社会の仕組みを解説します。
到達目標	グローバル化が進む現代社会においては、国際社会への理解が不可欠なものとなりつつあります。そこでこの授業科目では、皆さんが経済学のツールを用いて国際社会の現状を理解することができ、また国際的な共存のあり方について議論できるようになることが目標です。
講義方法	基本的には、教科書に沿って1回の授業で1章ずつ解説（講義形式）していきます。 また教科書の内容を補足する形で、開発経済学の理論を説明します。 （ただし履修登録人数によっては、変更することもあります）
準備学習	(1)履修条件 マクロ経済学、ミクロ経済学および金融関連科目の基礎知識があると理解しやすいです。 (2)授業時間外学習 教科書の各章を各授業時間前に読了しておくことが望ましいです。
成績評価	定期試験により成績評価（100%）を行います。経済学のツールを使いながら、国際社会の現状を理解しているか、国際協力のあり方について議論できるか、が評価のポイントとなります。
講義構成	以下のようなトピックを取り上げます。（下記は講義項目の一部です） 1. 国際社会の現状について：BBC（英国放送協会）ドキュメントレポートetc. 2. 国際社会が目指す8のゴール：ミレニアム開発目標について 3. 国際協力の一例：チャリティコンサート「Live Aid」「Live 8」を考えるetc. 4. 国際社会が現在取り組んでいること：貧困、教育、環境等の諸問題について 5. 国際協力のあり方：グローバルパートナーシップを求めて
教科書	ジェフリー・サックス著『貧困の終焉』早川書房2300円
参考書・資料	下記の本と併読すると、より理解が深まります。 ウィリアム・イースタリー著『エコノミスト南の貧困と闘う』東洋経済新報社 「開発経済」の概略をまず気軽に知りたいという方は、下記のエッセイがお薦めです。 西水美恵子著『国をつくるという仕事』英治出版 また教科書を含め、上記の参考書はマクロ的視点から書かれていますが、ミクロ的視点、プロジェクトベースに関心のある方は下記の本がお薦めです。なお著者は2006年ノーベル平和賞受賞者です。 ムハマド・ユヌス『ムハマド・ユヌス自伝』早川書房

	その他、授業で使用する補助教材は、追ってお知らせします。
講義関連事項	教科書に沿って授業を進めますので、図書館の本、中古本でも構いませんから必ず入手して下さい。 また教科書を試験前などにまとめて読もうとすると、読み飛ばす箇所が多くなって重要なポイントが分かりにくく、ものすごくしんどいです。毎日少しずつ読んでいくと、この本が世界的に評価されている理由を実感できると思います。

担当者から一言	開発経済の問題は、国際社会が直面する重要な課題であると同時に、非常にエキサイティングな分野でもあります。世界では約12 億の人々が極貧状態にあり、皆さんがこのシラバスを読んでいる間にも、多くの命が消えています。しかしこのような現実は、皆さんの考え方ひとつで変わるかもしれません。 この授業が、皆さんが世界の現実に少しでも関心を持ち、考える機会になればと思います。
URL	http://www2.kobe-u.ac.jp/~kawabat/class3.html

授業コード	31055		
授業科目名	**家計の経済（後）**		
担当者名	森　剛志（モリ　タケシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	金曜昼休み		

講義の内容	家計の視点から、経済的に合理的な人の行動と少子高齢化という日本のおかれた現状についての理解を深める。少子化がもたらす社会保障財政の危機的状況とその打開策についての理解を深める。 また、時間が許す範囲で人と人との付き合い方の方法をゲーム論を用いて理解を深める。 主に、働きすぎの男性と家事育児に専念してきた女性という日本の家計の構造的背景についての理解 と人付き合いの黄金法則を理解することである。
到達目標	学んだ内容を自分のことばで書けるようになること。
講義方法	講義形式で教授する。
準備学習	参考資料やテキストを事前に読んでおくこと。
成績評価	小テストおよび期末試験。
講義構成	最初に、結婚問題を経済学（比較優位を用いて）ではどのように説明しているかを説明し、 現在との違い（日本の結婚しない若者と働きすぎの子育て期の男性）についての理解を深め、消費選択の考え方についても説明する。 次に、少子高齢化がもたらす危機的現状を説明し、若者と将来生まれてくる世代がいかに負担をこうむるのかを理解してもらう。世代間重複モデルを用いて、年金・医療・介護財政についての理解を深める。 また、ゲーム論を用いて、人付き合いの方法についての理解を深め、具体的には以下のようなトピックを扱っていく。 具体的には、以下のようなトピックを扱う。 ・比較優位から説明する結婚の利益と日本のゆがんだ労働市場 ・消費者理論 ・少子高齢化と社会保障の危機 ・年金改革 ・医療・介護改革 ・囚人のジレンマゲーム ・繰り返しゲームからみた最高の人付き合い法 経済学の教える原則と現状との違いについて理解することが重要となるでしょう。
教科書	適宜指示する。
参考書・資料	伊藤元重「入門経済学」 森剛志「日本のお金持ち妻研究」 鈴木亘著「だまされないための年金・医療・介護入門」 川西 諭著「ゲーム理論の思考法」中経出版 アクセルロッド「つきあい方の科学」

授業コード	31089		
授業科目名	**環境経済Ⅰ(前)**		
担当者名	柘植隆宏(ツゲ　タカヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「環境経済Ⅰ」・「環境経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	環境問題に対する経済学的なアプローチについて講義を行う。この授業では、市場メカニズムを活用して環境負荷の削減を図る政策手段である「環境政策の経済的手段」について解説を行う。ミクロ経済学の復習、および外部性の内部化についての解説を行ったうえで、地球温暖化問題と廃棄物問題に対する経済学的なアプローチについて、環境税、排出量取引、ごみ処理有料化などの環境政策を事例として取り上げながら解説を行う。
到達目標	この授業の目標は、環境問題に対する経済学的な分析手法を習得することで、現実の環境問題の発生原因、およびそれに対する対策を、経済学の観点から評価・分析できるようになることである。特に、各種政策手段の特徴を理解し、環境問題の性質に応じて、適切な手段を選択できるようになることを目標とする。
講義方法	板書による講義形式。
準備学習	・「入門ミクロ経済学」の内容を十分に理解していること。 ・ミクロ経済学や公共経済学と関連する内容が含まれるので、「中級ミクロ経済学」や「公共経済」を履修済みであるか、あるいは、この授業と併せて履修することが望ましい。 ・新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。参考書の該当部分を事前に読んでおくと、授業の内容が理解しやすい。
成績評価	期末試験の結果により評価する。平常点を加点することがある。
講義構成	第1回:イントロダクション 第2回:ミクロ経済学の復習(1)市場メカニズム 第3回:ミクロ経済学の復習(2)余剰分析 第4回:外部性 第5回:外部性の内部化(1)ピグー税 第6回:外部性の内部化(2)コースの定理 第7回:外部性の内部化(3)政策手段の選択とポリシーミックス 第8回:地球温暖化対策の経済分析(1)京都メカニズム 第9回:地球温暖化対策の経済分析(2)環境税と排出量取引 第10回:地球温暖化対策の経済分析(3)自然エネルギー 第11回:地球温暖化対策の経済分析(4)ポスト京都 第12回:廃棄物政策の経済分析(1)ごみ処理有料化 第13回:廃棄物政策の経済分析(2)産廃税と不法投棄対策 第14回:廃棄物政策の経済分析(3)リサイクル 第15回:廃棄物政策の経済分析(4)循環型社会
教科書	教科書は使用しない。レジュメをMy KONANにアップロードするので、各自印刷して持参すること。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 ・栗山浩一著(2008)『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ～くわかる本』秀和システム ・栗山浩一・馬奈木俊介著(2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣

授業コード	31090		
授業科目名	**環境経済Ⅱ(後)**		
担当者名	柘植隆宏(ツゲ　タカヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「環境経済Ⅰ」・「環境経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	環境問題に対する経済学的なアプローチについて講義を行う。この授業では、環境政策の評価手法、企業の環境対策、資源・エネルギー経済学などのトピックを扱う。公共事業による生態系破壊、有害化学物質の規制、天然資源の枯渇などの問題を事例として取り上げる。また、環境調和型企業経営が注目される背景、それを実現するためのマネジメント手法、および現実の企業経営における最新の動向についても講義する。
到達目標	この授業の目標は、環境問題に対する経済学的な分析手法を習得することで、現実の環境問題の発生原因、およびそれに対する対策を、経済学の観点から評価・分析できるようになることである。特に、環境政策を効率性の観点から評価したり、資源の持続可能な利用を実現するためのマネジメント方法を考案したりできるようになることを目標とする。
講義方法	板書による講義形式。
準備学習	・「入門ミクロ経済学」と「環境経済Ｉ」の内容を十分に理解していること。 ・ミクロ経済学や公共経済学と関連する内容が含まれるので、「中級ミクロ経済学」や「公共経済」を履修済みであるか、あるいは、この授業と併せて履修することが望ましい。 ・新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。参考書の該当部分を事前に読んでおくと、授業の内容が理解しやすい。
成績評価	期末試験の結果により評価する。平常点を加点することがある。
講義構成	第１回：イントロダクション 第１回：公共財 第２回：費用便益分析 第３回：環境の価値と評価手法（１）顕示選好法 第４回：環境の価値と評価手法（２）表明選好法 第６回：環境評価の政策利用（１）生態系保全政策 第７回：環境評価の政策利用（２）環境規制 第８回：企業の環境対策（１）公害の歴史 第９回：企業の環境対策（２）環境経営 第１０回：企業の環境対策（３）環境技術 第１１回：企業の環境対策（４）CSRとSRI 第１２回：資源・エネルギー経済学（１）枯渇性資源 第１３回：資源・エネルギー経済学（２）再生可能資源 第１４回：資源・エネルギー経済学（３）共有資源 第１５回：持続可能な発展
教科書	教科書は使用しない。レジュメをMy KONANにアップロードするので、各自印刷して持参すること。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 ・栗山浩一著（2008）『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ～くわかる本』秀和システム ・栗山浩一・馬奈木俊介著（2008）『環境経済学をつかむ』有斐閣

授業コード	31A01		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）（A)- 1(前)**		
担当者名	小島修一（コジマ　シュウイチ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること；

	・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います.
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します.
教科書	特に使用しません.
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）.

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります.

授業コード	31A02		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(A)- 2(前)**		
担当者名	青木浩治（アオキ　コウジ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること; ・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること; ・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います.
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します.
教科書	特に使用しません.
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）.

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります.

授業コード	31A03		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(A)- 3(前)**		
担当者名	草野正裕（クサノ　マサヒロ）		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること; ・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること; ・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います.
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します.
教科書	特に使用しません.
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）.

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります.

授業コード	31A04		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(A)- 4(前)**		
担当者名	岡田元浩（オカダ　モトヒロ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること; ・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること; ・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います.

講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します．
教科書	特に使用しません．
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）．

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります．

授業コード	31A05		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(A)- 5(前)**		
担当者名	永廣　顕（エヒロ　アキラ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします．		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます．
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと．
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います．
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること．
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います．
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します．
教科書	特に使用しません．
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）．

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります．

授業コード	31A06		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(A)- 6(前)**		
担当者名	上島康弘（ウエシマ　ヤスヒロ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします．		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るた

	めの足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます．
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと．
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います．
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること．
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います．
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します．
教科書	特に使用しません．
参考書・資料	「経済学部入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）．

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります．

授業コード	31A07		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(A)- 7(前)**		
担当者名	古川　顕（フルカワ　アキラ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします．		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます．
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと．
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います．
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること．
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います．
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します．
教科書	特に使用しません．
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）．

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります．

授業コード	31A08		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(A)- 8(前)**		
担当者名	市野泰和（イチノ　ヤスカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること; ・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること; ・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います.
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します.
教科書	特に使用しません.
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）.

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります.

授業コード	31A09		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(A)- 9(前)**		
担当者名	中島清貴（ナカシマ　キヨタカ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること; ・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること;

	・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います.
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します.
教科書	特に使用しません.
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）.

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります.

授業コード	31A10		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(A)-10(前)**		
担当者名	後藤　励（ゴトウ　レイ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること; ・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること; ・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います.
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します.
教科書	特に使用しません.
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）.

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります.

授業コード	31A11		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(B)- 1(前)**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること; ・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること; ・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います.
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します.
教科書	特に使用しません.
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）.

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります.

授業コード	31A12		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(B)- 2(前)**		
担当者名	杉村芳美（スギムラ ヨシミ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること; ・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること; ・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います.

講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します．
教科書	特に使用しません．
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）．

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります．

授業コード	31A13		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(B)- 3(前)**		
担当者名	稲田義久（イナダ　ヨシヒサ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします．		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます．
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと．
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います．
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること．
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います．
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します．
教科書	特に使用しません．
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）．

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります．

授業コード	31A14		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(B)- 4(前)**		
担当者名	小林　均（コバヤシ　ヒトシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします．		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るた

	めの足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます．
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと．
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います．
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること．
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います．
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します．
教科書	特に使用しません．
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）．

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります．

授業コード	31A15		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(B)- 5(前)**		
担当者名	奥田　敬（オクダ　タカシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします．		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます．
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと．
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います．
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること．
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います．
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します．
教科書	特に使用しません．
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）．

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります．

授業コード	31A16		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(B)- 6(前)**		
担当者名	寺尾　建(テラオ　タケル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に，担当教員がお知らせします．		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するための手がかりを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます．
到達目標	次の5つのことを，具体的な到達目標とします． 〔教員を知り，友人をつくること〕 〔大学での学習環境に慣れること〕 〔勉強の技術を身につけること〕 〔世の中の出来事に目を向けること〕 〔経済学とはどのような学問であるかを知ること〕 一言でいえば，「大学生活に慣れること」です．
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います． 全講義が終了した時点で，各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります．
準備学習	My KONANなどを通じて配布される資料等にもとづいて，予習をしてください．
成績評価	毎回，「リアクション・ペーパー」を配布します． そこに受講生のみなさんが記入した感想・意見・質問等は，同一グループに所属する担当教員の全員が共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を考慮して，指導主任が行います． なお，開講時に，各担当者が，成績評価の方法についての詳細をお伝えします．
講義構成	開講時に，講義の予定表（各回の担当教員名，講義のタイトル・内容）を告知します．
教科書	使用しません．
参考書・資料	「経済学部入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会，2010年）．
講義関連事項	この科目は必修科目です．履修登録期間以前の回〔4/7（水）〕にも，必ず出席をしてください．

担当者から一言	はじめまして．寺尾　建（てらお・たける）です．みなさんの指導主任も担当します．よろしくお願いします．

授業コード	31A17		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(B)- 7(前)**		
担当者名	森　剛志（モリ　タケシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします．		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提

	供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます．
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと．
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います．
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること．
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います．
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します．
教科書	特に使用しません．
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）．

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります．

授業コード	31A18		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(B)- 8(前)**		
担当者名	柘植隆宏（ツゲ　タカヒロ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします．		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます．
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと．
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います．
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること．
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います．
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します．
教科書	特に使用しません．
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）．

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります．

授業コード	31A19		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(B)- 9(前)**		
担当者名	阿萬弘行（アマン　ヒロユキ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること; ・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること; ・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います.
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します.
教科書	特に使用しません.
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）.

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります.

授業コード	31A20		
授業科目名	**基礎ゼミI（基礎ゼミ）(B)-10(前)**		
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミＩとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として，甲南大学経済学部に入学したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします．大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために，経済の問題にこだわらず，政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど，さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす．具体的には， ・教員を知り，友人を作ること; ・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること;

	・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として，1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し，そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します．成績評価は，「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にして，指導主任が行います.
講義構成	開講時に講義の予定表（各回の教員名，タイトルおよび内容）を掲示します.
教科書	特に使用しません.
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」（甲南大学経済学会）.

担当者から一言	全講義が終了した時点で，担当の各教員は，経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります．同時に，みなさんも，経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります.

授業コード	31J11		
授業科目名	**基礎ゼミ II（ 1ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）、後藤　励（ゴトウ　レイ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です．「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし，大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます．最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い，その成果を発表します．ただし，1年生のみが受講できます.
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし，1つのクラスを2名の教員が担当します.
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します.
講義構成	初回と最終回を除く，前半6回と後半6回を，各1名の別々の教員が担当します．最終回は，同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です.
教科書	担当教員が適宜指示します.
参考書・資料	担当教員が適宜指示します.
講義関連事項	（1）1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること，ならびに（2）1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを，履修要件とします.

授業コード	31J12		
授業科目名	**基礎ゼミ II（ 2ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	後藤　励（ゴトウ　レイ）、岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		

オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です. 「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし, 大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます. 最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い, その成果を発表します. ただし, 1年生のみが受講できます.
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし, 1つのクラスを2名の教員が担当します.
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します.
講義構成	初回と最終回を除く, 前半6回と後半6回を, 各1名の別々の教員が担当します. 最終回は, 同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です.
教科書	担当教員が適宜指示します.
参考書・資料	担当教員が適宜指示します.
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること, ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを, 履修要件とします.

授業コード	31J13		
授業科目名	**基礎ゼミⅡ(3ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	青木浩治(アオキ　コウジ)、市野泰和(イチノ　ヤスカズ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です. 「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし, 大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます. 最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い, その成果を発表します. ただし, 1年生のみが受講できます.
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし, 1つのクラスを2名の教員が担当します.
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します.
講義構成	初回と最終回を除く, 前半6回と後半6回を, 各1名の別々の教員が担当します. 最終回は, 同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です.
教科書	担当教員が適宜指示します.
参考書・資料	担当教員が適宜指示します.
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること, ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを, 履修要件とします.

授業コード	31J14		
授業科目名	**基礎ゼミⅡ(4ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	市野泰和(イチノ　ヤスカズ)、青木浩治(アオキ　コウジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限

特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です. 「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし, 大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます. 最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い, その成果を発表します. ただし, 1年生のみが受講できます.
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし, 1つのクラスを2名の教員が担当します.
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します.
講義構成	初回と最終回を除く, 前半6回と後半6回を, 各1名の別々の教員が担当します. 最終回は, 同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です.
教科書	担当教員が適宜指示します.
参考書・資料	担当教員が適宜指示します.
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること, ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを, 履修要件とします.

授業コード	31J15		
授業科目名	**基礎ゼミⅡ(5ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	小島修一(コジマ　シユウイチ)、石川路子(イシカワ　ノリコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です. 「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし, 大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます. 最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い, その成果を発表します. ただし, 1年生のみが受講できます.
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし, 1つのクラスを2名の教員が担当します.
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します.
講義構成	初回と最終回を除く, 前半6回と後半6回を, 各1名の別々の教員が担当します. 最終回は, 同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です.
教科書	担当教員が適宜指示します.
参考書・資料	担当教員が適宜指示します.
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること, ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを, 履修要件とします.

授業コード	31J16

授業科目名	**基礎ゼミ II (6ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	石川路子(イシカワ　ノリコ)、小島修一(コジマ　シユウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です. 「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし, 大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます. 最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い, その成果を発表します. ただし, 1年生のみが受講できます.
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし, 1つのクラスを2名の教員が担当します.
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します.
講義構成	初回と最終回を除く, 前半6回と後半6回を, 各1名の別々の教員が担当します. 最終回は, 同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です.
教科書	担当教員が適宜指示します.
参考書・資料	担当教員が適宜指示します.
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること, ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを, 履修要件とします.

授業コード	31J17		
授業科目名	**基礎ゼミ II (7ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	杉村芳美(スギムラ　ヨシミ)、奥田　敬(オクダ　タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です. 「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし, 大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます. 最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い, その成果を発表します. ただし, 1年生のみが受講できます.
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし, 1つのクラスを2名の教員が担当します.
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します.
講義構成	初回と最終回を除く, 前半6回と後半6回を, 各1名の別々の教員が担当します. 最終回は, 同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です.
教科書	担当教員が適宜指示します.
参考書・資料	担当教員が適宜指示します.
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること, ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを, 履修要件とします.

授業コード	31J18		
授業科目名	**基礎ゼミⅡ（8ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	奥田　敬（オクダ　タカシ）、杉村芳美（スギムラ　ヨシミ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です. 「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし, 大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます. 最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い, その成果を発表します. ただし, 1年生のみが受講できます.
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし, 1つのクラスを2名の教員が担当します.
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します.
講義構成	初回と最終回を除く, 前半6回と後半6回を, 各1名の別々の教員が担当します. 最終回は, 同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です.
教科書	担当教員が適宜指示します.
参考書・資料	担当教員が適宜指示します.
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること, ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを, 履修要件とします.

授業コード	55F31		
授業科目名	**キャリアゼミ（経済)(1ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	青木浩治（アオキ　コウジ）、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2007年度以降入学生適用 ベーシック・キャリアデザインの単位を修得していることが望ましい。書類選考あり。2年次受講指導において、詳細を告知する		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	1年次における「ベーシック・キャリアデザイン」では, 自分自身についての理解にもとづいて, 「キャリアデザインマップ」を作成し, 各自が将来の目標を設定しました. この講義では, その目標を実現するために必要となるコミュニケーション能力やチームワーク, プレゼンテーション能力等を向上させることを目的とします.
到達目標	自己のキャリアをデザインする上で必要となるコミュニケーション能力やチームワーク, プレゼンテーション能力等を向上させることを目的とします。
講義方法	担当教員と受講生ならびに受講生相互の対話を通じて, 実際の仕事の内容を理解し, 職業観や人生観を深めます. 卒業生をゲスト・スピーカーとして招き, また, 連携先の企業・団体等における「ジョブ・シャドウイング」を実施することによって, 多様な進路や職業があることを体得するとともに, 各自が希望する進路選択に必要となる知識や技能, 各自の専攻と進路との関係についてさらに深く学びます.
準備学習	ヒヤリングのための質問項目の準備やプレゼンのための準備など、ほぼ毎回宿題が課されますので、事前にこなすことが求められます。
成績評価	グループ・ワークの成果ならびにプレゼンテーション等の成果を, 総合的に評価します.

講義構成	グループ・ワークを基本としたクラス運営とします. 1年次の「ベーシック・キャリアデザイン」と同様に，キャリアセンターの職員がファシリテーターとして定期的かつ個別的に受講生のみなさんのフォローを行い，受講生のみなさんの自己理解の促進や将来の目標や学習計画の策定，能力開発の方法等について支援をします.
教科書	特に定めません.
参考書・資料	担当者が適宜指示します.
講義関連事項	1年次後期に開講された「ベーシック・キャリアデザイン」の単位を修得していることが望ましく，書類選考によって受講生を決定します．書類選考の詳細は，2010年3月29日（月）10:00-11:00に824教室にて予定されている「2年次受講指導」の際に告知します．なお，この科目は，3年次配当の「プラクティカル・キャリアデザイン」への導入科目としても位置づけられます.

授業コード	55F32		
授業科目名	**キャリアゼミ（経済）(2ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	上島康弘（ウエシマ　ヤスヒロ）、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2007年度以降入学生適用 ベーシック・キャリアデザインの単位を修得していることが望ましい。書類選考あり。2年次受講指導において、詳細を告知する		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	受講生相互ならびに受講生と担当教員の対話を通じ、実際の仕事の内容を理解するとともに、職業観や人生観を深めます。卒業生をゲスト・スピーカーとして招き、また、連携先の企業・団体等における「ジョブ・シャドウイング」を実施することによって、多様な進路や職業があることを体得するとともに、各自が希望する進路選択に必要となる知識や技能、各自の専攻と進路との関係等について深く学びます。
到達目標	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」では、自分自身についての理解にもとづいて「キャリアデザインマップ」を作成し、各自が将来の目標を設定しました。この講義では、その目標を実現するために必要となるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を向上させることを目標とします。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とします。「ベーシック・キャリアデザイン」と同様に、キャリアセンターの職員がファシリテーターとして、定期的かつ個別的に受講生の自己理解の促進や将来の目標や学習計画の策定，能力開発の方法等について支援をします。
準備学習	「キャリアデザインマップ」で設定した将来の目標を常に意識しながら講義に臨むようにしましょう。
成績評価	グループ・ワークの成果ならびにプレゼンテーション等の成果を総合的に評価します。
講義構成	グループ・ワークを基本とします。その他数回、卒業生から仕事に関する話を聴き、また、企業・団体等で「ジョブ・シャドウイング」を実施します。
教科書	特に定めません。
参考書・資料	担当者が適宜指示します。
講義関連事項	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」の単位を修得していることが望ましく、書類選考によって受講生を決定します。書類選考の詳細については、2010年3月29日（月）10:00～11:00に8-24教室にて予定されている「受講指導（2年次）」の際にお知らせします。なお、この科目は、3年次配当の「プラクティカル・キャリアデザイン」への導入科目としても位置づけられます。

授業コード	55F33		
授業科目名	**キャリアゼミ（経済）(3ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	柘植隆宏（ツゲ　タカヒロ）、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2007年度以降入学生適用		

	ベーシック・キャリアデザインの単位を修得していることが望ましい。書類選考あり。2年次受講指導において、詳細を告知する
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。

講義の内容	受講生相互ならびに受講生と担当教員の対話を通じ、実際の仕事の内容を理解するとともに、職業観や人生観を深めます。卒業生をゲスト・スピーカーとして招き、また、連携先の企業・団体等における「ジョブ・シャドウイング」を実施することによって、多様な進路や職業があることを体得するとともに、各自が希望する進路選択に必要となる知識や技能、各自の専攻と進路との関係等について深く学びます。
到達目標	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」では、自分自身についての理解にもとづいて「キャリアデザインマップ」を作成し、各自が将来の目標を設定しました。この講義では、その目標を実現するために必要となるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を向上させることを目標とします。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とします。「ベーシック・キャリアデザイン」と同様に、キャリアセンターの職員がファシリテーターとして、定期的かつ個別的に受講生の自己理解の促進や将来の目標や学習計画の策定，能力開発の方法等について支援をします。
準備学習	「キャリアデザインマップ」で設定した将来の目標を常に意識しながら講義に臨むようにしましょう。
成績評価	グループ・ワークの成果ならびにプレゼンテーション等の成果を総合的に評価します。
講義構成	グループ・ワークを基本とします。その他数回、卒業生から仕事に関する話を聴き、また、企業・団体等で「ジョブ・シャドウイング」を実施します。
教科書	特に定めません。
参考書・資料	担当者が適宜指示します。
講義関連事項	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」の単位を修得していることが望ましく、書類選考によって受講生を決定します。書類選考の詳細については、2010年3月29日（月）10:00～11:00に8-24教室にて予定されている「受講指導（2年次）」の際にお知らせします。なお、この科目は、3年次配当の「プラクティカル・キャリアデザイン」への導入科目としても位置づけられます。

授業コード	55F34		
授業科目名	**キャリアゼミ（経済）(4ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	永廣　顕（エヒロ　アキラ）、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2007年度以降入学生適用 ベーシック・キャリアデザインの単位を修得していることが望ましい。書類選考あり。2年次受講指導において、詳細を告知する		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	受講生相互ならびに受講生と担当教員の対話を通じ、実際の仕事の内容を理解するとともに、職業観や人生観を深めます。卒業生をゲスト・スピーカーとして招き、また、連携先の企業・団体等における「ジョブ・シャドウイング」を実施することによって、多様な進路や職業があることを体得するとともに、各自が希望する進路選択に必要となる知識や技能、各自の専攻と進路との関係等について深く学びます。
到達目標	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」では、自分自身についての理解にもとづいて「キャリアデザインマップ」を作成し、各自が将来の目標を設定しました。この講義では、その目標を実現するために必要となるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を向上させることを目標とします。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とします。「ベーシック・キャリアデザイン」と同様に、キャリアセンターの職員がファシリテーターとして、定期的かつ個別的に受講生の自己理解の促進や将来の目標や学習計画の策定，能力開発の方法等について支援をします。
準備学習	「キャリアデザインマップ」で設定した将来の目標を常に意識しながら講義に臨むようにしましょう。
成績評価	グループ・ワークの成果ならびにプレゼンテーション等の成果を総合的に評価します。
講義構成	グループ・ワークを基本とします。その他数回、卒業生から仕事に関する話を聴き、また、企業・団体等で「ジョブ・シャドウイング」を実施します。
教科書	特に定めません。
参考書・資料	担当者が適宜指示します。

講義関連事項	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」の単位を修得していることが望ましく、書類選考によって受講生を決定します。書類選考の詳細については、2010年3月29日（月）10:00～11:00に8-24教室にて予定されている「受講指導（2年次）」の際にお知らせします。なお、この科目は、3年次配当の「プラクティカル・キャリアデザイン」への導入科目としても位置づけられます。

授業コード	31029		
授業科目名	**金融（金融経済）（前）**		
担当者名	阿萬弘行（アマン　ヒロユキ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
オフィスアワー	講義時間の中でお知らせします。		

講義の内容	金融制度・金融システムの仕組みを理解するために必要な基礎的な知識や考え方について学ぶ。主に、ミクロ的な側面から見た金融市場の機能や金融機関の行動、マクロ経済の面から見た金融の役割について講義する。
到達目標	金融の基礎的理論を理解すること。応用問題ついて数値を用いた計算ができること。グラフを描いて理論の説明ができること。
講義方法	毎回資料を配布して講義を行う。時事的なトピックス、関連の話題についての解説等を行う。
準備学習	参考書の関連個所を予習することによって理解が深まる。
成績評価	主に期末試験によって評価する。
講義構成	(1) 講義のイントロダクション (2) 金融システムの基本的仕組み (3) 銀行の役割 (4) 金融システムと金融規制 (5) 決済機能 (6) 消費者向け金融サービス (7) 証券市場分析の基礎 (8) 債券市場 (9) 株式市場 (10) 株価形成と投資 (11) 行動ファイナンス (12) 派生市場 (13) マクロ経済と金融 (14) マクロ金融政策 (15) 外国為替市場
教科書	特定の教科書は指定しない。講義中に随時参考書を紹介する。
参考書・資料	酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』有斐閣アルマ 東京証券取引所『入門日本の証券市場』東洋経済新報社 リチャード・セイラー『市場と感情の経済学』ダイヤモンド社

授業コード	31063		
授業科目名	**金融政策**		
担当者名	古川　顕（フルカワ　アキラ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜1限）、後期（火曜1限）
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	講義終了後および在室時はいつでも質問等に応じる。		

講義の内容	金融政策全般にわたって体系的に講述する。

到達目標	金融システムの安定性の問題や金融政策の目標・手段・政策波及経路・有効性などについてマスターすること。
講義方法	必要に応じて資料を配付しながら、以下の教科書に沿って講義する。
準備学習	新聞の経済・金融欄を毎日読んで、現実の経済や金融の動向について把握するように努めること。
成績評価	期末試験の成績で評価する。
講義構成	1　日本の金融市場と金融制度 2　信用秩序と公的介入 3　マクロ・プルーデンス政策 4　金融政策の目標と手段 5　金融政策の波及メカニズム 6　金融政策の有効性
教科書	古川　顕『テキストブック　現代の金融』(第2版)東洋経済新報社
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
講義関連事項	マクロ経済学(初級・中級)、ミクロ経済学(初級・中級)、金融経済、国際金融、証券市場の受講が望ましい。

担当者から一言	受講者は毎日の新聞の経済欄、とくに金融欄に必ず目を通すことが望ましい。

授業コード	31064		
授業科目名	**金融政策Ⅰ(前)**		
担当者名	古川　顕(フルカワ　アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「金融政策Ⅰ」・「金融政策Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		
オフィスアワー	講義終了後および在室時はいつでも質問等に応じる。		

講義の内容	金融政策全般にわたって体系的に講述する。
到達目標	日本の金融市場や金融制度、金融システムの安定性の問題について的確な知識を有すること。
講義方法	必要に応じて資料を配付しながら、以下の教科書に沿って講義する。
準備学習	新聞の経済・金融欄を毎日読んで、現実の経済や金融の動向について把握するように努めること。
成績評価	期末試験の成績で評価する。
講義構成	1　日本の金融市場 2　日本の金融制度 3　日本の決済システム 4　信用秩序の維持と公的介入 5　マクロ・プルーデンス政策 6　金融監督政策と国際的規制
教科書	古川　顕『テキストブック　現代の金融』(第2版)東洋経済新報社
参考書・資料	必要に応じて紹介する。

担当者から一言	受講者は毎日の新聞の経済欄、とくに金融欄に必ず目を通すことが望ましい。

授業コード	31065		
授業科目名	**金融政策Ⅱ(後)**		
担当者名	古川　顕(フルカワ　アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「金融政策Ⅰ」・「金融政策Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

オフィスアワー	講義終了後および在室時はいつでも質問等に応じる。

講義の内容	金融政策全般にわたって体系的に講述する。
到達目標	金融政策の目標・手段・政策波及経路・有効性などについてマスターすること。
講義方法	必要に応じて資料を配付しながら、以下の教科書に沿って講義する。
準備学習	新聞の経済・金融欄を毎日読んで、現実の経済や金融の動向について把握するように努めること。
成績評価	期末試験の成績で評価する。
講義構成	1　金融政策と中央銀行 2　金融政策の目標 3　金融政策の手段 4　日本銀行の金融調節 5　金融政策の波及メカニズム 6　金融政策の有効性
教科書	古川　顕『テキストブック　現代の金融』（第2版）東洋経済新報社
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
講義関連事項	マクロ経済学（初級・中級）、ミクロ経済学（初級・中級）、金融経済、国際金融、証券市場の受講が望ましい。

担当者から一言	受講者は毎日の新聞の経済欄、とくに金融欄に必ず目を通すことが望ましい。

授業コード	31023		
授業科目名	**経済学の歴史（前）**		
担当者名	岡田元浩（オカダ　モトヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 月曜5限
オフィスアワー	第1回目の講義時に通知します。		

講義の内容	この講義では、古代ギリシャや中世から現代に至るまでに経済学がたどってきた歩みを、それぞれの時代背景とともに、わかりやすく解説していきます。また、ちょうど私たちが自分自身の過去を振り返り反省することで、将来をより良いものとすることができるように、現代の経済学がもつ問題点やその将来的課題を理解する上でも、経済学の歴史を学ぶことが重要です。単なる過去の出来事の知識としてではなく、現在・将来に指針を与えるものとして、歴史を学ぶことの大切さを、この講義を通じて知ってもらいたいと思います。
到達目標	古代ギリシャ・中世から現代に至る経済学の歴史と、それを学ぶことの今日的意義に関する基礎的な知識・理解を得ることを到達目標としています。
講義方法	通常の大クラス形式の講義です。
準備学習	各講義の終わりに次回講義内容の予告をしますので、それにあわせて予習をおこなってください。くわしくは第1回目の講義時に説明します。
成績評価	原則として定期試験成績と2回実施予定の小テスト成績に基づき評価を行います。 「不可」、「欠席」の不合格成績に関しては、定期試験、小テストのいずれかを受験したが、合格点に達しなかった場合は「不可」、定期試験、小テストのいずれも全く受験しなかった場合は「欠席」とします。
講義構成	時代背景や現代との関わりを補足説明しながら、以下のような項目構成で講義をおこなう予定です。 ・ ガイダンス ・ 近代以前の経済思想 　古代ギリシャ／中世世界／近世 ・ 近代の経済学の芽生え 　重商主義／重農学派とケネー『経済表』 ・ 近代の経済学の確立　ー古典派経済学ー 　アダム・スミスと『国富論』／リカードウ、マルサス他 ・ 近代の経済学の成熟　ー新古典派経済学ー 　「限界革命」他

	・ 資本主義批判の経済学　ーマルクス経済学ー ・ 多様な経済学派 　　歴史主義とリスト／制度学派とヴェブレン ・ 20世紀と現代の経済学 　　ケインズ他 ・ まとめ 　また計2回の小テストをおこなう予定です。
教科書	この講義では特定のテキストを使用せず、担当者（岡田）がプレゼンテーション用ソフトで作成した資料にしたがって講義を進めます。
参考書・資料	その都度紹介します。
講義関連事項	たとえば「社会経済思想」、「現代経済学の諸潮流」、「西洋経済史」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」などが、とりわけ本講義と関連の深い他講義科目といえましょう。

担当者から一言	講義中の私語は、講義担当者にとっても、真面目に講義を聴いている受講生にとっても、はなはだ迷惑です。厳につつしんでください。

授業コード	31033		
授業科目名	**経済史（前）**		
担当者名	草野正裕（クサノ　マサヒロ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
オフィスアワー	講義終了後研究室に来てください。質疑応答など行ないたいと思います。		

講義の内容	主として西洋に素材を求めるが、適宜東洋経済史、日本経済史についても触れる。近現代史を中心に講義し、近時研究の盛んな数量的アプローチにもウエイトを置く。 この場合、実証という立場から、既存の理論的枠組みによって史実を解釈するという方法は、できるだけ回避することにしたいと思います。そうではなくて、あくまでも理論は史実を解釈する場合の手段であるという立場をとることにしたいと思います。なお、講義においては随時、近年とみに盛んとなった数量経済史的な分析を取り入れてゆくつもりです。とくに人口史・物価史研究および一橋グループの成果等をある程度詳細に紹介する予定です。
到達目標	毎回の講義レジュメに5問前後の基礎的な論述問題をつけています。これらの問題に6～8割程度答えられることを到達目標にしたいと思います。
講義方法	プロジェクター等を使います。随時小テストを行なったり、感想を提出していただいたりといったことも考えています。
準備学習	授業の前に、ダウンロードしたレジュメを一読されることをおすすめします。
成績評価	通常の期末試験、小テスト、感想、出欠などの総合評価を考えていますが、受講生の数が多い場合は期末試験の評価に頼らざるをえないかもしれません。
講義構成	１ はじめに ２ 経済史学の発展 ３ 数量経済史研究について ４ 中世社会 ５ 日本の荘園経済と太閤検地 ６ (ｱ)商業革命と物価変動　(ｲ)重商主義　(ｳ)農業革命と工業化への道 ７ 前工業化社会の経済変動 ８ 工業化（産業革命） ９ 工業化（産業革命）ーその2ー 10 近世日本の経済発展 11 工業化と景気循環 12 日本の近代経済成長 13 大戦間の経済変化

	14 第2次世界大戦後の経済成長 15 おわりに
教科書	特になし
参考書・資料	My KONAN に毎回のレジュメをアップ・ロードします。それを、ダウンロード、プリントアウトして、教室に持参してください。なお、ダウンロードしたパソコンを持ち込んでいただいてもかまいません。無線が使える場合は、教室で受信していただいても結構です。

担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。

授業コード	31106		
授業科目名	**経済社会特論（前）**		
担当者名	朴　一（パク　イル）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	毎週木曜日のお昼か2：30～、教員控え室にて		

講義の内容	本講義では、日本の隣国である韓国・北朝鮮の政治・経済・文化について学ぶ。日本の植民地支配を経て韓国は、日本から資本と技術を導入し経済発展を遂げ、現在は1人当たりGNP2万ドルを超える高所得国に成長した。一方、北朝鮮は同盟国のソ連が崩壊、中国が改革・開放路線に移行することで、経済的に行き詰まり、1人当たりGNPわずか500ドルの低開発に喘いでいる。講義では、両国の解放後の歩みを貴重な映像で振り返りながら、植民地工業化、朝鮮戦争と分断、開発独裁と歪み、民主化の真相に迫りたい。また時間が許せば、日韓・日朝関係の現状と問題点についても考えてみたい。
到達目標	学生が韓国と北朝鮮の政治と経済の概略を理解できるようにする。
講義方法	テーマの解説、ビデオによる理解、補足説明、討論と質疑、受講感想文の提出という順番で行う。
準備学習	特に必要なし。
成績評価	出席、レポート、テストなどを総合して採点する。
講義構成	①あなたは韓国・北朝鮮のことをどれだけ知っていますか ②韓国における対日文化開放政策の波及 ③植民地支配の光と影 ④慰安婦問題の爪痕 ⑤朝鮮戦争と南北分断 ⑥高度成長の時代 ⑦民主化の時代① ⑧民主化の時代② ⑨工業に担い手 ⑩通貨危機と政府の対応 ⑪北朝鮮における経済開発、その変化と連続性 ⑫韓国の太陽政策と北朝鮮経済の変容 ⑬北朝鮮はなぜミサイル・核開発にこだわるのか ⑭日朝関係の現状と課題 ⑮日韓関係の現状と課題
教科書	朴一、『朝鮮半島を見る眼』、藤原書店、2005年
参考書・資料	朴一編、『変貌する韓国経済』、世界思想社、2004年

担当者から一言	授業中、騒々しい人は退席していただきます。

授業コード	31022		
授業科目名	**経済政策（前）**		
担当者名	鈴木　純（スズキ　ジュン）		
配当年次	2年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限

講義の内容	国民生活の向上と安定のために、政府はさまざまな政策手段を講ずる役割を担っています。そのような役割が政府の責任として明示的に組み込まれた体制は、「福祉国家」と呼ばれています。しかし現在、福祉国家はさまざまな困難に直面しており、そのあり方に転換が迫られています。本講義では、福祉国家体制の形成と展開、そして今後向かうべき転換の方向性について議論します。それによって現代の種々の経済政策を体系的に捉える見方を獲得することを目標とします。
到達目標	(1) 市場の役割と政府の役割を理解する。 (2) 経済政策の体系を知る。 (3) 現実の経済問題や個々の経済政策の効果を理解するための枠組み(見方)を獲得する。
講義方法	講義、および問題演習
準備学習	ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎を習得していると講義の理解が容易ですが、重要な概念については、その都度解説する予定です。 「一話完結」ではありません。知識を積み上げていくことが必要です。
成績評価	定期試験 (80%) 小テスト (20%) 　小テストは、講義の進度や時間の都合にあわせて実施しますので、実施日は事前に告知しません。4～5回の実施を予定しています。
講義構成	以下の予定で講義を進めます。(3限4限をセットで「1回」と数えています。進度によっては、ひとつのテーマが週をまたぐ可能性があります。) 第1回　イントロダクション －経済・経済理論・経済政策－ 第2回　近代社会と市場経済 第3回～第4回　市場メカニズムの機能 第5回～第6回　市場の失敗・市場の限界 第7回　社会の集団化と国家の変容 第8回　成長と分配の経済政策 第9回　雇用と安定の経済政策 第10回　社会保障政策 第11回　政府の失敗と民主主義 第12回　福祉国家の危機 第13回　非営利経済とコミュニティ 第14回　福祉国家から福祉社会へ 第15回　定期試験
教科書	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会の展望』, 高菅出版, 2001.
参考書・資料	山口三十四, 丸谷冷史, 足立正樹, 三谷直紀編著『経済政策基礎論』, 有斐閣, 2006.

担当者から一言	どんなことでもよいので、社会や経済に関わる問題を何かひとつ頭に置いて講義に臨んでください。
URL	http://www.econ.kobe-u.ac.jp/~suzuj/

授業コード	31070		
授業科目名	**経済体制**		
担当者名	杉村芳美(スギムラ　ヨシミ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	授業時間のあと		

講義の内容	この講義では、資本主義の市場経済がどのような経済なのかを中心に学んでいきます。前期は、経済の世界はどのような仕組みと働きでなりたっているのかを考えます。資本主義の市場経済の特徴、働き、前提、限界などに目を向けるとともに、20世紀の壮大な実験であった社会主義経済の経験も取り上げます。経済と社会、経済と人間という点を視野に入れながら、考えていきたいと思います。後期は、資本主義の経済活動に焦点をあて、それがもっているさまざまな問題を取り上げて考えていきます。今日、資本主義の経済には、賞賛、批判、それぞれさかんに浴びせかけられています。資本主義経済という、私たちにとっての現実をいろいろな角度から見ていきたいと思います。

到達目標	わたしたちにとっての現実である資本主義の経済についてしっかりとしたイメージを抱けるとともに、どう生きていけばよいかのヒントをもてること
講義方法	プリント、板書を中心に、パワーポイントなども利用しての講義
準備学習	そのつど指示する準備をすること
成績評価	前期末および後期末の、2回の試験の得点による
講義構成	1　経済体制という視点 2　資本主義は自壊したか 3　資本主義経済の位置づけ 4 資本主義と市場経済 5 経済体制の基本型 6 伝統と市場 7 資本主義の成立と社会主義思想 8 社会主義の経済 9 社会主義計画経済のメカニズム 10 社会主義の失敗と市場の意味 11 資本主義の「勝利」 12 自由と平等 13 グローバル化と資本主義 14 前期まとめ 15 前期試験 16 資本主義の経済 17 会社は悪か 18 市場と企業 19 資本主義と倫理 20 経済と倫理1 21 経済と倫理2 22 宗教と資本主義1 23 宗教と資本主義2 24 西欧人の労働観 25 日本人の労働観 26 市場社会の労働1 27 市場社会の労働 28 資本主義という現実 29 後期まとめ 30 後期試験
教科書	特には指定しない

担当者から一言	考えながら聞く姿勢をもってください

授業コード	31071		
授業科目名	**経済体制Ⅰ(前)**		
担当者名	杉村芳美(スギムラ ヨシミ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「経済体制Ⅰ」・「経済体制Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	授業時間のあと		

講義の内容	経済の世界はどのような仕組みと働きでなりたっているのか。そのツボといえるところを、この講義では学んでいきます。今日の社会では、資本主義の市場経済が中心にありますが、そのことの意味、働き、前提、限界などに目を向けます。20世紀の壮大な実験であった社会主義経済の経験も取り上げます。経済と社会、経済と人間という点を視野に入れながら、考えていきたいと思います。
到達目標	資本主義の市場経済について、みずから説明できるよう理解を深める
講義方法	プリント、板書を中心に、パワーポイントなども使用しての講義

準備学習	授業でそのつど指示する作業を行うこと
成績評価	学期末試験の得点による
講義構成	1　経済体制という視点 2　資本主義は自壊したか 3　資本主義経済の位置づけ 4 資本主義と市場経済 5 経済体制の基本型 6 伝統と市場 7 資本主義の成立と社会主義思想 8 社会主義の経済 9 社会主義計画経済のメカニズム 10 社会主義の失敗と市場の意味 11 資本主義の「勝利」 12 自由と平等 13 グローバル化と資本主義 14 まとめ 15 試験
教科書	特には指定しない

担当者から一言	知識を得るというよりも、じっくり考えてみるという姿勢でのぞんでください

授業コード	31072		
授業科目名	**経済体制 II（後）**		
担当者名	杉村芳美（スギムラ ヨシミ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「経済体制Ⅰ」・「経済体制Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	授業時間のあと		

講義の内容	この講義では、資本主義の経済活動に焦点をあて、それがもっているさまざまな問題を取り上げて考えていきます。経済体制Ⅰとあわせて受講するのがのぞましい内容になります。今日、資本主義の経済には、賞賛、批判、それぞれさかんに浴びせかけられています。資本主義経済という、私たちにとっての現実をいろいろな角度から見ていきたいと思います。
到達目標	この世の中をどのように生きていけばよいかについて、ヒントのようなものが得られること
講義方法	プリント、板書を中心に、パワーポイントなども利用しての講義
準備学習	そのつど指示する作業を行ってください
成績評価	学期末試験の得点による
講義構成	1 資本主義の経済 2 会社は悪か 3 市場と企業 4 資本主義と倫理 5 経済と倫理1 6 経済と倫理2 7 宗教と資本主義1 8 宗教と資本主義2 9 西欧人の労働観 10 日本人の労働観 11 市場社会の労働1 12 市場社会の労働 13 資本主義という現実 14 まとめ

	15　試験
教科書	特には指定しない

担当者から一言	考えながら聞く姿勢をもってください

授業コード	31L71		
授業科目名	**経済の歴史と思想（ 1ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	小島修一（コジマ　シユウイチ）、奥田　敬（オクダ　タカシ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	クラス指定（授業時間表別表参照） 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	火曜日12:15～13:00　9号館7階奥田研究室		

講義の内容	この講義は、経済学における歴史的アプローチの重要性を学ぶ入門講義である。全体は経済史入門と経済思想史入門の二部から構成され、現代の経済問題を長期的、歴史的な視点と幅広い観点から考える力を養うことを目的としている。
到達目標	人間の経済生活に対して歴史的な視点を持つこと。
講義方法	1. 二人の教員による共同講義(ただし、経済史と経済思想史の順序はクラスによって異なる) 2. レジュメや講義資料を配付するので、専用ファイルを作ること 3. 小テストを2回行う
準備学習	シラバスの指定された部分を事前に調べておくこと。
成績評価	小テスト20%×2回＋期末試験60%
講義構成	1.イントロダクション 2. 資本主義とは何か 3. 商業の資本主義から産業の資本主義へ 4. 資本主義の批判と修正 5. 金融主導のグローバル資本主義 6. ２１世紀の資本主義を考える 7. 〈economy〉とは何か？－経済学の起源と展開 8. 「同感」から「交換」へ－文明としての「商業社会」(アダム・スミス『道徳感情論』) 9. 〈労働の分割〉から〈巨富の分配〉へ－(『国富論』第1篇) 10. 資本蓄積と産業構造－経済発展の「自然な進路」(『国富論』第2篇) 11. 「重商主義」批判と「見えざる手」－経済的自由主義の政策体系(『国富論』第4-5篇) 12. 〈物神崇拝〉と資本の論理－マルクスの経済学批判
教科書	プリントを配布するので教科書は特に用いない
参考書・資料	その都度指示する

授業コード	31L72		
授業科目名	**経済の歴史と思想（ 2ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	奥田　敬（オクダ　タカシ）、小島修一（コジマ　シユウイチ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	クラス指定（授業時間表別表参照） 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー			

	金曜日5限　9号館7階奥田研究室

講義の内容	この講義は、経済学における歴史的アプローチの重要性を学ぶ入門講義である。全体は経済史入門と経済思想史入門の二部から構成され、現代の経済問題を長期的、歴史的な視点と幅広い観点から考える力を養うことを目的としている。
到達目標	人間の経済生活に対して歴史的な視点を持つこと。
講義方法	1. 二人の教員による共同講義(ただし、経済史と経済思想史の順序はクラスによって異なる) 2. レジュメや講義資料を配付するので、専用ファイルを作ること 3. 小テストを2回行う
準備学習	シラバスの指定された部分を事前に調べておくこと。
成績評価	小テスト20%×2回＋期末試験60%
講義構成	1. イントロダクション 2. 〈economy〉とは何か？ー経済学の起源と展開 3. 「同感」から「交換」へー文明としての「商業社会」(アダム・スミス『道徳感情論』) 4. 〈労働の分割〉から〈巨富の分配〉へー(『国富論』第1篇) 5. 資本蓄積と産業構造ー経済発展の「自然な進路」(『国富論』第2篇) 6. 「重商主義」批判と「見えざる手」ー経済的自由主義の政策体系(『国富論』第4-5篇) 7. 〈物神崇拝〉と資本の論理ーマルクスの経済学批判 8. 資本主義とは何か 9. 商業の資本主義から産業の資本主義へ 10. 資本主義の批判と修正 11. 金融主導のグローバル資本主義 12. 21世紀の資本主義を考える
教科書	プリントを配布するので教科書は特に用いない
参考書・資料	その都度指示する

授業コード	31051		
授業科目名	**計量経済**		
担当者名	宇野伸孝（ウノ　ノブタカ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜2限）、後期（火曜2限）
特記事項	2007年度以前入学生適用 事前登録		

講義の内容	様々な経済の現象を数値データを駆使して理論的に分析することは、これまでの推移を整理・理解するため、あるいは将来を予測するために有用な手段である。 本講義では、現実の経済における因果関係を説明するために導出された各種経済理論モデルを、現実の数値データを用いて推計し、その妥当性を評価するという一連の手法を解説する。 なお、後期は主に各自がPCを利用して実際に計算をする実習形式での講義を行う。主にテキストの練習問題を解いていくが、現在はインターネット上から数多くの経済データが入手可能なので、これらをダウンロードし分析することも予定している。
到達目標	基本的な統計学と計量経済学の理論を習得する。 PCを使った計量分析ができるようになる。
講義方法	前期は講義形式で基礎的な理論を学び、後期はPCを使った実習形式で行う。 なお、前期は計算練習で電卓を使用するので各自持参するように。
準備学習	マクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な理論を把握していることが望ましい。 また、後期までにExcelの基本操作を習得してもらいたい。
成績評価	出席が30%、練習問題が30%、期末試験（2回）が40%。
講義構成	第1回　計量経済学とは 第2回　マクロ経済理論の復習 第3回　ミクロ経済理論の復習 第4回　数学の基礎知識 第5回　統計学の基礎知識1 第6回　統計学の基礎知識2

	第7回　単純回帰モデルの推定 第8回　BLUEの証明 第9回　決定係数の導出 第10回　t値とt検定 第11回　重回帰モデルの推定 第12回　重回帰モデルのt値とt検定 第13回　自由度調整済決定係数 第14回　F値とF検定 第15回　前期末試験 第16回　実習に備えての復習 第17回　ダミー変数1（異常値） 第18回　ダミー変数2（季節変動） 第19回　ダミー変数3（質的変数） 第20回　ダミー変数4（構造転換） 第21回　チョウテスト 第22回　系列相関とダービン＝ワトソン比 第23回　コクラン・オーカット法 第24回　連立方程式モデル1 第25回　連立方程式モデル2 第26回　産業連関表の作成1 第27回　産業連関表の作成2 第28回　インターネットからのデータ入手方法 第29回　入手したデータを使った推定 第30回　後期末試験
教科書	白砂提津耶著『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学 第2版』日本評論社。
参考書・資料	伴金美・中村二朗・跡田直澄著『エコノメトリックス＜新版＞』有斐閣。 山本 拓著『計量経済学』新世社。
講義関連事項	マクロ経済学、ミクロ経済学、経済統計学、経済数学、情報処理関連。

担当者から一言	講義の性質上数学の知識がある程度必要であるが、もしいま数学や数値を扱うことが苦手であっても、ほぼ毎回ある練習問題を解いていくことで少しずつでも慣れていってもらいたい。そうすれば経済に限らず分析の視野が広がるはずである。

授業コード	31052		
授業科目名	**計量経済Ⅰ（前）**		
担当者名	宇野伸孝（ウノ　ノブタカ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	2008年度以降入学生適用 事前登録 「計量経済Ⅰ」・「計量経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

講義の内容	様々な経済の現象を数値データを駆使して理論的に分析することは、これまでの推移を整理・理解するため、あるいは将来を予測するために有用な手段である。 本講義では、現実の経済における因果関係を説明するために導出された各種経済理論モデルを、現実の数値データを用いて推計し、その妥当性を評価するという一連の手法を解説する。 なお、後期の計量経済 II では主に各自がPCを利用して実際に計算をする実習形式での講義を行うので併せて履修してもらいたい。
到達目標	基本的な統計学と計量経済学の理論を習得する。
講義方法	講義形式で基礎的な理論を解説する。 なお、計算練習で電卓を使用するので各自持参するように。
準備学習	マクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な理論を把握していることが望ましい。
成績評価	出席が30%、練習問題が30%、期末試験が40%。
講義構成	第1回　計量経済学とは 第2回　マクロ経済理論の復習 第3回　ミクロ経済理論の復習 第4回　数学の基礎知識

	第5回　統計学の基礎知識1 第6回　統計学の基礎知識2 第7回　単純回帰モデルの推定 第8回　BLUEの証明 第9回　決定係数の導出 第10回　t値とt検定 第11回　重回帰モデルの推定 第12回　重回帰モデルのt値とt検定 第13回　自由度調整済決定係数 第14回　F値とF検定 第15回　前期末試験
教科書	白砂提津耶著『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学 第2版』日本評論社。
参考書・資料	伴金美・中村二朗・跡田直澄著『エコノメトリックス＜新版＞』有斐閣。 山本 拓著『計量経済学』新世社。
講義関連事項	計量経済Ⅱ、マクロ経済学、ミクロ経済学、経済統計学、経済数学。

担当者から一言	講義の性質上数学の知識がある程度必要であるが、もしいま数学や数値を扱うことが苦手であっても、ほぼ毎回ある練習問題を解いていくことで少しずつでも慣れていってもらいたい。そうすれば経済に限らず分析の視野が広がるはずである。

授業コード	31053		
授業科目名	**計量経済Ⅱ(後)**		
担当者名	宇野伸孝(ウノ　ノブタカ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	2008年度以降入学生適用　事前登録 「計量経済Ⅰ」・「計量経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

講義の内容	様々な経済の現象を数値データを駆使して理論的に分析することは、これまでの推移を整理・理解するため、あるいは将来を予測するために有用な手段である。 本講義では、現実の経済における因果関係を説明するために導出された各種経済理論モデルを、現実の数値データを用いて推計し、その妥当性を評価するという一連の手法を理解した上で、主に各自がPCを利用して実際に計算をする実習形式での講義を行う。主にテキストの練習問題を解いていくが、現在はインターネット上から数多くの経済データが入手可能なので、これらをダウンロードし分析することも予定している。 なお、前期の計量経済Ⅰでは、本講義の前提である理論部分を解説するので併せて履修してもらいたい。
到達目標	基本的な統計学と計量経済学の理論を習得する。 PCを使った計量分析ができるようになる。
講義方法	PCを使った実習形式で行う。テキストの練習問題に加えてオリジナルの問題も解いてもらう。
準備学習	計量経済Ⅰを履修済みであり、かつExcelの基本操作を習得していることが望ましい。
成績評価	出席が30%、練習問題が30%、期末試験が40%。
講義構成	第1回　実習に備えての復習 第2回　ダミー変数1(異常値) 第3回　ダミー変数2(季節変動) 第4回　ダミー変数3(質的変数) 第5回　ダミー変数4(構造転換) 第6回　チョウテスト 第7回　系列相関とダービン＝ワトソン比 第8回　コクラン・オーカット法 第9回　連立方程式モデル1 第10回　連立方程式モデル2 第11回　産業連関表の作成1 第12回　産業連関表の作成2 第13回　インターネットからのデータ入手方法 第14回　入手したデータを使った推定 第15回　後期末試験

教科書	白砂提津耶著『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学 第2版』日本評論社。
参考書・資料	伴金美・中村二朗・跡田直澄著『エコノメトリックス＜新版＞』有斐閣。 山本 拓著『計量経済学』新世社。
講義関連事項	計量経済Ⅰ、マクロ経済学、ミクロ経済学、経済統計学、経済数学、情報処理関連。

担当者から一言	講義の性質上数学の知識がある程度必要であるが、もしいま数学や数値を扱うことが苦手であっても、ほぼ毎回ある練習問題を解いていくことで少しずつでも慣れていってもらいたい。そうすれば経済に限らず分析の視野が広がるはずである。

授業コード	31076		
授業科目名	**健康経済（前）**		
担当者名	後藤　励（ゴトウ　レイ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用		

講義の内容	ほとんどの人が健康でありたいと思っているでしょう。そのため、健康食品を買ったり、スポーツクラブに行ったりして病気にならないように予防しています。一旦病気になると、医療のお世話になり、年をとれば介護サービスを受ける人もいるでしょう。健康を保つもの、害するものに関する産業、政策について経済学的に分析する基礎を学びます。
到達目標	健康を保つ（害する）のに関与する産業や社会の制度についての基礎的な知識を習得する
講義方法	参加人数によって大きく変わるが、基本的には担当者による講義形式で行う。皆さんの理解を助けるために、講義トピックに関するテレビ番組などを見ていただくこともある。
準備学習	健康を保つ（害する）のに関与する財やサービスにはどのようなものがあるのかを考える。
成績評価	期末試験による評価（100%）
講義構成	講義で取り扱うトピックは以下を含む。 1. 健康とはなにか？ 2. 健康経済で取り扱う財やサービスは普通の財やサービスとどのように違うのか？ 3. 医療制度の現状と問題点 4. 介護制度の現状と問題点 5. 健康食品や健康スポーツなどの健康関連産業の現状と問題点 6. 健康を害するモノをなぜ消費するのか？ 7. 健康に関する産業・社会制度と日本経済
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	池上直己 「ベーシック医療問題」 日経文庫 西村周三 「医療と福祉の経済システム」 ちくま新書 河口洋行 「医療の経済学」 日本評論社 田村祐一郎 「いのりの経済学」 千倉書房 真野俊樹 「日本の医療はそんなに悪いのか」 薬事日報社 依田高典　後藤励　西村周三 「健康行動経済学」 日本評論社
講義関連事項	授業中の私語等で注意を受けたものは、即単位の取得資格が失われる。

授業コード	31077		
授業科目名	**現代アジア経済I（現代アジア経済）（前）**		
担当者名	金　俊行（キム　ジュネン）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	2007年度以前入学生は「現代アジア経済」として、2008年度以降入学生は現代アジア経済Ⅰとして履修すること。 その際「現代アジア経済Ⅰ」・「現代アジア経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	「東アジア共同体」について考えます。なぜテーマとして浮上したのでしょうか。必要なのでしょうか。何が課題となっているのでしょうか。この問題を考える前提としてまず「東アジアの奇跡」と呼ばれた驚異的な経済成長の変遷について韓国経済をモデルにして学びます。次に1997年の「アジア通貨危機」の背景を分析します。つねに問題とされるのは国際基軸通貨であるドルの過剰供給です。2000年代になって世界経済は米国経済の一極繁栄を背景にしてグローバリゼーションが加速していきます。同時に国際金融の不安定さは深刻なものとなっていきました。リーマンショックはその結果のひとつです。さて、東アジアの中の日本経済にはどのような戦略的オプションがあるのでしょうか。
到達目標	①戦後国際金融市場動向の変遷と関連させながら韓国経済の驚異的発展の背景を理解しましょう。 ②国際通貨体制（ドル体制）にはどんな問題があって、それはどのように現れてきたのか、東アジア経済の具体的な経験のなかから説明できるようになりましょう。 ③東アジア経済における国際分業の進展について観察しながら、今後の課題について考えます。
講義方法	講義プリントを中心に板書でこれを補います。
準備学習	マクロ経済学や国際金融の基礎知識をすでに学んでいることが望ましいのですが、履修の前提とはしません。最低限必要なことは授業の中で解説します。
成績評価	3年生対象の前期開講ということもありますので出席が重視されます。出席点は、毎回のコミュニケーションペーパーに何がわかったか何がわからなかったか、そしてどう考えたかを記入していただき、その枚数と内容が対象になり、成績評価の50%を占めます。ですから出席が不足した学生は単位取得が不可能になりますから注意してください。期末試験で残りの50%を評価します。
講義構成	1，授業ガイダンス 2，ドル体制とは何か 3，ドル危機と外資導入輸出工業化政策 4，オイルショックと韓国経済の奇跡 5，レーガノミクスと対外債務累積危機 6，プラザ合意とソウルオリンピック 7，中国の開放政策とアジアの金融自由化 8，NY株価の急騰とアジアの金融自由化 9，東アジア通貨危機（1） 10，東アジア通貨危機（2） 11，「双子の赤字」とアジアの黒字 12，東アジア分業体制の発展 13，「東アジア共同体」の必要性 14，「東アジア共同体」の課題
教科書	テキストは使用しません。
参考書・資料	金俊行著『グローバル資本主義と韓国経済発展』 御茶の水書房 その他必要に応じて随時紹介します。

授業コード	31078		
授業科目名	**現代アジア経済Ⅱ（後）**		
担当者名	裴　光雄（ペ　クワンウン）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「現代アジア経済Ⅰ」・「現代アジア経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	まず、今日の東アジアFTAおよび東アジア共同体構想、その契機となったアジア通貨・金融危機についても解説し、アジアの経済展と関係する一般的な考え方を紹介する。その後、アジアNIESと呼ばれる国、地域およびASEAN諸国のうちのいくつかの国々の経済発展の軌跡を概説し、またビデオを見ることによって、それぞれの国々に共通する問題、あるいは特有な問題を知る手がかりにしたい。以上を通して、今後この地域がどのように発展していこうとしているのかを考え、そして日本にいる私たちがアジア地域に住む人々と今後どのようにより良い関係を築いていけるのかを考えたいと思います
到達目標	東アジアのFTA、東アジアの地域統合、東アジア共同体について十分な知識と理解を身に付ける
講義方法	授業は講義のレジュメと統計資料を毎回配布し、必要に応じてパワーポイントも使用します。講義が中心ですが、時事的な問題も含めて随時ビデオも利用します。特定の教科書は指定しませんが、参考図書を参考にしてください。

準備学習	重要なことは、日頃からアジア経済に関心を持つことです。そしてできれば興味のある国を見つけて、日頃から関心を持っていただきたいと思います。
成績評価	平常点30%と期末試験70%の割合で評価します。平常点は抜き打ちの小テスト。私語をする学生は減点し退場してもらいます。試験は、用語解説と論述式の問題です。論述式の問題にはいくつかの選択肢があって、各自の関心にしたがって答えられるようにしますが必ず自分の言葉で書くことが大切です。
講義構成	1週目：オリエンテーション 2週目：FTA（自由貿易協定）とは GATT、WTOとの関連、地域統合における位置 3週目：日本のEPA（経済連携協定）戦略 EPAとは、経済産業省の資料による考察 4週目：韓国のFTA戦略（1） チリとのFTA締結・発効と「同時多発的」FTA推進戦略 5週目：韓国のFTA戦略（2） 米国とのFTA締結と批准を巡る動向 6週目：韓国のFTA戦略（3） EUとのFTA締結とその内容 7週目：韓国のFTA戦略（4） 日本とのFTA交渉の蹉跌とその要因 8週目：韓国のFTA戦略（5） 中国・インドとの交渉経過とその動向 9週目：ASEAN・中国・インドのFTA戦略 10週目：東アジアの地域統合をどう考えるか（1） 今日の状況…貿易、投資、ODA、金融・経済協力など 11週目：東アジアの地域統合をどう考えるか（2） 「奇跡」、通貨・金融危機、チェンマイイニシアティブ 12週目：東アジアの地域統合をどう考えるか（3） EAEG、アジア通貨基金とAPEC、東アジアサミット 13週目：東アジアの地域統合をどう考えるか（4） これまでの研究の検討－議論の紹介と整理－ 14週目：東アジアの地域統合をどう考えるか（5） 「東アジア共同体」論を中心に 15週目：全体のまとめ or 試験 順番の変更はありうる
教科書	特に指定しない。プリント配布。
参考書・資料	事前の購入の必要はないが、以下の図書を参考図書として薦める。 ・安忠栄『現代東アジア経済論』岩波書店、2000年。 ・末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会、2000年。 ・進藤栄一『東アジア共同体をどうつくるか』ちくま新書、2007年。 ・徐勝・李康国『韓米FTAと韓国経済の危機』晃洋書房、2009年。
講義関連事項	アジア経済入門を既に受講していることが望ましい

担当者から一言	とにかく出席して前に座り、ノートを必ずとるようにしてください。

授業コード	31081		
授業科目名	**現代アメリカ経済（前）**		
担当者名	稲田義久（イナダ　ヨシヒサ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	本講義では戦後のアメリカ経済を学習します．アメリカ経済を学ぶ意義は，以下の2点です．第1に，日本にとって特に重要な存在だからです．第2に，アメリカ経済の動向は日本の将来を考える上で重要な参考材料となるからです． このような観点から，戦後のアメリカ経済を年代順にそのパフォーマンスを概観し，動態の理解を深めたいと思います．
到達目標	戦後のアメリカ経済の基礎的な知識の習得とマクロ経済学の基礎理論でアメリカ経済の動態を理解すること。
講義方法	パワーポイントによるプレゼンテーションが中心になります．

	予習，復習用に電子教材を用意しています．講義をより理解してもらうために，3回のMonthly Essayを課します．
準備学習	秋元英一著、『世界大恐慌-1929年に何がおこったか』、講談社学術文庫を一読されておくことをすすめる。今回の世界恐慌を理解するのに適切な文献です。
成績評価	レポート(Monthly Essay)と期末試験の総合評価．評価のウェイトはレポートが30%、試験が70%です．
講義構成	第01講　Current Topics for the US Economy 第02講　アメリカ経済と景気変動 第03講　戦後経済と黄金の60年代 第04講　戦後アメリカン・システムの特徴 第05講　経済的混乱と石油ショック 第06講　ニクソンの登場と「新経済政策」 第07講　レーガノミクスの光と影 第08講　レーガノミクスとは何か 第09講　レーガノミクスの転換：湾岸戦争の経済的帰結 第10講　IT革命で甦ったアメリカ経済 第11講　クリントノミクスとは何か 第12講　IT革新と収穫逓増 第13講　IT革命の労働への影響 第14講　ドットコム・バブル崩壊の意味 第15講　Eビジネス革命
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	講義は以下の教材に沿って行われます。 http://kccn.konan-u.ac.jp/keizai/america/index.html F.G.アダムス著，『Eビジネスの経済学』，日本評論社

担当者から一言	半期で講義するので時間的にタイトになります．講義の十分な理解のためには予習・復習が重要となります．そのために自学習用に電子教材を用意しましたので、十分に活用してください。

授業コード	31091		
授業科目名	**現代経済学の諸潮流（現代経済学の歴史）（後）**		
担当者名	岡田元浩（オカダ　モトヒロ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	2008年度以降入学生は現代経済学の諸潮流として履修 2007年度以前入学生は現代経済学の歴史として履修		
オフィスアワー	第１回目の講義時に通知します。		

講義の内容	この講義では、現代の経済学において主流の位置を占め、実際の経済政策や、一般の人々の経済認識に大きな影響を及ぼしている流派＝「新古典派経済学」の特徴と問題点を明らかにするとともに、市場、消費、労働雇用、貨幣といったテーマに関して、新古典派経済学とは異なるとらえ方を示す有力な学説を、今日わたしたちを取り巻く現実の経済問題に即しながらわかりやすく紹介していきます。この講義を通じて、多様な経済学アプローチから積極的に学ぶことが、現代の経済社会への理解を深める上でいかに大切であるかを知ってもらいたいと思います。
到達目標	みなさんがミクロ経済学やその他の講義を通じて親しく学んできた新古典派経済学の特質と、新古典派とは異なる多様な経済学アプローチに関する知識の獲得とともに、幅広い社会的視野からの経済理解の大切さを知ることを、到達目標としています。
講義方法	通常の大クラス形式の講義です。
準備学習	各講義の終わりに次回講義内容の予告をしますので、それにあわせた予習をおこなってください。くわしくは第１回目の講義時に説明します。
成績評価	原則として定期試験成績に基づき評価します。 「不可」、「欠席」の不合格成績に関しては、定期試験を受験したが合格点に達しなかった場合は「不可」、定期試験を受験しなかった場合は「欠席」とします。
講義構成	おおむね以下の構成で講義を進めていく予定です。 ・ ガイダンス:　経済学のこと、もっと広く知りましょう！

	・ あなたが学んできた現代経済学の主流＝新古典派経済学： その特徴と背景はどんなものだろうか。 ・ 市場の歴史をたどると面白い： カール・ポラニーの「大転換」 ・ ブランド志向と消費の本質：「見せびらかし消費」を強調したアメリカの経済学者ヴェブレン ・ 市場では雇用主と労働者は対等？： マルクスの資本主義批判 ・ アントニオ・ネグリの「脱工業経済」論」： この半世紀で労働のあり方は機織機（はたおりき）とコンピューターの間のごとく大きく変わってしまった。 ・ 規制なき市場は失業を解消する？： マルクス、ケインズ他の雇用理論 ・ お金の役割って？― そのジレンマ： ケインズの貨幣論 ・ まとめ
教科書	この講義では特定のテキストを使用せず、担当者（岡田）がプレゼンテーション用ソフトで作成した資料にしたがって講義を進めます。
参考書・資料	その都度紹介します。
講義関連事項	たとえば「経済学の歴史」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」などが、とりわけ本講義と関連の深い他講義科目といえましょう。

担当者から一言	講義中の私語は、講義担当者にとっても、真面目に講義を聴いている受講生にとっても、はなはだ迷惑です。厳につつしんで下さい。

授業コード	31080		
授業科目名	**現代中国経済（モダン・エコン特論）（前）**		
担当者名	青木浩治（アオキ　コウジ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	2008年度以降入学生は現代中国経済として履修 2007年度以前入学生はモダン・エコン特論として履修		
オフィスアワー	原則として金曜日午後1-2時。その他時間的余裕があれば随時対応します。		

講義の内容	「改革・開放」という言葉を知っていますか？現代中国経済は急速に成長していますが、こうした中国経済の台頭が始まったのが1978年の改革・開放政策への転換からでした。歴史的に日本は中国との結びつきが強く、大きな影響を受けてきた国の一つですが、学生諸君の中国経済に関する知識は、一部のマニアを除いて驚くほど貧困です。例えば毛沢東は知っていても鄧小平という名前を知らない人が意外に多いのではないでしょうか？この授業では北京や上海に観光旅行に行っただけでは分からない中国経済の実相を、身近な出来事を含めて少し広い視点から解説する予定です。
到達目標	中華人民共和国が産声をあげた後の中国の成り立ち、およびその成長の過程を、経済を中心としてではあるが大まかにでも語ることができるようになること、第二に、今後日本がお付き合いしていく中で、アメリカとともに最も重要となると予想される隣国の事情について、必要最低限の常識を身につけることが目標です。
講義方法	基本的に口述筆記とおいうスタイルをとりますが、ビジュアルにするためパワーポイントを多用する予定です。ただし漫然として聞き流すのではなく、できるだけノートをとるようにしましょう。
準備学習	MY Konanに授業用のパワーポイント・スライドをダウンロード可能にしておきますので、事前に必ず該当箇所をプリント・アウトし、その内容について学習しておいて下さい。
成績評価	不定期に行う三回の出席調査が15%、定期末試験結果が85%のウェイトで評価します。
講義構成	次のような内容に従って授業を進める予定です。 1.イントロダクション：中国の近・現代と授業の課題 2.社会主義計画経済時代の中国 (1)：社会主義計画経済の確立 3.社会主義計画経済時代の中国 (2)：大躍進と文化大革命 4.社会主義計画経済時代の中国 (3)：計画期中国の成果

	5.改革・開放への転換 (1):農業・農村改革 6.改革・開放への転換 (2):改革の拡大と天安門事件 7.社会主義市場経済の確立に向けて (1):南巡講話と94年改革 8.社会主義市場経済の確立に向けて (2):中国経済の変調と国有企業改革 9.グローバル化時代の中国 (1):中国経済の国際化 10.グローバル化時代の中国 (2):WTO加盟ブームとその要因 11.グローバル化時代の中国 (3):中国のエネルギー・環境問題 12.和諧社会に向けて (1):農民大国中国の現実 13.和諧社会に向けて (2):転換点通過の課題 14.和諧社会に向けて (3):戸籍制度 2-4では、中華人民共和国前半30年の足跡を辿り、現在の改革・開放に転換した時代的背景を解説します。結論的に言うと、建国後前半30年は毛沢東という特定のリーダーによる政治的混乱に翻弄された歴史でした。その失敗劇を多くのスライドを用いて概説する予定です。 続く5-11では、1978年以降の中国経済の展開を時間の軸、空間の軸の二つの視点から解説します。改革・開放といっても90年代初頭まで、中国は相変わらず計画期のクセを引きずっており、混乱気味でした。そうした生みの苦しみを辿ること、そして21世紀の爆発的な成長の背景を探ることがここでの課題です。 最後の12-14では現代中国経済が直面する諸課題のうち、最も重要と考えられる格差是正問題について、歴史・制度および日本の経験を交えて解説する予定です。
教科書	特定の教科書は使用しませんが、標準的なものとして以下を推薦しておきます。 加藤弘之・上原一慶編著「中国経済論」ミネルヴァ書房、2004年。 南亮進・牧野文夫編著「中国経済入門」第2版、日本評論社、2005年。 天児慧「中国の歴史11:巨龍の胎動、毛沢東vs.鄧小平」講談社、2004年。
参考書・資料	授業中に別途指示します。
講義関連事項	授業内容に近いものを甲南大学のウェブサイト上で公開しています。最初に甲南大学情報教育センターのホームページにアクセスして下さい。それが現れたら上の方のContentsをクリックして下さい。すると学部ごとのウェブ・コンテンツが掲示されますので、この中から経済学部の教材を選んで下さい。「現代中国経済」という題名のコンテンツがそれです。

担当者から一言	中国の地図を常備しておくと大いに手助けになります。中国は国土面積が日本の26倍、ちょうどアメリカと同じサイズで、北はフィンランドから南はイタリアまでの西欧がすっぽり入る広大な領土からなっています。ですから日本とは異なり地域性の強いお国柄であり、中国を勉強するに当たって、歴史とともに地理に強くなっておくことを薦めます。

授業コード	31T11		
授業科目名	**現代日本経済 (1ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	古川　顕(フルカワ　アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	主要問題の現状と課題		

講義の内容	戦後最長の景気拡大期が終わると同時に、米国のサブプライムローン問題を発端とするグローバルな金融危機やデフレの深刻化、株価の下落、円高の進展など、日本経済は激震に見舞われた。本講義では、いわゆるバブルの生成と崩壊から最近に至るまでの日本経済の動向をフォローしながら、内外の金融的諸問題と景気や物価との関連、経済活動のグローバル化の進展、金融・財政政策の運営などについて体系的に説明する。
到達目標	日本経済が直面する現状と課題、対策等について十分な知識をもつこと。
講義方法	主要なテーマごとに資料を作成し、その資料に沿って講述する。
準備学習	新聞の経済欄について毎日欠かさず読んでおくこと。
成績評価	期末に行う筆記試験によって行う(場合によっては出席を取り、期末試験とは別に小テストを行い、これらを成績評価に反映させる可能性がある)。
講義構成	1. バブルの生成と崩壊 2. 金融市場の発展 3. 利子率と資産価格の変動 4. 株価決定のメカニズム

	5. 為替レートの変動とその影響 6. サブプライムローンと金融新技術 7. グローバルな金融危機 8. 物価と景気 9. 日本経済の課題 （以上の章立ての順序および内容等については、部分的に変更する可能性あり）
教科書	使用しない。必要な資料をコピーして配布する。

担当者から一言	毎日の新聞の経済・金融欄に必ず目を通して、自分なりに日本経済の現状を把握することが望ましい。

授業コード	31T12		
授業科目名	**現代日本経済（ 2ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）、青木浩治（アオキ　コウジ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限 土曜2限
特記事項	地域活性化システム論 受講指導時にガイダンスを実施するので、希望者は参加すること。		

講義の内容	授業の第一の目的は，六甲山・神戸の歴史，文化，自然について学び，その環境資源・観光資源としての価値を再認識することです。その第二の目的は，地域再生・地域活性化に関する制度・政策を学び，六甲山におけるエコツーリズムや神戸をコンセプトとした観光活性化の取り組みなどを題材にして，地域再生・地域活性化に対する理解を深めることです。
到達目標	グループワークを通じて、六甲山・神戸をコンセプトとしたユニークな地域再生・地域活性化プランを立案し、人前でプレゼン、提案することが目標です。
講義方法	国・地方自治体の政策担当者や実務家が，地域再生に向けたそれぞれの取り組みについて講義を行います。また，六甲山およびその近辺でのフィールドワークも予定しています。それらを通して得た知識や経験に基づいて，グループ単位で六甲山・神戸をテーマとする地域再生・活性化計画を作成し，最終回の公開ワークショップにおいて発表を行います。
準備学習	最後の公開ワークショップに向けた準備作業を意識して受講することが必要です。
成績評価	出席状況，授業中の発言頻度・内容，および公開ワークショップにおける発表内容等に基づき，総合的に評価します。
講義構成	次の構成で授業を進める予定です。 第1回　オリエンテーション:9月30日(木) 第2回　フォーラムⅠ:10月9日(土):2限 第3・4回　フィールドワーク:10月16日(土):終日 第5回　地域活性化論・政策プランニングの基礎理論(1):10月21日:(木) 第6回　地域活性化論・政策プランニングの基礎理論(2):10月28日:(木) 第7回　グループワーク:「報告に向けての準備」:11月11日:(木) 第8回　再生に向けた地域での取り組み(1):11月18日:(木) 第9回　再生に向けた地域での取り組み(2):11月25日:(木) 第10回　再生に向けた地域での取り組み(3):12月2日:(木) 第11回　中間報告会(1):12月9日:(木) 第12回　フォーラムⅡ:12月18日(土):2限 第13回　中間報告会(2):1月6日:(木) 第14・15回(*)　公開ワークショップ－六甲山・神戸活性化に向けた学生アクションプランの発表: 1月8日(土) なお、授業は原則木曜5限に行いますが、一部土曜日に実施されるので注意して下さい。
教科書	特に使用しません。
講義関連事項	大学および経済学部ホームページに2008年度・2009年度の授業や公開フォーラムの様子などにつての報告がアップされていますので、ぜひ一度開いてみて下さい。

その他	受講希望者は、開講前の9月中旬にガイダンスを開催するので、必ず参加して下さい。その正確な期日は後日、掲示します。

授業コード	31T13		
授業科目名	**現代日本経済（ 3ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	稲田義久（イナダ　ヨシヒサ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	日本の資本市場 野村證券(株)提携講座 2008年度以降入学生用。2007年度以前入学生は「今日の経済問題Ⅳ」を履修すること		

講義の内容	このｺｰｽは野村證券株式会社によって提供されるもので、講師陣は野村證券および野村総合研究所等の実務に長けた人々から構成される。 資本市場（株式、債券などの市場）が家計や企業の資金運用・調達にあたって、どのように機能しているかを現状に即して実務家が説明する。
到達目標	新聞の金融経済記事の理解と金融経済の基礎知識の習得
講義方法	野村證券のスタッフによる講義
準備学習	新聞の金融経済欄に目を通しておくこと
成績評価	期末の試験によって評価する。
講義構成	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ 経済情報のとらえ方 経済成長と金融資本市場 証券投資のﾘｽｸ・ﾘﾀｰﾝ ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 債券市場の役割と投資の基礎知識 株式市場の役割と投資の基礎知識 投資信託の役割とその仕組み 支店見学 金融市場の役割とその変化 資本市場における投資家心理 資産運用とﾗｲﾌ・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ （以上2006年度実績）
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	野村証券投資情報部編『証券投資の基礎』丸善株式会社 氏家純一編『日本の資本市場』東洋経済新報社

授業コード	31082		
授業科目名	**現代ヨーロッパ経済（後）**		
担当者名	中屋宏隆（ナカヤ　ヒロタカ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	同日5限終了後。		

講義の内容	戦後ヨーロッパ経済の進展について検討を加える。
到達目標	経済史的視点から進展著しいヨーロッパ統合の現状に可能な限り接近することを目標としたい。
講義方法	レジュメを配布し、パワーポイントを用いて進める。
準備学習	必要ない。
成績評価	小テスト(30点）と期末試験（70点）。
講義構成	第1回　イントロダクション 第2回　戦後ヨーロッパ統合の開始

	第3回　超国家的統合の挫折 第4回　ヨーロッパ統合の再出発 第5回　1950年代のヨーロッパ経済の成長 第6回　ドゴールの登場 第8回　1970年代とヨーロッパ経済の低迷 第9回　通貨協力から統合の再加速 第10回　ポスト冷戦期とヨーロッパ統合 第11回　拡大するヨーロッパ経済 第12回　大統領と外務大臣の誕生
教科書	適宜指示する。

担当者から一言	リスボン条約が発効し、EU大統領が誕生しました。戦後ヨーロッパではいかに統合が進められ、今後どういった進展が予想されるのかを考えて行きたいと思います。

授業コード	31030		
授業科目名	**公共経済（後）**		
担当者名	小林　均（コバヤシ　ヒトシ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
オフィスアワー	在校中随時		

講義の内容	現代国家は混合経済体制といわれ、国民経済が公共経済と市場経済とから構成されている。資本主義経済は自由な民間の経済活動を中心に運営される経済である。しかし現実には公共経済の国民経済に占める割合はかなりの大きさになっている。本講義は公共経済の担い手である政府活動の経済的根拠を明らかにすることによって、国民経済における公私の役割分担を検討し、効率かつ公平な経済システムの構築を目指すものである。
到達目標	1.今日の財政赤字、社会保障、所得分配といった問題を経済学ではどうとらえるかを知ること 2. 入門の経済学、とりわけミクロ経済学の応用問題を理解 3. 上記1の問題を感情的・情緒的に捉えることと経済学的に捉えることの相違を理解すること
講義方法	講義形式で、講義資料を配布する。試験は、講義の中から出しますので、日々の講義を理解し、試験期間中の試験に臨んで下さい。
準備学習	1. 第1回目の講義で、講義全体の内容について話しますので、どういう講義か確認してください 2. 毎回の講義の最後に、次回の講義のテーマについて話しますので、注意深く聞いてください 3. 普段から、新聞、TVで社会保障、所得格差、税金等について関心を持って、読み、聞いてください
成績評価	出席はとらず、試験期間中の試験で判断します。
講義構成	1　講義全体についての説明 2　国民経済と公共部門・大きな政府VS.小さな政府 3　公共経済学とその課題 4　価格機構の特性 5　市場の失敗と政府の役割 6　公共財の経済学(1)公共財と準公共財 7　公共財の経済学(2)供給システム 8　費用便益分析(1) 9　費用便益分析(2) 10　外部効果とその対策(1)外部性 11　外部効果とその対策(2)公的対応(ピグー課税) 12　外部効果とその対策(3)私的対応(コースの定理) 13　自然独占と規制(1) 14　自然独占と規制(2) 15　租税の経済学(1)租税原則 16　租税の経済学(2)公平な課税 17　租税の経済学(3)効率的課税 18　租税の経済学(4)最適課税 19　所得分配政策(1)所得再分配の根拠 20　所得分配政策(2)政策手段 21　所得分配政策(2)政策手段の評価 22　社会保険(1)年金

	23　社会保険(2)医療 24　社会保険(3)介護 25　公債の経済学(1) 26　公債の経済学(2) 27　公共選択の理論(1)中位投票と投票のパラドックス 28　公共選択の理論(2)公共部門肥大化要因 29　地方分権 30　まとめ 31　後期試験
教科書	特になし。毎回の講義のノートを配布しますので、それをしっかり理解して下さい。
参考書・資料	講義の際に適宜指示します
講義関連事項	ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎知識が必要。関連科目として、財政、地方財政、都市経済、経済政策、情報通信の経済学、経済体制、社会政策。

担当者から一言	今日の経済問題を考える際に必要な理論的な話が中心で、特に入門ミクロ経済学の応用・発展的な講義である。

授業コード	31L41		
授業科目名	**公共経済入門（ 1ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	上島康弘（ウエシマ　ヤスヒロ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	クラス指定（授業時間表別表参照） 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示.		

講義の内容	経済学とは，人々や会社，国のつながりをはっきり示した上で，どのようにすれば人々の福祉（幸福の度合い）を向上させられるのかを考える学問である．この講義では，まず市場のはたらきを理解して，次に市場にまかせていては解決できない問題を取り上げて，それにどう対処すればいいのかを考える．
到達目標	経済学のツールを学ぶとともに，それらを現実の問題に応用して解決策を考える力を養う．
講義方法	・配付する資料に基づいて講義を行う． ・毎回，質問時間を設けるので，遠慮なく質問してほしい．
準備学習	・前回の内容を自分なりにノートに整理すること ・配布された資料や指示された本を読むこと． ・宿題に対して自らの答を書くこと．
成績評価	学期末試験（100点満点）＋ 平常点（上限20点）．100点以上のときには100点とする．
講義構成	(「入門ミクロ経済学」の進み具合を見て，授業のレベルとテーマの順序を調整します．) Ⅰ．需要と供給〔モノの値段はどう決まる？〕 (1)需要と供給 (2)需要曲線 (3)供給曲線 (4)需要，供給，均衡 (5)応用1：半導体市場－なぜ「シリコン・サイクル」が存在するのか (6)応用2：フェアトレード－買い物で世界を変える Ⅱ．市場の効率性〔どれだけ買えばしあわせか？〕 (1)消費者余剰と需要曲線 (2)生産者余剰と供給曲線 (3)総余剰と死加重 (4)応用1：排出権取引－市場が地球を救う（か） (5)応用2：国際貿易－貿易に勝ち負けはない Ⅲ．外部性，公共財，共有資源〔市場は失敗するか？〕 (1)さまざまな財

	(2)外部性に対する政策 (3)共有資源に対する政策 (4)応用1:地球温暖化ーなぜガソリン税が必要なのか (5)応用2:海洋資源ー魚がいなくなる Ⅳ. 税・社会保険と所得分配〔「格差社会」をどう防ぐ？〕 (1)所得税・住民税の計算 (2)社会保険のイロハ (3)所得の再分配 (4)応用1:ジニ係数ー格差は拡大しているか (5)応用2:子どもの貧困ー「親が貧しいから子が学校に行けない」社会 Ⅴ. 労働経済学入門〔給料はどう決まる？〕 (1)給料の決め方 (2)人的資本理論 (3)応用1:統計的差別ー女性はなぜ「差別」されるのか (4)応用2:フリーターの涙ーきみはどう生きるか
教科書	同一のテキストを終始用いることはしない.
参考書・資料	下記の2冊をすすめる. 前者は, 説明が分かりやすくて, 練習問題がすばらしい. 後者はノーベル経済学賞の受賞者による教科書で, 経済学の使い方を教えてくれる. 自分の好みに合うほうを読めばいい. ・マンキュー「経済学 ミクロ編 第2版」(東洋経済新報社)の第4, 7, 9, 10, 11, 20章. ・クルーグマン「ミクロ経済学」(東洋経済新報社)の第3, 6, 17, 19, 20, 21章.
講義関連事項	・静かに授業を聴いているのに分らないとすれば, 私の説明が下手だからである. 繰り返しになるが, 遠慮なく質問してほしい. 「くだらない質問」などない. ・授業ではパワーポイントは使わないし, 小学校のように整理された板書もしない. 話の流れを理解して要点をメモに取ること. 帰宅後, メモと資料を見ながら, 自分なりのノートを作るべきである. そうしてはじめて, キーワードやものの考え方が頭の中に定着する. 自分のノートを作ろう.

担当者から一言	経済学の面白さを伝えたい.
その他	

授業コード	31L42		
授業科目名	**公共経済入門 (2ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	石川路子(イシカワ　ノリコ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	火曜4限(前期)もしくは火曜5限(後期)		

講義の内容	経済学とは、人や国のつながりを考慮した上で、どのようにすれば人々の福祉(幸福の度合い)を向上させることができるのかを考える学問である。この講義では、市場のはたらきを理解した上で、市場にまかせていては解決できないような問題を取り上げて、それらにどう対処すればいいのかを考える。
到達目標	経済学の基礎的知識を習得するとともに、これらの知識を実際社会で活用できるような力を身につける。
講義方法	配付する資料を用いて講義を行う。 毎回、最後に質問時間を設けるので、遠慮なく質問してください。
準備学習	担当教員に指示された参考書等に目を通しておくこと。 また、適宜時事問題を扱うため、日頃から新聞等からの情報に関心を持っておく必要がある。
成績評価	学期末試験(100点満点)＋平常点(上限20点)。 なお100点以上の場合は100点とする。
講義構成	Ⅰ. 需要と供給〔価格や取引量はどう決まる？〕 (1)需要と供給 (2)需要曲線 (3)供給曲線

	(4)需要，供給，均衡 (5)応用：売り手と買い手の駆け引き Ⅱ．市場の効率性〔その取引量でしあわせですか？〕 (1)消費者余剰と需要曲線 (2)生産者余剰と供給曲線 (3)総余剰と死加重 (4)応用：価格規制の弊害とは？ Ⅲ．税・社会保険と所得分配〔「格差社会」を防ぐには？〕 (1)日本の財政と財政改革 (2)日本の税制 (3)日本の年金・医療制度 (4)応用：格差社会は是か非か？ Ⅳ．外部性〔市場が失敗するときーその1〕 (1)集積の経済学 (2)集積に対する政策 (3)生産・消費および外部性 (4)応用：【都市経済学入門1】集積がもたらすメリット＆デメリットとは？ Ⅴ．公共財の役割〔市場が失敗するときーその2〕 (1)私的財とその他の財 (2)公共財 (3)共有資源 (4)応用：【都市経済学入門2】人はどのように居住地を選択するのか？
教科書	特に指定しない。配布するレジュメに基づく。
参考書・資料	N.グレゴリー・マンキュー著の「マンキュー経済学 ミクロ編 」（東洋経済新報社）や ポール・クルーグマンら著の「クルーグマン ミクロ経済学」（東洋経済新報社）など。 その他の参考書については、講義中に適宜指示する。

担当者から一言	この講義では、単に多くの知識を詰め込むという形式ではなく、経済学の基礎的な知識をきちんと理解し、その知識を日常生活で「応用」できるよう指導します。役に立つ経済学をぜひ実感してください。

授業コード	31069		
授業科目名	**公共政策（総合政策特論）（前）**		
担当者名	小林　均（コバヤシ　ヒトシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	2008年度以降入学生は公共政策として履修 2007年度以前入学生は総合政策特論として履修		
オフィスアワー	来校、在室時9号館7F		

講義の内容	わが国が現在抱えている問題は、多額な債務残高であり、人口高齢化・少子化に伴う医療・年金・介護の問題であり、さらには無駄な公共投資やこれまでの地方財政制度の限界である。こうした問題は相互に関連を持ち、まさに日本の構造改革が迫られている背景である。本講義では、財政赤字の問題から説き起こし、公共投資、社会保障、地方交付税に焦点を当てて、その解決への政策を総合的視点に立って議論する。
到達目標	次の5つの点を理解、考察することが目標です。 1　今日の日本の抱える問題のうち、なぜ膨大な財政赤字の累積が生じたか 2　財政赤字累積の背景は、経済政策の運営上の問題があること 3　財政赤字累積の背景には、少子高齢化にともなう社会保障制度上の問題があること 4　財政赤字累積の背景には、国と地方の関係や地方財政制度上の問題があること 4　財政赤字累積を解決するには、どうしたらよいかを考えること

講義方法	板書中心で,図、表の資料は必要に応じて配布します。
準備学習	1　最初の講義で、全体の話をしますので、どういう講義か確認してください 2　毎回の講義のタイトルを確認してください。 3　財政赤字、少子高齢化、医療、年金、介護、地方財政、公共工事等が この講義の対象となっていますので、TV、新聞等で関連の項目について 見聞き、読んでください。
成績評価	試験期間中の試験のみの評価
講義構成	1　講義の全体についての説明 2　世界1の借金国 3　なぜ財政赤字は大きくなったか？ 4　少子高齢化社会がもたらすものは何か？ 5　年金制度の維持は可能か？ 6　医療制度のどこが問題か？ 7　介護保険はなぜ導入され、どこが問題か？ 8　公共事業のどこが問題か？ 9　地方財政のどこが問題か？ 10　地方分権への改革がもとめられている 11　持続可能な年金制度とは何か？ 12　持続可能な医療制度とは何か？ 13　これからの介護制度とは何か？ 14　財政の構造改革の必要性 15　まとめ 16　試験
教科書	特になし
参考書・資料	講義の際に指摘します.

担当者から一言	今年度は、地方と国との関係の見直し、i一括交付金や道州制に時間を割きたいと考えています。

授業コード	31057		
授業科目名	**国際金融**		
担当者名	中島清貴（ナカシマ　キヨタカ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（月曜4限）、後期（月曜4限）
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	前期セメスターでは，国際的なリスク分散の意義を議論し，インデックスファンド，ファンドオブファンズの有用性を考察する．また，国際資本市場および貿易市場における裁定問題を扱い，為替レートが利子率や物価とどのような関係にあるのかを議論する． 後期セメスターでは，国際金融取引の観点からリスク回避の手段としてのデリバティブ取引について議論する．デリバティブ取引は概して金儲けの手段として理解されることが多い．しかし，各人が，金融リスク管理を目的として「謙虚に」それを使用した場合，逆に経済を安定化させる上で有用な手段であることを議論していく．また，金儲けの手段としてデリバティブを利用した場合，金融リスクが飛び火することで，経済を不安定化させる可能性があることも併せて議論していく．
到達目標	①リスクがどのように定義されるのかをしっかりと理解することで，受講者がどのように金融資産を分散　投資をしていけば良いのかについての指針を与えることを目標とする． ②為替レートが重要なマクロ金融変数である金利および物価とどのような関係にあるのかを理解し，日本の低金利政策が米国のサブプライムローン問題の原因となった可能性やデフレが為替レートに与える影響を理解する． ③円やドル，株式などの金融資産価格の予測が必ずしも成功しない利用を理解し，分散投資やデリバティブ取引などの金融取引がなぜ必要であるのかを理解する． ④デリバティブ取引を金儲けの手段としてではなく，金融リスク管理の手段として謙虚に利用することの重要性を理解する．
講義方法	私のホームページ，もしくは，My Konanで書き込み式のレジュメを事前に配布し，空欄を埋めるようにして講義を行う．
準備学習	①授業日当日の12時までにレジュメや講義資料を私のホームページかMy Konanにアップロードしておくので，

	各自予め印刷をし，レジュメと講義資料を持参の上，講義に臨むこと. ②四則演算（足し算，引き算，掛け算，割り算）を使用する．暗記に頼るような講義内容ではないので，話しの流れをしっかりと追うように心掛けること.
成績評価	期末テストだけで決めます．出席点やレポート点はありません.
講義構成	I 国際的なリスク分散 ①期待収益とサンクトペテルスブルクのパラドックス ②リスクと標準偏差 ③分散投資 ④分散出来るリスクと出来ないリスクーインデックスファンドの有用性 ⑤国際分散投資とファンドオブファンズ II 裁定 ①裁定と経済効率性 ②先渡取引 ③為替レートと金利の関係ーカバー付き金利平価式 ④低金利政策と国際的な過剰流動性 ⑤為替レートと物価の関係ー購買力平価説 ⑥為替レートと貨幣の関係ーソロスチャート III ランダムウォーク ①ショートポジションとロングポジション ②自己実現的期待と市場の効率性 ③ランダムウォークとリスクヘッジ IV デリバティブーオプション取引 ①コールオプションとプットオプション ②プロテクティブプットとプロテクティブコール ③ダイナミックヘッジングとリスクの国際的な伝播 V デリバティブースワップ取引 ①通貨スワップ ②金利スワップ VI デリバティブー先渡取引と先物取引 ①先渡取引の問題点 ②先物取引と有用性 ③先物取引の実際 ④先物取引と信用取引 ⑤将来経済を見るための先物価格
教科書	レジュメに沿って授業を進める
参考書・資料	「金融技術の考え方・使い方」 斎藤誠著　有菱閣 「ウォール街のランダムウォーカー」 バートン・マルキール　日本経済新聞社
講義関連事項	板書をしますので，前席で受講することを薦めます.

担当者から一言	日本人にとって，老後の生活資金を確保すべく，金融商品に積極的に投資をしていくことの重要性が今後ますます大きくなっていくことは間違いありません．そのためには，リスクがどのように定義され，どのように投資をすればリスクを無駄にとる必要がないのか，についてしっかりとした理解をする必要があります．そのためには，自分の頭でしっかりと今後の経済動向を見極め，間違った投資行動をとらないような確固とした知恵が必要です．そうした知恵を何とか掴もうと思っている人にとっては幾つか有用な情報がこの授業で得られることでしょう．あと，金融機関やコンサルティング会社への就職，また大学院への進学を考えている人にとっても役立つ授業になっていると思います.
その他	当たり前のことですが，私語や授業中の立ち歩きは厳禁です．出席を一切取りませんので，話しをしたい方や立ち歩きをしたいお子様は教室の外でするようにしましょう.

授業コード	31058
授業科目名	**国際金融Ⅰ（前）**
担当者名	中島清貴（ナカシマ　キヨタカ）

配当年次	3･4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「国際金融Ⅰ」･「国際金融Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

講義の内容	本講義の前半では，国際的なリスク分散の意義を議論し，インデックスファンド，ファンドオブファンズの有用性を考察する．講義の後半では，国際資本市場および貿易市場における裁定問題を扱い，為替レートが利子率や物価とどのような関係にあるのかを議論する．
到達目標	①リスクがどのように定義されるのかをしっかりと理解することで，受講者がどのように金融資産を分散　投資をしていけば良いのかについての指針を与えることを目標とする． ②為替レートが最も重要なマクロ金融変数である金利および物価とどのような関係にあるのかを理解し，日本の低金利政策が米国のサブプライムローン問題の原因となった可能性やデフレが為替レートに与える影響を理解する．
講義方法	私のホームページ，もしくは，My Konanで書き込み式のレジュメを事前に配布し，空欄を埋めるようにして講義を行う．
準備学習	①授業日当日の12時までにレジュメや講義資料をMy Konan，もしくは私のホームページにアップロードしておくので，各自予め印刷をし，レジュメと講義資料を持参の上，講義に臨むこと． ②四則演算（足し算，引き算，掛け算，割り算）を使用する．暗記に頼るような講義内容ではないので，話しの流れをしっかりと追うように心掛けること．
成績評価	期末テストだけで決めます．出席点やレポート点はありません．
講義構成	Ⅰ　国際的なリスク分散 ①期待収益とサンクトペテルスブルクのパラドックス ②リスクと標準偏差 ③分散投資 ④分散出来るリスクと出来ないリスクーインデックスファンドの有用性 ⑤国際分散投資とファンドオブファンズ Ⅱ　裁定 ①裁定と経済効率性 ②為替レートと金利の関係ーカバー付き金利平価式 ③低金利政策と国際的な過剰流動性 ④為替レートと物価の関係ー購買力平価説 ⑤為替レートと貨幣の関係ーソロスチャート
教科書	レジュメに沿って授業を進める
参考書・資料	「金融技術の考え方・使い方」 斎藤誠著　有斐閣 「ウォール街のランダムウォーカー」 バートン・マルキール　日本経済新聞社
講義関連事項	板書をしますので，前席で受講することを薦めます．

担当者から一言	日本人にとって，老後の生活資金を確保すべく，金融商品に積極的に投資をしていくことの重要性が今後ますます大きくなっていくことは間違いありません．そのためには，リスクがどのように定義され，どのように投資をすればリスクを無駄にとる必要がないのか，についてしっかりとした理解をする必要があります．そして，自分の頭でしっかりと今後の経済動向を見極め，間違った投資行動をとらないような確固とした知恵が必要です．そうした知恵を何とか掴もうと思っている人にとっては幾つか有用な情報がこの授業で得られることでしょう．あと，金融機関やコンサルティング会社への就職や大学院への進学を考えている人にとっても役立つ授業になっていると思います．
その他	当たり前のことですが，私語や授業中の立ち歩きは厳禁です．出席を一切取りませんので，話しをしたい方や立ち歩きをしたいお子様は教室の外でするようにしましょう．

授業コード	31059		
授業科目名	**国際金融Ⅱ（後）**		
担当者名	中島清貴（ナカシマ　キヨタカ）		
配当年次	3･4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	2008年度以降入学生適用		

	「国際金融Ⅰ」・「国際金融Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。

講義の内容	本講義では，国際金融取引の観点からリスク回避の手段としてのデリバティブ取引について議論する．デリバティブ取引は概して金儲けの手段として理解されることが多い．しかし，各人が，金融リスク管理を目的として「謙虚に」それを使用した場合，逆に経済を安定化させる上で有用な手段であることを議論していく．また，金儲けの手段としてデリバティブを利用した場合，金融リスクが飛び火することで，経済を不安定化させる可能性があることも併せて議論していく．
到達目標	①円やドル，株式などの金融資産価格の予測が必ずしも成功しない利用を理解し，分散投資やデリバティブ取引などの金融取引がなぜ必要であるのかを理解する． ②デリバティブ取引を金儲けの手段としてではなく，金融リスク管理の手段として謙虚に利用することの重要性を理解する．
講義方法	私のホームページ，もしくは，My Konanで書き込み式のレジュメを事前に配布し，空欄を埋めるようにして講義を行う．
準備学習	①前期セメスターに開講されるの「 国際金融 Ⅰ」を受講していることが望ましい． ②授業日当日の12時までにレジュメや講義資料をMy Konan，もしくは私のホームページにアップロードしておくので，各自予め印刷をし，レジュメと講義資料を持参の上，講義に臨むこと． ③暗記に頼るような講義内容ではないので，話しの流れをしっかりと追うように心掛けること．
成績評価	期末テストだけで決めます．出席点やレポート点はありません．
講義構成	Ⅰ ランダムウォーク ①ショートポジションとロングポジション ②自己実現的期待と市場の効率性 ③ランダムウォークとリスクヘッジ Ⅱ デリバティブ－オプション取引 ①コールオプションとプットオプション ②プロテクティブプットとプロテクティブコール ③ダイナミックヘッジングとリスクの国際的な伝播 Ⅲ デリバティブ－スワップ取引 ①通貨スワップ ②金利スワップ Ⅳ デリバティブ－先渡取引と先物取引 ①先渡取引の問題点 ②先物取引の有用性と問題点 ③先物取引の実際 ④先物取引と信用取引 ⑤将来経済を見るための先物価格
教科書	レジュメを利用しますので，教科書は指定しません．
参考書・資料	「金融技術の考え方・使い方」 斎藤誠著　有斐閣 「ウォール街のランダムウォーカー」 バートン・マルキール　日本経済新聞社
講義関連事項	板書をしますので，前席で受講することを薦めます．

担当者から一言	日本人にとって，老後の生活資金を確保すべく，金融商品に積極的に投資をしていくことの重要性が今後ますます大きくなっていくことは間違いありません．また，そうした金融商品の幾つかがデリバティブ取引に基づくものであるケースも数多くあるため，今後そうした金融商品の特性を各人が見極めていくためにはデリバティブ取引そのものについてしっかりと理解をする必要があります．迷える子羊として生きていくのではなく，自分の頭でしっかりと今後の経済動向を見極め，間違った投資行動をとらないような確固とした知恵を何とか掴もうと思っている人にとっては幾つか有用な情報がこの授業で得られることでしょう．あと，金融機関やコンサルティング会社への就職や大学院への進学を考えている人にとっても役立つ授業になっているかと思います．
その他	当たり前のことですが，私語や授業中の立ち歩きは厳禁です．出席を一切取りませんので，話しをしたい方や立ち歩きをしたいお子様は教室の外でするようにしましょう．

授業コード	31031
授業科目名	**国際経済（国際経済学）（後）**
担当者名	中西訓嗣（ナカニシ　ノリツグ）

配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 月曜5限
特記事項	2007年度以前入学生は国際経済学として履修 2008年度以降入学生は国際経済として履修		

講義の内容	国際経済学は大きく「国際マクロ経済学」と「国際貿易論」という二つの領域に分けることができます。本講義では，これら二つの領域に関する基礎的な知識を伝えると共に，学生諸君自らが国際経済学の理論を使って「経済分析」を実践できるよう「理論の使い方」にも配慮して説明するつもりです。
到達目標	1．国際収支統計や貿易統計を読み解き，日本の国際取引の様態を体系的に説明できる。 2．景気，金利，経常収支，資本収支，外国為替レートの決定と変動およびこれらの相互関係について順序立てて説明できる。 3．国際貿易や国際要素移動を生み出す諸要因について体系的に説明できる。 4．貿易自由化や保護貿易政策が人々の経済厚生に及ぼす影響とそれを生み出すメカニズムについて順序立てて説明できる。
講義方法	パワーポイントのスライドと書き込み式の配付資料を利用して講義します。
準備学習	国際経済学は応用分野なので「ミクロ経済学」や「マクロ経済学」など経済学の基礎理論についても，本講義と並行して，しっかり勉強しておく必要があります（基礎経済学，経済学入門，経済原論等に相当する名称の講義科目を受講済みであることが望ましい）。
成績評価	出席点30％（出席調査は不定期），期末試験70％
講義構成	概ね以下のような内容と順序で講義を進めます。 1．国際経済の歴史 2．日本の国際経済取引の現状 3．国際収支表の基本構造と読み方 4．外国為替相場制度と外国為替レートの決定 5．国民所得の変動と国際経済取引 6．国際資本移動と利子率の役割 7．国際貿易構造の決定（比較優位の理論） 8．国際貿易と人々の暮らし向き（貿易利益の理論） 9．貿易政策の基礎（関税政策の類型・根拠・効果等） 10．多国籍企業の活動・海外直接投資 11．WTO（世界貿易機関）の役割 12．国際経済における今日的な課題（貿易と環境，FTA・EPA，貿易と国民の健康等）
教科書	特に指定しません。
参考書・資料	井川・林原・佐竹・青木編著『基礎国際経済学』中央経済社，2000年 石川・菊地・椋著『国際経済学をつかむ』有斐閣，2007年 上記の他，必要があれば講義中に適宜指示します。
講義関連事項	書き込み式配付資料は My-KONAN にファイルを順次アップロードしていく予定です。受講生は各自ダウンロードの上，印刷して講義に持参してください。

担当者から一言	講義中の入退室・私語・携帯電話等の使用は厳禁です。ただし，講義に関連する質問は（話の途中であっても）大いに歓迎します。どしどし質問してください。

授業コード	31L51		
授業科目名	**国際経済入門（ 1ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	藤本建夫（フジモト　タテオ）、金　俊行（キム　ジュネン）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	クラス指定（授業時間表別表参照） 2008年度以降入学生用		

講義の内容	「入門」とは「関心をもつこと」です。ですからいきなりナマの国際経済情勢を追いかけてみましょう。 教員が毎回、先週の国際経済に関する新聞記事などを資料化したもの（これを「週間国際経済」と呼びます）を作成して解説します。野球を理解するためにルールブックを読むのではなく、試合を見ながらルールの解説やチーム・選手の紹介をするという方法です。国際経済市場の実際のダイナミズムをトピックスや統計から感じて、そのなかで国際貿易や国際金融の基礎知識を必要に応じて説明します。

	ですから授業を休むとわけがわからなくなるかもしれません。7回、1ヶ月半ほどの間にどんなことが起きて、どう変化していくのでしょうか。いっしょに観察しましょう。 後半の7回は少し歴史をさかのぼって1930年代の世界大恐慌と2008年の世界金融危機を対比し、今私たちがどこにいるかを考えます。
到達目標	①現在進行中の国際経済の動き、日本経済との関わりに関心をもつ学生になりましょう。 ②そのなかで関心をもったことについて、国際経済の初歩的な理論を使って説明できるようになりましょう。 後半の目標は、世界経済の奥の深さを理解する。
講義方法	教員が作成した「週間国際経済」を使って、前週の国際経済市場動向を解説します。 板書も多くなります。頑張ってノートしましょう。 パワーポイントを利用して講義します。
準備学習	皆さんも新聞を読んでください。毎日、国際経済に関する記事ひとつでいいです。できたら本屋に行って経済関係の週刊誌をいくつか買って読んでみましょう。経済学部の学生とはそういうものです。
成績評価	出席点が70%です。毎回出席カードに「何に興味を持ってどう考えたか」を書いてください。わからなかったことへの質問も書きましょう。 レポートが30%です。全6回の「週間国際経済」を使いながら、2010年4，5月の国際経済市場の特徴を自身が関心をもったことを中心にまとめてください。 後半の成績はテストです。
講義構成	1回目は、国際経済の見方、国際経済学の考え方をざっくりと説明します。 2回目から7回目まで「週間国際経済」です。 この期間に国際経済に関する大事件が起こったら、それにフォーカスして観察しましょう。 後半の講義の構成は次の通りです。 1．1930年代世界大恐慌 2．世界経済の構造変化 3．2008年の世界金融危機 4．グリーン・ニューディール
教科書	使いません。あえていえば新聞です。
参考書・資料	おもしろくて、わかりやすい本が出版されたら（当然されるでしょう）紹介します。

担当者から一言	最初はわけがわからないはずです。だんだんわかっていけば楽しくなるかもです。でもそのためには授業中の集中力がいるでしょうね。だから人の集中を乱すような行為（私語はもちろん）教育サービス業者の使命感にもとづいて厳しく注意します。

授業コード	31L52		
授業科目名	**国際経済入門（ 2ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	高　龍秀（コ　ヨンス）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	クラス指定（授業時間表別表参照） 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	1960年代より高度成長をしたアジアNIES（韓国、台湾、香港、シンガポール）、少し遅れて成長をはじめたASEAN、中国の経済の特徴を学ぶ。欧米も含めた世界経済の現状を学ぶ。
到達目標	アジア各国の経済と世界経済について基本的な理解力をつける。
講義方法	毎回資料を配布する。ビデオ・パワーポイントを使い、視覚的にもアジア経済を理解するようにする。 よく授業を聞き質問に回答をした者に1～10点のポイントを与える。私語などで授業のじゃまをすれば退場させ減点する。
準備学習	前回学んだ点をもう一度復習し理解するようにする。
成績評価	小テスト20点程度、レポート15点、期末テストを65点で厳密に評価する。毎回、授業で習った事を理解していか

	ないと、単位を取ることは難しい。
講義構成	第1講：この講義のガイダンス。 　　アジアの歴史性と多様性。日本はアジアの一員か？ 第2講：アジアNIEs開発モデルとは？ 　　アジアNIEs工業化の特徴：「三者同盟」 第3講：アジアNIEsと外資導入 第4講：アジアNIEsと国家の役割 　　国家による経済介入。なぜ「開発独裁」が登場したのか？ 第5講：アジアNIEsの現地資本 第6講：アジアNIEs4地域の特徴 第7講：ASEAN経済 第8講：タイ・マレーシア経済 第9講：フィリピン・インドネシア経済 第10講：アジアの通貨危機 第11講：中国経済の歴史的展開 第12講：中国の改革・開放政策 第13講：世界経済の現状 第14講：まとめ　21世紀の日本とアジア
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	平川・石川編『東アジアのグローバル化と地域統合』ミネルヴァ書房、2007年。 中村尚司『人々のアジア』岩波新書、650円。 鶴見良行『東南アジアを知る』岩波新書。 末広昭『タイ―開発と民主主義―』岩波新書 加藤弘之・上原一慶『中国経済論』ミネルヴァ書房

担当者から一言	アジア経済は活気に満ちている。21世紀の日本にとって、アジアとの関係はますます重要なものとなる。 アジア経済と世界経済の現状について、よく理解すると共に、そのポイントを語れる能力をつけてもらいたい。授業中の私からの質問に積極的に答える学生を歓迎する。

授業コード	31038		
授業科目名	**今日の経済問題I**		
担当者名	藤本建夫（フジモト　タテオ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜4限）、後期（火曜4限）
特記事項	震災と経済 2007年度以前入学生用		

講義の内容	15年前に阪神・淡路地帯は大震災に襲われます。それ以降被災地は一向に経済は回復しません。 それはどこに原因があるかを明らかにする。
到達目標	自然災害と経済活動、それに政策が深く関わっていることを理解する。
講義方法	テキスト、パワーポイントおよび板書を使って講義する。
準備学習	下記のテキストを良く読んでくる。
成績評価	テストで評価する。
講義構成	1．ポートピア 2．宮崎神戸市政 3．日米貿易摩擦とバブル経済 4．阪神・淡路大震災 5．二つの大震災と金融政策 6．国家の復興政策 7．国会における復興予算審議 8．金融・経済危機下の被災地経済 9．あだ花の産業復興政策 10．大震災から10年 11．政治家に問われる「情熱、責任感、判断力」
教科書	藤本建夫『何が地方都市再生を阻むのか』晃洋書房、2010年

授業コード	31079		
授業科目名	**今日の経済問題II（後）**		
担当者名	金　俊行（キム　ジュネン）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限 木曜3限
特記事項	グローバリズムとアジア 2007年度以前入学生適用		

講義の内容	本講義では、「グローバリゼーション」とは多様な資本主義の相互依存関係の深化として肯定的理解の上に立ち、一方で「グローバリズム」とは米国型市場経済の普遍化という覇権的なイデオロギーであるとして批判していく。アジアでは、分断された開放経済である韓国が対象になる。韓国経済は、外資導入輸出工業化政策によって世界経済との相互依存性を強めながら発展してきた。一方でそれは、グローバリズムによって育成され、かつ深刻な危機を経験してきた。講義の前半では、その生成・発展過程を概観した後、1997年の通貨危機の本質と、アジア経済全体の課題について解説する。講義の後半では、「今日の経済問題」として〈東アジア共同体〉の現状と展望について、貿易および国際金融の側面から考察していきたい。
到達目標	①戦後世界経済の変遷と連関させて新興工業化経済の発展過程を理解する。 ②ドル基軸通貨体制の矛盾から今日の世界経済混迷の本質を考える。 ③国際金融および国際貿易の基礎的な理解を得る。
講義方法	講義プリントを中心に板書でこれを補う形で進行する。
準備学習	国際経済関連科目（国際経済論、国際金融論、アジア経済論、マクロ経済）などの科目のうち2科目以上をすでに単位取得していることが望ましいが、履修の前提とはしない。
成績評価	4単位科目であるので、より多く、より熱心に受講した学生により高い評価を行うために、平常点を40%程度付与したい。授業に対するコメントを記入した出席カードの提出や、講義ノートの提出などを総合して評価する。配分としては、平常点40点＋期末試験60点を考えている。
講義構成	1，2回目　授業ガイダンス 3，4回目　グローバリズムとは何か 5，6回目　戦後米国対外援助政策と資本蓄積 7，8回目　外資導入輸出工業化政策の金融システム 9，10回目　ボラティリティの拡大と高度経済成長 11，12回目　資本移動自由化と証券化 13，14回目　フランケンシュタイン・エコノミー 15，16回目　アジア通貨危機とワシントン・コンセンサス 17，18回目　変動相場制移行の意味 19，22回目　東アジア共同体の課題（1） 23，24回目　東アジア共同体の課題（2）
教科書	適当なものがあれば指定する。
参考書・資料	金俊行著『グローバル資本主義と韓国経済発展』御茶の水書房 その他必要に応じて随時紹介する。

その他	経済学に関する基礎的な知識を備えていることが望ましいが、それはある程度授業のなかで補っていきたい。何よりも講義内容に対する関心が求められる。また、静かで心地よく集中できる受講環境に協力していただきたい。

授業コード	31104		
授業科目名	**今日の経済問題III（前）**		
担当者名	吉川真裕（ヨシカワ　マサヒロ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	金融市場と金融商品 2007年度以前入学生用		

講義の内容	ファイナンス理論の考え方に基づいて、金融市場と金融商品について解説する。受講者の金融リテラシーの向上を目指し、将来の資産運用（年金や保険等、すべての人がかかわりを持つ）に役立つことを目的とする。
到達目標	細かな知識をたくさん得ることよりも資産運用に関する基本的な考え方を理解し、他の人にも説明できるようになることを目指している。
講義方法	できるだけパソコン（パワーポイント、エクセル）、インターネット、ビデオを用いて進めていくが、ただ漠然と話を聞いているだけでなく、重要なことはしっかりとノートをとることをお勧めする。
準備学習	事前の準備は特に必要としないが、授業後にその日の内容を復習することをお勧めする。
成績評価	原則として期末試験（持ち込み不可の論述問題）の成績による。
講義構成	1. なぜ金融リテラシーが必要か 2. 金融商品と金融リスク 3. ファイナンス理論の基本（割引現在価値） 4. リスクとリターン 5. ポートフォリオ投資 6. 市場ポートフォリオと分離定理 7. デリバティブ 8. 投資信託 9.. 確定給付年金と確定拠出年金 10. ライフ・ステージと証券投資
教科書	井手正介・高橋文郎『ビジネスゼミナール　証券投資入門』日本経済新聞社、2001年、2500円。現在、品切れ状態であり、改訂版が出なければ代わりの教科書は指定しない。なお、大きな書店や古本屋（アマゾンを含む）で若干数は入手できるはずなので、必要な人は探してほしい（もちろん、図書館にもある）。
参考書・資料	井手正介『株式投資入門』日本経済新聞社、2008年 バートン マルキール『ウォール街のランダム・ウォーカー』日本経済新聞社、2004年 チャールズ エリス『敗者のゲーム』日本経済新聞社、2003年 ジョン C. ボーグル『インデックス・ファンドの時代』東洋経済新報社、2000年 久保田敬一『よくわかるファイナンス』東洋経済新報社、2006年 大村敬一・俊野雅司『証券投資理論入門』日経文庫、2000年 大和総研『日本人のためのお金教科書』翔泳社、2001年 野村證券投資情報部『証券投資の基礎』丸善、2002年
講義関連事項	金融や証券関連の科目と合わせて受講すれば、学習の相乗効果が上がるものと考えられる。

担当者から一言	誰もが避けて通れない「人生におけるお金の問題」を学生のうちに勉強しておけば、将来、役立つものと期待している。「資産運用はお金持ちにはかならずしも必要でないが、お金を十分に持たない多くの人にこそ必要である。」

授業コード	31084		
授業科目名	**今日の経済問題IV（後）**		
担当者名	稲田義久（イナダ　ヨシヒサ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	日本の資本市場 野村證券（株）提携講座 ＊2007年度以前入学生用		

講義の内容	このｺｰｽは野村證券株式会社によって提供されるもので、講師陣は野村證券および野村総合研究所等の実務に長けた人々から構成される。 資本市場（株式、債券などの市場）が家計や企業の資金運用・調達にあたって、どのように機能しているかを現状に即して実務家が説明する。
到達目標	新聞の金融経済記事の理解と金融経済の基礎知識の習得
講義方法	野村證券のスタッフによる講義
準備学習	新聞の金融経済欄に目を通しておくこと
成績評価	期末の試験によって評価する。
講義構成	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

	経済情報のとらえ方 経済成長と金融資本市場 証券投資のﾘｽｸ・ﾘﾀｰﾝ ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 債券市場の役割と投資の基礎知識 株式市場の役割と投資の基礎知識 投資信託の役割とその仕組み 支店見学 金融市場の役割とその変化 資本市場における投資家心理 資産運用とﾗｲﾌ・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ （以上2009年度実績）
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	野村証券投資情報部編『証券投資の基礎』丸善株式会社 氏家純一編『日本の資本市場』東洋経済新報社

授業コード	31028		
授業科目名	**財政（前）**		
担当者名	永廣　顕（エヒロ　アキラ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	今日の日本財政においては、深刻な財政赤字および債務残高の累増、少子高齢化や格差社会問題、アメリカの金融危機に端を発した景気後退への対応が当面の政策課題となり、昨年9月に誕生した新政権においても財政運営の方向性が問われている状況にある。本講義では、日本経済において重要な役割を担っている財政について、理論、制度、歴史、政策それぞれに配慮しながら解説をおこなう。また、政権交代による影響についても可能な範囲で言及したい。
到達目標	今日の日本財政を多角的な視点から理解できるようになることを目標とする。
講義方法	(1)板書中心の講義形式とする。 (2)参考資料の説明時にパワーポイントを使用する。 (3)My KONANと財政ホームページで、講義前日までにレジメを公開する。 (4)講義開始時にレジメと参考資料を配付する。 (5)講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくこと。
準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、公開されたレジメにより講義の概要を確認しておくこと。
成績評価	学期末試験の得点のみで評価する。
講義構成	1. イントロダクション－財政を学ぶにあたって 2. 現代財政と財政システム(1)－財政とは何か 3. 現代財政と財政システム(2)－三つの政府体系 4. 経費分析－経費の分類と構造 5. 租税理論と税制改革(1)－租税体系 6. 租税理論と税制改革(2)－所得税(1) 7. 租税理論と税制改革(3)－所得税(2) 8. 租税理論と税制改革(4)－所得税(3) 9. 租税理論と税制改革(5)－法人税 10. 租税理論と税制改革(6)－消費税(1) 11. 租税理論と税制改革(7)－消費税(2) 12. 租税理論と税制改革(8)－税制改革 13. 財政赤字と公債理論(1)－財政赤字とプライマリー・バランス 14. 財政赤字と公債理論(2)－財政赤字の問題点 15. 財政赤字と公債理論(3)－公債制度 16. 財政赤字と公債理論(4)－公債政策の推移 17. 社会保障財政(1)－年金(1) 18. 社会保障財政(2)－年金(2) 19. 社会保障財政(3)－年金(3) 20. 社会保障財政(4)－年金(4)

	21. 社会保障財政(5)－医療保険 22. 社会保障財政(6)－介護保険 23. 社会保障財政(7)－社会保障制度改革 24. 予算制度(1)－予算の仕組み(1) 25. 予算制度(2)－予算の仕組み(2) 26. 予算制度(3)－予算過程 27. 財政投融資－財政投融資制度 28. 総括－これからの財政 29. 学期末試験
教科書	特定の教科書は使用しない。財政全般については、片桐正俊編[2007]『財政学－転換期の日本財政(第2版)』(東洋経済新報社)、金澤史男編[2005]『財政学』(有斐閣)、神野直彦[2007]『財政学[改訂版]』(有斐閣)、持田信樹[2009]『財政学』(東京大学出版会)を参照のこと。
参考書・資料	資料として、福田淳一編[2009]『図説日本の財政(平成21年度版)』(東洋経済新報社)をあげておく。その他、必要に応じて講義時間中に紹介する。
講義関連事項	2008年度以降入学生は「地方財政Ⅰ・Ⅱ」、2007年度以前入学生は「地方財政」も聴講することが望ましい。

担当者から一言	講義内容をより深く理解するために、今日の日本財政、日本社会が抱える諸問題に関心を持って講義を聴講すること。
ホームページタイトル	{財政(2010),http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/zaisei2010/zaisei2010.htm}
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/zaisei2010/zaisei2010.html

授業コード	31L31		
授業科目名	**財政・金融入門（ 1ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	永廣　顕（エヒロ　アキラ）、中島清貴（ナカシマ　キヨタカ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	クラス指定（授業時間表別表参照） 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	世の中の経済活動には必ずお金のやりとりがつきまとう。したがって、お金の流れを分析すれば、経済全体の動きも理解することができる。本講義では、市場経済社会を統治する政府の経済活動である「財政」と、経済主体間の資金過不足の調整である「金融」について、基本的なしくみや専門用語の解説をおこなう。
到達目標	財政・金融の基本的なしくみや専門用語を学ぶことで、現実の財政・金融問題を理解するための方法を身につけることを目標とする。
講義方法	(1)板書やパワーポイントによる講義形式とする。 (2)レジメや参考資料を配付する。
準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、講義の概要を確認しておくこと。
成績評価	学期末試験（財政50点、金融50点、合計100点満点）の得点のみで評価する。
講義構成	1. イントロダクション－財政・金融を学ぶにあたって 2. 財政とは何か－3つの経済主体の関係 3. お金の使い道 4. 税金のしくみ(1) 5. 税金のしくみ(2) 6. 政府の借金 7. 年金のしくみ 8. 金融とは何か－リスクと情報の重要性について 9. 今日のお金の価値と明日のお金の価値 10. リスクの分散(1) 11. リスクの分散(2) 12. 情報の非対称性とモラルハザード 13. 情報の非対称性と逆選択 14. 総括－これからの財政・金融 15. 学期末試験

教科書	特定の教科書は使用しない。財政の入門書として、神野直彦[2007]『財政のしくみがわかる本』(岩波ジュニア新書)、金融の入門書として、石野雄一[2007]『ざっくり分かるファイナンス－経営センスを磨くための財務)』(光文社新書)をあげておく。
参考書・資料	必要に応じて講義時間中に紹介する。
講義関連事項	講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくことが望ましい。

担当者から一言	高校の「政治・経済」や「現代社会」で学習した財政・金融に関する項目を復習しておくこと。

授業コード	31L32		
授業科目名	**財政・金融入門 (2ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	中島清貴(ナカシマ　キヨタカ)、永廣　顕(エヒロ　アキラ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	世の中の経済活動には必ずお金のやりとりがつきまとう。したがって、お金の流れを分析すれば、経済全体の動きも理解することができる。本講義では、市場経済社会を統治する政府の経済活動である「財政」と、経済主体間の資金過不足の調整である「金融」について、基本的なしくみや専門用語の解説をおこなう。
到達目標	財政・金融の基本的なしくみや専門用語を学ぶことで、現実の財政・金融問題を理解するための方法を身につけることを目標とする。
講義方法	(1)板書やパワーポイントによる講義形式とする。 (2)レジメや参考資料を配付する。
準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、講義の概要を確認しておくこと。
成績評価	学期末試験(財政50点、金融50点、合計100点満点)の得点のみで評価する。
講義構成	1. イントロダクション－財政・金融を学ぶにあたって 2. 財政とは何か－3つの経済主体の関係 3. お金の使い道 4. 税金のしくみ(1) 5. 税金のしくみ(2) 6. 政府の借金 7. 年金のしくみ 8. 金融とは何か－リスクと情報の重要性について 9. 今日のお金の価値と明日のお金の価値 10. リスクの分散(1) 11. リスクの分散(2) 12. 情報の非対称性とモラルハザード 13. 情報の非対称性と逆選択 14. 総括－これからの財政・金融 15. 学期末試験
教科書	特定の教科書は使用しない。財政の入門書として、神野直彦[2007]『財政のしくみがわかる本』(岩波ジュニア新書)、金融の入門書として、石野雄一[2007]『ざっくり分かるファイナンス－経営センスを磨くための財務)』(光文社新書)をあげておく。
参考書・資料	必要に応じて講義時間中に紹介する。
講義関連事項	講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくことが望ましい。

担当者から一言	高校の「政治・経済」や「現代社会」で学習した財政・金融に関する項目を復習しておくこと。

授業コード	31032

授業科目名	**産業経済（産業政策）（後）**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	2007年度以前入学生は産業政策として履修 2008年度以降入学生は産業経済として履修		

講義の内容	日本経済は第2次大戦後、ダイナミックな持続的成長を通じて自由世界第2位の経済大国になった。しかし、今世紀に入ってからは人口の高齢化や円高により成熟・停滞経済化の段階にはいった。この間の日本産業の動向を経済学の基本的ツールで解説し、併せて政府の産業政策についても言及する。
到達目標	標準的経済学のツールで産業の動向が分析できるようになること。日本の産業を事例として取り上げるが、学生諸君が卒業後に活躍することになる可能性のある近隣のアジア諸国の産業動向を適切に分析できるようになってもらいたい。
講義方法	一般の講義。ハンドアウツを配布するので、講義の際の追加情報をメモする習慣を身につけて欲しいと思う。
準備学習	受講に際しての準備としては、ミクロ経済学のとくに企業理論に関する部分を復習して欲しい。また、講義前の準備としては、各講義前に配布したハンドアウツを一読して、講義の流れを把握しておいて貰いたい。
成績評価	期末試験で評価する。
講義構成	1. 経済発展と政府の役割 2. 産業発展と産業政策 　自立期の日本産業と産業政策 　高度成長期の日本産業と産業政策 　成熟期の日本産業と産業政策 3. 経済の国際化と産業構造の変化 　産業構造の変化と貿易 　国際分業の広がりと産業構造 　直接投資と産業構造 　アジア経済と日本の産業構造 4. 日本のミクロ経済システム 　企業システム 　流通システム 　政府規制
教科書	とくに指定しない。 参考書としてあげたものなどを参考のこと。
参考書・資料	鶴田俊正・伊藤元重著『日本産業構造論』NTT出版。 『通商白書』（各年）、『中小企業白書』（各年）ほか。
講義関連事項	主にミクロ経済学を応用した内容です。理論的基礎も実際の日本産業に関する知識も大切です。

担当者から一言	新聞記事にご注目！　ホットな話題はきっと関心をひくと思いますので、講義中に言及します。遠慮なく発言（質問）してください。

授業コード	31L61		
授業科目名	**産業経済入門（ 1ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	クラス指定（授業時間表別表参照） 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	火曜13時から15時まで		

講義の内容	産業構造、産業組織、公益事業、産業政策などの分野を将来、いっそう詳しく学ぶ際の基礎になる考え方や知識を身につけてもらう。 はじめに、産業経済の問題を分析する際に、経済学の理論、とりわけミクロ経済学がどのように応用されるかを説明する。続いて、様々な産業において、どのような特徴があるのかを、個別に検証する。

	産業の発展は、民間企業の創意工夫によって推進される部分が大きいが、政府による介入の必要性についても言及する。
到達目標	産業の発展の様子を、ミクロ経済学の分析ツールで説明できるようになる。
講義方法	配布資料やパワーポイントを使って講義する。配布資料には空白部分を設けるので、講義内容についてメモをすることを期待したい。また、講義期間中に一度、中間試験を行う予定。
準備学習	配布資料を一読しておくことを希望する。また、講義後に日を置いてメモを読み直して、講義内容を再確認して欲しい。
成績評価	中間試験（40%）と期末試験（60%）で評価する。
講義構成	1～3回　ミクロ経済学の基礎（需要、供給、余剰概念） 4～6回　ミクロ経済学の応用（比較静学分析、独占と寡占の分析） 7～8回　経済発展と産業構造の変化 9～14回　個別産業の発展過程と課題（自動車、鉄鋼、造船、流通、運輸など）
教科書	教科書として1冊を指定できる適当な書籍がありませんので、それに代えて配布物を用意します。参考書にあげた書物も有益です。
参考書・資料	なかなか適当な入門書がないので、参考書として以下の書物を挙げておきます。三菱総合研究所編『日本経済読本（第8版）』東洋経済新報社。

担当者から一言	日本産業の発展・成熟を経済学の標準的なツールで簡単に分析できます。さまざまな面白いエピソードも、経済学の知識をもって聞けば、よく理解できると思います。

授業コード	31L62		
授業科目名	**産業経済入門（ 2ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	林　健太（ハヤシ　ケンタ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	クラス指定（授業時間表別表参照） 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	第１回講義時に伝える。		

講義の内容	産業構造、産業組織、公益事業、産業政策などの分野を将来、いっそう詳しく学ぶ際の基礎になる考え方や知識を身に付けて貰う。 はじめに、産業経済の問題を分析する際に、経済学の理論、とりわけミクロ経済学がどのように応用されるかを説明する。つづいて、様々な産業において、どのような特徴があるのか、個別に検証する。 産業の発展は、民間企業の創意工夫によって推進される部分が大きいが、政府による介入の必要性についても言及する。
到達目標	産業組織論の基礎となるミクロ経済学の知識を確固たるものにすると同時に、情報通信分野の動向を知ることで、これからどのような世の中を生きていかなければならないのかを自ら考えられるようになる。
講義方法	パワーポイントや配付資料を使って講義を行う。 また、講義期間中に一度、中間試験を行う。
準備学習	入門ミクロ経済学の復習をすると同時に、日頃から新聞やウェブサイトに目を通し、経済や産業（特に情報通信産業）の動向をチェックしておくこと。
成績評価	中間試験（40%）＋学期末試験（60%）で評価する。
講義構成	第１回～第３回：ミクロ経済学とは（需要・供給・余剰） 第４回～第６回：ミクロ経済学の応用（独占・寡占） 第７回：中間テスト 第８回～第１５回：情報通信分野の話題提供
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書・資料	G.マンキュー 『マンキュー経済学１　ミクロ編』 東洋経済新報社 伊藤元重 『入門経済学』 日本評論社

授業コード	31085		
授業科目名	**産業組織**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（土曜1限）、後期（土曜1限）
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	市場経済が効率的に機能するためには、市場が競争的に構成されていることが必要である。産業組織論とは、ミクロ経済学を基礎に、現実の市場に理論を適用する際に必要な、さまざまな特別の要因を考慮して、現実の諸産業を分析・評価することを目標としている。 この講義では、指定した教科書に沿って、伝統的な産業組織論（S-C-Pパラダイム）の分析手法を解説し、それに加えて新しい企業行動の理論的分析による伝統的分析の深化について講義する。
到達目標	数学的取扱いを要しない範囲で、独占や寡占、企業間協調による経済的損失を説明できるようになることを到達目標とする。
講義方法	一般の講義スタイル。ハンドアウツを用意するので、そこに講義内容の追加説明をメモする習慣を身につけてもらいたい。
準備学習	講義に対する全体的準備としては、ミクロ経済学の講義で習った内容のうち、企業行動に関する部分を復習しておくこと。 また、毎回の準備としては、教科書の該当章の項目を良く見て、講義のアウトラインをまず理解すること。ならびに、分析には図を主に使うので、図の意味するところを理解しておくこと。
成績評価	期末試験の結果による。
講義構成	前期 1. 産業組織論の概略　2. 企業行動と産業組織 3. 産業組織論の発展　4. 合併の経済分析 5. 企業間協定の経済分析　6. 企業の戦略的行動と産業組織 7. 価格競争と非価格競争　8. 技術革新と企業間競争、産業組織 9. ネットワーク外部性と標準化　10. 経済のグローバル化と産業組織 11～12. 競争政策　13～14 政府規制の経済的根拠 後期 15. 競争政策の意義　16. 競争政策の生い立ち 17. 共謀と協調：カルテル規制政策 18. コンテスタブル市場の理論と参入阻止戦略、参入政策 19. 一般集中の概念　20. 独占的状態の排除政策 21. 合併・買収の規制政策　22. 垂直的取引制限の規制政策 23. 不当廉売の規制　24. 企業の垂直的統合；取引費用の経学 25. 下請取引と優越的地位の乱用に対する規制 26. 技術革新と知的財産権　27. 交易事業分野の競争と規制 28. 経済のグローバル化と競争政策
教科書	前期分：土井教之編著『産業組織論入門』ミネルバ書房。 後期分：小田切宏之『競争政策論』日本評論社。
参考書・資料	1. 新庄浩二編『産業組織論〔新版〕』有斐閣。 数学的取扱いが好きな学生には、次の書籍が参考になる。 2. 小田切宏之『新しい産業組織論』有斐閣。

担当者から一言	企業合併やカルテルの話題が新聞紙上にのることもきっとあるでしょう。気をつけてみましょう。

授業コード	31086		
授業科目名	**産業組織Ⅰ（前）**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「産業組織Ⅰ」・「産業組織Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

講義の内容	市場経済が効率的に機能するためには、市場が競争的に組織されていることが必要である。産業組織論とは、ミクロ経済学を基礎に、現実の市場に理論を適用する際に必要な、さまざまな特別の要因を考慮して、現実の諸産業を分析・評価することを目標としている。 この講義では、指定した教科書に沿って、伝統的な産業組織論（S-C-Pパラダイム）の分析手法を解説し、それに加えて新しい企業行動の理論的分析による伝統的分析の深化について講義する。
到達目標	数学的取扱いを要しない範囲で、独占や寡占、企業間協調による経済的損失を説明できるようになることを到達目標とする。
講義方法	一般の講義スタイル。ハンドアウツを用意するので、そこに講義内容の追加説明をメモする習慣を身につけてもらいたい。
準備学習	講義に対する全体的準備としては、ミクロ経済学の講義で習った内容のうち、企業行動に関する部分を復習しておくこと。 また、毎回の準備としては、教科書の該当章の目次を良く見て、講義のアウトラインをまず理解すること。また、分析には図を主に使うので、図の意味するところを理解しておくこと。
成績評価	期末試験の結果による。
講義構成	1. 産業組織論の概略 2. 企業行動と産業組織 3. 産業組織論の発展 4. 合併の経済分析 5. 企業間協定の経済分析 6. 企業の戦略的行動と産業組織 7. 価格競争と非価格競争 8. 技術革新と企業間競争、産業組織 9. ネットワーク外部性と標準化 10. 経済のグローバル化と産業組織 11～12. 競争政策 13～14. 政府規制政策
教科書	土井教之編著『産業組織論入門』ミネルバ書房。
参考書・資料	1. 新庄浩二編『産業組織論〔新版〕』有斐閣。 数学的取扱いが好きな学生には、次の書籍が参考になる。 2. 小田切宏之『新しい産業組織論』有斐閣。

担当者から一言	企業合併やカルテル事件が新聞紙上にのることが学期中にきっとあるでしょう。気をつけて新聞をみましょう。

授業コード	31087		
授業科目名	**産業組織 II（後）**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「産業組織Ⅰ」・「産業組織Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

講義の内容	産業組織論は現実の諸産業を価格理論をもとに、各産業の技術的特性や需要の特徴などを考慮して評価し、必要があれば政策手段を行使して企業の活動を是正することを目標としている。 この講義では、産業組織Ⅰで扱った理論的分析を活かして、競争政策をどのように展開していくべきかを講義する。
到達目標	企業にとっては当然である、と考えられそうな競争手段が、場合によってはどのように経済全体の成果を悪化させることがあるかを理解すること。 近年では企業のコンプライアンスが強調されているが、日本企業は競争政策にかかわる面で結構問題をおこしているので、就職前にこの面の知識を身につけることは大変有益である。
講義方法	一般の講義スタイル。 ハンドアウツのメモ欄を活用して、各回の講義の全体としてのイメージを頭に描いてください。
準備学習	講義全体の準備としては、ミクロ経済学の企業理論の箇所と、産業組織Ⅰの内容にざっと目を通しておいてください。

	また、毎回の講義の準備としては、教科書の該当箇所をざっと読んでおいてください。
成績評価	期末試験の結果による。
講義構成	1. 競争政策の意義 2. 競争政策の生い立ち 3. 共謀と協調:カルテル規制 4. コンテスタブル市場の理論と参入阻止戦略 5. 一般集中の概念 6. 独占的状態の排除 7. 合併・買収 8. 垂直的取引制限 9. 不当廉売の規制 10. 企業の垂直的統合;取引費用の経学 11. 下請取引と優越的地位の乱用 12. 技術革新と知的財産権 13. 交易事業分野の競争と規制 14. 経済のグローバル化と競争政策
教科書	小田切宏之『競争政策論』日本評論社。
参考書・資料	1. 小田切宏之『新しい産業組織論』有斐閣 教科書より理論的性格が濃厚で、難易度も高いが、競争政策上の事例を挙げてあって参考になる。 2. 『公正取引委員会年次報告(独占禁止白書)』(各年) 競争政策に関する行政活動の資料として有益。

担当者から一言	カルテルへの課徴金賦課や大企業の合併審査など、新聞紙上をにぎわす事件がこの学期中におこれば、この講義もきっと印象に残ることでしょう。 昨年はパナソニックによる三洋電機の合併が、世界各国の市場での両社のシェアが高かったことから、各国の独禁法に対処するためにずいぶん時間や対処を要しました。こういう事案を念頭に置きながら勉強すると、勉強のための勉強ではない、と分かってきます。

授業コード	31092		
授業科目名	**社会経済思想**		
担当者名	奥田　敬(オクダ　タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	金曜日4限　9号館7階奥田研究室		

講義の内容	18世紀に「新しい科学」として経済学が登場するまで、人々はどのように社会をとらえていたのだろうか(第Ⅰ部)、また、経済学という新しい思想－イデオロギー？－はいかにして形成され何を問題として残しているのだろうか(第Ⅱ部)。経済学の初心に立ちもどり、その出現の人類史的な意味の考察を通じて、現代世界が「どこから、どこへ」向かいつつあるのかを探りたい。
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。
講義方法	基本的には原典に即して文献講読(lecture)のような形式で進めるが、リアクション・ペーパーに応じて適宜ディスカッションも交える。
準備学習	最低限の要望としては、講義資料の指定箇所には必ず目を通し、疑問点をチェックしておくこと。 興味が湧いたら、その原典を手にとってほしい。
成績評価	基本的には期末試験の得点によるが、毎回配布するリアクション・ペーパーや随時課題とするミニ・レポートが内容的に優れていれば、加点の対象とする。
講義構成	第1回　序論:現代「経済学」(ミクロ/マクロ/マルクス)の起源 第Ⅰ部 〈homo politicus〉と〈homo religiosus〉 第2回　総説:ヘレニズムとヘブライズム 1-A.「ポリス」と「オイコス」:古代地中海世界の政治と社会 第3回 〈労働〉と〈競争〉—ヘシオドスからソクラテスまで 第4回 〈分業〉と〈正義〉—プラトン『国家』 第5回 〈幸福〉と〈国家〉—アリストテレス『政治学』 第6回 〈貨幣〉と〈分配〉—アリストテレス『ニコマコス倫理学』

	第7回 〈快楽〉と〈意志〉—エピクロス主義・ストア主義・懐疑主義 第8回 〈有徳〉と〈有用〉—キケロー『義務論』 1-B.「神の支配」と「地上の帝国」:キリスト教における人間と世界 第9回 〈原罪〉と〈福音〉—『旧約聖書』と『新約聖書』 第10回 〈歴史〉と〈永遠〉—アウグスティヌス『神の国』 2. 貨殖と救済:ラテン中世の宗教と経済 第11回 〈恩恵〉と〈自然〉—トマス・アクィナス『神学大全』 第12回 〈煉獄〉と〈運命〉—ダンテ『神曲』 3-A. 解放された「万能人」:ルネサンスと〈共和主義〉 第13回 〈権力〉の現実—マキアヴェッリ『君主論』 第14回 〈古代〉への憧憬—マキアヴェッリ『ディスコルシ』 3-B. 禁欲する「専門人」:宗教改革の「召命=天職」論 第15回 小括:〈近代〉への展望—ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 第Ⅱ部 〈homo economicus〉の誕生 第16回 総説:ヨーロッパ啓蒙と〈経済学〉 4. 絶対主義から市民社会へ 第17回 〈主権〉のための「社会契約」 第18回 〈恐怖〉から〈平等〉へ—ホッブズ『リヴァイアサン』 第19回 〈所有〉から〈自由〉へ—ロック『統治二論』 第20回 〈自愛〉から〈連帯〉へ—ルソー『社会契約論』 5. 「富への道」と「徳への道」 第21回 〈文明〉としての「商業」 第22回 〈私悪〉と〈公益〉—マンディヴィル『蜂の寓話』 第23回 〈奢侈〉と〈政体〉—モンテスキュー『法の精神』 第24回 〈技芸〉と〈勤労〉—ヒューム『政治論集』 第25回 〈理性〉と〈感情〉—ルソー『学問芸術論』『人間不平等起源論』『エミール』 第26回 〈同感〉と〈交換〉—スミス『道徳感情論』 第27回 〈権威〉と〈功利〉—スミス『法学講義』 第28回 〈価値〉と〈資本〉—スミス『国富論』 第29回 〈市場〉と〈友情〉—ジェノヴェージ『市民の経済』 第30回 総括:啓蒙の〈経済学〉から「経済学」の啓蒙へ
教科書	原典史料の抜粋と参考文献のリストをプリントして配布するので、特定の教科書は用いない。
参考書・資料	その都度紹介するが、さしあたりは全体的な予備知識を得るために次の2冊を推薦する。 (1)八木紀一郎『経済思想』(日本経済新聞社) (2)山脇直司『ヨーロッパ社会思想史』(東京大学出版会)
講義関連事項	関連科目として「経済学の歴史」と「経済史」を履修していることを前提に講義する。並行して「歴史と経済」(広域副専攻科目)・「西洋経済史」・「現代経済学の諸潮流」・「日本の経済思想家」を履修することを推奨する。

担当者から一言	本講は2500年あまりの長期にわたる大河ドラマのようなものである。必ず最初から最後まで聴き通してほしい。

授業コード	31093		
授業科目名	**社会経済思想Ⅰ(前)**		
担当者名	奥田 敬(オクダ タカシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「社会経済思想Ⅰ」・「社会経済思想Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	金曜日4限 9号館7階奥田研究室		

講義の内容	18世紀に「新しい科学」として経済学が登場するまで、西欧世界の人々はどのように社会をとらえていたのだろうか? ヘレニズムとヘブライズムを源泉とする〈homo politicus〉(政治人)と〈homo religiosus〉(宗教人)という近代以前の2つの人間像を導きとして、経済学の湧出に至るまでの思想の伏流を辿る。
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。
講義方法	基本的には原典に即して文献講読(lecture)のような形式で進めるが、リアクション・ペーパーに応じて適宜ディスカッションも交える。
準備学習	最低限の要望としては、講義資料の指定箇所には必ず目を通し、疑問点をチェックしておくこと。

	興味が湧いたら、その原典を手にとってほしい。
成績評価	基本的には期末試験の得点によるが、毎回配布するリアクション・ペーパーや随時課題とするミニ・レポートが内容的に優れていれば、加点の対象とする。
講義構成	第1回　序論：現代「経済学」(ミクロ/マクロ/マルクス)の起源 〈homo politicus〉と〈homo religiosus〉 第2回　総説：ヘレニズムとヘブライズム 1-A.「ポリス」と「オイコス」：古代地中海世界の政治と社会 第3回　〈労働〉と〈競争〉—ヘシオドスからソクラテスまで 第4回　〈分業〉と〈正義〉—プラトン『国家』 第5回　〈幸福〉と〈国家〉—アリストテレス『政治学』 第6回　〈貨幣〉と〈分配〉—アリストテレス『ニコマコス倫理学』 第7回　〈快楽〉と〈意志〉—エピクロス主義・ストア主義・懐疑主義 第8回　〈有徳〉と〈有用〉—キケロー『義務論』 1-B.「神の支配」と「地上の帝国」：キリスト教における人間と世界 第9回　〈原罪〉と〈福音〉—『旧約聖書』と『新約聖書』 第10回　〈歴史〉と〈永遠〉—アウグスティヌス『神の国』 2. 貨殖と救済：ラテン中世の宗教と経済 第11回　〈恩恵〉と〈自然〉—トマス・アクィナス『神学大全』 第12回　〈煉獄〉と〈運命〉—ダンテ『神曲』 3-A. 解放された「万能人」：ルネサンスと〈共和主義〉 第13回　〈権力〉の現実—マキアヴェッリ『君主論』 第14回　〈古代〉への憧憬—マキアヴェッリ『ディスコルシ』 3-B. 禁欲する「専門人」：宗教改革の「召命=天職」論 第15回　小括：〈近代〉への展望—ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
教科書	原典史料の抜粋と参考文献のリストをプリントして配布するので、特定の教科書は用いない。
参考書・資料	その都度紹介するが、さしあたりは全体的な予備知識を得るために次の2冊を推薦する。 (1)八木紀一郎『経済思想』(日本経済新聞社) (2)山脇直司『ヨーロッパ社会思想史』(東京大学出版会)
講義関連事項	関連科目として「経済学の歴史」と「経済史」を履修していることを前提に講義する。並行して「歴史と経済」(広域副専攻科目)・「西洋経済史」・「現代経済学の諸潮流」・「日本の経済思想家」を履修することを推奨する。

授業コード	31094		
授業科目名	**社会経済思想 II (後)**		
担当者名	奥田　敬(オクダ　タカシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「社会経済思想Ⅰ」・「社会経済思想Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	金曜日4限　9号館7階奥田研究室		

講義の内容	啓蒙の18世紀における全ヨーロッパ的な思想の交流と対抗を背景として、〈homo economicus〉(経済人)という新しい人間像と〈文明としての商業〉(→市民社会)が形成される過程を追究する。経済学の初心に立ちもどり、その出現の人類史的な意味の考察を通じて、現代世界が「どこから、どこへ」向かいつつあるのかを探りたい。
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。
講義方法	基本的には原典に即して文献講読(lecture)のような形式で進めるが、リアクション・ペーパーに応じて適宜ディスカッションも交える。
準備学習	最低限の要望としては、講義資料の指定箇所には必ず目を通し、疑問点をチェックしておくこと。 興味が湧いたら、その原典を手にとってほしい。
成績評価	基本的には期末試験の得点によるが、毎回配布するリアクション・ペーパーや随時課題とするミニ・レポートが内容的に優れていれば、加点の対象とする。
講義構成	〈homo economicus〉の誕生 第1回　序説：ヨーロッパ啓蒙と〈経済学〉 1. 絶対主義から市民社会へ 第2回　〈主権〉のための「社会契約」

	第3回 〈恐怖〉から〈平等〉へ—ホッブズ『リヴァイアサン』 第4回 〈所有〉から〈自由〉へ—ロック『統治二論』 第5回 〈自愛〉から〈連帯〉へ—ルソー『社会契約論』 2.「富への道」と「徳への道」 第6回 〈文明〉としての「商業」 第7回 〈私悪〉と〈公益〉—マンディヴィル『蜂の寓話』 第8回 〈奢侈〉と〈政体〉—モンテスキュー『法の精神』 第9回 〈技芸〉と〈勤労〉—ヒューム『政治論集』 第10回 〈理性〉と〈感情〉—ルソー『学問芸術論』『人間不平等起源論』『エミール』 第11回 〈同感〉と〈交換〉—スミス『道徳感情論』 第12回 〈権威〉と〈功利〉—スミス『法学講義』 第13回 〈価値〉と〈資本〉—スミス『国富論』 第14回 〈市場〉と〈友情〉—ジェノヴェージ『市民の経済』 第15回 総括：啓蒙の〈経済学〉から「経済学」の啓蒙へ
教科書	原典史料の抜粋と参考文献のリストをプリントして配布するので、特定の教科書は用いない。
参考書・資料	その都度紹介するが、さしあたりは全体的な予備知識を得るために次の2冊を推薦する。 (1)八木紀一郎『経済思想』(日本経済新聞社) (2)山脇直司『ヨーロッパ社会思想史』(東京大学出版会)
講義関連事項	関連科目として「経済学の歴史」と「経済史」を履修していることを前提に講義する。並行して「歴史と経済」(広域副専攻科目)・「西洋経済史」・「現代経済学の諸潮流」・「日本の経済思想家」を履修することを推奨する。

授業コード	31073		
授業科目名	**社会政策**		
担当者名	岡本 弥(オカモト ヒサシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	わが国で近年観察される雇用状況の変化に注目しながら、労働に関連する経済問題について考える。
到達目標	新聞に日々掲載されている労働に関する記事について、経済学的な見地から、人と議論できるようになること。
講義方法	単位取得を希望する人は、下記の2点を了解のうえ、履修登録のこと。 *成績不良者の救済は絶対に行わない。 *授業中の私語や携帯電話やメールの使用は厳禁。ただし質問は歓迎。
準備学習	入門レベルのミクロ経済学の知識があることが望ましい。
成績評価	中間および最終試験(各50点満点で合計100点満点)+平常点(上限30点)。100点以上のときには100点とする
講義構成	講義予定トピックは以下の通り。 *イントロダクション *賃金と雇用の決まり方 *日本の労働市場 *労働供給 *労働需要 *年功賃金制度 *長期雇用制度 *さまざまな賃金格差 *失業と労働市場 *女性の労働問題 *若年者の雇用問題 *高齢者の雇用問題
教科書	特定の教科書は使用しない。ただし、下記の参考書については、講義をより深く理解するうえで役立つと思われる。
参考書・資料	*大竹文雄(1998)『労働経済学入門』日経文庫 *大橋勇雄・中村二朗(2004)『労働市場の経済学』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2000)『マテリアル人事労務管理』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2007)『新しい人事労務管理(第3版)』有斐閣アルマ

	*中馬宏之(1995)『労働経済学』新世社

授業コード	31046		
授業科目名	**上級マクロ経済学I(変動と成長)(前)**		
担当者名	寺尾　建(テラオ　タケル)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2007年度以前入学生は「変動と成長」として、2008年度以降入学生は「上級マクロ経済学Ⅰ」として履修すること。 その際「上級マクロ経済学Ⅰ」・「上級マクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	開講時に，担当者より告知します.		

講義の内容	ジュグラーの波. 乗数効果. 与件. 予見. 売り手市場. 売るべし売るべからず. キャッシュフロー. 金融政策. 有価証券. 有効需要の原理. 売りオペレーション. 売上高経常利益率. マネーサプライ. マーシャルのk. クーポン. クレジット・クランチ. ロングポジション. ローレンツ曲線. 景気循環. ケインズ. インフレーション. インセンティブ. 在庫循環. 残存期間. 一物一価の法則. 一般均衡. 外国為替市場. 外需. クラウディング・アウト. クズネッツ・サイクル.
到達目標	経済についてはいうまでもなく,「自分がいかなる思考の枠組を用いているのかを意識しながら，人や物事全般について評価や判断ができる」というレベルの思考力を涵養することが，具体的な到達目標です.
講義方法	双方向的かつ再帰的に行います.
準備学習	「中級マクロ経済学」ならびに「中級ミクロ経済学」での学習内容が，既知のものとして求められます. 具体的には，IS-LM分析による財政政策・金融政策の効果の分析，ならびに予算制約下での効用最大化問題からの需要関数の導出・利潤最大化問題からの供給関数の導出等について精確な理解をしていることが求められます(講義は，講義時間と同程度の時間の予習・復習が求められる水準です).
成績評価	期末試験の成績を，5段階で評価します. 昨年度の期末試験の成績分布は，履修登録者が100名で， 〔秀〕23名　〔優〕28名　〔良〕19名　〔可〕5名　〔不可〕4名　〔欠席〕21名 でした. この講義は,「講義への参加率が80%以上の場合の合格率は90%以上，参加率が80%未満の場合の合格率は1%未満」という特徴をもっています.
講義構成	昨年度，ある受講生の方が,「階段の上り方ではなく，階段の造り方についての講義」と評してくれました. 上級科目です. 誰でも興味を抱くような主題は扱いません. 誰でも知っているような事項も扱いません. 誰でも身につけられるような技術も扱いません. 講義構成は,「階段を造りながら上っていく」です.
教科書	使用しません.
参考書・資料	[01] 池尾和人・池田信夫『なぜ世界は不況に陥ったのか』(日経BP社，2009年). [02] 大住圭介・川畑公久・筒井修二 編『経済成長と動学』(勁草書房，2006年). [03] 大瀧雅之『動学的一般均衡のマクロ経済学』(東京大学出版会，2005年). [04] 加藤諒『現代マクロ経済学講義 動学的一般均衡モデル入門』(東洋経済新報社，2006年). [05] 神永正博『不透明な時代を見抜く「統計思考力」』(ディスカバー21，2009年). [06] 齊藤誠『新しいマクロ経済学 [新版]』(有斐閣，2006年). [07] 齊藤誠『成長信仰の桎梏 消費重視のマクロ経済学』(勁草書房，2006年). [08] 櫻川昌哉『経済を動かす単純な論理』(光文社，2009年). [09] 時政勗・三輪俊和・高瀬光夫 編『マクロ経済学』(勁草書房，2003年). [10] 林文夫 編『経済停滞の原因と制度』(剄草書房，2007年). [11] 平川克美『経済成長という病』(講談社現代新書，2009年). [12] 吉川洋『現代マクロ経済学』(創文社，2000年).

	[13] 吉川洋・大瀧雅之 編『循環と成長のマクロ経済学』(東京大学出版会, 2000年). [14] ポール R. クルーグマン『クルーグマンの視座』(ダイヤモンド社, 2008年).
講義関連事項	「上級マクロ経済学Ⅱ」をあわせて履修することを強く勧めます.

担当者から一言	受講生のみなさんは, これまで「足し算」で考えていた問題をすべて, 「掛け算」で考え直すことになるはずです. あるいは, これまで「他人事」として考えていた問題をすべて, 「自分のこと」として考え直すことになるはずです――「成長」が, 問題です.
その他	2007年度以前の入学生のみなさんには, Aコースの上級科目である「変動と成長」として開講されますが, この科目は, 2008年度カリキュラムにおけるA群〔理論・情報〕の上級科目です.

授業コード	31047		
授業科目名	**上級マクロ経済学Ⅱ(後)**		
担当者名	稲田義久(イナダ　ヨシヒサ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	2008年度以降入学生用 「上級マクロ経済学Ⅰ」・「上級マクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	火曜日　11:30-12:30　9号館7F　稲田研究室		

講義の内容	本講義では計量モデルを使った予測の初歩を講義する。より高い予測精度を目指す超短期モデル予測からシナリオ提供が主たる目的である長期モデル予測まで、計量モデルの利用は様々である。どのようにビジネスや経済政策に予測が利用されているか説明し、簡単なモデル作成の実際を示す。
到達目標	マクロ経済学の応用領域としての経済予測の基礎を習得する。
講義方法	講義が中心であるが簡単な計量モデルの作成や推計の実例を示す。
準備学習	2月15日内閣府発表の2009年10－12月期GDP統計の結果の要約を読んでおくこと。以下のwebに掲載されています。http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/toukei.html#qe
成績評価	数回の演習レポートで評価する.
講義構成	第01講　経済予測・シミュレーションとは何か 第02講　ビジネス予測の精度比較 第03講　超短期予測の考え方 第04講　超短期予測の考え方:続き1 第05講　超短期予測の考え方:続き2 第06講　短期・中期・長期予測の考え方 第07講　短期・中期・長期予測の考え方:続き1 第08講　短期・中期・長期予測の考え方:続き2 第09講　マクロ計量モデル入門 第10講　マクロ計量モデル入門:続き1 第11講　マクロ計量モデル入門:続き2 第12講　シミュレーション分析入門 第13講　シミュレーション分析入門:続き
教科書	特に指定しません。講義資料を配布します。
参考書・資料	Edited by Lawrence R. Klein, The Making of National Economic Forecasts, Edward Elgar, 2009 飯塚信夫・加藤久和, 『EViewsによる経済予測とシミュレーション入門』, 日本評論社

授業コード	31049		
授業科目名	**上級ミクロ経済学Ⅰ(前)**		
担当者名	市野泰和(イチノ　ヤスカズ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限

特記事項	2008年度以降入学生適用 「上級ミクロ経済学Ⅰ」・「上級ミクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい
オフィスアワー	第1回の授業でお知らせします。

講義の内容	ゼミ選びでどのゼミに応募するのか、班で発表するときどれだけ準備をがんばるのか、飲み会でどの席に座るのか、どんなタイミングでどんな言い方で好きな人に告白するのか、一車線の道で向こうから車が来るときに待つのか進むのか、あっち向いてホイでどっちを向くのか、私たちは、毎日、いろんなことを決めています。そして、その結果何が起こるのかは、多くの場合、自分が何をするのかということだけでなく、他の人たちが何をするのかということにも依存しています。だから、私たちは、ほかの人のすることが気になるのですね。 このような、自分が何をするのか決めるときにはほかの人が何をするのかも気になるという状況を、はっきりとしたかたちで記述し、厳密なやりかたで分析するのが、ゲーム理論です。この授業では、具体例や数値例を使ってゲーム理論の基本的な概念を体系的に学び、それらの概念がどのように使われるのかを、できるだけ現実的な応用例で見ていきます。 この講義をうけたみなさんが、複雑な現実のなかで、自分が考えたい問題を見つけたとき、複雑な現実から枝葉をとりはらって、その問題を単純なゲームに表せるようになり、そうすることで、自分が考察したい問題をより的確に、全体的に理解できるようになる。そういう講義にしたいと思います。
到達目標	ほかの人をリスペクトするということの学問的な意味を理解したうえで、ほかの人をリスペクトできるようになること。
講義方法	板書とスライドによる講義をします。また、講義中にはしばしば質問を出しますので、受講者のみなさんは、それらの質問への答えを、ていねいに考えてください。
準備学習	教科書や参考書の、読んでおくべき箇所を指示します。
成績評価	宿題(20%)と期末試験(80%)によって評価します。 宿題は、講義期間中2、3回ほど出す予定です。 また、「講義方法」のところにあるように、講義中にはしばしば質問を出しますが、それらの質問への答えのなかで、特に優秀なものにはボーナス点を与えます。
講義構成	次のような講義構成を予定しています。授業の進みかたが早ければ、上級ミクロ経済学IIのトピックのいくつかをこの授業でやりますし、授業の進みかたが遅ければ、この授業のトピックのいくつかを上級ミクロ経済学IIでやることにします。 1. 市場均衡の理論 需要曲線と供給曲線が交わるところで財の価格と取引量が決まることの意味と、その価格と取引量で実現する資源配分が効率的であること、つまり、ひとりひとりが「自分のために」行動した結果が、「みんなのために」なるしくみとしての市場について、復習します。 2. 市場取引実験 市場均衡の理論の復習のために、また、経済学の新しい分野である実験経済学の紹介として、「ダブルオークションによる取引」という実験を、受講生のみなさんに体験してもらいます。 3. 独占市場 ある財の売り手がひとりだけ、という場合を独占と言います。独占市場では「競争がないので値段が高くなる」のでしょうか。また、独占によって値段が高くなることは、私たちにとって良くないことなのでしょうか。完全競争市場と比較しながら、考えていきます。 4. 戦略形ゲーム ゲーム理論への導入として、ゲームを行うすべてのプレイヤーが同時に行動するゲームを、戦略形というかたちで表して分析する方法を学びます。「囚人のジレンマ」や「男女の争い」などのゲームを例にとり、戦略形ゲームの解き方を学びましょう。 5. 展開形ゲーム プレイヤーが順番に行動するゲームを、展開形というかたちで表して分析します。ここでは、先手を取るか後手を取るか、という問題や、自分の将来の行動を縛ることが自分にとって有利な状況を作り出す、という、コミットメントの概念について勉強します。 6. 寡占市場 ある財について、その売り手はひとりではないけれど、たくさんいるわけでもない、という場合が寡占です。クールノー競争やシュタッケルベルグ競争などのモデルを使って、企業の戦略的な意思決定について学びます。 7. 繰り返しゲーム 人々の間の長期的な関係を、同じゲームを何回も繰り返す状況というふうに見て、誰に命じられるわけでもなく、話し合いや約束をしたわけでもないのに、人々の間に協力関係が生まれてくることを考察します。

教科書	渡辺隆裕 『ゼミナールゲーム理論入門』 日本経済新聞社 2008年。
参考書・資料	神戸伸輔 『入門ゲーム理論と情報の経済学』 日本評論社 2004年。 梶井厚志 『戦略的思考の技術』 中公新書 2002年。 奥野正寛（編著）『ミクロ経済学』 東京大学出版会 2008年。 矢野誠 『ミクロ経済学の基礎』 岩波書店 2001年。 金子守 『ゲーム理論と蒟蒻問答』 日本評論社 2003年。
講義関連事項	中級ミクロ経済学の内容を理解していることを前提として講義を行います。 中級ミクロ経済学を受講していない人で、この授業を受けたいという人は、担当者に相談に来てください。

担当者から一言	この授業の内容は、後期の「上級ミクロ経済学II」の内容と連続します。ぜひ、上級ミクロ経済学IIも受講してください。もちろん私は、この授業を受けたみなさんが上級ミクロ経済学IIも続けて受けたくなるように、努めます。

授業コード	31050		
授業科目名	**上級ミクロ経済学 II（後）**		
担当者名	市野泰和（イチノ ヤスカズ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「上級ミクロ経済学Ⅰ」・「上級ミクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	第1回の講義でお知らせします。		

講義の内容	どうして飛行機のエコノミークラスはあんなに席が狭いのでしょうか。ドリンク1杯目無料というクーポンはお店にどんな利益をもたらすのでしょう。あんまりガツガツしていない人のほうが合コンでもてるのはなぜなのでしょうか。事故を起こして自動車保険を使うと、次の年の保険料が上がるのはなぜなのでしょう。オークションで、損をすることなく欲しいものを競り落とすにはどうすればいいのでしょうか。 これらの疑問はすべて、自分が知っていることをほかの人は知らない、ほかの人が知っていることを自分は知らない、という、「情報の非対称性」に関連しています。この授業では、情報の非対称性が市場での取引にもたらす問題と、その問題に対するさまざまな対応策について、簡単な、けれども厳密な、モデルを使って分析することを学びます。 また、行動経済学や進化ゲーム、進化心理学など、ミクロ経済学の新しいトピックもこの授業で紹介する予定です。そして、上級ミクロ経済学Iとこの授業で学んだすべてのことを踏まえ、最後にもう一度、市場による資源配分について、「自分のために」が「みんなのために」なるしくみについて、あらためて、考えたいと思います。
到達目標	ほかの人を思いやるということの学問的な意味を理解したうえで、ほかの人を思いやれるようになること。
講義方法	板書とスライドによる講義をします。また、講義中にはしばしば質問を出しますので、受講者のみなさんは、それらの質問への答えを、ていねいに考えてください。
準備学習	教科書や参考書の、読んでおくべき箇所を指示します。
成績評価	宿題（20%）と期末試験（80%）によって評価します。 宿題は、講義期間中2、3回ほど出す予定です。 また、「講義方法」のところにあるように、講義中にはしばしば質問を出しますが、それらの質問への答えのなかで、特に優秀なものにはボーナス点を与えます。
講義構成	次のような講義構成を予定しています。前期の上級ミクロ経済学Iの授業進度が早ければ、この授業のトピックのいくつかは上級ミクロ経済学Iでやってしまっていますし、上級ミクロ経済学Iの授業進度が遅ければ、そのトピックのいくつかをこの授業でやります。 1. 逆選択 情報の非対称性が、市場取引においてどのように問題になるのか、中古車市場のモデルを使って解説します。 2. スクリーニング ほかの人がどんな人なのかわからないとき、どうやったら、それがわかるのでしょうか。あなたはどんな人ですか、って、聞くだけではだめなのです。なぜなら、その人は、うそをつくかもしれないからです。 3. シグナリングと不完備情報のゲーム 自分がどんな人なのか相手がわかっていないとき、どうやったら、それを知らせることができるのでしょうか。私はこんな人です、って、言うだけではだめなのです。なぜなら、あなたは、うそをついているかもしれないと思われるからです。

	4. モラルハザード 人を雇うときには、その人にがんばって働いてもらいたいのですが、たいていの場合、その人がどれだけがんばっているかをつきっきりで見ているわけにはいきません。それでも、その人にがんばってもらうには、どうすればいいのでしょうか。 5. メカニズムデザイン 人々がどんな好みを持っているのかわからないなかで効率的な資源配分を行うにはどうすればいいのか、公共財の供給モデルを例にとって解説します。 6. ミクロ経済学の新しい展開 行動経済学や進化ゲーム、進化心理学など、ミクロ経済学の新しいトピックを紹介します。 7. 市場均衡の理論 上級ミクロ経済学Iとこの授業で学んだすべてのことを踏まえ、最後にもう一度、市場均衡で実現する資源配分について、「自分のために」が「みんなのために」なるしくみについて、あらためて、考えたいと思います。
教科書	教科書は指定しませんが、参考書の、 渡辺隆裕 『ゼミナールゲーム理論入門』と、 神戸伸輔 『入門ゲーム理論と情報の経済学』については、 そのなかのいくつかの箇所を、読んでおくようにと指示を出すことがあります。
参考書・資料	渡辺隆裕 『ゼミナールゲーム理論入門』 日本経済新聞社 2008年。 神戸伸輔 『入門ゲーム理論と情報の経済学』 日本評論社 2004年。 梶井厚志 『戦略的思考の技術』 中公新書 2002年。 奥野正寛（編著）『ミクロ経済学』 東京大学出版会 2008年。 ラッセル・ロバーツ 『インビジブルハート —恋におちた経済学者』 日本評論社 2003年。 矢野誠 『ミクロ経済学の基礎』 岩波書店 2001年。 金子守 『ゲーム理論と蒟蒻問答』 日本評論社 2003年。
講義関連事項	中級ミクロ経済学と上級ミクロ経済学Iの内容を理解していることを前提として講義を行います。 上級ミクロ経済学Iを履修していない人で、この授業をとりたい人は、担当者に相談に来てください。

授業コード	31066		
授業科目名	**証券市場**		
担当者名	石橋尚平（イシバシ ショウヘイ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	本講義では、金融ならびにファイナンスに関する基礎的な概念・理論、証券市場をはじめとする金融システムの仕組み、主な金融商品の内容・特徴、ファイナンスの最近の動向について解説する。 金融ならびにファイナンスについての基礎知識を身につけるだけではなく、聴講者自身の観点から、金融に関する社会問題についての論考を深めるほか、ファイナンス分野の基本的な計算能力をしっかり身につけられるようにしたい
到達目標	・当授業を履修し、活用することができると、証券アナリスト資格を取得するための一応の水準に到達することを目標とする。ただし、「経済」や「財務分析」などの科目については、各自勉強してもらいたい。 ・将来、金融業界に就職した場合や、また事業会社の財務部門に配属された場合、当講義で得られた知識が現場において活かされることを目標とする。 ・将来、金融関連を専攻する大学院や、MBAプログラムを取得する場合においても、当講義でのファイナンスの基本内容は、知識のベースとなるので、しっかりと勉強してもらいたい。
講義方法	講義ノート（word版）、パワーポイントによる講義内容（授業中に表示）、レジュメの配布、宿題ならびに課題については、My Konanを通じて行うものとする。講義では、講義内容の解説の他、例題を多く出すこととし、ファイナンスの基本的な理解を進める。また、ファイナンスの計算問題を中心とした宿題（4回）や、レポートの提出（1回）を課し、履修者が予習復習を通じて理解を深めることができるようにする。
準備学習	・ファイナンスの基本を理解するには、実際に簡単な数値例を使った問題を解くなどの練習が必要である。授業中に例題を示して練習する他、宿題(計4回)を課すので、これらの課題を理解のための機会だと 考え、自分自身で解くようにすべきである。 ・教科書は指定しないが、下記に指定する参考書・資料や、授業中に示す参考文献は、履修者が十分に活用す

	れば、理解をさらに深め、内容を整理することに役立つ。
成績評価	期末試験の点数を最重視する。 宿題(4回)の点数ならびにレポート(1回)も加味するが、宿題がよくても期末試験の成績が芳しくないと、80点以上をとることはできない。それぞれの点数を配点の中心とする複数の採点結果から、最も良い点を最終的な評価点とする。
講義構成	第1回　ガイダンス、ファイナンスについて 第2回　資金循環(1) 第3回　資金循環(2) 第4回　間接金融と直接金融 第5回　わが国の金融市場 第6回　債券(1)～現在価値 第7回　債券(2)～債券の価格 第8回　債券(3)～デュレーション 第9回　債券(4)～コンベクシティ 第10回　債券(5)～さまざまな債券 第11回　モダン・ポートフォリオ理論(1)～リスクとリターン 第12回　モダン・ポートフォリオ理論(2)～分散投資 第13回　モダン・ポートフォリオ理論(3)～CAPM 第14回　債券、モダン・ポートフォリオ理論の補講 第15回　期末試験(前期) 第16回　ガイダンス、株式(1)～わが国の株式市場 第17回　株式(2)～理論上の株価 第18回　株式(3)～株価の算定 第19回　モダン・ポートフォリオ理論(4)～効率的市場仮説 第20回　デリバティブ(1)～デリバティブとは? 第21回　デリバティブ(2)～先物 第22回　デリバティブ(3)～オプション 第23回　デリバティブ(4)～リスク中立価格 第24回　デリバティブ(5)～BSモデル 第25回　デリバティブ(6)～スワップ 第26回　国際証券投資 第27回　オルタナティブ投資 第28回 行動ファイナンス(1)～概要 第29回 行動ファイナンス(2)～事例 第30回　期末試験(後期)
教科書	特に指定しない
参考書・資料	美和卓『20歳からの金融入門』日本経済新聞出版社 堀之内朗・武内浩二『債券取引の知識』日経文庫 石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 岡村秀夫、田中敦、野間敏克、藤原賢哉『金融システム論』有斐閣コンパクト 福光寛・高橋元『ベーシック証券市場論』]同文館出版 小林孝雄・芹田敏夫『新・証券投資論Ⅰ理論編』日本経済新聞出版社 伊藤敬介・荻島誠司・諏訪部貴嗣『新・証券投資論Ⅱ実務編』日本経済新聞出版社 藤井英次『コア・テキスト国際金融論』新世社 角田康夫『行動ファイナンス』金融財政事情研究会 岡田克彦『行動ファイナンス入門』秀和システム
講義関連事項	前期は第7回(5/27)、第9回(6/10)、第11回(6/24)、第13回(7/8)の回で宿題、 第3回(4/22)の回でレポート提出を示す予定です(宿題は翌週提出、レポートは1カ月後提出) 後期は第17回(10/14)、第21回(11/11)、第23回(11/25)、第25回(12/9)の回で宿題、 第18回(10/14)の回でレポート提出を示す予定です(宿題は翌週提出、レポートは1カ月後提出) ただし、変更の可能性あり

担当者から一言	授業中の私語は控えてください。
その他	最初の授業のガイダンスにおいて、授業の概要、課題、評価方法などを説明します。

授業コード	31015		
授業科目名	**情報科学入門（前）**		
担当者名	前田洋樹（マエタ　ヒロキ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2008年度以降入学生適用		

講義の内容	この講義では、インターネット(ネットワーク)や電子メールなどにまつわる事柄を中心とした内容を座学により学習します。したがって、原則として講義中にコンピュータを使った実習はありません。 通信技術の飛躍的な進歩により、現在では高速なインターネットを比較的安価に利用できます。このおかげもあり、インターネットからさまざまな情報を容易に入手することができるようになりました。また、文書のやりとりにおいては、ハガキや封書ではなく、電子メールを利用する機会がずいぶんと多くなりました。インターネットや電子メールはパソコンで利用できるだけでなく、携帯電話などの移動体通信でも利用できます。講義を通じて、普段何気なく使っているインターネットや電子メールなどの仕組みについて解明していきましょう。 なお、講義で扱う内容は、ITパスポート試験などの資格試験に出題範囲として含まれていますので、資格の取得を目指して学習してみるのも良いかもしれません。

到達目標	ネットワークに関する知識を深めることができること。 インターネットや電子メールなどの仕組みを理解できること。
講義方法	講義は原則としてPowerPointや板書、口頭での説明に基づいて進めます。 しかし、教員が一方的に説明するだけの講義になることはできるだけ避け、受講者のみなさんにも積極的に参加してもらえるような講義になるようにしたいと思います。 資料は必要に応じて配布します。
準備学習	毎回の講義の理解の積み重ねが重要であるため、とりわけ復習をしっかりすること。 インターネットや電子メールなどの「仕組み」に関心を持つこと。
成績評価	期末試験の成績に基づいて評価します（100%）。 ただし、講義における発表や、予告なしにその日の講義のまとめや確認問題を解いたもの等を提出してもらうなど、通常の講義時の頑張り（単なる「出席」ではない）も平常点（出席点ではない）として成績評価に加味する予定です（最大20%程度）。
講義構成	以下のような内容を予定しています。 第1回　ガイダンス 第2回　インターネットの歴史 第3回　インターネットの接続方式 第4回　ネットワークの概要 第5回　ネットワークの種類 第6回　OSI基本参照モデル 第7回　2進数と10進数 第8回～第9回　IPアドレスとサブネットマスク 第10回　Webページ閲覧と電子メール送受信の仕組み 第11回～第12回　ネットワークセキュリティ 第13回～第14回　認証と暗号化 第15回　期末試験
教科書	特に指定しない予定です。
参考書・資料	参考書は必要に応じて適宜紹介しますが、例えば以下のような本を挙げておきます。 ・栢木厚『栢木先生のITパスポート試験教室』技術評論社

担当者から一言	インターネットや電子メールなどの「使い方」ではなく「仕組み」を扱う講義ですので、多くの人にとってあまり必要性を感じるものではないかもしれません。それゆえ、単位取得だけを目的として履修すると少々つらいと思います。なぜ履修するのかをよく考えてください。 講義では、知っていると役に立つような内容を、できるだけわかりやすく説明するように心がけ、楽しい講義を目指したいと思います。そのためには、教員だけでなく、受講者のみなさんが講義に積極的に参加（単なる「出席」ではありません）してくれることも大事です。みなさんの頑張りに期待しています。
その他	講義中、他の人に迷惑をかけるような行為（私語など）は厳に慎むこと。そのような行為に対しては、厳格に対処する。

授業コード	24M12		
授業科目名	**情報処理概論I (C)(後)**		
担当者名	前田洋樹（マエタ　ヒロキ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	この講義ではコンピュータの仕組みやソフトウェアを中心とした内容を座学により学習します。したがって、原則として講義中にコンピュータを使った実習はありません。 たとえば、パソコンのカタログを見ると「CPU」「メモリ」「ハードディスク」などの言葉が並んでいるでしょう。このようなものについてあまり馴染みはないと思いますが、知っているとパソコン選びの他にも役立つことがあるでしょう。コンピュータやソフトウェアについて少しでも多くのことを知ってもらうため、最低限知っておいた方がよいことからもう一歩進んだ内容まで学習したいと思います。 なお、講義で扱う内容は、ITパスポート試験などの資格試験に出題範囲として含まれていますので、資格の取得を目指して学習してみるのも良いかもしれません。
到達目標	コンピュータのハードウェアに関する知識を身につけることができる。

	コンピュータのソフトウェアに関する知識を身につけることができる。
講義方法	講義は、原則として教員による説明、および、受講者の発表に基づいて進めます。 しかし、少人数の講義となることが予想されるため、受講者のみなさんを中心とした講義方法（ゼミの形式に近い形）となる可能性が高いです。 また、毎回の講義では、何らかの提出物を求める予定です。
準備学習	毎回の講義の理解の積み重ねが重要であるため、とりわけ復習をしっかりすること。 コンピュータの「仕組み」に関心を持つこと。
成績評価	期末試験（50%）と平常点（50%）に基づいて評価します。 なお、平常点は、講義における発表・報告・レポート提出・出席などを基に総合的に評価します。
講義構成	以下のような内容を予定しています。 第1回　ガイダンス 第2回　コンピュータの「五大装置」 第3回　入力装置 第4回～第6回　出力装置 第7回～第10回　記憶装置 第11回～第12回　演算装置・制御装置 第13回～第14回　ソフトウェア 第15回　期末試験
教科書	特に指定しない予定です。
参考書・資料	参考書は必要に応じて適宜紹介しますが、例えば以下のような本を挙げておきます。 ・栢木厚『栢木先生のITパスポート試験教室』技術評論社

担当者から一言	パソコンの「使い方」ではなく「仕組み」を扱う講義ですので、ともすれば多くの人にとってあまり必要性を感じる内容ではないかもしれません。それゆえ、単位取得だけを目的として履修すると少々つらいと思います。なぜ履修するのかをよく考えてください。 講義では、知っていると役に立つような内容を学習できる、楽しい講義を目指したいと思います。受講者のみなさんの講義への積極的な参加（単なる「出席」ではありません）を期待しています。
その他	講義中、他の人に迷惑をかけるような行為（私語など）は厳に慎むこと。そのような行為に対しては、厳格に対処する。

授業コード	24M22		
授業科目名	**情報処理概論II (C)(前)**		
担当者名	前田洋樹（マエタ　ヒロキ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	この講義では、インターネット（ネットワーク）や電子メールなどにまつわる事柄を中心とした内容を座学により学習します。したがって、原則として講義中にコンピュータを使った実習はありません。 通信技術の飛躍的な進歩により、現在では高速なインターネットを比較的安価に利用できます。このおかげもあり、インターネットからさまざまな情報を容易に入手することができるようになりました。また、文書のやりとりにおいては、ハガキや封書ではなく、電子メールを利用する機会がずいぶんと多くなりました。インターネットや電子メールはパソコンで利用できるだけでなく、携帯電話などの移動体通信でも利用できます。講義を通じて、普段何気なく使っているインターネットや電子メールなどの仕組みについて解明していきましょう。 なお、講義で扱う内容は、ITパスポート試験などの資格試験に出題範囲として含まれていますので、資格の取得を目指して学習してみるのも良いかもしれません。
到達目標	ネットワークに関する知識を深めることができること。 インターネットや電子メールなどの仕組みを理解できること。
講義方法	講義は原則としてPowerPointや板書、口頭での説明に基づいて進めます。 しかし、教員が一方的に説明するだけの講義になることはできるだけ避け、受講者のみなさんにも積極的に参加してもらえるような講義になるようにしたいと思います。 資料は必要に応じて配布します。
準備学習	毎回の講義の理解の積み重ねが重要であるため、とりわけ復習をしっかりすること。 インターネットや電子メールなどの「仕組み」に関心を持つこと。

成績評価	期末試験の成績に基づいて評価します（100%）。 ただし、講義における発表や、予告なしにその日の講義のまとめや確認問題を解いたもの等を提出してもらうなど、通常の講義時の頑張り（単なる「出席」ではない）も平常点（出席点ではない）として成績評価に加味する予定です（最大20%程度）。
講義構成	以下のような内容を予定しています。 第1回　ガイダンス 第2回　インターネットの歴史 第3回　インターネットの接続方式 第4回　ネットワークの概要 第5回　ネットワークの種類 第6回　OSI基本参照モデル 第7回　2進数と10進数 第8回～第9回　IPアドレスとサブネットマスク 第10回　Webページ閲覧と電子メール送受信の仕組み 第11回～第12回　ネットワークセキュリティ 第13回～第14回　認証と暗号化 第15回　期末試験
教科書	特に指定しない予定です。
参考書・資料	参考書は必要に応じて適宜紹介しますが、例えば以下のような本を挙げておきます。 ・栢木厚『栢木先生のITパスポート試験教室』技術評論社

担当者から一言	インターネットや電子メールなどの「使い方」ではなく「仕組み」を扱う講義ですので、多くの人にとってあまり必要性を感じるものではないかもしれません。それゆえ、単位取得だけを目的として履修すると少々つらいと思います。なぜ履修するのかをよく考えてください。 講義では、知っていると役に立つような内容を、できるだけわかりやすく説明するように心がけ、楽しい講義を目指したいと思います。そのためには、教員だけでなく、受講者のみなさんが講義に積極的に参加（単なる「出席」ではありません）してくれることも大事です。みなさんの頑張りに期待しています。
その他	講義中、他の人に迷惑をかけるような行為（私語など）は厳に慎むこと。そのような行為に対しては、厳格に対処する。

授業コード	31021		
授業科目名	**情報通信・エネルギー産業（集中）**		
担当者名	春日教測（カスガ　ノリヒロ）、中村彰宏（ナカムラ　アキヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）

講義の内容	本年度は特に、情報通信産業における制度・政策・技術等について焦点を当てて講義します。1980年代以降の規制緩和の潮流や諸外国の動向、成果に対する評価等を俯瞰すると同時に、外部講師を招請して最新の動向について紹介します。また背後にある経済理論との関係についても解説します。
到達目標	① 情報通信産業の特徴と具体的企業戦略を理解し、産業の将来動向と成長可能性について理解できる。 ② 経済理論と現実との関係を整理し、情報通信産業の中長期的な推移を展望できる。
講義方法	夏期集中講義として開講されます。理論的側面については春日・中村が講義し、制度・政策・技術に関する最新の動向(電波行政、国際戦略、消費者行政、コンテンツ、情報通信白書、等)については、外部講師を招請して解説してもらう予定です。理論と現実の講義を交互に配置することにより、段階的に対応関係を理解できるよう工夫します。また講義に関する資料を適宜配付します。
準備学習	(1) ミクロ経済学の基本的なイメージ（需要曲線、供給曲線、余剰などのイメージ）が出来ると望ましい。ただし、基本的なイメージについては、最初に全て説明します。 (2) 新聞や雑誌、テレビの経済ニュースに接し、情報通信産業に関する最近の動向について情報を多く収集すること。 (3) 興味のある業界・調べたい業界について述べたデータや資料を、インターネットや図書館等で自ら出典にあたってできるだけ多く収集し補足・整理すること。
成績評価	小テスト、および提出されたレポート(複数回)の内容により評価します。
講義構成	第 1回　　イントロダクション（講義の進め方など） 第 2～ 4回　ミクロ経済学の基礎（産業経済のための基礎知識）

	第 5～ 6回 「公的規制」とは何か？（定義、分類、政府活動との関係、等） 第 7～10回 費用逓減産業（自然独占、料金理論、諸外国および日本の規制緩和過程等） 第11～14回 情報通信産業の動向と政策Ⅰ（外部講師を招請予定） 第15～18回 携帯電話産業の理論と実際 第19回 小テスト 第20～22回 情報通信産業の動向と政策Ⅱ（外部講師を招請予定） 第23～26回 情報通信産業の動向と政策Ⅲ（外部講師を招請予定） 第27～30回 情報通信産業の動向と政策Ⅳ（外部講師を招請予定） ※外部講師の都合により、講義順序が入れ替わる可能性があります。
教科書	特に指定せず、適宜レジュメを配布して補足します。各トピックスには出典を書いておくので、より深く勉強したい場合は購入するか図書館等で借りるなどして下さい。
参考書・資料	①植草益(2000)『公的規制の経済学』NTT出版 ②柳川隆・川濱昇(2003)『競争の戦略と政策』有斐閣 ③依田高典(2001)『ネットワーク・エコノミクス』日本評論社 など。

担当者から一言	講義室で得られる知識だけでなく、外部とのつながり、現実との関わりを意識することでより深い理解が得られます。問題意識を持って積極的に講義に参加してください。

授業コード	31N21		
授業科目名	**情報リテラシーA（ 1ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	樽井由紀（タルイ ユキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第1回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力（文章表現能力）の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書やビジネス文書などの文書作成の基礎を身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。
到達目標	自分自身で物事を考え、表現することができること。 Wordを用いて、様々な文書を作成できること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。
講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。
準備学習	IT基礎（情報処理入門）を履修済み、あるいは、それと同程度にWord、PowerPointを使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現方法や語彙力を向上させること。
成績評価	出席（15%）、課題提出（45%）、期末レポート（40%）による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものとみなす。
講義構成	第1回 ガイダンス 第2回～第3回 Wordの復習 第4回～第7回 課題に基づく演習（1） 第8回 プレゼンテーション（1） 第9回～第13回 課題に基づく演習（2） 第14回 プレゼンテーション（2）
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健（2007）『Microsoft Office 2007を使った 情報リテラシーの基礎』 近代科学社

授業コード	31N22		
授業科目名	**情報リテラシーA（ 2ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	樽井由紀（タルイ　ユキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第１回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力（文章表現能力）の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書やビジネス文書などの文書作成の基礎を身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。
到達目標	自分自身で物事を考え、表現することができること。 Wordを用いて、様々な文書を作成できること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。
講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。
準備学習	IT基礎（情報処理入門）を履修済み、あるいは、それと同程度にWord、PowerPointを使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現方法や語彙力を向上させること。
成績評価	出席（15%）、課題提出（45%）、期末レポート（40%）による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものとみなす。
講義構成	第１回　ガイダンス 第２回～第３回　Wordの復習 第４回～第７回　課題に基づく演習（１） 第８回　プレゼンテーション（１） 第９回～第13回　課題に基づく演習（２） 第14回　プレゼンテーション（２）
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健（2007）『Microsoft Office 2007を使った　情報リテラシーの基礎』近代科学社

授業コード	31N23		
授業科目名	**情報リテラシーA（ 3ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	前田洋樹（マエタ　ヒロキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第１回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力（文章表現能力）の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書やビジネス文書などの文書作成の基礎を身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。
到達目標	自分自身で物事を考え、表現することができること。 Wordを用いて、様々な文書を作成できること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。

講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。
準備学習	IT基礎（情報処理入門）を履修済み、あるいは、それと同程度にWord、PowerPointを使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現方法や語彙力を向上させること。
成績評価	出席（15%）、課題提出（45%）、期末レポート（40%）による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものとみなす。
講義構成	第1回　ガイダンス 第2回～第3回　Wordの復習 第4回～第7回　課題に基づく演習（1） 第8回　プレゼンテーション（1） 第9回～第13回　課題に基づく演習（2） 第14回　プレゼンテーション（2）
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健（2007）『Microsoft Office 2007を使った　情報リテラシーの基礎』近代科学社

授業コード	31N31		
授業科目名	**情報リテラシーB（ 1ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	前田洋樹（マエタ　ヒロキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第1回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力（データ収集・加工能力）の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書をはじめ、様々な文書作成のためのデータ収集法を学び、それらを有用なグラフや表に加工する技術や関数計算、簡易データベース構築の基礎などを身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。
到達目標	必要なデータを収集できること。 Excelを用いて、データを有用なグラフや表に加工したり、関数計算などの計算ができること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。
講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。
準備学習	IT基礎（情報処理入門）を履修済み、あるいは、それと同程度にExcel、PowerPointを使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現力などを向上させること。
成績評価	出席（15%）、課題提出（45%）、期末レポート（40%）による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものと見なす。
講義構成	第1回　ガイダンス 第2回～第3回　Excelの復習 第4回～第7回　課題に基づく演習（1） 第8回　プレゼンテーション（1） 第9回～第13回　課題に基づく演習（2） 第14回　プレゼンテーション（2）
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健（2007）『Microsoft Office 2007を使った　情報リテラシーの基礎』近代科学社 滝川好夫・前田洋樹（2009）『経済学のためのExcel入門 Office2007対応版』日本評論社

授業コード	31N32		
授業科目名	**情報リテラシーB（2ｸﾗｽ)(前)**		
担当者名	宇野伸孝（ウノ　ノブタカ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第１回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力（データ収集・加工能力）の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書をはじめ、様々な文書作成のためのデータ収集法を学び、それらを有用なグラフや表に加工する技術や関数計算、簡易データベース構築の基礎などを身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。
到達目標	必要なデータを収集できること。 Excelを用いて、データを有用なグラフや表に加工したり、関数計算などの計算ができること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。
講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。
準備学習	IT基礎（情報処理入門）を履修済み、あるいは、それと同程度にExcel、PowerPointを使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現力などを向上させること。
成績評価	出席（15%）、課題提出（45%）、期末レポート（40%）による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものと見なす。
講義構成	第１回　ガイダンス 第２回～第３回　Excelの復習 第４回～第７回　課題に基づく演習（１） 第８回　プレゼンテーション（１） 第９回～第13回　課題に基づく演習（２） 第14回　プレゼンテーション（２）
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健（2007）『Microsoft Office 2007を使った　情報リテラシーの基礎』近代科学社 滝川好夫・前田洋樹（2009）『経済学のためのExcel入門 Office2007対応版』日本評論社

授業コード	31N33		
授業科目名	**情報リテラシーB（3ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	宇野伸孝（ウノ　ノブタカ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第１回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力（データ収集・加工能力）の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書をはじめ、様々な文書作成のためのデータ収集法を学び、それらを有用なグラフや表に加工する技術や関数計算、簡易データベース構築

	の基礎などを身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。
到達目標	必要なデータを収集できること。 Excelを用いて、データを有用なグラフや表に加工したり、関数計算などの計算ができること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。
講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。
準備学習	IT基礎（情報処理入門）を履修済み、あるいは、それと同程度にExcel、PowerPointを使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現力などを向上させること。
成績評価	出席（15%）、課題提出（45%）、期末レポート（40%）による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものと見なす。
講義構成	第1回　ガイダンス 第2回～第3回　Excelの復習 第4回～第7回　課題に基づく演習（1） 第8回　プレゼンテーション（1） 第9回～第13回　課題に基づく演習（2） 第14回　プレゼンテーション（2）
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健（2007）『Microsoft Office 2007を使った　情報リテラシーの基礎』近代科学社 滝川好夫・前田洋樹（2009）『経済学のためのExcel入門 Office2007対応版』日本評論社

授業コード	31U11		
授業科目名	**初級マクロ経済学（A)(後）**		
担当者名	王　凌（ワン　リン）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	経済学部2005年度以前入学生および文学部・経営学部の学生用		

講義の内容	マクロ経済学に関する基礎的内容を講義する。国民所得の決定モデル、金融市場のモデル等を解説し、マクロ経済問題を理解する上で必要不可欠な知識を学ぶ。授業の目的は、経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析するための基本的な概念と標準的なマクロ経済理論を理解し、政策的なインプリケーションについても応用できる能力を身に着けることである。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）GDPについて理解すること。 （2）需要と供給という視点からマクロ経済の動きを理解すること。 （3）乗数プロセスで景気の波及メカニズムを説明すること。 （4）マクロ経済の均衡を理解すること。 （5）信用乗数メカニズムを理解すること。
講義方法	原則として教科書の内容に基づいた講義を行う。
準備学習	担当教員に指示された、教科書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	原則として期末試験の成績にもとづいて評価する。適宜平常点を加味する。
講義構成	第1回　　イントロダクション 第2回～第4回　　GDP 第5回　　需要、供給と景気 第6回　　乗数プロセスと限界消費性向 第7回　　需要（所得、生産）の決定とマクロ経済の均衡 第8回　　所得の調整と需要の調整

	第9回～第10回　マクロ経済モデルとマクロ経済均衡の計算 第11回～第12回　貨幣 第13回～第14回　信用乗数のメカニズム
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年

授業コード	31U21		
授業科目名	**初級ミクロ経済学 (A)(前)**		
担当者名	畠瀬和志（ハタセ　カズシ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	経済学部2005年度以前入学生および文学部・経営学部の学生用		

講義の内容	ミクロ経済学の基礎を学ぶ。ミクロ経済学とは、個々の経済主体（企業、家計、政府）の行動に主眼を置き、経済の仕組みを解明しようとする学問である。講義においては、需要と供給から価格がどう決まるか、そうした価格形成に伴って企業の生産活動や家計の消費行動がどのように影響を受けるか、といった内容を主にグラフ（図）を用いて分析する。
到達目標	(1) ミクロ経済学の基礎的な理論と用語をきちんと理解すること (2) 学んだ理論を用いて現実の経済問題を説明できるようになること
講義方法	(1) 原則として教科書に沿った講義を行う (2) 毎回、演習問題を解いて提出してもらう
準備学習	教科書の「コラム」を講義の前に読んで置けば、講義内容により興味を持てるでしょう。
成績評価	(1) 出席（15%） (2) 毎回提出する演習問題（45%） (3) 期末試験（40%）
講義構成	1. 需要と供給 2. 需要曲線と消費者行動 3. 費用の構造と供給行動 4. 市場取引と資源配分 5. その他（独占、市場の失敗など）
教科書	伊藤元重「入門経済学」第3版，日本評論社
参考書・資料	講義中に紹介する。

担当者から一言	毎回、数題の演習問題を与え、講師が解説しながら全員で問題を解きます。演習問題の提出をもって出席とみなすため、演習問題は必ず提出して下さい。

授業コード	31042		
授業科目名	**所得課税法 (後)**		
担当者名	岡田悦美（オカダ　エミ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	主として所得税法を講義する。所得税法は所得を課税の対象とし、個人（自然人）を納税義務者とすると定めている。また、日本国内に住所（居所）を有するか否かで課税対象となる所得の範囲が変動することとされている。日常の生活のなかで行われている取引・事実を基礎にして所得が形成されるから近隣法規の理解も要求される。 「誰が、どのような税金を、どのような場合に、どれだけ、いつ、誰に対して支払わなければならないか」を自分で判断できるようになることが目的である。

到達目標	まず、所得税法の全体像（大きな幹）を把握し、そこから個々の規定を理解することが目標である。
講義方法	所得税法は所得税の課税要件及びその手続きを定めている。したがって講義は条文を確認しつつ教科書に沿って進める。その過程で指名し発言を求め理解の程度を確認するので、受講生は積極的に授業に取り組まなければならない。
準備学習	シラバスの講義構成を見て、教科書の該当箇所を予習すること。 授業で配布した資料も合わせて復習すること。 条文に親しむこと。 新聞を読むこと。
成績評価	主として期末筆記試験による（80%）。 レポートの提出及び授業出席状況を成績評価に加算する（20%）。
講義構成	第1回　所得税法の概要 第2回　所得課税法の基本原理 第3回　納税義務者・納税地 第4回　所得概念と非課税・免税 第5回　所得分類の意義、利子所得・配当所得 第6回　不動産所得・事業所得 第7回　給与所得・退職所得 第8回　山林所得・譲渡所得 第9回　一時所得・雑所得 第10回　収入金額の計算とその計上時期 第11回　必要経費の計算とその計上時期 第12回　課税標準・損益通算 第13回　損失の繰越控除・所得控除 第14回　税額の計算・申告・納付
教科書	岸田貞夫　『税法としての所得課税』［4訂版］（税務経理協会2008年）
参考書・資料	今田繁雄編『平成21年版　図解所得税』（大蔵財務協会2009年）
講義関連事項	所得税法が収録された条文集を持参すること。

担当者から一言	「法人課税法（前）」を既に受講していることが望ましい。 自主的に学習しない受講生は単位取得が難しいことを自覚しておいて欲しい。

授業コード	31039		
授業科目名	**震災と地域経済Ⅰ（前）**		
担当者名	藤本建夫（フジモト　タテオ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2008年度以降入学生用 「震災と地域経済Ⅰ」・「震災と地域経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	１５年前、神戸は大震災に見舞われるが、かつて国際貿易港として、世界のコンテナ港として栄えていた。その神戸経済の特質を明らかにする。
到達目標	神戸という地元の経済について理解を深める。
講義方法	以下のテキストとパワーポイント・板書を利用して行う。
準備学習	テキストを良く読んでくる。
成績評価	テスト
講義構成	１．ポートピア ２．宮崎神戸市政 ３．日米貿易摩擦とバブル経済 ４．阪神・淡路大震災
教科書	藤本建夫『何が地方都市再生を阻むのか』晃洋書房、２０１０年

授業コード	31040		
授業科目名	**震災と地域経済 II（後）**		
担当者名	藤本建夫（フジモト　タテオ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2008年度以降入学生用 「震災と地域経済Ⅰ」・「震災と地域経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	前期の講義を受けて、復興の経済政策の特質を明らかにして、その失敗の原因を考える。
到達目標	自然災害からの復興を成功させるためには災害の規模、世界全体の経済状況、それに政治・政治家の役割がいかに大切かを理解する。
講義方法	以下のテキストおよびパワーポイント・板書を利用する。
準備学習	テキストを良く読んでくる。
成績評価	テスト
講義構成	1．二つの大震災と金融政策 2．国家の復興政策 3．国会における予算審議 4．金融・経済危機下の被災地経済 5．あだ花の産業復興政策 6．大震災から10年 7．政治家に問われる「情熱、責任感、判断力」
教科書	藤本建夫『何が地方都市再生を阻むのか』晃洋書房、2010年

授業コード	31048		
授業科目名	**数理経済**		
担当者名	市野泰和（イチノ　ヤスカズ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	第1回の授業でお知らせします。		

講義の内容	前期は、ゲーム理論について学びます。 ゼミ選びでどのゼミに応募するのか、班で発表するときどれだけ準備をがんばるのか、飲み会でどの席に座るのか、どんなタイミングでどんな言い方で好きな人に告白するのか、一車線の道で向こうから車が来るときに待つのか進むのか、あっち向いてホイでどっちを向くのか、私たちは、毎日、いろんなことを決めています。そして、その結果何が起こるのかは、多くの場合、自分が何をするのかということだけでなく、他の人たちが何をするのかということにも依存しています。だから、私たちは、ほかの人のすることが気になるのですね。 このような、自分が何をするのか決めるときにはほかの人が何をするのかも気になるという状況を、はっきりとしたかたちで記述し、厳密なやりかたで分析するのが、ゲーム理論です。この授業では、具体例や数値例を使ってゲーム理論の基本的な概念を体系的に学び、それらの概念がどのように使われるのかを、できるだけ現実的な応用例で見ていきます。 後期は、情報の非対称性について学びます。 どうして飛行機のエコノミークラスはあんなに席が狭いのでしょうか。ドリンク1杯目無料というクーポンはお店にどんな利益をもたらすのでしょう。あんまりガツガツしていない人のほうが合コンでもてるのはなぜなのでしょうか。事故を起こして自動車保険を使うと、次の年の保険料が上がるのはなぜなのでしょう。オークションで、損をすることなく欲しいものを競り落とすにはどうすればいいのでしょうか。 これらの疑問はすべて、自分が知っていることをほかの人は知らない、ほかの人が知っていることを自分は知らない、という、「情報の非対称性」に関連しています。この授業では、情報の非対称性が市場での取引にもたらす問題と、その問題に対するさまざまな対応策について、簡単な、けれども厳密な、モデルを使って分析することを学びます。 この講義をうけたみなさんが、複雑な現実のなかで、自分が考えたい問題を見つけたとき、複雑な現実から枝

	葉をとりはらって、その問題を単純なモデルに表せるようになり、そうすることで、自分が考察したい問題をより的確に、全体的に理解できるようになる。そういう講義にしたいと思います。 　また、行動経済学や進化ゲーム、進化心理学など、ミクロ経済学の新しいトピックもこの授業で紹介する予定です。そして、この授業で学んだすべてのことを踏まえ、市場による資源配分について、「自分のために」が「みんなのために」なるしくみについて、あらためて、考えたいと思います。
到達目標	ほかの人をリスペクトするということの学問的な意味を理解したうえで、ほかの人をリスペクトできるようになること。 ほかの人を思いやるということの学問的な意味を理解したうえで、ほかの人を思いやれるようになること。
講義方法	板書とスライドによる講義をします。また、講義中にはしばしば質問を出しますので、受講者のみなさんは、それらの質問への答えを、ていねいに考えてください。
準備学習	教科書や参考書の、読んでおくべき箇所を指示します。
成績評価	宿題（20%）、前期末試験（40%）、後期末試験（40%）によって評価します。 宿題は、4、5回ほど出す予定です。 また、「講義方法」のところにあるように、講義中にはしばしば質問を出しますが、それらの質問への答えのなかで、特に優秀なものにはボーナス点を与えます。
講義構成	次のような講義構成を予定しています。 前期： 1．市場均衡の理論 需要曲線と供給曲線が交わるところで財の価格と取引量が決まることの意味と、その価格と取引量で実現する資源配分が効率的であること、つまり、ひとりひとりが「自分のために」行動した結果が、「みんなのために」なるしくみとしての市場について、復習します。 2．市場取引実験 市場均衡の理論の復習のために、また、経済学の新しい分野である実験経済学の紹介として、「ダブルオークションによる取引」という実験を、受講生のみなさんに体験してもらいます。 3．独占市場 ある財の売り手がひとりだけ、という場合を独占と言います。独占市場では「競争がないので値段が高くなる」のでしょうか。また、独占によって値段が高くなることは、私たちにとって良くないことなのでしょうか。完全競争市場と比較しながら、考えていきます。 4．戦略形ゲーム ゲーム理論への導入として、ゲームを行うすべてのプレイヤーが同時に行動するゲームを、戦略形というかたちで表して分析する方法を学びます。「囚人のジレンマ」や「男女の争い」などのゲームを例にとり、戦略形ゲームの解き方を学びましょう。 5．展開形ゲーム プレイヤーが順番に行動するゲームを、展開形というかたちで表して分析します。ここでは、先手を取るか後手を取るか、という問題や、自分の将来の行動を縛ることが自分にとって有利な状況を作り出す、という、コミットメントの概念について勉強します。 6．寡占市場 ある財について、その売り手はひとりではないけれど、たくさんいるわけでもない、という場合が寡占です。クールノー競争やシュタッケルベルグ競争などのモデルを使って、企業の戦略的な意思決定について学びます。 7．繰り返しゲーム 人々の間の長期的な関係を、同じゲームを何回も繰り返す状況というふうに見て、誰に命じられるわけでもなく、話し合いや約束をしたわけでもないのに、人々の間に協力関係が生まれてくることを考察します。 後期： 1．逆選択 情報の非対称性が、市場取引においてどのように問題になるのか、中古車市場のモデルを使って解説します。 2．スクリーニング ほかの人がどんな人なのかわからないとき、どうやったら、それがわかるのでしょうか。あなたはどんな人ですか、って、聞くだけではだめなのです。なぜなら、その人は、うそをつくかもしれないからです。

	3. シグナリングと不完備情報のゲーム 自分がどんな人なのか相手がわかっていないとき、どうやったら、それを知らせることができるのでしょうか。私はこんな人です、って、言うだけではだめなのです。なぜなら、あなたは、うそをついているかもしれないと思われるからです。 4. モラルハザード 人を雇うときには、その人にがんばって働いてもらいたいのですが、たいていの場合、その人がどれだけがんばっているかをつきっきりで見ているわけにはいきません。それでも、その人にがんばってもらうには、どうすればいいのでしょうか。 5. メカニズムデザイン 人々がどんな好みを持っているのかわからないなかで効率的な資源配分を行うにはどうすればいいのか、公共財の供給モデルを例にとって解説します。 6. ミクロ経済学の新しい展開 行動経済学や進化ゲーム、進化心理学など、ミクロ経済学の新しいトピックを紹介します。 7. 市場均衡の理論 この授業で学んだすべてのことを踏まえ、最後にもう一度、市場均衡で実現する資源配分について、「自分のために」が「みんなのために」なるしくみについて、あらためて、考えたいと思います。
教科書	渡辺隆裕 『ゼミナールゲーム理論入門』 日本経済新聞社　2008年。 また、教科書として指定はしませんが、参考書の、 神戸伸輔 『入門ゲーム理論と情報の経済学』については、 そのなかのいくつかの箇所を、読んでおくようにと指示を出すことがあります。
参考書・資料	神戸伸輔 『入門ゲーム理論と情報の経済学』 日本評論社　2004年。 梶井厚志 『戦略的思考の技術』 中公新書　2002年。 奥野正寛（編著）『ミクロ経済学』 東京大学出版会　2008年。 ラッセル・ロバーツ 『インビジブルハート　―恋におちた経済学者』 日本評論社　2003年。 矢野誠 『ミクロ経済学の基礎』 岩波書店　2001年。 金子守 『ゲーム理論と蒟蒻問答』 日本評論社　2003年。
講義関連事項	中級ミクロ経済学の内容を理解していることを前提として講義を行います。 中級ミクロ経済学を履修していない人で、この授業を受けたいという人は、担当者に相談に来てください。

授業コード	31099		
授業科目名	**西洋経済史**		
担当者名	小島修一（コジマ　シユウイチ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（月曜3限）、後期（月曜3限）
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	今日、世界が直面している南北問題や環境・資源・人口の諸問題は全て、近代以降の工業化過程と深く結びついている。工業化はまずヨーロッパで始まり、その後北米や日本に広がり、今その波は中国や東南アジア諸国に押し寄せてきている。本講義は、最初にこの工業化の時代に入り、その原型を作ったヨーロッパの経済発展を検討することによって、「歴史としての現代」を考えようとするものである。
到達目標	ヨーロッパ経済史の基礎知識の獲得
講義方法	1. たびたび講義資料を配布し、小テストを行う。 2. 毎回、講義の最後に質問票を出してもらう。 3. レポート提出を義務づける。
準備学習	テキストの指定された部分は、事前に読んでおくこと
成績評価	各小テストを10点満点、レポートを20点満点とし、残りを期末試験にわりあてる。したがって、期末試験だけでは単位取得は困難である。
講義構成	（1）イントロダクション （2）工業化の歴史的前提 　1. ヨーロッパ経済史の長期サイクル

	2. 大航海時代―――ポルトガルとスペイン 3. 17世紀―――オランダの時代 4. 重商主義 5. イギリスの商業革命 6. イギリスの農業革命 (3)工業化の進展 1. 最初の産業革命 2. 自由貿易体制の成立 3. イギリスの産業的衰退 4. ヨーロッパ後発国の工業化 5. フランスの工業化 6. ドイツの工業化 7. ロシアの工業化 8. アメリカの工業化 (4)経済史における20世紀
教科書	開講時に指示する。
参考書・資料	講義において指示する。

授業コード	31100		
授業科目名	**西洋経済史Ⅰ(前)**		
担当者名	小島修一(コジマ　シユウイチ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「西洋経済史Ⅰ」・「西洋経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	今日、世界が直面している南北問題や環境・資源・人口の諸問題は全て、近代以降の工業化過程と深く結びついている。工業化はまずヨーロッパで始まり、その後北米や日本に広がり、今その波は中国や東南アジア諸国に押し寄せてきている。本講義は、最初にこの工業化の時代に入り、その原型を作ったヨーロッパの経済発展を検討することによって、「歴史としての現代」を考えようとするものである。 「西洋経済史 I」 は、産業革命以前の時代について講義を行う。産業革命以後の時代を取り上げる「西洋経済史 II」の講義も合わせて受講することが望ましい。
到達目標	西洋経済史の基礎知識の獲得
講義方法	1. たびたび講義資料を配布し、小テストを行う。 2. 毎回、講義の最後に質問票を出してもらう。 3. レポート提出を義務づける。
準備学習	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと
成績評価	各小テストを10点満点、レポートを20点満点とし、残りを期末試験にわりあてる。したがって、期末試験だけでは単位取得は困難である。
講義構成	(1) イントロダクション (2) ヨーロッパ経済史の長期サイクル (3) 大航海時代・・・ポルトガルとスペイン (4) 17世紀・・・オランダの時代 (5) 重商主義 (6) イギリスの商業革命 (7) イギリスの農業革命 (8) 工業化の歴史的前提
教科書	開講時に指示する。
参考書・資料	講義において指示する。

授業コード	31101		
授業科目名	**西洋経済史 II (後)**		
担当者名	小島修一(コジマ　シユウイチ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「西洋経済史Ⅰ」・「西洋経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	今日、世界が直面している南北問題や環境・資源・人口の諸問題は全て、近代以降の工業化過程と深く結びついている。工業化はまずヨーロッパで始まり、その後北米や日本に広がり、今その波は中国や東南アジア諸国に押し寄せてきている。本講義は、最初にこの工業化の時代に入り、その原型を作ったヨーロッパの経済発展を検討することによって、「歴史としての現代」を考えようとするものである。 「西洋経済史　II」は、産業革命以後の時代について講義を行う。産業革命以前の時代を取り上げる「西洋経済史　I」の講義も合わせて受講することが望ましい。
到達目標	西洋経済史の基礎知識の獲得
講義方法	1. たびたび講義資料を配布し、小テストを行う。 2. 毎回、講義の最後に質問票を出してもらう。 3. レポート提出を義務づける。
準備学習	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと
成績評価	各小テストを10点満点、レポートを20点満点とし、残りを期末試験にわりあてる。したがって、期末試験だけでは単位取得は困難である。
講義構成	(1) イントロダクション (2) 最初の産業革命 (3) 自由貿易体制の成立 (4) イギリスの産業的衰退 (5) ヨーロッパ後発国の工業化 (6) フランスの工業化 (7) ドイツの工業化 (8) ロシアの工業化 (9) アメリカの工業化 (10) 経済史における20世紀
教科書	開講時に指示する。
参考書・資料	講義において指示する。

授業コード	31M01		
授業科目名	**ゼミI (藤本)(後)**		
担当者名	藤本建夫(フジモト　タテオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	東京一極集中と地方経済の衰退
到達目標	東京一極集中の基本的データの収拾と理解、これに対して地方がどうなっているかうを検証する
講義方法	テキストの輪読、データ収集及びディスカッション
準備学習	テキストの当該箇所を読んでくる
成績評価	ゼミへの参加度とレポート
講義構成	学期前半は東京一極集中、後半は地方経済の衰退
教科書	藤本建夫『東京一極集中のメンタリティー』ミネルヴァ書房 藤本建夫『何が地方都市再生を阻むのか』晃洋書房

授業コード	31M02		
授業科目名	**ゼミI（岩崎)(後)**		
担当者名	岩崎　晃（イワサキ　アキラ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	産業組織と企業戦略の分析。 市場経済では、企業の切磋琢磨を通じて、新製品が導入され、低価格で表品が豊富に供給されるようになります。その過程で、企業はライバルとの競争に勝ち抜くためにさまざまな戦略を立て実行します。各企業が採用する戦略は当然ながら、製品開発、品質管理、コスト管理、製品差別化などの企業の経営能力に大きく依存します。ゼミⅡ以降で研究するこの種の問題を分析する際の基礎的知識として、「企業経済学」を学びます。「ミクロ経済学」の講義をもう少し具体的応用を意識して特殊化した内容と理解してください。
到達目標	現実の産業界における企業戦略の適否を評価できるようになること。
講義方法	学生による発表と討論を中心に、自主的に勉学する。
準備学習	教科書をあらかじめ予習し、内容のアウトラインを作成すること。
成績評価	ゼミでの発表を含む活動。演習であるので、出席することが不可欠。
講義構成	1. 市場経済の機能 2. 企業の活動 3. 競争の意味 4. 戦略的企業行動 5. 業界標準 6. 人的資源 7. 企業の境界と垂直的統合、多角化
教科書	浅羽茂『企業の経済学』日本経済新聞社、ほか。
参考書・資料	講義中に紹介します。読みやすく、入手しやすい、廉価な経営史、経営者論の書籍が多数あります。通学途上などに楽しんでください。

担当者から一言	ミクロ経済学と「一見勉強らしくない勉強」を楽しみましょう！

授業コード	31M04		
授業科目名	**ゼミI（杉村)(後)**		
担当者名	杉村芳美（スギムラ　ヨシミ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	随時（事前に連絡してください）		

講義の内容	「今日の資本主義」 グローバルな資本主義の今日の姿を、いろいろな角度から総合的に考えます。景気、企業、市場、技術、環境、資源、労働、情報、生活などを取り上げていきます。 また、ゼミ学習をとおして、大学生基礎力の向上と人間的な成長を目指します。
到達目標	課題について、詳しく調べ、考えをまとめ、わかりやすく発表できること
講義方法	グループワークを軸にして、情報・データの収集、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、進めていきます。
準備学習	毎回指示する課題をしっかり行ってくること
成績評価	出席、参加姿勢、発表などを、総合的に評価します。
講義構成	ゼミのスタート時に、各回の予定を提示します。
教科書	授業時に指示します

担当者から一言	世の中で起こっていることに広く関心をもち、話題にしていこう。

授業コード	31M05		
授業科目名	**ゼミI（青木)(後)**		
担当者名	青木浩治（アオキ　コウジ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	原則として金曜日午後1-2時。その他時間的余裕があれば随時対応します。		

講義の内容	2年次では与えられたテーマに従って、話のストーリーを作る基礎的スキルの習得を行います。3年次ではグループ別の研究活動に移り、自分たちで意見をまとめる作業を行い、まとまったレポートを完成させます。いずれにせよ、この半年でステップアップすることが目標です。
到達目標	社会に旅立つために最低限必要なスキルのうち、①自前の提案を行い、②人前で説得的に自分の意見を説明し、質疑応答に耐えられる能力を形成することが最終目標です。また、仲間との議論を通じて、人間関係形成力を養うことも狙います。
講義方法	パソコンを活用した授業になります。2年次生はまずPCの必要最低限のテクニックを前提として、それを活用したデータ蓄積、データ加工、ストーリー作成の繰り返しを行います。
準備学習	毎回課題が出されますので、遅れた分について自分でフォローアップしておくことが求められます。また、時折対抗プレゼンを行いますので、その準備が必要です。
成績評価	出席情況、活動状況、期末レポートの三つにより評価します。
講義構成	当方から半年間のスケジュールを配布し、このスケジュールに従って練習問題をこなしていきます。テーマは国際経済から見た日本経済の現状分析が中心となります。、基本は皆さんが自分でデータを取得・加工して納得いくまで分析するというスタイルをとり、結構ハードな内容となりますので注意しましょう。隣同士、ワイワイ・ガヤガヤしながらテーマに沿った学習を行うことがベストです。
教科書	特別の教科書は使用しません。

担当者から一言	遅刻・無断欠席は厳禁です。遅刻や無断欠席をしますと、その人に自動的に「学習の遅れ」というペナルティが課されますので注意して下さい。また、ひどくモラルを欠く学生はレッド・カードとなります。

授業コード	31M06		
授業科目名	**ゼミI（稲田)(後)**		
担当者名	稲田義久（イナダ　ヨシヒサ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	火曜日11:30～12:30　9号館7F　稲田研究室		

講義の内容	株価、為替レート、金利といった金融指標の日次データや、毎週発表される重要な経済月次データを読み解く訓練をします。同時にデータベース作成を講義の一環とします。これらを材料に日本経済及び世界経済の動向レポートをプレゼンテーションしてもらいます。
到達目標	景気指標の理解と週ベースでの経済事象の理解と報告の習慣化。
講義方法	グループでの学習、報告が中心になります。 パワーポイントを使ったプレゼンテーションを重視しています。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておくこと。
成績評価	ゼミへの参加頻度と各自の到達目標レベル達成の成否がポイントとなります.
講義構成	ゼミ生のプレゼン能力とデータの理解力を高めることを目標に、 1.月次データの読み方と分析、 2.それを用いたプレゼンテーション、 3.プレゼンテーションの評価と議論 各グループに毎回以上の3つの仕事をしてもらいます。
教科書	永濱利広、『経済指標はこう読む』、平凡社新書
参考書・資料	新聞・インターネットから議論の材料をさがします.

授業コード	31M07		
授業科目名	**ゼミI（草野)(後)**		
担当者名	草野正裕（クサノ　マサヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	テーマ 経済史とその周辺 演習内容 経済史をできるだけ論理的な線に沿って理解することを試みたいと思います。 テキストの輪読以外に、「英語・IT・金融」についてのスキルを中心とした演習を毎回すこしずつ行います。これらは「読書・音楽」に代わる現代の「教養」かも知れません。
到達目標	テキストはかなり難解ですので、半分ぐらいの理解を目指したいと思います。
講義方法	分担を決めて、教科書を輪読します。その後で、グループに分かれて討論をしていただきます。
準備学習	テキスト該当部分を二読三読、しっかり精読していただきたいと思います。
成績評価	出欠と平常点で評価します。
講義構成	以下はテキストの章立てです。 １　理論と歴史 ２　慣習と指令 ３　市場の勃興 ４　都市国家と植民地 ５　貨幣・法・信用 ６　国家の財政 ７　農業の商業化 ８　労働市場 ９　産業革命 10結論
教科書	J.R.ヒックス／新保　博、渡辺　文夫訳『経済史の理論』講談社学術文庫、1995年
参考書・資料	J.R.ヒックスの著作および「歴史とは何か」と題した文庫や新書。 演習の際に紹介したいと思います。

担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。
その他	演習の運営方針 報告グループ、質問グループなどに分かれてもらい活発な討論が行われるようにしたい。卒業論文を書いていただくつもりです。 インゼミにも参加しましょう。

授業コード	31M08		
授業科目名	**ゼミI（小林)(後)**		
担当者名	小林　均（コバヤシ　ヒトシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	9号館7F在校時随意		

講義の内容	２１世紀日本における公・私の役割分担(社会保障と税制) 社会保障(年金・医療・介護）や税制(法人税・消費税等）において何が問題かを、明らかにし、それを受けていかに解決するかを研究することを目的とする。今年は社会保障制度の中心である、年金、医療、介護について検討したい。
到達目標	１．我が国の社会保障制度のどこが問題かをしること

	2. 問題の解決に向けてどうすればよいかを考えること
講義方法	教科書を輪読し、社会保障や税制における問題点をまとめることを、第1の目標とする。 第2として、それを人の前で、いかに、うまく説明するかに焦点を絞って、指導を行う。
準備学習	1.毎日の新聞やTVを通して、社会保障制度に関心をもつ 2. ゼミのテキストを必ず目を通す
成績評価	出席、発表、レポート提出によって、評価する。
講義構成	テキストの輪読と討論(発表グループvs質問グループ：Emailで事前に質問事項を送り、発表グループは答えを用意)を通して、自己のテーマ探しと学ぶことの準備 1.公的年金 2.医療保険 3.介護保険 4.消えた年金記録問題 5.厚生年金の改ざん問題 6.後期高齢者医療制度の迷走 7.病院における医師不足問題 8.大手介護業者の不祥事と撤退 9.介護人材不足問題 10.介護施設の総量規制等々 11.2002年には自己負担率引上等を行った医療制度改革 12.2003年には介護保険料の引上げ 13.2004年には将来の年金給付削減や積立金の取り崩しを決めた年金改革 14.2005年には予防給付等を導入した介護保険制度改革・介護保険料の再引上げ 15.2006年には16.老人の自己負担引上げや後期高齢者医療制度を決めた医療制度改革
教科書	鈴木亘著「だまされないための年金・医療・介護入門」（単価1900円＋税）東洋経済新報社

担当者から一言	社会の動きに関心を持ち、他人とコミュニケーションを楽しめる学生を希望します。公共経済を履修すること。知りたいことがあれば、hkoba@center.konan-u.ac.jp にメールのこと

授業コード	31M09		
授業科目名	**ゼミI（小山)(後)**		
担当者名	小山直樹（コヤマ　ナオキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	火曜日　昼休み		

講義の内容	環境問題について，テキストやインターネットを利用してテーマ研究を行う.
到達目標	テーマ研究をグループで共同して行い、その結果をプレゼンテーションする。また、研究結果をレポートにまとめる。
講義方法	グループ単位でテーマごとに調査研究し，毎回プレゼンテーション用のレジュメを用意したうえで報告を行う. また，月ごとに個人レポートを提出してもらう. さらに，プレゼンテーションについて，相互評価を実施する.
準備学習	グループごとに、毎週、調べた内容を検討し、プレゼンテーションの準備をする。
成績評価	個人レポートおよびプレゼンテーションの相互評価などによって評価する.
講義構成	最初の授業時に相談して決定する.
教科書	適宜指示する.
参考書・資料	適宜指示する.

授業コード	31M10		
授業科目名	**ゼミI（岡田)(後)**		
担当者名	岡田元浩（オカダ　モトヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	第1回目の講義時に伝えます。		

講義の内容	経済学の歴史に関する基礎的学習。くわしくは、２０１０年5月に配布予定の「ゼミ募集要項」で確認をおこなってください。
到達目標	経済学の歴史とそれを学ぶことの現代的意義に関する基礎的知識とともに、プレゼンテーションや文献収集・利用に関する初歩的スキルを身につけることを、目標とします。
講義方法	テキスト輪読と全体解説。
準備学習	各ゼミ授業時に次回以降のゼミ授業内容の予告を行いますので、それに応じた予習・課題への取り組みを行ってください。
成績評価	授業出席と課題への取り組みを主な基準に、総合的に評価します。
講義構成	概ね以下の構成でゼミ指導を行います。 第1回： ガイダンス 第2回～第6回： テキスト輪読 第7回： 個別面談 第8回～第13回： テキスト輪読 第14回： まとめ
教科書	テキストについてはプレ・ガイダンスまたは第1回目の講義時に伝えます。
参考書・資料	その都度紹介します。

授業コード	31M11		
授業科目名	**ゼミI（高)(後）**		
担当者名	高　龍秀（コ　ヨンス）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	授業終了後。		

講義の内容	日本とアジアの電機企業を比較研究する。
到達目標	韓国サムスンがなぜ急成長できたのか。そのライバルである、シャープ、東芝、ソニーは現在のグローバル競争の中でどう対応しようとしているのか、について理解できるようにする。
講義方法	各グループで決まったテーマについて調べて、パワーポイントなどで発表する。
準備学習	各グループで調べるべきテーマと日程をあらかじめ決めるので、発表までにしっかり調べてきて発表できるようにする。
成績評価	出席厳守。 毎回の発表、出席態度を基に評価。
講義構成	1. 企業を分析する視覚 2. 韓国のサムスンはどのように成長してきたのか。 3. サムスンと半導体 4. サムスンと携帯電話 5. サムスンと液晶 6. 日本の企業—シャープ 7. 東芝のフラッシュメモリー 8. ソニーはなぜ液晶TVでサムスンと提携したのか 9. 世界の携帯電話産業：ノキア、サムスン、モトローラ
教科書	授業の中で、それぞれのチームの課題図書を指定します。
参考書・資料	張世進 『ソニーVSサムスン』日本経済新聞社、2009年。 高龍秀 『韓国の企業・金融改革』東洋経済新報社、2009年。

授業コード	31M12

授業科目名	**ゼミI (永廣)(後)**		
担当者名	永廣　顕(エヒロ　アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	ゼミ終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	テーマ 　転換期の日本財政 内容 　財政赤字、税制改革、社会保障制度改革など、現代の日本財政が抱える諸問題について、理論、歴史、制度、政策それぞれに配慮しながら総合的に検討する。
到達目標	日本の財政問題について、活発な討論ができるようになることを目標とする。
講義方法	発表班、質問班、司会班を決め、現代の日本財政に関するテキストを輪読することを基本とする。
準備学習	グループごとに発表、質問等の事前準備をおこなうこと。
成績評価	平常点(出席・発表・討論等の状況)と提出されたレポートの内容により総合評価する。
講義構成	前半は、テキスト輪読のための準備として、レポートやレジメの書き方、資料検索の方法等について指導する。後半は、発表班、質問班、司会班を決めてテキスト(新書2冊)を輪読し、受講者間で討論するとともに、要点について担当者が解説をおこなう。その他2回、工場・企業等の社会見学を実施する。
教科書	橘木俊詔[2006]『格差社会　何が問題なのか』岩波新書、中垣陽子[2005]『社会保障を問いなおす－年金・医療・少子化対策』ちくま新書などを予定しているが、新刊書があれば変更する可能性もある。詳細は開講時に説明する。

担当者から一言	(1)欠席する場合は必ず連絡すること。 (2)“ゼミ”に関心を持ち、ゼミの諸活動には積極的に参加すること。 (3)ゼミⅢまで継続して受講すること。
ホームページタイトル	{ゼミⅠ(2010),http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi1_2010/zemi1_2010.html}
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi1_2010/zemi1_2010.html

授業コード	31M13		
授業科目名	**ゼミI (奥田)(後)**		
担当者名	奥田　敬(オクダ　タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜日4限　9号館7階奥田研究室		

講義の内容	経済学の古典を読む:「経済学」という新しい学問が、なぜ、いかにして、18世紀のヨーロッパに出現したのか？　それは人類の歴史にとってどのような意味をもつのか？　原点(原典)に戻って再考する。
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。
講義方法	受講者の報告と討論を中心に進めていく。
準備学習	毎回、報告者はレジメ、他の受講者は質問メモを準備しておくこと。
成績評価	ゼミへの取り組みの姿勢で判定する。3回以上無断欠席すると失格(遅刻も分単位で換算する)。
講義構成	第1回　オリエンテーション(報告担当箇所の決定) 第2回～第14回　テキストの輪読(報告と討論) 第15回　まとめの討論
教科書	さしあたりはアダム・スミス『国富論』(大河内一男監訳、中公文庫)の全巻読破を目標とする。以後は受講者と相談して決定する。
参考書・資料	その都度指示するが、入門書として堂目卓生『アダム・スミス―『道徳感情論』と『国富論』の世界―』(中公新書)は必読。

その他	ゼミⅢでは、経済学の古典を題材とした卒業論文(レポート)をまとめること。

授業コード	31M14		
授業科目名	**ゼミI（古川)(後)**		
担当者名	古川　顕（フルカワ　アキラ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	授業終了後および在室時はいつでも質問・相談等に応じる。		

講義の内容	金融の理論、政策、制度全般について体系的に学習する。
到達目標	金融の基礎的な理論、金融制度、金融市場について説明できる。
講義方法	毎回、新聞の経済・金融に関する記事をピックアップし、その内容を紹介してもらうとともに、以下の教科書を輪読する。当然のことながら、ゼミへの出席およびゼミ生相互のディスカッションを重視する。
準備学習	新聞の経済・金融欄について毎日欠かさずに読むこと。
成績評価	ゼミへの出席状況、報告内容、討論への参加、各種ゼミ活動への貢献度などを総合的に勘案する。
講義構成	以下のテキストを輪読するとともに、新聞の金融関係の記事について毎回報告してもらう。
教科書	古川　顕『テキストブック　現代の金融』（第2版）東洋経済新報社
参考書・資料	必要に応じて紹介する。

担当者から一言	「よく学びよく遊べ」

授業コード	31M15		
授業科目名	**ゼミI（寺尾)(後)**		
担当者名	寺尾　建（テラオ　タケル）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	ゼミ生のみんなについては，特に設けません．		

講義の内容	〔テーマ〕 現代経済学の基礎． 〔内容・目的〕 「経済はすでに身近だが，経済学はいまだに身近ではない」というスタンスから，「経済はある意味でいまだに身近ではなく，経済学はある意味ですでに身近である」というスタンスに変えること――経済学を精確に理解し，的確に用いることができるようになるために，ここで，一からやり直します．
到達目標	“はじめること”です．
講義方法	〔運営方針〕 「ゼミの時間が来るのが毎週待ち遠しい」とすべてのゼミ生が思うようなゼミにすること． それ自体がひとつのネットワークであるようなゼミにすること． そして，ゼミ生の各々が新たな自分を発見＝発明するようなゼミにすること．
準備学習	「中級ミクロ経済学」（2年次配当，前期／木曜／4・5限，4単位）を受講することをお勧めします（「ゼミⅠ」の受講申込の要件ではありません）．なお，「ゼミⅠ」の受講を申し込む際には，事前に，同担当者による「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」・「中級ミクロ経済学」・「上級マクロ経済学Ⅰ」・「日本経済入門」のシラバスを，必ず熟読しておいてください（いまこの文章を読んだ直後に読むことをお勧めします）．
成績評価	“プレイヤー”は，ゼミ生です．担当教員は，“監督”でも“コーチ”でもなく，“サポーター”です．
講義構成	「ゼミⅠ」は，「基礎」．“はじめること”が，課題です． 「ゼミⅡ」は，「応用」．“つづけること”が，課題です． 「ゼミⅢ」は，「実践」．“おわらせること”が，課題です．
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』（日本評論社，2009年）．
参考書・資料	週に1回，配信されます．

講義関連事項	「ゼミⅠ」＝1.

担当者から一言	“みんなのゼミ”です.
その他	ゼミ生となった場合には,「第10期生」になります. 「“いつも”無条件で自分に手を貸してくれる人が, 100名以上手に入る」と考えてもらってかまいません.
ホームページタイトル	ホームページのタイトルとURLについては, 同担当者による「ゼミⅢ」のシラバスを参照してください.

授業コード	31M16		
授業科目名	**ゼミI（市野)(後)**		
担当者名	市野泰和（イチノ　ヤスカズ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	初回の講義時にお知らせします。		

講義の内容	みんな、いろんなものを全部もっとほしいけど、それは無理――。もっと安くてもっとすいてる生協の食堂がほしい、今の彼氏／彼女はキープしておきたいけどほかの男の子／女の子とも遊びたい、もっと便利な生活をしたいしもっときれいな地球環境がほしい、確かにそうなのですが、でも、それは無理なのだということ。これが、経済学の考え方の基本（その1）です。そんなのぜんぜんふつう、と思われるかもしれませんが、これ、実はけっこう忘れられやすいのです。そういうわけで、市野ゼミも、この考え方から出発しましょう。つまり、「何の犠牲もなしにほしいものを得ることはできない」ということをつねに心にとどめながら、経済・社会の問題を眺めていきましょう。そうすれば、今までは複雑に思えたことが、少しはわかりやすくなるはずです。 ちなみに、経済学の考え方の基本はあと二つあって、その2は「人々はバカじゃない」、その3は「売らしたれ買わしたれ」です。どういうこと？　それも、ゼミで学んでいきましょう。
到達目標	発表や討論などを通して、人の前ですじみちをたてて話ができるようになること。
講義方法	クラスを3人から4人のチームにわけ、発表や討論を行います。
準備学習	人の行動や、世の中のできごとで、「なんでかな」と感じたとき、その行動をした人がどんな状況に置かれているのか、その行動をするとその人にはどんな費用がかかるのか、その行動をするとその人にはどんな便益があるのか、というふうに考えて、「なんでかな」を理解しようと努めてください。
成績評価	発表の質、質疑応答・討論への参加度などにもとづいて評価します。
講義構成	質問ゲーム パワーポイントによる発表 ディベート
教科書	教科書は使いません。

授業コード	31M17		
授業科目名	**ゼミI（林)(後)**		
担当者名	林　健太（ハヤシ　ケンタ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	研究室在室中随時。事前のアポイントメントがあるとベター。		

講義の内容	情報通信産業の現状や今後の動向、問題点等について考察する。 2年次では、皆で討論できる下地作りを行いつつ、ネットワーク経済学の基礎を学んで貰う。
到達目標	情報通信分野の動向を知ることで、これからどのような世の中を生きていかなければならないのかを知ると同時に、そこで散見される諸問題に対し、どう対応すればよいか、自ら考えられるようになる。
講義方法	グループワークを基本とする。 学生によるプレゼンテーション、教員による解説を織り交ぜながら、講義を進行する。
準備学習	日頃から新聞やウェブサイトに目を通し、経済や産業（特に情報通信産業）の動向をチェックしておくこと。
成績評価	プレゼンテーションの内容および講義中に指示するレポートによる。

	レポートは、半期で3回以上の未提出があった場合、単位を放棄したものとして扱う。 学内外を問わず、ゼミへの貢献度は評価したい。
講義構成	第１回： オリエンテーション 第２回： 自己紹介、グループ分け 第３回～第１５回： 教科書の輪読とグループ研究の成果の発表
教科書	吉田和男（2002）『IT経済学入門』 有斐閣コンパクト
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	半期間で3回以上のレポート未提出があった場合、ゼミの単位は放棄したものと見なす。 なお、来年度（2009年度）の「ゼミⅡ」は、前期に4単位分まとめて開講の予定。

担当者から一言	良くも悪くもゼミが学生生活の中心となるよう、一緒に盛り上げていきましょう。

授業コード	31M18		
授業科目名	**ゼミI（森)(後)**		
担当者名	森　剛志（モリ　タケシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	水曜日昼休み		

講義の内容	ゼミIでは、2人ぐらいで1チームで司会者をまわしていきます。最初は決められたテキストを(森剛志「日本のお金持ち妻研究」から）みんな読んできて、どのように思うか。この点についてはどのように書かれているか司会者から聞かれますから、各自が自主的に答えていくという形式をとります。家計の視点から、いろいろなこと（女性の働き方や貯蓄率の変化など）を話し合います。これで半年はかかります。これをさらに深めて充実した内容を発表・報告することが最終課題です。この課題と関連しますが、EXCELなどを用いて、簡単な表やグラフを作成し、報告する技術も身に付けましょう。
到達目標	学んだ内容を自分のことばで話せるようになること。
講義方法	個人による報告とグループディスカッション。
準備学習	示されたテキストや資料を事前に読んでおくこと。
成績評価	報告の質・内容。議論への参加度。
講義構成	1.結婚の経済学 2. 学歴と所得、及び結婚の関係 3. 税制度と家計管理 4. 家計の歴史的考察 等
教科書	池田信夫著「希望を捨てる勇気」ダイヤモンド社 森剛志「日本のお金持ち妻研究」 森剛志「日本のお金持ち研究」

担当者から一言	自分の取り組みたいテーマを半年間かけて探しましょう。

授業コード	31M19		
授業科目名	**ゼミI（後藤)(後)**		
担当者名	後藤　励（ゴトウ　レイ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	開講時に指示します		

講義の内容	近年、医療・介護など健康に関する分野について人々の関心が高まっています。このゼミでは、健康に関する分野それぞれの現状や問題点を経済学的に考える基礎を学びます。

到達目標	社会問題を分析する際の基礎的な知識を身につける。
講義方法	指定したテーマや教材を分担して報告してもらい、参加者全体で議論、担当教員による補足を行います。学期中に2－3回はテーマを与え、レポート提出を求めます。
準備学習	後藤ゼミは今年5期生を募集します。4期生のゼミが水曜日4限にありますので、そちらも参加すれば先輩からいろいろな話が聞けるでしょう。
成績評価	報告の質、議論への参加度合い、レポートによる総合評価
講義構成	開講時に5期生と相談の上決めます。
教科書	特に指定しません。

授業コード	31M20		
授業科目名	**ゼミI（柘植)(後)**		
担当者名	柘植隆宏（ツゲ　タカヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	環境経済学の基礎を学ぶ。環境経済学とは、経済学の理論を用いて環境問題の原因を解明し、有効な対策を考えることを目的とした分野である。
到達目標	ゼミⅡ、ゼミⅢで、環境問題の分析を行う際に用いる経済学的な分析手法を修得すること。
講義方法	基本的知識を共有することを目的として、環境経済学の入門書を輪読する。
準備学習	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。また、新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。
成績評価	出席状況、講義中の発表内容、およびレポートの成績に基づき、総合的に評価する。
講義構成	第１回：環境と社会経済システム 第２回～第３回：外部性の内部化 第４回～第５回：地球温暖化対策の経済分析 第６回～第７回：廃棄物政策の経済分析 第８回～第９回：公共財と費用便益分析 第１０回～第１１回：環境の価値と評価手法 第１２回～第１３回：企業の環境対策 第１４回～第１５回：資源・エネルギー経済学
教科書	未定。受講生と相談して決定する。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 栗山浩一著（2008）『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ～くわかる本』秀和システム 栗山浩一・馬奈木俊介著（2008）『環境経済学をつかむ』有斐閣

担当者から一言	環境問題に関心のある学生、プレゼンテーションやディスカッションのスキル向上に意欲を持つ学生の受講を歓迎する。

授業コード	31M21		
授業科目名	**ゼミI（中島)(後)**		
担当者名	中島清貴（ナカシマ　キヨタカ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	①リスクがどのように定義され，どのようにして管理することが出来るのか，という点に対するの基本事項を理解するとともに，卒業後，組織人として仕事をしていくための基本的な姿勢を皆で考えていく. ②ゼミIIでは，どの財務情報が会社経営にとって大事で，どういったリスクに配慮しないといけないか，という点を勉強するので，そのための準備をゼミIで行う.
到達目標	①リスクとは何なのか，という点をしっかりと理解した上で，リスクという観点からどのように物事がみていけるのかについて指針を与える.

	②グループディスカッションを通じて，異なった意見をまとめる能力を身につけるとともに，プレゼンテーション能力を鍛える． ③春休みにピータードラッカーの本を読むことで，組織人として仕事をし，社会にとって有用な活動をするための基本的な姿勢を皆で考える．
講義方法	ゼミIでは，ゼミ生が互いに信頼し，仲良くなれることを最重要視しながらゼミ運営をしていく．
準備学習	特にありませんが，この世に生を受けたからには，自分を高め，将来，面白い仕事をし，社会の役に少しでも立てれば，という問題意識を持ってゼミの活動にあたってもらえるとありがたいです．
成績評価	ゼミの活動に対する貢献（＝グループディスカッションでの発表の態度と11月以降のテキストの発表資料の出来具合）によって総合的に決めます．ゼミの活動に全く貢献をしていない人には「それなりの」点数しかつけないと思います．
講義構成	①10月末頃まではグループディスカッションを通じて，ゼミ生の交流を促すとともに，異なった意見をとりまとめ，より良いプレゼンテーションを行うためのトレーニングを行う． ②11月からヴァーチャル株式取引とテキストを読んでいく過程で，リスクに対する基本事項を理解する ③ゼミ生がより仲良くなるため，年明けの3月にゼミ旅行に行き，ゼミII での活動に対する準備を行う．
教科書	「ファイナンス」がすらすらわかる本－60分で知ったかぶり　安部　徹也　同文舘出版　1575円
参考書・資料	適宜指示いたします
講義関連事項	毎年，金融機関を目指されている方や大学院進学を考えている方の希望が多いのですが，金融リスクに対する理解や財務情報を読む能力はどの組織に入っても必須です．金融リスクや財務情報を分析するためのツボを知りたい方は誰でもウェルカムです．

担当者から一言	1つの授業当たりで皆さんが払っている授業料は4000円から6000円だそうです．皆さんにとって，この教育投資額に見合う，あるいは，それ以上の「ゼミ運営＝ゼミ生の訓練」を行うことが私に課せられた仕事です．知識に対する投資をしている，という明確な意識をもたれている方にとってはこのゼミを通じて得るところがあると思います．楽に単位をとって，お茶を濁すような知識を得たままでも良いのでとにかく卒業したいと考えている人は（このゼミに限らずどのゼミでも）あまり得るところはないでしょう．ゼミIIの前期セメスターでは，どの財務情報が会社経営にとって大事で，どういったリスクに配慮しないといけないか，という点を勉強するので，その準備をゼミIで行います．

授業コード	31M22		
授業科目名	**ゼミI (阿萬)(後)**		
担当者名	阿萬弘行（アマン　ヒロユキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	講義時間帯にお知らせします。		

講義の内容	主に証券市場に焦点を当てて、現代の金融に関する諸問題を理解するための基礎を学ぶ。証券論、コーポレートファイナンスを数値、データを使って多面的に検討する。適宜、時事的問題についても取り上げる。
到達目標	テキストの基礎的内容をまとめて、分かりやすく報告できること。
講義方法	金融に関するテキストを担当者が報告し、参加者で議論する。また、最近起きている金融・経済の時事的問題について新聞・経済誌記事からの報告を行う。適宜、関連するトピックスについてのレポート課題を課す。参加人数に応じて、グループワークを行う。
準備学習	毎日の経済、金融に関するニュースを新聞・雑誌を通してチェックすることが、内容理解を深める。
成績評価	ゼミの参加状況、報告内容、レポートを総合的に見て評価を行う。
講義構成	毎回のゼミの主な構成 （1）　テキスト内容の報告 （2）　金融・経済についての時事的問題の検討 （3）　関連するトピックスの報告 （4）　レポート課題
教科書	(候補)「道具としてのファイナンス」石野雄一　日本実業出版社
講義関連事項	ゼミ受講生には、毎回の周到な報告準備、議論への積極的参加が求められます。

授業コード	31M23		
授業科目名	**ゼミI（石川)(後)**		
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	火曜4限（前期）もしくは火曜5限（後期）		

講義の内容	都市政策の基礎を学んだ後、都市や地域の抱える問題について調査、その問題に対して有効かつ効果的な政策提言を行う。
到達目標	自分自身で都市や地域の抱える問題を発見する力とともに、論理的な思考力を身につける。また、学生同士での議論（ディベート）の場を通じて、相手の意見を理解する力、自分の意見を表現する力を身につける。
講義方法	受講生のグループワークを中心に講義を進める。なお、適宜PowerPointを用いたプレゼンテーションの機会を設ける。
準備学習	時事問題を扱うため、日頃から新聞等からの情報に関心を持っておく必要がある。また、論理的かつ建設的なディベートを展開するためには、Excelなどの表計算ソフトを用いてデータ分析やグラフ作成を行ったり、PowerPointなどのプレゼンテーションソフトを使う必要がある。このため、これらのソフトを使いこなすことが履修要件ではないが、ゼミを通じて使い方を習得できるよう積極的に努力することが必要である。
成績評価	出席状況とともに、グループワークへの参加意欲（積極性）によって総合的に評価する。
講義構成	第1回　　オリエンテーション 第2～13回　グループワークとその発表、ディベート 第14回　　まとめ
教科書	特に指定しない。配布したレジュメに基づく。
参考書・資料	講義中に適宜指示する。

担当者から一言	ゼミでは基本的にグループで作業することが多いため、学生同士で積極的にコミュニケーションを深めてほしいと思います。すべてのゼミ生が研究の楽しさを知ることができるようなゼミを目指します。

授業コード	31Q01		
授業科目名	**ゼミII（藤本）**		
担当者名	藤本建夫（フジモト　タテオ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）

講義の内容	環境問題と経済対策
到達目標	12月のインゼミで発表できるだけの力をつける
講義方法	報告とディスカッション
準備学習	テキストを良く読んでくる
成績評価	プレゼンテーションの達成度とゼミへの参加度
講義構成	中国の環境政策とヨーロッパの環境政策を交互に行なう
教科書	定方正毅『中国で環境問題にとりくむ』岩波新書 福島清彦『環境問題を経済から見る』亜紀書房

授業コード	31Q02		
授業科目名	**ゼミII（小島）**		
担当者名	小島修一（コジマ　シユウイチ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）

講義の内容	ディベートで学ぶ現代の経済社会 ゼミⅠからの継続で、日本社会が直面するいくつかの経済問題についてディベートを行う。ディベートとその準備過程を通して、論理的な思考力と発表・議論の力をつけることを目的としている。
到達目標	日本社会が直面している経済問題について、自分の意見を持つこと
講義方法	テーマの説明、ディベートの準備、ディベート、審査員による判定、論点の解説という順序で、毎月ゼミ活動を進める。
準備学習	ディベートの前に、必ずチーム単位で打ち合わせを行うこと
成績評価	ゼミでの積極性（調査・発言・リーダーシップなど）によって、成績を評価する。
講義構成	(1)ディベートの準備 (2)ディベートの実践 (3)ディベートの判定と講評
教科書	開講時に指示する。
参考書・資料	『日本の論点』など

授業コード	31Q03		
授業科目名	**ゼミII（杉村）**		
担当者名	杉村芳美（スギムラ　ヨシミ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
オフィスアワー	随時（事前に連絡してください）		

講義の内容	「資本主義の現在と未来」 ゼミⅠからの継続。 インゼミに参加するために、テーマ学習を深め、準備作業を進める。
到達目標	グループワークをとおして、学習テーマについて詳しく調べ、考えを整理し、しっかりした報告を行えるようになること
講義方法	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に進める
準備学習	各回ごとに指示する課題をしっかり行ってくること
成績評価	出席、課題提出、参加姿勢などを、総合的に評価する
講義構成	前期は、今日の資本主義の諸側面について学び、後期はインゼミへの準備をする
教科書	授業で指示する

授業コード	31Q04		
授業科目名	**ゼミII（青木）**		
担当者名	青木浩治（アオキ　コウジ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
オフィスアワー	原則として月曜日午後1－2時。その他時間的余裕があれば、随時対応します。		

講義の内容	社会に出て必要とされるスキルのうち、2年次生では与えられたテーマに沿って、調査・研究および発表を行うため基礎的なスキルを磨きました。3年次生ではその基礎に立って、いよいよ自分で種の仕込み作業、成果の発表と議論というもう一段階上のステップに進む予定です。
到達目標	社会に旅立つために最低限必要なスキルのうち、①自前の提案を行い、②人前で説得的に自分の意見を説明し、質疑応答に耐えられる能力を形成することが最終目標です。また、仲間との議論を通じて、人間関係形成力を養うことも狙います。

講義方法	PCを活用したグループ別作業形式をとります。主体は学生諸君であり、教員は脇役です。
準備学習	前半は各グループで共同研究を実施し、その結果を対抗プレゼンにより発表するので、各自準備が必要です。 また、後半は二つのグループに分かれた共同研究に移るので、同様の準備が必要となります。
成績評価	ゼミ活動への積極的関与度と提出されたレポートの内容により評価します。
講義構成	グループ内での議論と調査・研究を基本とし、時折プレゼンを行います。
教科書	特別の教科書は使用しません。
参考書・資料	テーマに沿った文献を自分たちで発掘していきます。

授業コード	31Q05		
授業科目名	**ゼミII（稲田）**		
担当者名	稲田義久（イナダ　ヨシヒサ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
オフィスアワー	火曜日11:30～12:30　9号館7F　稲田研究室		

講義の内容	どうなる日本経済・世界経済－エコノミストの分析方法を学ぶ－ ゼミⅠで培った経済データベース作成の基礎やプレゼンテーション能力の更なる向上を目指します。 ゼミⅡでは短期の景気分析だけではなく地域（関西）経済にも目を向けます。ダイナミックに変化する日本経済や世界経済の動向を分析し、政策を考えるエコノミストの目を育てたいと考えています。
到達目標	経済分析の基礎能力を経済政策分析にうまく利用する仕方を習得する。
講義方法	ゼミⅠと同様、グループでの学習、報告が中心になります。 ディスカッションとパワーポイントを使ったプレゼンテーションを重視しています。
準備学習	関西経済の発展方向を検討した。関西メガリージョン構想を一読しておいてください。以下のウェブの資料を参照してください。 http://www.kansai.meti.go.jp/7kikaku/mega_region/mega_region.html
成績評価	ゼミへの参加頻度と各自の到達目標レベル達成の成否がポイントとなります。
講義構成	ゼミⅡの活動は以下のステップで進みます。 第1ステップ ゼミを4つのグループに分割。各グループが活動の主体となる。 第2ステップ データの収集方法を習得しその理解を高める時期。経済を理解するのに必要なデータを各グループで収集し、データの読み方を勉強する。毎週その成果を2グループが報告する。 第3ステップ 4つのグループを2つの班に再編。インナーゼミナールでの発表する各班のトピックスを決定する。 第4ステップ 各グループは研究の成果をインナーゼミナールで発表するために、資料作りとプレゼンの準備に従事。 最終ステップ インナーゼミナールで成果を報告。
教科書	特に指定しません。

担当者から一言	望むこと：通信やパソコンに興味のある学生を歓迎します．そしてなによりも，元気・やる気があり，ゼミをめったなことで休まない学生，これがわがゼミの第1希望です．
その他	ゼミでの作業や指導は週1時間程度のゼミの時間だけでは不可能です．そこで，一定の場所に集まって時間をかけてじっくり議論する方法に加え，メール等を有効利用して仮想の空間でゼミを指導する方法を併用しています．

授業コード	31Q06		
授業科目名	**ゼミII（草野）**		
担当者名	草野正裕（クサノ　マサヒロ）		
配当年次	3年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）

講義の内容	テーマ 経済史とその周辺 演習内容 経済史をできるだけ論理的な線に沿って理解することを試みたいと思います。 テキストの輪読以外に、「英語・IT・金融」についてのスキルを中心とした演習を毎回すこしずつ行います。これらは「読書・音楽」に代わる現代の「教養」かも知れません。
到達目標	テキストはかなり難解ですので、半分ぐらいの理解を目指したいと思います。
講義方法	分担を決めて、教科書を輪読します。その後で、グループに分かれて討論をしていただきます。
準備学習	テキスト該当部分を二読三読、しっかり精読していただきたいと思います。
成績評価	出欠と平常点で評価します。
講義構成	以下はテキストの章立てです。 1　理論と歴史 2　慣習と指令 3　市場の勃興 4　都市国家と植民地 5　貨幣・法・信用 6　国家の財政 7　農業の商業化 8　労働市場 9　産業革命 10結論
教科書	J.R.ヒックス／新保　博、渡辺　文夫訳『経済史の理論』講談社学術文庫、1995年
参考書・資料	J.R.ヒックスの著作および「歴史とは何か」と題した文庫や新書。 演習の際に紹介したいと思います。

担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。
その他	演習の運営方針 報告グループ、質問グループなどに分かれてもらい活発な討論が行われるようにしたい。卒業論文を書いていただくつもりです。 インゼミにも参加しましょう。

授業コード	31Q07		
授業科目名	**ゼミII（小林）**		
担当者名	小林　均（コバヤシ　ヒトシ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
オフィスアワー	来校在室時		

講義の内容	経済のグローバル化、世界的競争の時代に、年金を含め所得保障をいかに効率的、公平に達成するかが共通の課題になっている。そうした中で、いま最も注目を浴びているのが、給付付き税額控除制度である。低所得者の経済的支援、少子化対策としての効果が期待されている。人口減少社会における、所得保障、少子化対策を検討するのが、このゼミの求めるうところです。
到達目標	1　自己のテーマ探しと学ぶことの準備をすること 2　.インナーゼミに向けて、グループ分けし、各グループごとにパワーポイントによるプレゼンを行い、実　社会で通用するプレゼン能力を身につけること
講義方法	テキストの輪読と討論(発表グループvs質問グループ：Emailで事前に質問事項を送り、発表グループは答えを用意)を通して、自己のテーマ探しと学ぶことの準備。.後半から、インナーゼミに向けて、グループ分けし、各グループごとにパワーポイントによるプレゼンを行い、実社会で通用するプレゼン能力を身につけることを目指す。
準備学習	1.テーマに関する新聞記事、TV報道を読み、聞くこと
成績評価	1．出欠席と発表およびレポート 2．12月開催のインナーゼミナールでの発表

	3. 上記すべてがなされた場合を基準に、減点方式で評価 上記すべてなされた者の中で、発表内容、ゼミでの態度 の良好な者に「秀」が与えられる。
講義構成	1. 課税上の所得概念① 2. 課税上の所得概念② 3. 課税上の所得概念③ 4. 課税単位① 5. 課税単位②ー女性とと所得税制 6.. 控除制度① 7. 控除制度② 8. 給与所得課税 9. 累進課税 10. 年金税制 11. 相続税 12. 納税者番号制度 13. 所得再分配機能としての所得税（1） 14. 所得再分配機能としての所得税（Ⅱ） 15. 給付付き税額控除（1） 16. 給付付き税額控除（2） 17. 社会保障の財源としての消費税（1） 18. 社会保障の財源としての消費税（2） 19. 社会保障の財源としての消費税（3） 20. プレゼン1（1班） 21. プレゼン2（2班） 22. プレゼン3（3班） 23. プレゼン4（1班） 24. プレゼン5（2班） 25. プレゼン6（3班） 26. プレゼン7（2班） 27. プレゼン8（1班） 28. プレゼン9（3班） 29. プレゼン10（合同） 30. インナーゼミナール
教科書	ゼミⅠでの教科書を継続して使用する。各自教科書を確保すること。

授業コード	31Q08		
授業科目名	**ゼミII（小山)(後)**		
担当者名	小山直樹（コヤマ　ナオキ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
オフィスアワー	火曜日　昼休み		

講義の内容	環境問題について，グループ単位でテーマ研究を継続的に行なう。調査研究の結果は，年末に実施されるインナーゼミナール大会で報告する。
到達目標	インゼミに向けての調査研究の中間報告を毎週行う。12/4（土）のインゼミで最終報告を行う。
講義方法	グループごとに，毎回レジュメを用意した上でプレゼンテーションを行う．また，プレゼンテーションを相互評価する．原則として，インナーゼミナール大会で研究報告を実施する．
準備学習	グループごとに、毎週、調査した内容を検討してプレゼンの準備を行う。
成績評価	テーマ研究についてのレポートとプレゼンテーションの相互評価などを参考にして評価する．
講義構成	最初の授業時に相談して決定する．
教科書	適宜指示する．
参考書・資料	適宜指示する．

授業コード	31Q09		
授業科目名	**ゼミII（岡田）**		
担当者名	岡田元浩（オカダ　モトヒロ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
オフィスアワー	第1回目の講義時に伝えます。		

講義の内容	ゼミＩで学んだ経済学の歴史に関する基礎的知識をさらに深め、インナー・ゼミナール大会(インゼミ)でのその成果の発表に向けた準備を行います。
到達目標	経済学の歴史およびそれを学ぶことの現代的意義をゼミＩ段階より高度に理解するとともに、インゼミ発表準備を通じて、プレゼンテーション・スキルや文献収集・利用に関する基礎および応用知識を身につけます。
講義方法	全体講義・解説とグループ学習。
準備学習	各ゼミ授業時に次回以降のゼミ授業内容の予告を行いますので、それに応じた予習・課題への取り組みを行ってください。
成績評価	授業出席と課題への取り組みを主な基準に、総合的に評価します。
講義構成	概ね以下の構成でゼミ指導を行います。 第1回：　ガイダンス 第2回～第4回：　ゼミＩで用いたテキストの残り部分の学習 第5回～第26回：　インゼミ発表に向けた準備学習 第27回：　インゼミ反省会 第28回：　まとめ
教科書	第1回目の講義時に伝えます。
参考書・資料	その都度紹介します。

授業コード	31Q10		
授業科目名	**ゼミII（高)(後）**		
担当者名	高　龍秀（コ　ヨンス）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限

講義の内容	アジアと日本の企業について研究する。
到達目標	韓国サムスン、日本のシャープ、パナソニックなどについて、歴史的発展過程、競争力、課題を理解するようにする。
講義方法	各グループで決められた課題を調べてきて、パワーポイントなどで発表し、全体で討論する。
準備学習	毎回、事前配布資料を熟読し、与えられた課題をよく考えてくる。
成績評価	出席重視。毎回の発表、参加態度などで評価する。
講義構成	3・4つのグループに分かれて、いくつかのアジア、日本企業を調べて行く。 対象は、韓国のサムスン、日本のシャープ、任天堂、ユニクロ、など。
教科書	高龍秀『韓国の企業・金融改革』東洋経済新報社など、授業で指示する。

授業コード	31Q11		
授業科目名	**ゼミII（永廣）**		
担当者名	永廣　顕（エヒロ　アキラ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）

オフィスアワー	ゼミ終了後、または、担当者の研究室在室時

講義の内容	テーマ 　転換期の日本財政 内容 　財政赤字、税制改革、社会保障制度改革など、現代の日本財政が抱える諸問題について、理論、歴史、制度、政策それぞれに配慮しながら総合的に検討する。
到達目標	12月に開催されるインナーゼミナール大会で、共同研究の成果を発表する。
講義方法	(1)インナーゼミナール大会に向けて、前期中に研究テーマを設定し、研究計画を立てる。 (2)夏休み中から資料収集・調査をおこない、分析・考察した成果を後期のゼミの時間に発表する。 (3)発表時にはゼミⅢ受講者から指導を受けるとともに、ゼミ生全員で討論する。
準備学習	グループとしてまとまりのある発表ができるように研究に取り組むこと。
成績評価	平常点(出席・発表・討論等の状況)と提出されたレポートの内容により総合評価する。
講義構成	前期は、ゼミⅠに引き続きテキスト(新書1冊)の輪読をおこなった後、ゼミ合宿で研究テーマを設定し、インナーゼミナール大会に向けた準備を開始する。後期は、夏休み中から取り組んできた研究の成果をゼミの時間に発表し、討論を重ねることで発表内容のレベルアップに努める。その他4回、工場・企業等の社会見学を実施する。
教科書	輪読時のテキストとして、小比木潔[2009]「消費税をどうするかー再分配と負担の視点から」岩波新書を予定している。
参考書・資料	研究の進行状況に応じて適宜指示する。

担当者から一言	(1)各自責任を持ち、お互いに協力して研究を進めること(決して他人まかせにしないこと)。 (2)ゼミの諸活動には積極的に参加すること。 (3)「財政」および「地方財政Ⅰ・Ⅱ」の未履修者は、必ず履修して講義を聴講すること。
ホームページタイトル	{ゼミⅡ(2010),http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi2_2010/zemi2_2010.html}
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi2_2010/zemi2_2010.html

授業コード	31Q12		
授業科目名	**ゼミII (奥田)**		
担当者名	奥田　敬(オクダ　タカシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	金曜日4限　9号館7階奥田研究室		

講義の内容	経済学の古典を読む:「経済学」という新しい学問が、なぜ、いかにして、18世紀のヨーロッパに出現したのか？ 　それは人類の歴史にとってどのような意味をもつのか？　原点(原典)に戻って再考する。
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。
講義方法	受講者の報告と討論を中心に進めていく。
準備学習	毎回テキストの指定された範囲を読み、レジメまたは質問を準備すること。
成績評価	ゼミへの取り組みの姿勢で判定する。5回以上無断欠席すると失格(遅刻も分単位で換算する)。
講義構成	第1回　オリエンテーション(テキストの選定) 第2回～第14回　テキストの輪読(報告と討論) 第15回　前期のまとめ(夏期休暇中の課題設定) 第16回　夏期休暇中の課題報告 第17回～第29回　テキストの輪読(報告と討論) 第30回　まとめ(卒業論文のテーマ設定)
教科書	受講者と相談して決定する。
参考書・資料	その都度指示するが、入門書として内田義彦『社会認識の歩み』(岩波新書)は必読。

その他	ゼミⅢでは、経済学の古典を題材とした卒業論文(レポート)をまとめること。

授業コード	31Q13		
授業科目名	**ゼミII（古川）**		
担当者名	古川　顕（フルカワ　アキラ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
オフィスアワー	授業終了後および在室時はいつでも質問・相談等に応じる。		

講義の内容	金融の理論、政策、制度全般について体系的に学習する。
到達目標	新聞・雑誌の金融の記事を十分に理解できるうえ、卒業論文作成のための準備ができること。
講義方法	毎回、新聞の経済・金融に関する記事をピックアップし、その内容を紹介してもらうとともに、以下の教科書を輪読する。当然のことながら、ゼミへの出席およびゼミ生相互のディスカッションを重視する。さらに、インナーゼミ、他大学との対抗ゼミに対する準備を行う。
準備学習	新聞の経済・金融欄を毎日欠かさず読んでおくこと。
成績評価	ゼミへの出席状況、報告内容、討論への参加、各種ゼミ活動への貢献度などを総合的に勘案する。
講義構成	テキストを輪読するとともに、新聞・雑誌の金融関係の記事について毎回報告してもらう。さらに適宜、インナーゼミナールおよび他大学との対抗ゼミの進捗状況を報告してもらう。
教科書	古川　顕『テキストブック　現代の金融』（第2版）東洋経済新報社
参考書・資料	必要に応じて紹介する。

担当者から一言	「よく学びよく遊べ」

授業コード	31Q14		
授業科目名	**ゼミII（上島)(前）**		
担当者名	上島康弘（ウエシマ　ヤスヒロ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
オフィスアワー	研究室のドアに掲示.		

講義の内容	さまざまな社会問題を取り上げて，事実を調べて，しくみを考え，解決策を提案する．研究成果をパワーポイントを使って報告して，その内容をレポートに仕上げる．
到達目標	目標は，社会問題のシャーロック・ホームズになること－問題点に目を向けて，必要な情報を集めて理解し，それに推理を加えて解決策を作り上げる力を身につけることである．
講義方法	本や資料を探して読み，プレゼンテーションとレポートの作成を行う．
準備学習	頻繁に出す宿題を必ず期日までに仕上げること．
成績評価	出席点・平常点（80点満点）＋レポート点（20点満点）．出席点について，病気欠席はマイナス5点，無断欠席はマイナス10点．
講義構成	(1)各自，関心のある問題について，本や資料を読んで事実を調べ，しくみを考えて，解決策を提案する． (2)上記(1)の報告の中からゼミ生全員の関心の高いものを選んで，インターゼミナールのテーマ候補とする． (3)全員が何らかのテーマを研究するチームに属して，インターゼミナール発表の準備を進める． (4)インターゼミナールで発表する． (5)発表内容をレポートの形にまとめて提出する．
教科書	インターゼミナールのテーマが決まったら，チームの共通認識となる本を指定する．その本の話の流れとキーワード，図表の意味について，ノートを作りながら読むこと．
講義関連事項	さまざまな講義に出席して，「これをゼミで勉強しよう」と思う問題を見つけてほしい．

担当者から一言	世の中のしくみを実証的に考える．

授業コード	31Q15

授業科目名	**ゼミII（寺尾）**		
担当者名	寺尾　建（テラオ　タケル）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
オフィスアワー	ゼミ生のみんなについては，特に設けません．		

講義の内容	さぁたそ・ミル・ごっちん・カズマ・ショウ・こ～み・べーコン・スーさん・ゆん・ちょく・りっちゃん・まーちゃん・げんた・みぃちゃん・ツッキー・ほっしー・リョウイチ・キョーへー・くーちゃん・のん —— この20名のみんなでしかできないこと，この20名のみんなだからこそできることを，実現すること．
到達目標	“つづけること”です．
講義方法	「みんなで，やった」としかいえないような方法で．
準備学習	準備が，すべて．
成績評価	みんなで，たがいに．
講義構成	みんなで，それぞれに．
教科書	みんなが，「ボク（ワタシ）が教科書！」で．
参考書・資料	みんなが，「ワタシ（ボク）が参考書！」で．
講義関連事項	「ゼミⅠ」＝1．「ゼミⅡ」＝10．

担当者から一言	“みんなのゼミ”です —— 期待しています．
その他	“いつでも”
ホームページタイトル	ホームページのタイトルとURLについては，「ゼミⅢ」のシラバスを参照．

授業コード	31Q16		
授業科目名	**ゼミII（市野）**		
担当者名	市野泰和（イチノ　ヤスカズ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
オフィスアワー	初回の授業でお知らせします。		

講義の内容	みんな、いろんなものを全部もっとほしいけど、それは無理——。もっと安くてもっとすいてる生協の食堂がほしい、今の彼氏／彼女はキープしておきたいけどほかの男の子／女の子とも遊びたい、もっと便利な生活をしたいしもっときれいな地球環境がほしい、確かにそうなのですが、でも、それは無理なのだということ。これが、経済学の考え方の基本（その1）です。そんなのぜんぜんふつう、と思われるかもしれませんが、これ、実はけっこう忘れられやすいのです。そういうわけで、市野ゼミも、この考え方から出発しましょう。つまり、「何の犠牲もなしにほしいものを得ることはできない」ということをつねに心にとどめながら、経済・社会の問題を眺めていきましょう。そうすれば、今までは複雑に思えたことが、少しはわかりやすくなるはずです。 ちなみに、経済学の考え方の基本はあと二つあって、その2は「人々はバカじゃない」、その3は「売らしたれ買わしたれ」です。どういうこと？　それも、ゼミで学んでいきましょう。
到達目標	ミクロ経済学の基本的な概念や考え方を理解すること。そして、それを基にして、自分たちが興味を持った対象について研究をすること。
講義方法	前期は、ゼミ生どうしで、ミクロ経済学の教科書を輪読する。 後期は、ゼミ生自身が選んだテーマについて、ゼミ生で共同研究を行う。
準備学習	人の行動や、世の中のできごとで、「なんでかな」と感じたとき、その行動をした人がどんな状況に置かれているのか、その行動をするとその人にはどんな費用がかかるのか、その行動をするとその人にはどんな便益があるのか、というふうに考えて、「なんでかな」を理解しようと努めてください。
成績評価	報告の質や質疑応答への参加度などにもとづいて評価します。
講義構成	前期： ミクロ経済学の教科書を輪読します。3名程度の班をつくり、班ごとに、担当する章の内容について報告してもらいます。 後期： 12月上旬のインゼミ大会に参加して研究報告をします。

教科書	N.グレゴリー･マンキュー「マンキュー経済学I ミクロ編」 第2版 東洋経済新報社。

担当者から一言	充実したゼミになるように、おたがいがんばりましょう。

授業コード	31Q17		
授業科目名	**ゼミII（森）**		
担当者名	森　剛志（モリ　タケシ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
オフィスアワー	水曜日昼休み		

講義の内容	ゼミIでは、2人ぐらいで1チームで司会者をまわしていきます。最初は決められたテキストをみんな読んできて、どのように思うか。この点についてはどのように書かれているか司会者から聞かれますから、各自が自主的に答えていくという形式をとります。家計の視点から、日本の労働市場の問題などを中心にを話し合います。また「人を動かす方法」について行動経済学の考え方を使って、学んでいきます。最終的には学んできたものを発表・報告することが最終課題です。また、EXCELなどを用いて、簡単な表やグラフを作成し、報告する技術も身に付けましょう。
到達目標	数枚のタームペパーを作成すること。
講義方法	個人による報告とグループディスカッション。
準備学習	教科書を事前に読んでおくこと。 与えられた課題を事前にこなしておくこと。
成績評価	報告の質・内容。議論への参加度。
講義構成	1.日本の労働市場 2. 海外の労働市場 3. 労働者間の格差問題 4. 日本の労働市場の将来 5. 非合理な人の行動 6. プロスペクト理論 7. 近い将来を大きく割り引くモデル 等
教科書	池田信夫著「希望を捨てる勇気」ダイヤモンド社 多田洋介『行動経済学入門』（日本経済新聞社）

担当者から一言	自分の取り組みたいテーマを時間をかけて探しましょう。

授業コード	31Q18		
授業科目名	**ゼミII（後藤）**		
担当者名	後藤　励（ゴトウ　レイ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
オフィスアワー	ゼミ生はメール連絡によるアポイントメントにより随時		

講義の内容	ゼミⅠではグループディスカッションを中心に行いました。ゼミⅡでは、個人発表と12月のインゼミに向けてのグループ発表の両方を行います。研究テーマを決めること、それをデータに基づいてしっかり調べることの難しさについては、何となくわかったと思います。しゃべりが効く人は自分の能力を過信しないでより説得的な説明を心がけましょう。しゃべりが苦手な人もこつこつ調べて、人が気づかない点を見つけましょう。
到達目標	集団または一人で、分析可能な問題を発見し、データに基づいて論理的な分析を行う基礎を身につけること。
講義方法	グループまたは個人による報告、全体でのディスカッション＋担当者の補足講義 など
準備学習	ゼミの場合、時間の延長や宿題（個人やグループに対する）がありえます。水曜日5限はそうした準備学習や復習に使われることが多いでしょう。

成績評価	出席、報告の質、全体ディスカッションへの参加度合い、学期末レポート（ゼミⅡは通年なので二回）による総合評価
講義構成	グループディスカッションや個人報告の他にも、簡単な計量経済学的な分析についての講義などを行う
教科書	特に指定しない

担当者から一言	前期金曜日3限に「健康経済」を3/4回生向けに開講します。ゼミ生はそちらも受講してください。

授業コード	31Q19		
授業科目名	**ゼミII（柘植）**		
担当者名	柘植隆宏（ツゲ　タカヒロ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）

講義の内容	ゼミⅠで修得した環境経済学の知識を活用して、グループ単位でレポートを作成する。研究成果は、インナーゼミナール大会で発表する。
到達目標	・経済学的な分析手法を用いて、現実の環境問題を分析できるようになること。 ・研究内容をレポートにまとめるとともに、その内容に関してプレゼンテーションやディスカッションができるようになること。
講義方法	・グループごとに、研究の進行状況を発表する。 ・レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどのトレーニングも行う。
準備学習	・新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。 ・必要に応じて、ゼミ以外の時間にもグループワークを行うこと。
成績評価	出席状況、講義中の発表内容、およびレポートの成績に基づき、総合的に評価する。
講義構成	研究テーマの設定 先行研究のレビュー 調査・分析 レポートの作成 プレゼンテーション ディスカッション
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 栗山浩一著（2008）『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ～くわかる本』秀和システム 栗山浩一・馬奈木俊介著（2008）『環境経済学をつかむ』有斐閣

授業コード	31Q20		
授業科目名	**ゼミII（中島）**		
担当者名	中島清貴（ナカシマ　キヨタカ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）

講義の内容	①前期セメスターでは，会社経営にとってどういった財務情報に留意する必要があるのか，どういった金融リスクに配慮しないといけないか，どういったコストを低く抑えないといけないか，という点を理解する. ②後期セメスターでは，インターゼミナール大会の準備を行う. ③インターゼミナール大会終了後は，グループディスカッションと疑似的な役員面接を通じて，就職活動のための実践的なトレーニングを行う.
到達目標	ゼミII では，会社経営にとってどんな金融情報に配慮しないといけないのか，という点を皆が理解出来るようになるとともに，インターゼミナール大会の準備を通じて，組織の中で仕事をしていくことの面白さと難しさを実感してもらう. インターゼミナール大会での発表テーマは金融リスクに関するテーマが望ましいが，各自が面白いうと考えるものであれば原則，何でも良い. インターゼミナール大会終了後は，グループディスカッションや疑似的な役員面接を通じて，就職活動のための実践的なトレーニングをしていく.

講義方法	ゼミIIでは，ゼミ生が将来，社会や会社組織でしっかりと生きいけるようになるためのトレーニングを行う.
準備学習	特にありませんが，この世に生を受けたからには，自分を高め，将来，面白い仕事をし，社会の役に少しでも立てれば，という意識を持ってもらえるとありがたいです.
成績評価	ゼミへの貢献によって総合的に評価します.
講義構成	①前期セメスターでは，会社経営にとって必要な基本的な金融情報（コーポレートファイナンス）をテキストを読みながら身につける. ②後期セメスターでは，インターゼミナール大会の準備を行う. なお，発表のテーマは何でも良い. ③インターゼミナール大会終了後は，グループディスカッションを何度も行うことで，就職活動のための実践的なトレーニングを行う.
教科書	ざっくり分かるファイナンス－経営センスを磨くための財務　石野雄一　光文社新書　756円
講義関連事項	金融リスクに対する理解や財務情報を読む能力はどの組織に入っても必須です. 金融リスクや財務情報を分析するためのツボを学習することで，現代の会社経営にとってどういった金融情報に配慮しないといけないのかをしっかりと理解し，自信を持って就職活動に臨みましょう.

担当者から一言	1つの授業当たりで皆さんが払っている授業料は4000円から6000円だそうです. 皆さんにとって，この教育投資額に見合う，あるいは，それ以上の「ゼミ運営＝ゼミ生の訓練」を行うことが私に課せられた仕事です. 知識に対する投資をしている，という明確な意識をもたれている方にとってはこのゼミを通じて得るところがあると思います. 楽に単位をとって，お茶を濁すような知識を得たままでも良いので，とにかく卒業したいと考えている人は（このゼミに限らずどのゼミでも）あまり得るところはないでしょう. ゼミIIでは，コーポレートファイナンスの基本的な理解とインターゼミナール大会への参加を通じて，就職活動を自信をもって臨めるようになるための訓練を行っていく予定です.

授業コード	31Q21		
授業科目名	**ゼミII（阿萬）**		
担当者名	阿萬弘行（アマン　ヒロユキ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）

講義の内容	証券市場への理解を深めるために、証券分析、企業分析の基礎的方法をグループワークを通して学ぶ
到達目標	実際の企業、金融データに対して、証券分析の方法を応用できること。グループで協力して、レポートを完成できること。
講義方法	主にグループワークでの学習を行う。テキスト、ウェブサイトを活用する。
準備学習	毎日の経済金融に関するニュースを新聞、雑誌等を通してチェックすることで理解が深まる。
成績評価	レポート、報告内容によって評価する。
講義構成	テキスト内容の報告 グループによる調査・分析 グループによる結果の報告 テーマに関する議論
教科書	(候補)「証券分析入門」 井出正介　高橋文郎　日本経済新聞社

授業コード	31R01		
授業科目名	**ゼミIII（藤本)(後）**		
担当者名	藤本建夫（フジモト　タテオ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	卒業論文の個別指導
到達目標	論文の完成
講義方法	個別的にディスカッション

準備学習	指摘する論点について次回までに調べてくる
成績評価	論文の完成度
講義構成	すべて個別指導
教科書	なし

授業コード	31R02		
授業科目名	**ゼミIII (小島)(後)**		
担当者名	小島修一(コジマ　シユウイチ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	これまでのゼミ活動の成果を踏まえながら、受講生と相談して決める予定。
到達目標	大学生活最後の研究成果をまとめる。
講義方法	受講生と相談して決める予定。
準備学習	グループでの打ち合わせを事前にしておくこと。
成績評価	ゼミ活動への積極性を中心として評価を行う予定。
講義構成	受講生と相談して決める予定。
教科書	開講時に指示する。

授業コード	31R03		
授業科目名	**ゼミIII (杉村)(後)**		
担当者名	杉村芳美(スギムラ　ヨシミ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	随時(事前に連絡してください)		

講義の内容	卒業レポート作成の指導
到達目標	各自の研究成果を卒業レポートのかたちにまとめること
講義方法	各自の研究作業の進展に応じてゼミ指導を行う
準備学習	指示された作業プロセスを着実にこなしていくように
成績評価	作業姿勢および成果提出による
講義構成	各自の作業の進展に応じた指導を行っていく
教科書	授業時に指示する

授業コード	31R04		
授業科目名	**ゼミIII (佐藤)(後)**		
担当者名	佐藤治正(サトウ　ハルマサ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	卒論指導。
到達目標	400字35枚程度の卒論を作成する。

講義方法	卒論テーマに関するプレゼンテーションと論文指導。
準備学習	卒論の進捗状況に合わせて、個別指導する。
成績評価	卒論。ゼミへの参加度、姿勢等、総合的に評価。
講義構成	春の段階で、中間報告をしてもらい、秋から本格的に、テーマ、構成、結論等について議論を進め、卒論を完成させる。
教科書	特になし。

授業コード	31R05		
授業科目名	**ゼミIII (青木)(後)**		
担当者名	青木浩治(アオキ　コウジ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	原則として金曜日午後1-2時ですが、必要に応じて随時対応します。		

講義の内容	卒業論文という、大学生活最後の成果を創ることを目指します。この作業により、テーマの選択と調査。研究、および文章化という社会に入って必要となる、しかしなかなか身に付きにくいスキルを形成することが目標です。
到達目標	2-3年次では、社会に旅立つために最低限必要なスキルのうち、①自前の提案を行い、②人前で説得的に自分の意見を説明し、質疑応答に耐えられる能力を形成することに重点を置きました。このゼミIIIでは自分で追求すべきテーマを設定し、自分で調査・分析する能力を養うことが目標です。
講義方法	各自の研究発表と質疑応答の形をとります。
準備学習	毎回1週間の調査・研究成果を発表することになるので、その準備を行ってください。
成績評価	発表と提出された卒業論文の内容で評価します。
講義構成	毎週各自の研究内容のプレゼンテーションを行う。 その発表に基いて質疑応答し、改善点を発掘する。
教科書	特定の教科書は使用しません。

担当者から一言	大学生活の総決算ですので、後に残るものを創ってください。

授業コード	31R06		
授業科目名	**ゼミIII (稲田)(後)**		
担当者名	稲田義久(イナダ　ヨシヒサ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	火曜日11:30～12:30　9号館7F　稲田研究室		

講義の内容	ゼミⅡで培った知識をベースに卒論の作成に取り組みます.
到達目標	ゼミⅡで取り扱った課題を発展的に研究し、理解のレベルを上げる。
講義方法	卒論の論題を決定し, それに沿って各自の卒論作成を指導する.
準備学習	ゼミⅡで学習したことを簡単にまとめておくこと。
成績評価	卒論の提出が成績評価の必須条件です.
講義構成	卒論指導は以下のステップを経て完成させます。 第1期　各自卒論の課題選択 第2期　データ及び文献収集 第3期　卒論の第1ドラフト 第4期　報告と修正 第5期　最終調整
教科書	特に使用しない。

授業コード	31R07		
授業科目名	**ゼミIII（草野)(後)**		
担当者名	草野正裕（クサノ　マサヒロ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	テーマ 経済史とその周辺 演習内容 経済史をできるだけ論理的な線に沿って理解することを試みたいと思います。
到達目標	卒業論文を完成していただきます。
講義方法	ゼミナリステン諸君の卒論報告とそれについての討論をしていただきます。
準備学習	各自卒業論文の作成に向けて鋭意努力してください。
成績評価	出欠と平常点,卒業論文で評価します。
講義構成	輪番によるゼミナリステン諸君の報告とそれについての討論。（歴史から見た）労働・環境その他のテーマ。
教科書	J.R.ヒックス／新保　博、渡辺　文夫訳『経済史の理論』講談社学術文庫、1995年
参考書・資料	J.R.ヒックスの著作および「歴史とは何か」と題した文庫や新書。 演習の際に紹介したいと思います。

その他	演習の運営方針 卒業論文を書いていただくつもりです。報告グループ、質問グループなどに分かれてもらい活発な討論が行われるようにしたい。 インゼミにも参加しましょう。

授業コード	31R08		
授業科目名	**ゼミIII（小林)(後)**		
担当者名	小林　均（コバヤシ　ヒトシ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	共通のテーマとして、現代における社会保障保障制度の問題について
到達目標	1．ゼミⅠ、ゼミⅡで学習、研究してきたテーマについて、ゼミⅢで 　集大成を目指して、卒業レポートの作成 2．プレゼンテーションの内容と発表の仕方について一層の向上
講義方法	共通のテーマについて輪読と、各自のテーマについての ディスカッションを行う。
準備学習	教科書を事前に読むこと。
成績評価	出席とレポートの提出
講義構成	1．ゼミⅠ、ゼミⅡで研究してきたテーマに関連して、各自の一層の研究の向上の一助 になるよう、指導する。
教科書	[だまされないための年金・医療・介護入門」鈴木亘著、東洋経済新報社　2009

授業コード	31R09

授業科目名	**ゼミIII (小山)(後)**		
担当者名	小山直樹(コヤマ　ナオキ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限
オフィスアワー	火曜日　昼休み		

講義の内容	卒業論文作成の個別指導を行う。
到達目標	選択した研究テーマについて、論理的な考察と実証を行い、経済学的な思考法を反映した卒業論文を作成する。
講義方法	毎回、個人研究の中間報告を行い、個別に研究指導を行う。
準備学習	毎週、個人研究の中間報告の準備を行う。
成績評価	卒業論文の提出をもって成績評価する。
講義構成	最初のゼミ時に打ち合わせして決定する。
教科書	適宜指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	ゼミⅢ(小山)(後)を履修予定の学生は、必ず、7月末までに、小山まで、自分の研究テーマと研究概要を届け出ること。(メールでも可)

授業コード	31R10		
授業科目名	**ゼミIII (岡田)(後)**		
担当者名	岡田元浩(オカダ　モトヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	第1回目の講義時に伝えます。		

講義の内容	3年にわたるゼミ学習の総仕上げとして、英文による卒業論文の作成とその準備を行います。
到達目標	英語論文の書き方に関する基本および応用スキルの習得を目標とします。
講義方法	テキストを用いての英語論文作成解説と、資料収集・利用に関するアドバイスを中心に、卒論指導を行います。
準備学習	各ゼミ授業時に次回以降のゼミ授業内容の予告を行いますので、それに応じた予習・課題への取り組みを行ってください。
成績評価	授業への出席・取り組みと提出卒論内容を主な基準に、総合的に評価します。
講義構成	概ね下記の構成でゼミ指導を行います。 第1回:　ガイダンス 第2回:　論文作成の手順に関する全体説明 第3回～第１３回:　テキスト解説および進行状況に応じた個別指導 第14回:　卒論提出および卒論発表会
教科書	テキストについては第1回目の講義時に伝えます。
参考書・資料	その都度紹介します。

授業コード	31R11		
授業科目名	**ゼミIII (高)(後)**		
担当者名	高　龍秀(コ　ヨンス)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限

講義の内容	卒業論文作成にむけた、各自の研究を発表しあう。
到達目標	甲南大学での4年間の勉強の集大成としての卒業論文をレベルの高いものとしてまとめる。
講義方法	各自が、自分の関心のあるテーマについて調べてくる。それに関連した補足説明と議論を行う。
準備学習	毎回、与えられて課題について、よく考えてくる。事前配布する資料をよく読んでくる。
成績評価	出席重視。 毎回の発表と出席態度を基に評価。
講義構成	1. 半導体産業について 2. 液晶の発達 3. 米国と日本の半導体産業 4. 韓国など後発半導体企業 5. 韓国・台湾の液晶産業 6. ユニクロの歴史 7. ユニクロのSPAとは何か
教科書	授業の中で指示する。

授業コード	31R12		
授業科目名	**ゼミIII (永廣)(後)**		
担当者名	永廣　顕(エヒロ　アキラ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	ゼミ終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	テーマ 　転換期の日本財政 内容 　財政赤字、税制改革、社会保障制度改革など、現代の日本財政が抱える諸問題について、理論、歴史、制度、政策それぞれに配慮しながら総合的に検討する。
到達目標	自分の興味・関心から設定したテーマについて、学生生活の集大成として卒業論文を作成する。
講義方法	(1)各自で卒業論文の作成に取り組む。また、卒論作成の個別指導を実施する。 (2)ゼミⅡに参加し、インゼミに向けた発表に対して指導する。 (3)時事問題について、ゼミ生全員で討論する。
準備学習	「卒論研究計画書」、「卒論内容構成案」、「卒論草稿」を期日までに提出できるように準備しておくこと。
成績評価	平常点(出席・卒論作成・インゼミ指導等の状況)と提出された卒業論文の内容により総合評価する。
講義構成	卒論作成の個別指導とインゼミの指導が中心である。その他数回、時事問題についての討論や工場・企業等の社会見学を実施する。
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	研究の進行状況に応じて適宜指示する。

担当者から一言	(1)卒論作成の個別指導を随時実施するので、積極的に指導を受けること。 (2)ゼミⅡでの経験を踏まえて、インゼミの指導をおこなうこと。 (3)最終学年でもあるので、ゼミの諸活動には積極的に参加すること。
ホームページタイトル	{ゼミⅢ(2010),http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi3_2010/zemi3_2010.html}
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi3_2010/zemi3_2010.html

授業コード	31R13		
授業科目名	**ゼミIII (奥田)(後)**		
担当者名	奥田　敬(オクダ　タカシ)		
配当年次	4年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	金曜日4限　7号館9階奥田研究室		

講義の内容	経済学の古典を題材とした卒業論文(レポート)の作成を指導する。
到達目標	大学生活の総まとめとなるような卒業論文を仕上げること。
講義方法	受講者の報告と討論を中心に進めていく。
準備学習	報告にあたっては、レジメ・資料集・参考文献リストを準備すること。
成績評価	平常点と卒業論文(レポート)による。
講義構成	第1回　オリエンテーション(報告スケジュールの決定) 第2回～第13回　受講者の報告と討論(必要に応じて文献講読も行う) 第14回～第15回　卒業論文(レポート)の最終報告と討論
教科書	受講者各自が卒業論文(レポート)のテーマとして選んだ経済学の古典。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	31R14		
授業科目名	**ゼミIII (古川)(後)**		
担当者名	古川　顕(フルカワ　アキラ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	卒業論文作成の指導と新聞の経済・金融欄の熟読。
到達目標	卒業論文の作成と新聞・雑誌の経済・金融欄が正確に理解できること。
講義方法	卒業論文の中間報告と新聞記事の発表。
準備学習	新聞の経済・金融欄を毎日欠かさず読んでおくこと。卒業露文の作成に必要な資料を収集すること。
成績評価	卒業論文の内容と平常の学習態度。
講義構成	卒業論文の書き方や参考文献の紹介、卒業論文の中間報告などを行う。
教科書	適宜指示する。

担当者から一言	「よく学びよく遊べ」

授業コード	31R15		
授業科目名	**ゼミIII (上島)(前)**		
担当者名	上島康弘(ウエシマ　ヤスヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限
オフィスアワー	研究室のドアに掲示.		

講義の内容	さまざまな社会問題を取り上げて，事実を調べて，しくみを考え，解決策を提案する．研究成果をパワーポイントを使って報告し，その内容をレポートにまとめる．
到達目標	目的は，社会問題のシャーロック・ホームズになること－問題点に目を向けて，必要な情報を集めて理解し，それに推理を加えて解決策を作り上げる能力を身に付けることである．
講義方法	本や資料を探して読み，プレゼンテーションとレポートの作成を行う．
準備学習	必ず決められた期日までに報告の準備を仕上げること．
成績評価	「授業の最終回までに卒業レポートを提出すること」が単位取得のための必要条件である．それらを満たした上で，出席点・平常点(80点満点)＋レポート・発表点(20点満点)．出席点について，病気欠席はマイナス5点，無断欠席はマイナス10点．なお，‘お付き合い’で履修していただく必要はありません．

講義構成	（卒業レポートの提出）各自，関心のある問題について，本や資料を探して読んで，事実を調べ，しくみを考えて，解決策を提案する．その研究成果をレポートにまとめて提出する．テーマは基本的に自由．たとえば，公務員志望の人は「生活保護制度の問題点」，食品関係に就職する人は「マグロが枯渇する」，証券会社に就職する人は「排出権取引の実際」などのテーマを選択することは可能である．ただし，労働分野を離れると，上島には専門知識がありません（いっしょに勉強しましょう）．
教科書	各自のテーマが決まったら，出発点となる本を指示する．その本の話の流れとキーワード，図表の意味について，ノートを作りながら読むこと．

担当者から一言	世の中のしくみを実証的に考えよう．

授業コード	31R16		
授業科目名	**ゼミIII（寺尾）(後)**		
担当者名	寺尾　建（テラオ　タケル）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	ゼミ生のみんなについては，特に設けません．		

講義の内容	たくちゃんがたくちゃんであるために．ヤンくんがヤンくんであるために．りょーたがりょーたであるために．たかがたかであるために．くみちゃんがくみちゃんであるために．ニックがニックであるために．せーこがせーこであるために．コックンがコックンであるために．まえやんがまえやんであるために．もーちゃんがもーちゃんであるために．はなちゃんがはなちゃんであるために．けいちゃんがけいちゃんであるために．ふっちゃんがふっちゃんであるために．あやえがあやえであるために．コットンがコットンであるために．ひろがひろであるために．らおうがらおうであるために．りょうすけがりょうすけであるために．ゆいちゃんがゆいちゃんであるために．ああかがああかであるために．
到達目標	“おわらせること”です．
講義方法	“教えること”は，一切しません．
準備学習	2010年9月の開講までに，新たに100冊の本を読み，100の「問い」を考えておくこと．
成績評価	「評価」という言葉を耳にしたとき，年上の人からの評価ではなく，年下の人からの評価のことを先に考えられるようになること．
講義構成	“考えさせること”のみで，構成します．
教科書	教科書を用いて行うようなことは，すでに終えています．
参考書・資料	参考書・資料を用いて行うようなことも，すでに終えています．
講義関連事項	「ゼミⅠ」＝1．「ゼミⅡ」＝10．「ゼミⅢ」＝100．

担当者から一言	これで，「学校」は終わりです――それで，始まりです．
その他	“いつも　いつでも　いつまでも”
ホームページタイトル	ホームページのタイトルとURLは，毎年，卒業式の終了後に伝えています．

授業コード	31R17		
授業科目名	**ゼミIII（市野）(後)**		
担当者名	市野泰和（イチノ　ヤスカズ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	初回の講義時にお知らせします。		

講義の内容	みんな、いろんなものを全部もっとほしいけど、それは無理――。もっと安くてもっとすいてる生協の食堂がほしい、今の彼氏／彼女はキープしておきたいけどほかの男の子／女の子とも遊びたい、もっと便利な生活をしたいしもっときれいな地球環境がほしい、確かにそうなのですが、でも、それは無理なのだということ。これが、経済学の考え方の基本（その1）です。そんなのぜんぜんふつう、と思われるかもしれませんが、これ、実はけっこう忘れられやすいのです。そういうわけで、市野ゼミも、この考え方から出発しましょう。つまり、「何の犠牲もなしにほ

	しいものを得ることはできない」ということをつねに心にとどめながら、経済・社会の問題を眺めていきましょう。そうすれば、今までは複雑に思えたことが、少しはわかりやすくなるはずです。 ちなみに、経済学の考え方の基本はあと二つあって、その2は「人々はバカじゃない」、その3は「売らしたれ買わしたれ」です。どういうこと？　それも、ゼミで学んでいきましょう。
到達目標	ミクロ経済学の理論をもとに、自ら設定したテーマで研究をし、それを論文にまとめる力をつけること。
講義方法	論文指導をします。
準備学習	人の行動や、世の中のできごとで、「なんでかな」と感じたとき、その行動をした人がどんな状況に置かれているのか、その行動をするとその人にはどんな費用がかかるのか、その行動をするとその人にはどんな便益があるのか、というふうに考えて、「なんでかな」を理解しようと努めてください。
成績評価	卒業研究論文の質によって評価します。
講義構成	第1回：卒業論文のテーマ選定 第2回から第15回：論文作成指導
教科書	指定しません。あなたが自分で見つけてください。
参考書・資料	その都度、紹介します。

担当者から一言	良い卒業論文が書けるよう、おたがいがんばりましょう。

授業コード	31R18		
授業科目名	**ゼミIII（林)(後)**		
担当者名	林　健太（ハヤシ　ケンタ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	研究室在室中随時。事前のアポイントメントがあるとベター。		

講義の内容	情報通信産業の現状や今後の動向、問題点等について考察し、その成果をインナー・ゼミナール大会で発表する。 同時に、卒業レポート作成希望者にはその指導を行う。
到達目標	情報通信分野の動向を知ることで、これからどのような世の中を生きていかなければならないのかを知ると同時に、そこで散見される諸問題に対し、どう対応すればよいか自ら考え、他人に説明できる。
講義方法	インナーゼミナール大会に向けてのテーマ選定、資料作成、報告担当割当を講義中に決め、ゼミ合宿を経て本番に臨む。
準備学習	日頃から新聞やウェブサイトに目を通し、経済や産業（特に情報通信産業）の動向をチェックしておくこと。
成績評価	インナー・ゼミナール大会に向けての取り組み姿勢を評価する。 １０回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。
講義構成	第１回～第４回：　テーマ選定、役割分担 第５回～第１２回：　論点整理およびプレゼンテーション用資料の作成 第１３回：　ゼミ合宿 第１４回：　本番前最終確認 第１５回：　インナー・ゼミナール大会で発表
教科書	指定しない。

担当者から一言	大学最後の思い出作りに励んで下さい。

授業コード	31R19		
授業科目名	**ゼミIII（森)(後)**		
担当者名	森　剛志（モリ　タケシ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	水曜日昼休み.		

講義の内容	日本の労働市場はどうなっていくのか、労働市場の問題を中心にいろいろなこと(女性の働き方や守られすぎ働かせられすぎている正社員の問題など)を話し合います。ゼミⅢでは、2人ぐらいで1チームで司会者をまわしていきます。最初は決められたテキストをみんな読んできて、どのように思うか。この点についてはどのように書かれているか司会者から聞かれますから、各自が自主的に答えていくという形式をとります。これをさらに深めて充実した内容を発表・報告することが最終課題です。
到達目標	学んだ内容を自分のことばで話せるようになること。
講義方法	個人による報告とグループディスカッション。
準備学習	示されたテキストや資料を事前に読んでおくこと。
成績評価	報告の質・内容。議論への参加度。
講義構成	1.日本の労働市場 2. 海外の労働市場 3. 労働者間の格差問題 4. 日本の労働市場の将来 等
教科書	池田信夫著「希望を捨てる勇気」ダイヤモンド社

担当者から一言	水曜日の午前中を討論のために利用することがありますので、空けておいてください。

授業コード	31R20		
授業科目名	**ゼミIII (後藤)(後)**		
担当者名	後藤　励(ゴトウ　レイ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	ゼミⅢでは、卒業論文を書いてもらいます。テーマ探し(もう決まっていると思いますが)、資料探し、書く、という一連の作業を学生生活の仕上げとしましょう。
到達目標	12月中旬までに卒業論文を完成させる。
講義方法	参加者による報告と全体討論
準備学習	報告の際には事前に発表資料を作成し、担当者に送付すること。
成績評価	卒業論文による評価。
講義構成	9月より月1回以上は全員の前で内容報告。12月中旬に卒業論文完成。
教科書	特に指定しない。

授業コード	31R21		
授業科目名	**ゼミIII (柘植)(後)**		
担当者名	柘植隆宏(ツゲ　タカヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	ゼミⅠとゼミⅡで修得した知識と技術を活用し、卒業論文を作成する。
到達目標	・経済学的な分析手法を用いて、現実の環境問題を分析できるようになること。 ・研究内容を論文にまとめるとともに、その内容に関してプレゼンテーションやディスカッションができるようになること。ゼミⅡよりも高い水準を目指す。
講義方法	卒業論文作成に向けた個人研究の進行状況を発表する。
準備学習	・新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。 ・ゼミ以外の時間にも積極的に研究に取り組むこと。
成績評価	卒業論文の内容により評価を行う。

講義構成	研究テーマの設定 先行研究のレビュー 調査・分析 論文の作成 プレゼンテーション ディスカッション
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 栗山浩一著(2008)『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ～くわかる本』秀和システム 栗山浩一・馬奈木俊介著(2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣

授業コード	31R22		
授業科目名	**ゼミIII (中島)(後)**		
担当者名	中島清貴(ナカシマ　キヨタカ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	基本的には，卒業論文作成のための指導を行っていく予定であるが，受講生と相談の上で，何をしていくか決めていくつもりである.
到達目標	仕事を通じて組織に貢献し，その組織への貢献が社会への貢献につながるような仕事の仕方はどういったものなのか，を皆で考えていきたいと考えている.
講義方法	受講生と私とのディスカッションを中心とした講義形式をとっていく.
準備学習	卒業論文を書かれる人は，事前に論文のテーマをお持ちであれば指導がし易いです.
成績評価	ディスカッションへの参加状況によって評価する.
講義構成	受講生と個別に相談の上，決めていく予定である.
教科書	特に指定しないが，ピータードラッカーの本や週刊東洋経済，エコノミストの記事を題材に議論する予定である.
参考書・資料	随時指示する.
講義関連事項	卒業論文を作成される場合には，腰を据えてしっかりと指導するつもりです．それ以外で参加される方は何をするか相談して決めていきましょう.

担当者から一言	甲南大学を卒業され，これから社会に出られるゼミ生の方々に少しでも役立つような言葉を一生懸命に吐いていければ，と思っております.

授業コード	31060		
授業科目名	**地方財政**		
担当者名	永廣　顕(エヒロ　アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	一国の財政は、国と地方自治体の財政から構成されている。今日の日本においては、地方分権化が急速に進展し地方財政の重要性が高まっている中で、地方間の財政力格差の是正や財政破綻の回避が当面の政策課題となっている。本講義では、日本の地方財政について、理論、制度、歴史、政策それぞれに配慮しながら解説をおこなう。また、昨年9月の政権交代がもたらす地方財政への影響についても可能な範囲で言及したい。
到達目標	今日の日本の地方財政を多角的な視点から理解できるようになることを目標とする。
講義方法	(1)板書中心の講義形式とする。 (2)参考資料の説明時にパワーポイントを使用する。 (3)My KONANで、講義前日までにレジメを公開する。

	(4)講義開始時にレジメと参考資料を配付する。 (5)講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくこと。
準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、公開されたレジメにより講義の概要を確認しておくこと。
成績評価	学期末試験(前期・後期の2回実施)の得点のみで評価する。
講義構成	1. イントロダクションー地方財政を学ぶにあたって 2. 財政システムと地方財政(1)ー地方財政とは何か 3. 財政システムと地方財政(2)ー国と地方の財政関係 4. 地方経費ー地方経費の分類と構造 5. 地方税(1)ー地方税の体系 6. 地方税(2)ー住民税 7. 地方税(3)ー事業税 8. 地方税(4)ー固定資産税 9. 地方税(5)ー地方消費税 10. 地方税(6)ー課税自主権 11. 地方債(1)ー地方の財政赤字とプライマリー・バランス 12. 地方債(2)ー地方債の分類 13. 地方債(3)ー事前協議・許可制度 14. 地方債(4)ー地方債の市場化 15. 前期末試験 16. 地方交付税(1)ー財政調整 17. 地方交付税(2)ー地方交付税額の算定 18. 国庫支出金ー国庫補助率 19. 地方譲与税ー地方譲与税の一般財源化 20. 保険事業ー国民健康保険と介護保険 21. 地方公営企業ー地方公営企業の現状 22. 地方予算ー予算過程 23. 地方財政制度改革(1)ー地方分権・地域主権 24. 地方財政制度改革(2)ー三位一体の改革 25. 地方財政制度改革(3)ー地方税改革 26. 地方財政制度改革(4)ー地方交付税改革 27. 地方財政制度改革(5)ー財政破綻と再建法制(1) 28. 地方財政制度改革(6)ー財政破綻と再建法制(2) 29. 地方財政制度改革(7)ー道州制 30. 後期末試験
教科書	特定の教科書は使用しない。地方財政全般については、諸富徹・門野圭司[2007]『地方財政システム論』(有斐閣)、林健久編[2003]『地方財政読本(第5版)』(東洋経済新報社)、和田八束・星野泉・青木宗明編[2004]『現代の地方財政[第3版]』(有斐閣)を参照のこと。
参考書・資料	資料として、総務省編[2009]『平成21年版　地方財政白書』(日経印刷)をあげておく。その他、必要に応じて講義時間中に紹介する。
講義関連事項	「財政」の講義を聴講していることが望ましい。

担当者から一言	講義内容をより深く理解するために、今日の日本の地方財政が抱える諸問題に関心を持って講義を聴講すること。
ホームページタイトル	{旧カリ地方財政(2010),http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local1_2010/local1_2010.html}
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local1_2010/local1_2010.html

授業コード	31061		
授業科目名	**地方財政Ⅰ(前)**		
担当者名	永廣　顕(エヒロ　アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「地方財政Ⅰ」・「地方財政Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	一国の財政は、国と地方自治体の財政から構成されている。今日の日本においては、地方分権化が急速に進展し地方財政の重要性が高まっている中で、地方間の財政力格差の是正や財政破綻の回避が当面の政策課題となっている。本講義では、日本の地方財政について、理論、制度、歴史、政策それぞれに配慮しながら、地方税と地方債を中心に解説をおこなう。また、昨年9月の政権交代がもたらす地方財政への影響についても可能な範囲で言及したい。
到達目標	今日の日本の地方財政を多角的な視点から理解できるようになることを目標とする。
講義方法	(1)板書中心の講義形式とする。 (2)参考資料の説明時にパワーポイントを使用する。 (3)My KONANと地方財政Ⅰホームページで、講義前日までにレジメを公開する。 (4)講義開始時にレジメと参考資料を配付する。 (5)講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくこと。
準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、公開されたレジメにより講義の概要を確認しておくこと。
成績評価	学期末試験の得点のみで評価する。
講義構成	1. イントロダクション－地方財政を学ぶにあたって 2. 財政システムと地方財政(1)－地方財政とは何か 3. 財政システムと地方財政(2)－国と地方の財政関係 4. 地方経費－地方経費の分類と構造 5. 地方税(1)－地方税の体系 6. 地方税(2)－住民税 7. 地方税(3)－事業税 8. 地方税(4)－固定資産税 9. 地方税(5)－地方消費税 10. 地方税(6)－課税自主権 11. 地方債(1)－地方の財政赤字とプライマリー・バランス 12. 地方債(2)－地方債の分類 13. 地方債(3)－事前協議・許可制度 14. 地方債(4)－地方債の市場化 15. 学期末試験
教科書	特定の教科書は使用しない。地方財政全般については、諸富徹・門野圭司[2007]『地方財政システム論』(有斐閣)、林健久編[2003]『地方財政読本(第5版)』(東洋経済新報社)、和田八束・星野泉・青木宗明編[2004]『現代の地方財政[第3版]』(有斐閣)を参照のこと。
参考書・資料	資料として、総務省編[2009]『平成21年版　地方財政白書』(日経印刷)をあげておく。その他、必要に応じて講義時間中に紹介する。
講義関連事項	「財政」の講義を聴講していることが望ましい。また、「地方財政Ⅱ」の講義を続けて聴講することを強く勧める。

担当者から一言	講義内容をより深く理解するために、今日の日本の地方財政が抱える諸問題に関心を持って講義を聴講すること。
ホームページタイトル	{地方財政Ⅰ(2010),http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local1_2010/local1_2010.html}
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local1_2010/local1_2010.html

授業コード	31062		
授業科目名	**地方財政Ⅱ(後)**		
担当者名	永廣　顕(エヒロ　アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「地方財政Ⅰ」・「地方財政Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	一国の財政は、国と地方自治体の財政から構成されている。今日の日本においては、地方分権化が急速に進展し地方財政の重要性が高まっている中で、地方間の財政力格差の是正や財政破綻の回避が当面の政策課題となっている。本講義では、日本の地方財政について、理論、制度、歴史、政策それぞれに配慮しながら、「地方財政Ⅰ」では取り上げなかった国から地方への資金繰入れである地方交付税や国庫支出金、および、地方財政全般にわたる近年の制度改革を中心に解説をおこなう。また、昨年9月の政権交代がもたらす地方財政への

	影響についても可能な範囲で言及したい。
到達目標	今日の日本の地方財政を多角的な視点から理解できるようになることを目標とする。
講義方法	(1)板書中心の講義形式とする。 (2)参考資料の説明時にパワーポイントを使用する。 (3)My KONANと地方財政Ⅱホームページで、講義前日までにレジメを公開する。 (4)講義開始時にレジメと参考資料を配付する。 (5)講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくこと。
準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、公開されたレジメにより講義の概要を確認しておくこと。
成績評価	学期末試験の得点のみで評価する。
講義構成	1. 地方交付税(1)－財政調整 2. 地方交付税(2)－地方交付税額の算定 3. 国庫支出金－国庫補助率 4. 地方譲与税－地方譲与税の一般財源化 5. 保険事業－国民健康保険と介護保険 6. 地方公営企業－地方公営企業の現状 7. 地方予算－予算過程 8. 地方財政制度改革(1)－地方分権・地域主権 9. 地方財政制度改革(2)－三位一体の改革 10. 地方財政制度改革(3)－地方税改革 11. 地方財政制度改革(4)－地方交付税改革 12. 地方財政制度改革(5)－財政破綻と再建法制(1) 13. 地方財政制度改革(6)－財政破綻と再建法制(2) 14. 地方財政制度改革(7)－道州制 15. 学期末試験
教科書	特定の教科書は使用しない。地方財政全般については、諸富徹・門野圭司[2007]『地方財政システム論』(有斐閣)、林健久編[2003]『地方財政読本(第5版)』(東洋経済新報社)、和田八束・星野泉・青木宗明編[2004]『現代の地方財政[第3版]』(有斐閣)を参照のこと。
参考書・資料	資料として、総務省編[2009]『平成21年版　地方財政白書』(日経印刷)をあげておく。その他、必要に応じて講義時間中に紹介する。
講義関連事項	「地方財政Ⅰ」の続きとなるので、「地方財政Ⅰ」の講義を聴講していることが強く望まれる。

担当者から一言	講義内容をより深く理解するために、今日の日本の地方財政が抱える諸問題に関心を持って講義を聴講すること。
ホームページタイトル	{地方財政Ⅱ(2010),http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local2_2010/local2_2010.html}
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local2_2010/local2_2010.html

---

授業コード	31026		
授業科目名	**中級マクロ経済学（後）**		
担当者名	阿萬弘行（アマン　ヒロユキ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
特記事項	2005年度以前入学生は初級マクロ経済学の単位を修得済みであること 2006年度以降入学生は入門マクロ経済学の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	講義の中でお知らせします。		

講義の内容	マクロ経済学に関する基礎的内容とともに発展的な内容について講義する。国民所得がどのようなメカニズムで決定されるのか、金融市場のマクロ経済の中での機能など、マクロ経済問題を理解する上で必要不可欠な知識を学ぶ。グラフ、数式を用いたモデル、統計資料などを使って、多面的な角度からマクロ経済学を理解できることを目指す。
到達目標	マクロ経済理論の概念を理解できること。理論が示す内容についてグラフを描けること。数値を用いて応用問題が解けること。
講義方法	受講者数に応じて、板書またはパワーポイント等を用いて行う。講義に関連する時事的なトピックスについても随時解説する。

準備学習	マクロ経済学の入門書の関連個所を予習することで理解が深まる。
成績評価	期末試験の成績を重視する。
講義構成	(1) マクロ経済学に関するイントロダクション (2) 国民所得統計 (3)消費関数 (4) 投資関数 (5) 有効需要の原理 (6) 財市場のモデル (7) 財政政策 (8) 金融市場のモデル (9) 中央銀行の金融政策 (10) IS－LMモデル (11) 総需要・総供給曲線 (12) 失業問題 (13) インフレーション (14) 国際経済と為替レート
教科書	特定の教科書は指定しない。下記の参考書を参照。
参考書・資料	「基礎からわかるマクロ経済学」 家森信善　中央経済社 「マクロ経済学」 伊藤元重　日本評論社

授業コード	31027		
授業科目名	**中級ミクロ経済学（前）**		
担当者名	寺尾　建（テラオ　タケル）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	2005年度以前入学生は初級ミクロ経済学の単位を修得済みであること 2006年度以降入学生は入門ミクロ経済学の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	開講時に，担当者より告知します．		

講義の内容	「入門ミクロ経済学」が完成された映画だとすれば，「中級ミクロ経済学」は，映画の“メイキング”です． 最終的には，需要曲線や供給曲線を用いた分析を行います． そのために，需要曲線や供給曲線をつくります． さらにそのために，需要曲線や供給曲線をつくるために必要な“素材”を集めるところから始めます． この講義で扱われる内容を精確に理解せずして「経済学部卒業」はない —— そのような内容です．
到達目標	言葉の使い方・言葉の選び方・言葉の連ね方，記号の使い方・記号の選び方・記号の連ね方について，大学生にふさわしい水準の技術を習得すること，そして，そのことを通じて，大学生にふさわしい“教養（education）”を身につけることを具体的な到達目標とします．経済学は，これらのための手段として位置づけます．
講義方法	「リアクション・ペーパー」を用いて，双方向的に行います．
準備学習	数学の素養は求められませんが，（訓練によって身につけることのできるタイプの）数学的に把握する能力は求められます．なお，講義時間中に考えるだけで理解できるような問題は扱いません．
成績評価	期末試験の成績を，5段階で評価します． 昨年度の期末試験の成績分布は，履修登録者が280名で， 〔秀〕9名　〔優〕27名　〔良〕59名　〔可〕88名　〔不可〕83名　〔欠席〕14名 でした．この講義は，「講義への参加率が80%以上の場合の合格率は90%以上，参加率が80%未満の場合の合格率は3%未満」という特徴をもっています．
講義構成	「過程であると思っていたものが，実は，結果であった」 「問いであると思っていたものが，実は，答えであった」 受講生のみなさんが，視点の変換と視野の拡大，発想の転換を体験できるような構成とします．
教科書	[00] 矢野誠『ミクロ経済学の基礎』（岩波書店，2001年）．
参考書・資料	[01] 伊藤元重『入門｜経済学 第3版』（日本評論社，2009年）． [02] 伊藤元重『ミクロ経済学 第2版』（日本評論社，2003年）． [03] 奥野正寛 編著『ミクロ経済学』（東京大学出版会，2008年）． [04] 塩澤修平・石橋孝次・玉田康成 編著『現代ミクロ経済学 中級コース』（有斐閣，2006年）．

	[05] 矢野誠『ミクロ経済学の応用』(岩波書店, 2001年). [06] 山崎昭『ミクロ経済学』(知泉書館, 2006年).
講義関連事項	「中級マクロ経済学」をあわせて履修することを強く勧めます.

担当者から一言	「抽象的」と評されることの多い講義ですが, それは, 誤解です. 正しくは, 「定量的(quantitative)ではなく, 定性的(qualitative)な議論を主たる内容としている」です. あるいは, 「哲学的」と評されることも少なくない講義ですが, それも, 誤解です. 哲学を構成する論理学・倫理学・美学のうち, この講義は, 論理学にしかもとづいていません.

授業コード	31L21		
授業科目名	**統計入門(統計) (1ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	小山直樹(コヤマ　ナオキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生は統計入門として履修 2007年度以前入学生は統計として履修		
オフィスアワー	火曜日　昼休み		

講義の内容	この講義では、統計データに含まれる情報をわかりやすく整理・要約する「記述統計の方法」と、標本(部分)データの情報から、その標本を抽出してきた母集団(全体)の情報を統計的に推測する「推測統計の方法」を学習する。ここで、データに含まれる情報は、「分布」の概念によって規定され、分布の平均・分散・標準偏差といった指標により定量的に把握される。また、推測統計の方法では、母集団と標本の関係は、「確率分布」の概念によって結び付けられる。こうした「分布」や「確率分布」の考え方、および数理的な記述を学習し、実際のデータを用いた統計分析の手法を演習する。
到達目標	データについて記述統計の手法に基づき、精確な分析ができること。また、推測統計の考え方を理解し、母数の推定を行えること。
講義方法	講義資料をMY KONANの授業資料ページからダウンロードできるようにしておくので, 受講者は事前に必ずプリントアウトして, 講義の際に持参すること。毎回の講義は, この資料に沿って解説を進める.
準備学習	My KONANの授業資料ページから事前に入手した講義資料を、毎週、必ず熟読し、予習ノートを作成すること。講義は、予習していることを前提に進行する。
成績評価	演習等の得点(20点)と定期試験(期末試験)の得点(80点)の得点合計によって評価する。
講義構成	第1回　ガイダンス 第2回　データの要約 第3回　データ間の関係 第4回　直線の当てはめ(1)最小2乗法 第5回　直線の当てはめ(2)決定係数 第6回　記述統計の演習・小テスト 第7回　確率と確率変数 第8回　確率変数と確率分布 第9回　確率変数の関数の分布 第10回　母集団と標本 第11回　標本平均の分布 第12回　母数の推定 第13回　区間推定 第14回　推測統計の演習・小テスト 第15回　期末試験の傾向と対策
教科書	My KONANの授業資料ページに用意したテキストを教科書として使用する。受講希望者は事前に必ずプリントアウトして, 講義の際に持参すること。なお、講義開始以前に予習をしたい学生は、下に紹介する参考書を利用すること。
参考書・資料	稲垣宣生・山根芳知・吉田光雄　共著、統計学入門(裳華房)。
講義関連事項	この講義では、根号計算可能な電卓(8桁表示)を利用するので、最初の講義までに必ず準備すること。ただし、関数電卓や携帯電話ないしは電子翻訳機の電卓機能の利用は不可。

担当者から一言	この講義は、受講者が毎回必ず出席することを前提にして授業を進める。講義に欠席すると、それ以降の授業

	を理解することが大変困難になることが予想される。 また、講義資料(プリント)を講義の際に配布することは原則として行わない。受講希望者は，事前に必ずプリントアウトして，講義の際に持参すること。

授業コード	31L22		
授業科目名	**統計入門(統計) (2ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	小山直樹(コヤマ　ナオキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生は統計入門として履修 2007年度以前入学生は統計として履修		
オフィスアワー	火曜日　昼休み		

講義の内容	この講義では、統計データに含まれる情報をわかりやすく整理・要約する「記述統計の方法」と、標本(部分)データの情報から、その標本を抽出してきた母集団(全体)の情報を統計的に推測する「推測統計の方法」を学習する。ここで、データに含まれる情報は、「分布」の概念によって規定され、分布の平均・分散・標準偏差といった指標により定量的に把握される。また、推測統計の方法では、母集団と標本の関係は、「確率分布」の概念によって結び付けられる。こうした「分布」や「確率分布」の考え方、および数理的な記述を学習し、実際のデータを用いた統計分析の手法を演習する。
到達目標	データについて記述統計の手法に基づき、精確な分析ができること。また、推測統計の考え方を理解し、母数の推定を行えること。
講義方法	講義資料をMY KONANの授業資料ページからダウンロードできるようにしておくので，受講者は事前に必ずプリントアウトして，講義の際に持参すること。毎回の講義は，この資料に沿って解説を進める.
準備学習	My KONANの授業資料ページから事前に入手した講義資料を、毎週、必ず熟読し、予習ノートを作成すること。講義は、予習していることを前提に進行する。
成績評価	演習等の得点(20点)と定期試験(期末試験)の得点(80点)の得点合計によって評価する。
講義構成	第1回　ガイダンス 第2回　データの要約 第3回　データ間の関係 第4回　直線の当てはめ(1)最小2乗法 第5回　直線の当てはめ(2)決定係数 第6回　記述統計の演習・小テスト 第7回　確率と確率変数 第8回　確率変数と確率分布 第9回　確率変数の関数の分布 第10回　母集団と標本 第11回　標本平均の分布 第12回　母数の推定 第13回　区間推定 第14回　推測統計の演習・小テスト 第15回　期末試験の傾向と対策
教科書	My KONANの授業資料ページに用意したテキストを教科書として使用する。受講希望者は事前に必ずプリントアウトして，講義の際に持参すること。なお、講義開始以前に予習をしたい学生は、下に紹介する参考書を利用すること。
参考書・資料	稲垣宣生・山根芳知・吉田光雄　共著、統計学入門(裳華房)。
講義関連事項	この講義では、根号計算可能な電卓(8桁表示)を利用するので、最初の講義までに必ず準備すること。ただし、関数電卓や携帯電話ないしは電子翻訳機の電卓機能の利用は不可。

担当者から一言	この講義は、受講者が毎回必ず出席することを前提にして授業を進める。講義に欠席すると、それ以降の授業を理解することが大変困難になることが予想される。 また、講義資料(プリント)を講義の際に配布することは原則として行わない。受講希望者は，事前に必ずプリントアウトして，講義の際に持参すること。

授業コード	31105		
授業科目名	**都市経済（後）**		
担当者名	橋本行史（ハシモト　コウシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜2限
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	特に設けていないので、講義終了後にご相談ください。		

講義の内容	人口と産業が集中する地域である都市と経済を結びつけて分析・考察することを都市経済学と呼び、ミクロ経済学の一分野とされている。都市経済学として扱われる分野は、工業や海港の立地論、都市の階層性、都市の盛衰、土地利用、産業連関、都市公共政策、そして、都市財政などである。 経済学の特徴は、社会の事象を一定の前提の下に、理論化（経験的一般化）するところにある。その中でも伝統的な経済学は需要と供給を価格決定要因として扱い、そこでは空間＝距離は同一との前提をおいて考慮されない。ところが、都市経済学で扱う立地論では、空間＝距離の考慮が欠かせないため、伝統的な経済学の理論をそのまま当てはめてることができない。このように伝統的な経済学と異なって価格要因だけで事象の分析ができないところが、都市経済学の特色となっている。例えば、ジーンズの購入という身近な例では、1本は880円のジーンズ、他の1本は有名メーカーのクラッシュ・ジーンズ、また他の1本は高額のビンテージものというように消費行動がとられ、価格という単一要因が消費行動を決定するわけではない。立地論のアプローチも同じである。 また、都市経済学は、生きた経済学として、理論的な分析だけでなくその分析を公共政策にどう活かすかという視点で取り上げられることも多い。都市の抱える問題をどのように捉えて解決するかということも、都市経済学の一分野である。近年、地球規模の温暖化・グローバル化・少子高齢化・財政悪化といった環境変化に見舞われ、都市を巡る諸問題は変化している。本講義ではそうした新しい都市問題の分析も行うことを予定している。 最後になるが、地域構造や都市の変遷を調べることは、一定の地理的範囲に立地して盛衰を繰り返す企業の盛衰を知ることでもある。その意味で、日本の地域構造や都市の盛衰を考えることは、今後就職を考える学生に極めて有効な示唆を与える内容となっている。
到達目標	ミクロ経済理論をベースにした都市経済学の基礎知識の取得
講義方法	テキストを使用する。テキストの範囲外の分野についてはレジュメを配布する。タイムリーな話題には、パワーポイントやレジュメとは別の資料提供を企画している。教員からの一方向の座学とならないように、t問い掛け型・双方向型で講義を行う。
準備学習	講義で取り上げる各テーマに関連する新聞や他のメディアの情報に留意すること。
成績評価	期末試験（70%）と平常点（30%）。ただし、出席回数が講義回数の半分を満たさない場合、期末試験の受験の有無に関わらず単位は与えられない。
講義構成	〔総論〕 第1回　イントロダクション 第2回　都市経済学の体系、地域経済学・都市経済学の意義と範囲 第3回　都市集中：交通費と集中、競争と集中、都市集中のパターン 第4回　都市の発展と衰退：都市の発展段階、都市の成長・衰退分析 〔土地利用〕 第5回　土地利用1：土地サービスと地代、地価と土地課税、土地利用規制 第6回　土地利用2：住宅と土地、需要と供給、望ましい土地税制と住宅政策 〔地域構造〕 第7回　戦後の地域発展プロセス：経済の動向、産業構造の変化、人口動態、東京一極集中 第8回　世界都市：経済環境の変化、世界都市の概念・機能、世界都市が抱える格差 〔国土計画等〕 第9回　地域間の格差是正、国土総合開発法・国土形成計画法 第10回　産業連関表 〔都市化と公共政策〕 第11回　都市化と都市問題：都市化の要因、都市問題、都市化のメリットとデメリット 第12回　都市公共政策と経済理論：ミクロ経済理論、市場の失敗、政府介入、政府の失敗 第13回　都市と社会資本1：公共財の理論、社会資本の意義・種類・効果・配分、費用負担、決定過程 第14回　都市と社会資本2：プロジェクト評価の意義と方法、社会資本整備計画、道路整備の中期計画 第15回　都市と交通1：乗合バス事業の規制緩和の背景と内容、公営交通事業の制度趣旨と現状 第16回　都市と交通2：交通政策：大都市事例、明石市、札幌市のバスパートナーシップの失敗 第17回　都市と環境1：外部性の内部化、ピグー、パレート最適、パレート効率性、コースの定理 第18回　都市と環境2：環境政策：命令・規制手段、擬似的市場的手段、ピグー税、取引可能汚染権 第19回　都市と文化：文化経済学、創造都市論

	第20回　都市と景観、観光：景観緑三法と鞆の浦訴訟、観光の経済的効果、観光政策 第21回　都市と保健福祉：児童・高齢・障害、政策 第22回　都市と港湾：港湾の盛衰要因、港湾の経済的効果、事例－神戸港と神戸経済 〔都市財政〕 第23回　都市と財政（1）地方財政の仕組み 第24回　都市と財政（2）財政調整：補助金・交付税、地方財政計画、三位一体改革 第25回　都市と財政（3）財政危機：公会計改革と地方財政健全化法 第26回　都市と財政（4）NPM（新公共経営）の経済理論 〔まちづくり〕 第27回　まちづくり：経済理論と経済政策、まちづくり三法、再開発ビルの再開発の失敗事例 第28回　NPOの経済理論、ソーシャルキャピタルとコミュニティの再組織化 ※講義の進行状況によって、上記の順序と内容を変更することがある。
教科書	橋本行史編（2010）『現代地方自治論』ミネルヴァ書房（2010年5月発刊予定）を使用(総論一部、地域構造、国土計画等、都市財政、まちづくり)等.。他はレジュメを利用する。
参考書・資料	・貝塚啓明・香西泰・野中郁次郎監修、伊藤元重・猪木武徳・植田和男・加護野忠男・小峰隆夫・樋口美雄編集『日本経済辞典』日本経済新聞社、pp. 1203－1216、（1996）. ・山田浩之他『地域経済学入門』有斐閣（2002）（1,900円）. ・金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社（1997）（2,700円）. ・宮尾尊弘『現代都市経済学第2版』日本評論社（1995）（2,900円）. ・林宣嗣『都市問題の経済学』日本経済新聞社（1993）（1,800円）. ・田渕隆俊，中村良平『都市と地域の経済学』有斐閣（1996). ・八田達夫編『東京一極集中の経済分析』日本経済新聞社（1994). ・伊藤隆敏，野口悠紀雄編『分析・日本経済のストック化』日本経済新聞社(1992). ・神野直彦『地域再生の経済学―豊かさを問い直す』（地方財政論・新書）中央公論新社（2002）. ・スティグリッツ，J．E．『スティグリッツ　ミクロ経済学（第２版）』東洋経済社（2000）.
講義関連事項	昨年、講義の最後に自由記述の小レポートの作成を課したところ、非常に好評で、かつ、学習効果も高かった。本年も、自由記述による小レポート作成機会を設けて出席点呼の代わりとする。

担当者から一言	都市経済学は、都市に生じる様々な事象の原因をなるほどそうだったのかと考えさせてくれる学問です。この講義では、必要に応じて政策論にも言及します。
その他	他人に迷惑をかける行為、マナーに反する行為は禁止です。例えば、教室でのおしゃべり、ガム・飴、過度にだらしない姿勢、室内での理由なき帽子着用など。

授業コード	31096		
授業科目名	**日本経済史（前）**		
担当者名	草野正裕（クサノ　マサヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜2限
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	講義終了後研究室に来てください。質疑応答など行ないたいと思います。		

講義の内容	まず、史料批判を中心とした実証的方法について論じます。ついで日本における封建社会から資本主義社会への移行ないしは工業化の問題を論じます。したがって古代・中世についてはかんたんに触れることとし、近世、近・現代にウェイトをおくつもりです。この場合、実証という立場から、既存の理論的枠組みによって史実を解釈するという方法は、できるだけ回避することにしたい。そうではなくて、あくまでも理論は史実を解釈する場合の手段であると考えたい。 なお、講義においては随時、近年とみに盛んとなった数量経済史的な分析を取り入れてゆくつもりです。とくに人口史・物価史研究および一橋グループの成果等をある程度詳細に紹介する予定です。
到達目標	毎回の講義レジュメに5問前後の基礎的な論述問題をつけています。これらの問題に6～8割程度答えられることを到達目標にしたいと思います。
講義方法	プロジェクター等を使います。随時小テストを行なったり、感想を提出していただいたりといったことも考えています。なお、My KONAN に毎回のレジュメをアップ・ロードします。それを、ダウンロード、プリントアウトして、教室に持参してください。あるいは、ダウンロードしたパソコンを持ち込んでいただいてもかまいません。無線が使える場合は、教室で受信していただいても結構です。
準備学習	授業の前に、教科書やダウンロードしたレジュメを一読されることをおすすめします。

成績評価	通常の期末試験、小テスト、感想、出欠などの総合評価を考えていますが、受講生の数が多い場合は期末試験の評価に頼らざるをえないかもしれません。
講義構成	本講義の受講者は、「日本経済史Ⅰ」(月曜1限)、「日本経済史Ⅱ」(月曜2限)の両方を履修していただきます。 講義が時代順にならないので、すこしぎくしゃくするかも知れませんがご勘弁ください。 「日本経済史Ⅰ」 第1回:律令国家の経済構造 第2回:荘園経済の展開過程 第3回:在地領主制の展開 第4回:産業の発展と中世社会 第5回:戦国大名領の経済構造 第6回:織豊政権の成立 第7回:幕藩体制の成立 第8回:幕藩制経済の展開 第9回:元禄期の繁栄 第10回:享保期の経済政策 第11回:宝暦天明期の市場 第12回:田沼時代と寛政期の経済政策 第13回:化政期の経済変貌 第14回:天保期(1830～43年)の経済危機 第15回:経済史における数量的接近(その1) 「日本経済史Ⅱ」 第1回:開国による経済変動 第2回:明治維新と経済的変革 第3回:工業化への道 第4回:産業革命の展開 第5回:産業資本の確立 第6回:日露戦争後の近代産業 第7回:第1次世界大戦と日本 第8回:慢性不況と巨大企業 第9回:戦争経済とその崩壊 第10回:混乱期の日本経済 第11回:日本経済の再建・復興 第12回:高度経済成長と産業構造の高度化 第13回:経済成長とひずみ現象 第14回:データでみる最近の日本経済の動向 第15回:経済史における数量的接近(その2)
教科書	竹中靖一・作道洋太郎編著『日本経済史』(学文社、1979年)。
参考書・資料	なお、つぎのような書物を一読されるのはなかなか有益だろうと思います。 正田健一郎・作道洋太郎編『概説日本経済史』(有斐閣、1978年) 宮本又次編『日本経済史』(青林書院新社、1977年) 塩澤君夫・後藤靖編『日本経済史』(有斐閣、1977年)

担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。

授業コード	31097		
授業科目名	**日本経済史Ⅰ(前)**		
担当者名	草野正裕(クサノ　マサヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「日本経済史Ⅰ」・「日本経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	講義終了後研究室に来てください。質疑応答など行ないたいと思います。		

講義の内容	「日本経済史Ⅰ」では、中近世日本経済史を講義することとし、近現代日本経済史は「日本経済史Ⅱ」にゆずることにしたいと思います。したがって受講生の方々は、「日本経済史Ⅰ」と「日本経済史Ⅱ」の両方を受講されることを強く希望します。「日本経済史Ⅰ」では、古代・中世についてはできるだけ簡単に触れることとし、近現代社会経済との関連が深い近世にウェイトをおくつもりです。この場合、実証という立場から、既存の理論的枠組みによって史実を解釈するという方法は、できるだけ回避することにしたいと思います。そうではなくて、あくまでも理論は史実を解釈する場合の手段であるという立場をとることにしたいと思います。なお、講義においては随時、近年とみに盛んとなった数量経済史的な分析を取り入れてゆくつもりです。とくに人口史・物価史研究および一橋グループの成果等をある程度詳細に紹介する予定です。
到達目標	毎回の講義レジュメに5問前後の基礎的な論述問題をつけています。これらの問題に6～8割程度答えられることを到達目標にしたいと思います。
講義方法	プロジェクター等を使います。随時小テストを行なったり、感想を提出していただいたりといったことも考えています。なお、My KONAN に毎回のレジュメをアップ・ロードします。それを、ダウンロード、プリントアウトして、教室に持参してください。あるいは、ダウンロードしたパソコンを持ち込んでいただいてもかまいません。無線が使える場合は、教室で受信していただいても結構です。
準備学習	授業の前に、教科書やダウンロードしたレジュメを一読されることをおすすめします。
成績評価	通常の期末試験、小テスト、感想、出欠などの総合評価を考えていますが、受講生の数が多い場合は期末試験の評価に頼らざるをえないかもしれません。
講義構成	第1回：律令国家の経済構造 第2回：荘園経済の展開過程 第3回：在地領主制の展開 第4回：産業の発展と中世社会 第5回：戦国大名領の経済構造 第6回：織豊政権の成立 第7回：幕藩体制の成立 第8回：幕藩制経済の展開 第9回：元禄期の繁栄 第10回：享保期の経済政策 第11回：宝暦天明期の市場 第12回：田沼時代と寛政期の経済政策 第13回：化政期の経済変貌 第14回：天保期（1830～43年）の経済危機 第15回：経済史における数量的接近（その1）
教科書	竹中靖一・作道洋太郎編著『日本経済史』（学文社、1979年）。
参考書・資料	なお、つぎのような書物を一読されるのはなかなか有益だろうと思います。 正田健一郎・作道洋太郎編『概説日本経済史』（有斐閣、1978年） 宮本又次編『日本経済史』（青林書院新社、1977年） 塩澤君夫・後藤靖編『日本経済史』（有斐閣、1977年）

担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。

授業コード	31098		
授業科目名	**日本経済史Ⅱ（前）**		
担当者名	草野正裕（クサノ　マサヒロ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「日本経済史Ⅰ」・「日本経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	講義終了後研究室に来てください。質疑応答など行ないたいと思います。		

講義の内容	「日本経済史Ⅱ」では、中近世日本経済史をあつかった「日本経済史Ⅰ」に引き続いて、近現代日本経済史を講義したいと思います。したがって受講生の方々は、「日本経済史Ⅰ」をすでに履修されているか、あるいは今後履修されることが望ましいと考えます。「日本経済史Ⅱ」の講義においても「日本経済史Ⅰ」と同様、実証という立場から、既存の理論的枠組みによって史実を解釈するという方法は、できるだけ回避することにしたいと思います。そうではなくて、あくまでも理論は史実を解釈する場合の手段であるという立場をとることにしたいと思いま

	す。なお、講義においては随時、近年とみに盛んとなった数量経済史的な分析を取り入れてゆくつもりです。とくに人口史・物価史研究および一橋グループの成果等をある程度詳細に紹介する予定です。
到達目標	毎回の講義レジュメに5問前後の基礎的な論述問題をつけています。これらの問題に6～8割程度答えられることを到達目標にしたいと思います。
講義方法	プロジェクター等を使います。随時小テストを行なったり、感想を提出していただいたりといったことも考えています。なお、My KONAN に毎回のレジュメをアップ・ロードします。それを、ダウンロード、プリントアウトして、教室に持参してください。あるいは、ダウンロードしたパソコンを持ち込んでいただいてもかまいません。無線が使える場合は、教室で受信していただいても結構です。
準備学習	授業の前に、教科書やダウンロードしたレジュメを一読されることをおすすめします。
成績評価	通常の期末試験、小テスト、感想、出欠などの総合評価を考えていますが、受講生の数が多い場合は期末試験の評価に頼らざるをえないかもしれません。
講義構成	第1回：開国による経済変動 第2回：明治維新と経済的変革 第3回：工業化への道 第4回：産業革命の展開 第5回：産業資本の確立 第6回：日露戦争後の近代産業 第7回：第1次世界大戦と日本 第8回：慢性不況と巨大企業 第9回：戦争経済とその崩壊 第10回：混乱期の日本経済 第11回：日本経済の再建・復興 第12回：高度経済成長と産業構造の高度化 第13回：経済成長とひずみ現象 第14回：データでみる最近の日本経済の動向 第15回：経済史における数量的接近（その2）
教科書	竹中靖一・作道洋太郎編著『日本経済史』（学文社、1979年）。
参考書・資料	なお、つぎのような書物を一読されるのはなかなか有益だろうと思います。 正田健一郎・作道洋太郎編『概説日本経済史』（有斐閣、1978年） 宮本又次編『日本経済史』（青林書院新社、1977年） 塩澤君夫・後藤靖編『日本経済史』（有斐閣、1977年）

担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。

授業コード	31L11		
授業科目名	**日本経済入門 (A)(前)**		
担当者名	後藤　励（ゴトウ　レイ）、森　剛志（モリ　タケシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	クラス指定（授業時間表別表参照） 高大連携科目		
オフィスアワー	金曜昼休み		

講義の内容	現在日本経済が直面している問題に対する理解を深める。
到達目標	日本経済の置かれている現状を自分のことばで書けるようになること。
講義方法	講義形式で教授する。
準備学習	指示された資料を事前に読んでおくこと。
成績評価	小テストおよび期末試験。
講義構成	前半は、基礎的なマクロ経済学と現在の日本の現状を紹介する。 後半は、少子化と金融など具体的なトピックを取り扱う。現在家計の平均金融資産は1000万円を超えるとも言われているが、全く貯蓄がない世帯も3割ある。いわば、貧富の差がとてつもなく大きくなっているのが現状である。こうした日本経済のおかれた現状を把握した上で、今まで事実であったことがもはや事実でなくなっていることを

	紹介し、理解を深めていただく。 （少子化）では、 ・日本の現状 ・海外の状況（主にアメリカと北欧諸国） を紹介し、現在の日本の女性のおかれた現状と今後の少子高齢化の日本の展望を考えていただく。 （金融）では、 ・格差が拡大する家計の金融 ・高貯蓄国から低貯蓄国への変貌 ・「危険回避的な資産選好（株式などへの投資は嫌い）」は、本当か？ などの事実を紹介し、今後の日本経済の展望を考えてもらう。 日本経済の将来像を描けるかどうかが、重要となるでしょう。
教科書	特に定めないが、初回の授業で必要文献を配布する予定である。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	31L12		
授業科目名	**日本経済入門 (B)(後)**		
担当者名	森　剛志（モリ　タケシ）、後藤　励（ゴトウ　レイ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	クラス指定（授業時間表別表参照） 高大連携科目		
オフィスアワー	金曜昼休み		

講義の内容	現在日本経済が直面している問題に対する理解を深める。
到達目標	日本経済の置かれている現状を自分のことばで書けるようになること。
講義方法	講義形式で教授する。
準備学習	指示された資料を事前に読んでおくこと。
成績評価	小テストおよび期末試験。
講義構成	前半は、基礎的なマクロ経済学と現在の日本の現状を紹介する。 後半は、少子化と金融など具体的なトピックを取り扱う。現在家計の平均金融資産は1000万円を超えるとも言われているが、全く貯蓄がない世帯も3割ある。いわば、貧富の差がとてつもなく大きくなっているのが現状である。こうした日本経済のおかれた現状を把握した上で、今まで事実であったことがもはや事実でなくなっていることを紹介し、理解を深めていただく。 （少子化）では、 ・日本の現状 ・海外の状況（主にアメリカと北欧諸国） を紹介し、現在の日本の女性のおかれた現状と今後の少子高齢化の日本の展望を考えていただく。 （金融）では、 ・格差が拡大する家計の金融 ・高貯蓄国から低貯蓄国への変貌 ・「危険回避的な資産選好（株式などへの投資は嫌い）」は、本当か？ などの事実を紹介し、今後の日本経済の展望を考えてもらう。 日本経済の将来像を描けるかどうかが、重要となるでしょう。
教科書	特に定めないが、初回の授業で必要文献を配布する予定である。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	31L13

授業科目名	日本経済入門 (C)(後)		
担当者名	寺尾　建(テラオ　タケル)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	法学部生 経営学部生(2009年度以降入学生)		
オフィスアワー	開講時に，担当者より告知します.		

講義の内容	日本経済を理解するための導入だけでなく,「学問」への導入ともなる内容とします.
到達目標	「事実について観察と考察を重ね，新たな洞察を得る」――事実にもとづいて考え，新たな“問い”を発見できるようになることが，具体的な到達目標です.
講義方法	毎回の講義において，受講生のみなさんに「問い」を投げかけます．その「問い」について，受講生のみなさんが考えたことを書いてもらい，その内容に沿って講義を進めます．最終的にどのような「問い」まで扱うことになるのかは，受講生のみなさんとともに決めることになります.
準備学習	入門科目ですので，経済に関する知識や経済学の素養は，事前には一切求められませんが，(少なくとも)開講期間中は，毎日，新聞に目を通し，経済誌にも目を通すようにしてください.
成績評価	期末試験の成績を，5段階で評価します. 昨年度の期末試験の成績分布は，履修登録者が246名で, 〔秀〕4名　〔優〕23名　〔良〕39名　〔可〕48名　〔不可〕89名　〔欠席〕43名 でした．この講義は,「講義への参加率が80%以上の場合の合格率は98%以上，参加率が80%未満の場合の合格率は4%未満」という特徴をもっています.
講義構成	現時点(2010年2月10日)において，講義において扱う予定のトピックは，おおよそは定めています. しかしながら，この講義の開講までの期間，2010年の上半期に何が起きるかはわかりません. その回の講義で扱うトピックを最終的に確定するのは，毎回，その講義の1週間前としたいと思います. とはいえ,「行き当たりばったり」にするつもりはありません. 講義を構成するにあたっては，次の5つのことを，原則とします. (1)「最新」のことを重視はするが,「最新」のことだけを取り上げることはしない. (2)「いま考えることに意義がある」という問題を，優先的に取り上げる. (3) とはいえ,「時事問題」の解説に終始するような議論は行わない. (4)「憶えること」は要求しない. (5) しかし,「考えること」は，徹底的に要求する. 以上の原則にしたがって，受講生のみなさんが生まれてから現在に至るまでのおよそ20年間に,「日本経済」がどのように変化してきており，そして，現在どのような状態にあるのかについて，その概要を把握することができるような構成とします. 全講義が終了したとき，受講生のみなさん自身が,「自分が目にしたことがあるもの」「自分が耳にしたことがあるもの」「いま自分がいる場所」を，これまでには考えたことがなかったようなかたちで(再)発見することができるようになっていることを，講義を構成する際の最優先の目的とします.
教科書	以上で述べた講義の内容・方法・構成を実現するために，使用しません.
参考書・資料	[01] 浅子和美・篠原総一 編『入門・日本経済[第3版]』(有斐閣，2007年). [02] 池尾和人・池田信夫『なぜ世界は不況に陥ったのか』(日経BP社，2009年). [03] 烏賀陽弘道『Jポップとは何か』(岩波新書，2005年). [04] 神永正博『不透明な時代を見抜く「統計思考力」』(ディスカバー21，2009年). [05] 小宮一慶『日経新聞の数字がわかる本』(日経BP社，2009年). [06] 紺谷典子『平成経済20年史』(幻冬舎新書，2008年). [07] 櫻川昌哉『経済を動かす単純な論理』(光文社，2009年). [08] 下川耿史・家庭総合研究会 編『増補版 昭和・平成家庭史年表』(河出書房新社，2001年). [09] 中村昭典『親子就活』(アスキー新書，2009年). [10] 林文夫 編『経済停滞の原因と制度』(剄草書房，2007年). [11] 平川克美『経済成長という病』(講談社現代新書，2009年). [12] ひろゆき(西村博之)『僕が2ちゃんねるを捨てた理由』(扶桑社新書，2009年). [13] 福澤諭吉『現代語訳 学問のすすめ』(齋藤孝 訳，ちくま新書，2009年). [14] 三浦展・原田曜平『情報病』(角川oneテーマ21，2009年). [15] 三橋規宏 他『ゼミナール 日本経済入門 改訂版』(2008年，日本経済新聞出版社).

	[16] 湯沢雍彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』(NHKブックス, 2008年). [17] 朝日ジャーナル別冊『1989－2009 時代の終焉と新たな幕開け』(朝日新聞出版, 2009年). [18] 朝日新聞「変転経済」取材班 編『失われた〈20年〉』(岩波書店, 2009年). [19] 東洋経済新報社 編『会社四季報 業界地図 2011年版』(東洋経済新報社, 2010年). [20] 『日本の論点』編集部 編『その先が読めるビジネス年表』(文藝春秋, 2009年).
講義関連事項	経済学部生のみなさんにとっては, 大学において自分が経済学をどの程度まで修得したのかを確認するための“総復習用”の科目として, 4年次に履修することも有意義な選択であると思います.

授業コード	31095		
授業科目名	**日本の経済思想家 (後)**		
担当者名	奥田　敬(オクダ　タカシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	金曜日4限　9号館7階奥田研究室		

講義の内容	西欧経済学の導入は極東の島国にいかなる衝撃を与えたか？ 〈文明としての商業〉の理想と現実の狭間で格闘した近代日本の代表的な3人の思想家(福澤・柳田・河上)の再読を通じて、(18世紀 / 明治 / 戦後)〈啓蒙〉の最大の遺産にして今なお残された課題である〈市民社会〉(civil society[→associations])の可能性を探究したい。
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。
講義方法	基本的には原典に即して文献講読(lecture)のような形式で進めるが、リアクション・ペーパーに応じて適宜ディスカッションも交える。
準備学習	最低限の要望としては、講義資料の指定箇所には必ず目を通し、疑問点をチェックしておくこと。 興味が湧いたら、その原典を手にとってほしい。
成績評価	基本的には期末試験の得点によるが、毎回配布するリアクション・ペーパーや随時課題とするミニ・レポートが内容的に優れていれば、加点の対象とする。
講義構成	第1回　日本経済思想史の大要 Ⅰ－近世日本の経済観念 第2回　[室町期] 御伽草子と〈貨幣〉経済 第3回　[江戸前期] 浮世草子の〈商業〉認識 第4回　[江戸後期] 儒学と国学の間の〈経世済民〉論 Ⅱ－近代日本の経済思想 第5回　福澤諭吉(1835-1901)の生涯と思想 第6回　〈実学〉への転回－『西洋事情』と『学問のすすめ』 第7回　〈交際〉としての社会－『文明論之概略』 第8回　柳田国男(1875-1962)の生涯と思想 第9回　明治末期日本の農業問題－『時代ト農政』 第10回　〈常民〉の生活世界へ－『都市と農村』 第11回　河上肇(1879-1946)の生涯と思想 第12回　大正期日本の社会問題－『貧乏物語』 第13回　昭和初期日本の労働問題－『第二貧乏物語』 Ⅲ－現代日本の経済倫理 第14回　戦後復興から高度成長まで 第15回　バブルの後で
教科書	原典史料の抜粋と参考文献のリストをプリントして配布するので、特定の教科書は用いない。
参考書・資料	その都度紹介する。
講義関連事項	関連科目として「経済学の歴史」と「経済史」を履修していることを前提に講義する。並行して「歴史と経済」(広域副専攻科目)・「日本経済史」・「現代経済学の諸潮流」・「社会経済思想(Ⅰ・Ⅱ)」を履修することを推奨する。

授業コード	31C01
授業科目名	**入門マクロ経済学 (A- 1)(後)**
担当者名	稲田義久(イナダ　ヨシヒサ)、東　裕三(ヒガシ　ユウゾウ)

配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の講義(必修)である. 原則として, 教科書・参考書に沿った講義を行い, その内容を演習クラスにて, 小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については, 第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり, 標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので, 開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは, パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C02		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (A- 2)(後)**		
担当者名	稲田義久(イナダ　ヨシヒサ)、東　裕三(ヒガシ　ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ. マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的, 全体的に捉え, 分析しようとする経済学の基礎的分野である. 一国の経済活動水準やその変化は, どのような要因によってどのように定まるのかを明らかにするのがその主な目標であるが, そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する.
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の講義(必修)である.

	原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を演習クラスにて，小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%，演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については，第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり，標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので，開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは，パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C03		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (A- 3)(後)**		
担当者名	稲田義久(イナダ　ヨシヒサ)、中野沙弥香(ナカノ　サヤカ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ. マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的，全体的に捉え，分析しようとする経済学の基礎的分野である. 一国の経済活動水準やその変化は，どのような要因によってどのように定まるのかを明らかにするのがその主な目標であるが，そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する.
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること。
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の講義(必修)である. 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を演習クラスにて，小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%，演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については，第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能

	貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり, 標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので, 開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは, パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C04		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (A- 4)(後)**		
担当者名	稲田義久(イナダ　ヨシヒサ)、中野沙弥香(ナカノ　サヤカ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ. マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的, 全体的に捉え, 分析しようとする経済学の基礎的分野である. 一国の経済活動水準やその変化は, どのような要因によってどのように定まるのかを明らかにするのがその主な目標であるが, そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する.
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること。
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の講義(必修)である. 原則として, 教科書・参考書に沿った講義を行い, その内容を演習クラスにて, 小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については, 第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり, 標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので，開講時によく確認されたい． 一部のクラスでは，パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である．

授業コード	31C05		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (A- 5)(後)**		
担当者名	稲田義久（イナダ　ヨシヒサ）、岡谷良二（オカタニ　リョウジ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する．		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ．マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的，全体的に捉え，分析しようとする経済学の基礎的分野である．一国の経済活動水準やその変化は，どのような要因によってどのように定まるのかを明らかにするのがその主な目標であるが，そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する．
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること。
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の講義(必修)である． 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を演習クラスにて，小テスト織り交ぜつつ補足する．
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%，演習クラス成績35%で総合的に評価する． ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については，第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である．
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する． 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する． 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する． 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する．
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』（日本評論社）．
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』（ちくま新書）． 林敏彦『ハート＆マインド経済学』（有斐閣） 井堀利宏『経済学演習』（新世社）． 伊達邦春『マクロ経済学』（八千代出版）． 伊藤元重『マクロ経済学』（日本評論社）．
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり，標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される．本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める．

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので，開講時によく確認されたい． 一部のクラスでは，パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である．

授業コード	31C06		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (A- 6)(後)**		
担当者名	稲田義久（イナダ　ヨシヒサ）、岡谷良二（オカタニ　リョウジ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限

特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ. マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的, 全体的に捉え, 分析しようとする経済学の基礎的分野である. 一国の経済活動水準やその変化は, どのような要因によってどのように定まるのかを明らかにするのがその主な目標であるが, そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する.
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること。
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の講義(必修)である. 原則として, 教科書・参考書に沿った講義を行い, その内容を演習クラスにて, 小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については, 第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり, 標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので, 開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは, パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C11		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (B- 1)(後)**		
担当者名	青木浩治(アオキ　コウジ)、新居理有(アライ　リアル)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の講義(必修)である. 原則として, 教科書・参考書に沿った講義を行い, その内容を演習クラスにて, 小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。

成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については, 第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり, 標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので, 開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは, パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C12		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (B- 2)(後)**		
担当者名	青木浩治(アオキ　コウジ)、新居理有(アライ　リアル)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の講義(必修)である. 原則として, 教科書・参考書に沿った講義を行い, その内容を演習クラスにて, 小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については, 第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.

教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり，標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される．本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので，開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは，パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C13		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (B- 3)(後)**		
担当者名	青木浩治(アオキ　コウジ)、岡本　弥(オカモト　ヒサシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の講義(必修)である. 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を演習クラスにて，小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%，演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については，第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり，標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される．本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので，開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは，パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C14		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (B- 4)(後)**		
担当者名	青木浩治(アオキ　コウジ)、岡本　弥(オカモト　ヒサシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の講義(必修)である. 原則として, 教科書・参考書に沿った講義を行い, その内容を演習クラスにて, 小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については, 第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり, 標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので, 開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは, パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C15		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (B- 5)(後)**		
担当者名	青木浩治(アオキ　コウジ)、寺地祐介(テラジ　ユウスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の講義(必修)である. 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を演習クラスにて，小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%，演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については，第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり，標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので，開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは，パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C16		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (B- 6)(後)**		
担当者名	青木浩治(アオキ　コウジ)、寺地祐介(テラジ　ユウスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の講義(必修)である. 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を演習クラスにて，小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%，演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%)

	2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については，第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり，標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので，開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは，パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C21		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (C- 1)(後)**		
担当者名	寺尾　建(テラオ　タケル)、東　裕三(ヒガシ　ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に，各担当者より告知します.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます. マクロ経済学とは，経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する，経済学の基礎的な分野です. マクロ経済学の主な課題は，一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです. そのために必要な諸概念や諸関係について学びます.
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること，(2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが，具体的な到達目標です.
講義方法	この科目は，100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の必修科目です. 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を，演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します.
準備学習	入学以降は，毎日，全国紙の経済面に目を通すようにしてください.
成績評価	講義クラスの成績を65%，演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し，5段階で評価します. 〔講義クラス〕　〔演習クラス〕 1. 出席状況(15%)　1. 出席状況(15%) 2. 期末試験(50%)　2. 小テスト(20%) 詳細については，第1回の講義時に，各担当者から説明が行われる予定です.
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します. 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します. 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します. 〔4〕その他 (時事的な問題も含めて)関連する論点について適宜解説をします.

教科書	[00] 伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社, 2009年).
参考書・資料	[01] 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社, 2002年). [02] 井堀利宏『経済学演習』(新世社, 1999年). [03] 岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書, 1994年). [04] 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版, 1996年). [05] 林敏彦『ハート＆マインド経済学入門』(有斐閣アルマ, 1996年).
講義関連事項	この科目は, マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです. マクロ経済学の詳細については, 中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます. 本科目を履修したみなさんは, 2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます.

担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので, 開講時によく確認をしてください. なお, 一部のクラスでは, コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です.

授業コード	31C22		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (C- 2)(後)**		
担当者名	寺尾　建(テラオ　タケル)、東　裕三(ヒガシ　ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に, 各担当者より告知します.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます. マクロ経済学とは, 経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する, 経済学の基礎的な分野です. マクロ経済学の主な課題は, 一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです. そのために必要な諸概念や諸関係について学びます.
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること, (2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが, 具体的な到達目標です.
講義方法	この科目は, 100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の必修科目です. 原則として, 教科書・参考書に沿った講義を行い, その内容を, 演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します.
準備学習	入学以降は, 毎日, 全国紙の経済面に目を通すようにしてください.
成績評価	講義クラスの成績を65%, 演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し, 5段階で評価します. 〔講義クラス〕　〔演習クラス〕 1. 出席状況(15%)　1. 出席状況(15%) 2. 期末試験(50%)　2. 小テスト(20%) 詳細については, 第1回の講義時に, 各担当者から説明が行われる予定です.
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します. 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します. 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します. 〔4〕その他 (時事的な問題も含めて)関連する論点について適宜解説をします.
教科書	[00] 伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社, 2009年).
参考書・資料	[01] 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社, 2002年). [02] 井堀利宏『経済学演習』(新世社, 1999年). [03] 岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書, 1994年). [04] 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版, 1996年). [05] 林敏彦『ハート＆マインド経済学入門』(有斐閣アルマ, 1996年).
講義関連事項	この科目は, マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです. マクロ経済学の詳細については, 中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます. 本科目を履修したみなさんは, 2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます.

担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので，開講時によく確認をしてください． なお，一部のクラスでは，コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です．

授業コード	31C23		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (C- 3)(後)**		
担当者名	寺尾　建(テラオ　タケル)、田代義次(タシロ　ヨシツグ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に，各担当者より告知します．		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます． マクロ経済学とは，経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する，経済学の基礎的な分野です． マクロ経済学の主な課題は，一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです．そのために必要な諸概念や諸関係について学びます．
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること，(2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが，具体的な到達目標です．
講義方法	この科目は，100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の必修科目です． 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を，演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します．
準備学習	入学以降は，毎日，全国紙の経済面に目を通すようにしてください．
成績評価	講義クラスの成績を65%，演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し，5段階で評価します． 〔講義クラス〕　〔演習クラス〕 1. 出席状況(15%)　1. 出席状況(15%) 2. 期末試験(50%)　2. 小テスト(20%) 詳細については，第1回の講義時に，各担当者から説明が行われる予定です．
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します． 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します． 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します． 〔4〕その他 (時事的な問題も含めて)関連する論点について適宜解説をします．
教科書	[00] 伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社，2009年)．
参考書・資料	[01] 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社，2002年)． [02] 井堀利宏『経済学演習』(新世社，1999年)． [03] 岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書，1994年)． [04] 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版，1996年)． [05] 林敏彦『ハート＆マインド経済学入門』(有斐閣アルマ，1996年)．
講義関連事項	この科目は，マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです． マクロ経済学の詳細については，中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます． 本科目を履修したみなさんは，2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます．

担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので，開講時によく確認をしてください． なお，一部のクラスでは，コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です．

授業コード	31C24		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (C- 4)(後)**		
担当者名	寺尾　建(テラオ　タケル)、田代義次(タシロ　ヨシツグ)		
配当年次	1年次	単位数	4

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に，各担当者より告知します．		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます． マクロ経済学とは，経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する，経済学の基礎的な分野です． マクロ経済学の主な課題は，一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです．そのために必要な諸概念や諸関係について学びます．
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること，(2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが，具体的な到達目標です．
講義方法	この科目は，100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の必修科目です． 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を，演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します．
準備学習	入学以降は，毎日，全国紙の経済面に目を通すようにしてください．
成績評価	講義クラスの成績を65%，演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し，5段階で評価します． 〔講義クラス〕　〔演習クラス〕 1. 出席状況(15%)　1. 出席状況(15%) 2. 期末試験(50%)　2. 小テスト(20%) 詳細については，第1回の講義時に，各担当者から説明が行われる予定です．
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します． 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します． 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します． 〔4〕その他 (時事的な問題も含めて)関連する論点について適宜解説をします．
教科書	[00] 伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社，2009年)．
参考書・資料	[01] 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社，2002年)． [02] 井堀利宏『経済学演習』(新世社，1999年)． [03] 岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書，1994年)． [04] 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版，1996年)． [05] 林敏彦『ハート＆マインド経済学入門』(有斐閣アルマ，1996年)．
講義関連事項	この科目は，マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです． マクロ経済学の詳細については，中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます． 本科目を履修したみなさんは，2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます．

担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので，開講時によく確認をしてください． なお，一部のクラスでは，コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です．

授業コード	31C25		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (C- 5)(後)**		
担当者名	寺尾　建(テラオ　タケル)、王　凌(ワン　リン)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に，各担当者より告知します．		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます． マクロ経済学とは，経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する，経済学の基礎的な分野です． マクロ経済学の主な課題は，一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです．そのために必要な諸概念や諸関係について学びます．
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること，(2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが，具体的な到達目標です．

講義方法	この科目は，100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の必修科目です． 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を，演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します．
準備学習	入学以降は，毎日，全国紙の経済面に目を通すようにしてください．
成績評価	講義クラスの成績を65%，演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し，5段階で評価します． 〔講義クラス〕　〔演習クラス〕 1. 出席状況（15%）　1. 出席状況（15%） 2. 期末試験（50%）　2. 小テスト（20%） 詳細については，第1回の講義時に，各担当者から説明が行われる予定です．
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します． 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します． 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します． 〔4〕その他 （時事的な問題も含めて）関連する論点について適宜解説をします．
教科書	[00] 伊藤元重『入門｜経済学 第3版』（日本評論社，2009年）．
参考書・資料	[01] 伊藤元重『マクロ経済学』（日本評論社，2002年）． [02] 井堀利宏『経済学演習』（新世社，1999年）． [03] 岩田規久男『経済学を学ぶ』（ちくま新書，1994年）． [04] 伊達邦春『マクロ経済学』（八千代出版，1996年）． [05] 林敏彦『ハート＆マインド経済学入門』（有斐閣アルマ，1996年）．
講義関連事項	この科目は，マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです． マクロ経済学の詳細については，中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます． 本科目を履修したみなさんは，2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます．

担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので，開講時によく確認をしてください． なお，一部のクラスでは，コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です．

授業コード	31C26		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (C- 6)(後)**		
担当者名	寺尾　建（テラオ　タケル）、王　凌（ワン　リン）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に，各担当者より告知します．		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます． マクロ経済学とは，経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する，経済学の基礎的な分野です． マクロ経済学の主な課題は，一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです．そのために必要な諸概念や諸関係について学びます．
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること，(2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが，具体的な到達目標です．
講義方法	この科目は，100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の必修科目です． 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を，演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します．
準備学習	入学以降は，毎日，全国紙の経済面に目を通すようにしてください．
成績評価	講義クラスの成績を65%，演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し，5段階で評価します． 〔講義クラス〕　〔演習クラス〕 1. 出席状況（15%）　1. 出席状況（15%） 2. 期末試験（50%）　2. 小テスト（20%） 詳細については，第1回の講義時に，各担当者から説明が行われる予定です．
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる

	マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します. 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します. 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します. 〔4〕その他 (時事的な問題も含めて)関連する論点について適宜解説をします.
教科書	[00] 伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社, 2009年).
参考書・資料	[01] 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社, 2002年). [02] 井堀利宏『経済学演習』(新世社, 1999年). [03] 岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書, 1994年). [04] 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版, 1996年). [05] 林敏彦『ハート＆マインド経済学入門』(有斐閣アルマ, 1996年).
講義関連事項	この科目は, マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです. マクロ経済学の詳細については, 中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます. 本科目を履修したみなさんは, 2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます.

担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので, 開講時によく確認をしてください. なお, 一部のクラスでは, コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です.

授業コード	31C31		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (D- 1)(後)**		
担当者名	石川路子(イシカワ　ノリコ)、萩原史朗(ハギハラ　シロウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の講義(必修)である. 原則として, 教科書・参考書に沿った講義を行い, その内容を演習クラスにて, 小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については, 第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).

講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり，標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される．本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める．

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので，開講時によく確認されたい． 一部のクラスでは，パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である．

授業コード	31C32		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (D- 2)(後)**		
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）、萩原史朗（ハギハラ　シロウ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する．		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の講義(必修)である． 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を演習クラスにて，小テスト織り交ぜつつ補足する．
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%，演習クラス成績35%で総合的に評価する． ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については，第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である．
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する． 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する． 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する． 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する．
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』（日本評論社）．
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』（ちくま新書）． 林敏彦『ハート＆マインド経済学』（有斐閣） 井堀利宏『経済学演習』（新世社）． 伊達邦春『マクロ経済学』（八千代出版）． 伊藤元重『マクロ経済学』（日本評論社）．
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり，標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される．本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める．

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので，開講時によく確認されたい． 一部のクラスでは，パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である．

授業コード	31C33
授業科目名	**入門マクロ経済学 (D- 3)(後)**
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）、三原裕子（ミハラ　ユウコ）

配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の講義(必修)である. 原則として, 教科書・参考書に沿った講義を行い, その内容を演習クラスにて, 小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については, 第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり, 標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので, 開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは, パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C34		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (D- 4)(後)**		
担当者名	石川路子(イシカワ　ノリコ)、三原裕子(ミハラ　ユウコ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の講義(必修)である.

	原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を演習クラスにて，小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%，演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については，第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり，標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので，開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは，パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C35		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (D- 5)(後)**		
担当者名	石川路子(イシカワ　ノリコ)、湯淺圭祐(ユアサ　ケイスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる，半期4単位の講義(必修)である. 原則として，教科書・参考書に沿った講義を行い，その内容を演習クラスにて，小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%，演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については，第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能

	貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり, 標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので, 開講時によく確認されたい. 一部のクラスでは, パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である.

授業コード	31C36		
授業科目名	**入門マクロ経済学 (D- 6)(後)**		
担当者名	石川路子(イシカワ　ノリコ)、湯淺圭祐(ユアサ　ケイスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する.		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる, 半期4単位の講義(必修)である. 原則として, 教科書・参考書に沿った講義を行い, その内容を演習クラスにて, 小テスト織り交ぜつつ補足する.
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する. ＜講義クラス＞　＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%)　1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%)　2.小テスト(20%) 詳細については, 第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である.
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する. 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する. 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する. 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する.
教科書	伊藤元重『入門｜経済学 第3版』(日本評論社).
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート＆マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり, 標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される. 本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める.

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので，開講時によく確認されたい． 一部のクラスでは，パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である．

授業コード	31F01		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (A- 1)(前)**		
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）、東　裕三（ヒガシ　ユウゾウ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。

	4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F02		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (A- 2)(前)**		
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）、東　裕三（ヒガシ　ユウゾウ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給

	需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F03		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (A- 3)(前)**		
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）、中野沙弥香（ナカノ　サヤカ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス

	出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F04		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (A- 4)(前)**		
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）、中野沙弥香（ナカノ　サヤカ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜

	日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F05		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (A- 5)(前)**		
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）、岡谷良二（オカタニ　リョウジ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。

	（2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F06		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (A- 6)(前)**		
担当者名	石川路子（イシカワ　ノリコ）、岡谷良二（オカタニ　リョウジ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。

	（2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F11		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (B- 1)(前)**		
担当者名	市野泰和（イチノ　ヤスカズ）、新居理有（アライ　リアル）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この

	3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F12
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (B- 2)(前)**
担当者名	市野泰和（イチノ　ヤスカズ）、新居理有（アライ　リアル）

配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか: この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか: 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(=市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(=市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(=市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F13		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (B- 3)(前)**		
担当者名	市野泰和(イチノ　ヤスカズ)、岡本　弥(オカモト　ヒサシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか: この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか: 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分

	人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F14		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (B- 4)(前)**		
担当者名	市野泰和（イチノ　ヤスカズ）、岡本　弥（オカモト　ヒサシ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。

	2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F15		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (B- 5)(前)**		
担当者名	市野泰和（イチノ　ヤスカズ）、寺地祐介（テラジ　ユウスケ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%

講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F16		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (B- 6)(前)**		
担当者名	市野泰和（イチノ　ヤスカズ）、寺地祐介（テラジ　ユウスケ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。

準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F21		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (C- 1)(前)**		
担当者名	後藤　励（ゴトウ　レイ）、東　裕三（ヒガシ　ユウゾウ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。

	（3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F22		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (C- 2)(前)**		
担当者名	後藤　励（ゴトウ　レイ）、東　裕三（ヒガシ　ユウゾウ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、

	売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F23		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (C- 3)(前)**		
担当者名	後藤　励（ゴトウ　レイ）、田代義次（タシロ　ヨシツグ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何

	をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F24		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (C- 4)(前)**		
担当者名	後藤　励（ゴトウ　レイ）、田代義次（タシロ　ヨシツグ）		
配当年次	1年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F25		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (C- 5)(前)**		
担当者名	後藤　励(ゴトウ　レイ)、王　凌(ワン　リン)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか: この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか: 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会

	のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F26		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (C- 6)(前)**		
担当者名	後藤　励（ゴトウ　レイ）、王　凌（ワン　リン）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。

	2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F31		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (D- 1)(前)**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）、萩原史朗（ハギハラ　シロウ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%

講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F32		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (D- 2)(前)**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）、萩原史朗（ハギハラ　シロウ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。

準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F33		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (D- 3)(前)**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）、三原裕子（ミハラ　ユウコ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。

	（3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F34		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (D- 4)(前)**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）、三原裕子（ミハラ　ユウコ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、

	売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F35		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (D- 5)(前)**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）、湯淺圭祐（ユアサ　ケイスケ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何

	をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F36		
授業科目名	**入門ミクロ経済学 (D- 6)(前)**		
担当者名	岩﨑　晃（イワサキ　アキラ）、湯淺圭祐（ユアサ　ケイスケ）		
配当年次	1年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること（生産）、人々がモノを使うこと（消費）、そして、人々がモノをやりとりすること（交換）、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 （1）モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 （2）市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売るのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ（＝市場経済）が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 （1）トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 （2）需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 （3）人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 （4）人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 （5）人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ（＝市場経済）の性能を学びます。 5. その他（ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など）
教科書	伊藤元重、『入門｜経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31088		
授業科目名	**農業経済**		
担当者名	柘植隆宏（ツゲ　タカヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（月曜3限）、後期（月曜3限）
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	環境問題に対する経済学的なアプローチについて講義を行う。前期の授業では、市場メカニズムを活用して環境負荷の削減を図る政策手段である「環境政策の経済的手段」について解説を行う。ミクロ経済学の復習、および外部性の内部化についての解説を行ったうえで、地球温暖化問題と廃棄物問題に対する経済学的なアプローチについて、環境税、排出量取引、ごみ処理有料化などの環境政策を事例として取り上げながら解説を行う。後期の授業では、環境政策の評価手法、企業の環境対策、資源・エネルギー経済学などのトピックを扱う。公共事業による生態系破壊、有害化学物質の規制、天然資源の枯渇などの問題を事例として取り上げる。また、環境調和型企業経営が注目される背景、それを実現するためのマネジメント手法、および現実の企業経営における最新の動向についても講義する。
到達目標	この授業の目標は、環境問題に対する経済学的な分析手法を習得することで、現実の環境問題の発生原因、およびそれに対する対策を、経済学の観点から評価・分析できるようになることである。前期の授業では、各種政策手段の特徴を理解し、環境問題の性質に応じて、適切な手段を選択できるようになることを目標とする。後期の授業では、環境政策を効率性の観点から評価したり、資源の持続可能な利用を実現するためのマネジメント方法を考案したりできるようになることを目標とする。
講義方法	板書による講義形式。
準備学習	・「入門ミクロ経済学」の内容を十分に理解していること。 ・ミクロ経済学や公共経済学と関連する内容が含まれるので、「中級ミクロ経済学」や「公共経済」を履修済みであるか、あるいは、この授業と併せて履修することが望ましい。 ・新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。参考書の該当部分を事前に読んでおくと、授業の内容が理解しやすい。
成績評価	期末試験の結果により評価する。平常点を加点することがある。
講義構成	第1回：イントロダクション（1） 第2回：ミクロ経済学の復習（1）市場メカニズム 第3回：ミクロ経済学の復習（2）余剰分析 第4回：外部性 第5回：外部性の内部化（1）ピグー税 第6回：外部性の内部化（2）コースの定理 第7回：外部性の内部化（3）政策手段の選択とポリシーミックス 第8回：地球温暖化対策の経済分析（1）京都メカニズム 第9回：地球温暖化対策の経済分析（2）環境税と排出量取引 第10回：地球温暖化対策の経済分析（3）自然エネルギー 第11回：地球温暖化対策の経済分析（4）ポスト京都 第12回：廃棄物政策の経済分析（1）ごみ処理有料化 第13回：廃棄物政策の経済分析（2）産廃税と不法投棄対策 第14回：廃棄物政策の経済分析（3）リサイクル 第15回：廃棄物政策の経済分析（4）循環型社会 第16回：イントロダクション（2） 第17回：公共財 第18回：費用便益分析 第19回：環境の価値と評価手法（1）顕示選好法 第20回：環境の価値と評価手法（2）表明選好法 第21回：環境評価の政策利用（1）生態系保全政策 第22回：環境評価の政策利用（2）環境規制 第23回：企業の環境対策（1）公害の歴史 第24回：企業の環境対策（2）環境経営 第25回：企業の環境対策（3）環境技術 第26回：企業の環境対策（4）CSRとSRI 第27回：資源・エネルギー経済学（1）枯渇性資源 第28回：資源・エネルギー経済学（2）再生可能資源 第29回：資源・エネルギー経済学（3）共有資源

	第30回：持続可能な発展
教科書	教科書は使用しない。レジュメをMy KONANにアップロードするので、各自印刷して持参すること。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 ・栗山浩一著（2008）『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ～くわかる本』秀和システム ・栗山浩一・馬奈木俊介著（2008）『環境経済学をつかむ』有斐閣

授業コード	31043		
授業科目名	**ビジネスデータ分析（前）**		
担当者名	畠瀬和志（ハタセ　カズシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	事前登録科目 2008年度以降入学生用 「情報リテラシーA」または「情報リテラシーB」の単位を修得済みであること		

講義の内容	Excelワークシートを用い、企業財務の基礎を学ぶ。企業は資本市場から資金を調達し、事業に投資する。投資した資金は商品の製造・販売を通して利益を生み出す。本講義では、Excelワークシートを用い、このような資金の流れを企業財務の観点から分析する。
到達目標	(1) 財務分析の基礎的な知識を習得すること (2) Excelをビジネス実務で使えるようになること
講義方法	講義はコンピューターを用いた実習型式とする。毎回、数題のExcelワークシートを用いた課題を与え、講師が解説しながら全員で課題を解く。毎回の講義の終わりには、ワークシートを提出してもらう。
準備学習	講義の前に、前回の講義で提出したワークシートの数式について復習すれば役立つでしょう（似た数式が繰り返し登場します）。
成績評価	(1) 出席（15%） (2) 毎回提出するExcelワークシート（45%） (3) 期末レポート（40%）
講義構成	第1講：正味現在価値 第2講：内部収益率 第3講：リスクと確率分布 第4講：共分散、相関係数 第5・6講：ポートフォリオによるリスクの分散 第7講：財務諸表 第8・9講：財務諸表を用いた企業価値の推定 第10・11講：正味現在価値の実務への応用 第12・13講：財務計画のシミュレーション（簡易モデル） 第14講：フリー・キャッシュフローとDCF法
教科書	講義毎に資料を配布する。
参考書・資料	石野雄一「道具としてのファイナンス」日本実業出版社 Simon Benninga “Financial Modeling”, MIT Press

担当者から一言	企業財務の基礎知識を比較的簡単に習得出来る講義を目指します。より本格的な知識習得には、本年度後期の「ビジネスデータ分析B」を受講して下さい。

授業コード	31044		
授業科目名	**ビジネスデータ分析A（後）**		
担当者名	畠瀬和志（ハタセ　カズシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限

特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生用 2006年度以降入学生は「情報リテラシーA」または「情報リテラシーB」の単位を修得済みであること

講義の内容	Excelワークシートをビジネスで使うためのトレーニングを行う。題材としては企業財務を扱うが、本講義では専門知識よりもExcelワークシート操作能力の習得に重きを置く。なお、企業財務の予備知識は必要としないが、Excelの基礎知識は持っていることを前提として講義を行う。
到達目標	Excelをビジネス実務で使えるようになること
講義方法	講義はコンピューターを用いた実習型式とする。毎回、数題のExcelワークシートを用いた課題を与え、講師が解説しながら全員で課題を解く。毎回の講義の終わりには、ワークシートを提出してもらう。
準備学習	講義の前に、前回の講義で提出したワークシートの数式について復習すれば役立つでしょう（似た数式が繰り返し登場します）。
成績評価	(1) 出席（15%） (2) 毎回提出するExcelワークシート（45%） (3) 期末レポート（40%）
講義構成	第1・2講：Excelワークシート操作の基礎 第3講：正味現在価値 第4講：内部収益率 第5講：将来価値に関する応用問題 第6講：財務諸表 第7・8講：企業価値の推定 第9・10講：正味現在価値の実務への応用 第11講：リスクと確率分布 第12講：共分散、相関係数 第13・14講：ポートフォリオ・マネジメント
教科書	講義毎に資料を配布する。
参考書・資料	石野雄一「道具としてのファイナンス」日本実業出版社 Simon Benninga “Financial Modeling”, MIT Press

担当者から一言	株価の計算や投資戦略といった実用的な題材を取り上げます。楽しくやって行きましょう。
その他	Excelワークシート操作能力の習得に重きを置くため、企業財務のうち専門性の高い部分は講義から外した。このように、本講義は企業財務の本格的な講義ではないため、Excelを用いた財務分析を学びたい受講者は「ビジネスデータ分析B」を受講されたい。

授業コード	31045		
授業科目名	**ビジネスデータ分析B（後）**		
担当者名	畠瀬和志（ハタセ　カズシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生用 2006年度以降入学生は「情報リテラシーA」または「情報リテラシーB」の単位を修得済みであること		

講義の内容	企業は資本市場から資金を調達し、事業に投資する。投資した資金は商品の販売を通してリターンを生み出し、そのリターンは利息や配当として資本市場に還元される。また、リターンの一部は企業内で再投資される。本講義では、Excelワークシートを用い、このような資金の流れを企業財務の観点から分析する。「ビジネスデータ分析A」がExcelワークシート操作能力の習得に重きを置くのに対し、本講義「ビジネスデータ分析B」は財務分析の知識習得に重きを置く。
到達目標	(1) 財務分析の基礎的な知識を習得すること (2) Excelをビジネス実務で使えるようになること
講義方法	講義はコンピューターを用いた実習型式とする。毎回、数題のExcelワークシートを用いた課題を与え、講師が解説しながら全員で課題を解く。毎回の講義の終わりには、ワークシートを提出してもらう。
準備学習	講義の前に、前回の講義で提出したワークシートの数式について復習すれば役立つでしょう（似た数式が繰り返し登場します）。

成績評価	(1) 出席(15%) (2) 毎回提出するExcelワークシート(45%) (3) 期末レポート(40%)
講義構成	第1講:正味現在価値 第2講:内部収益率 第3講:リスク・リターンと相関係数 第4・5講:ポートフォリオによるリスクの分散 第6講:市場リスクと個別リスク 第7講:加重平均資本コスト(WACC) 第8・9講:財務諸表を用いた企業価値の推定 第10・11講:財務計画モデル 第12講:フリー・キャッシュフロー 第13・14講:財務計画モデルを用いた企業価値評価(DCF法)
教科書	講義毎に資料を配布する。
参考書・資料	石野雄一「道具としてのファイナンス」日本実業出版社 Simon Benninga "Financial Modeling", MIT Press

担当者から一言	やや複雑なワークシート操作もありますが、頑張って付いて来てください。

授業コード	31067		
授業科目名	**ファイナンスⅠ(前)**		
担当者名	石橋尚平(イシバシ　ショウヘイ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「ファイナンスⅠ」・「ファイナンスⅡ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	本講義では、金融ならびにファイナンスに関する基礎的な概念・理論、証券市場をはじめとする金融システムの仕組み、主な金融商品の内容・特徴、ファイナンスの最近の動向について解説する。 金融ならびにファイナンスについての基礎知識を身につけるだけではなく、聴講者自身の観点から、金融に関する社会問題についての論考を深めるほか、ファイナンス分野の基本的な計算能力をしっかり身につけられるようにしたい。
到達目標	・当授業を履修し、活用することができると、証券アナリスト資格を取得するための一応の水準に到達することを目標とする。ただし、「経済」や「財務分析」などの科目については、各自勉強してもらいたい。 ・将来、金融業界に就職した場合や、また事業会社の財務部門に配属された場合、当講義で得られた知識が現場において活かされることを目標とする。 ・将来、金融関連を専攻する大学院や、MBAプログラムを取得する場合においても、当講義でのファイナンスの基本内容は、知識のベースとなるので、しっかりと勉強してもらいたい。
講義方法	講義ノート(word版)、パワーポイントによる講義内容(授業中に表示)、レジュメの配布、宿題ならびに課題については、My Konanを通じて行うものとする。講義では、講義内容の解説の他、例題を多く出すこととし、ファイナンスの基本的な理解を進める。また、ファイナンスの計算問題を中心とした宿題(4回)や、レポートの提出(1回)を課し、履修者が予習復習を通じて理解を深めることができるようにする。
準備学習	・ファイナンスの基本を理解するには、実際に簡単な数値例を使った問題を解くなどの練習が必要である。授業中に例題を示して練習する他、宿題(計4回)を課すので、これらの課題を理解のための機会だと 考え、自分自身で解くようにすべきである。 ・教科書は指定しないが、下記に指定する参考書・資料や、授業中に示す参考文献は、履修者が十分に活用すれば、理解をさらに深め、内容を整理することに役立つ。
成績評価	期末試験の点数を最重視する。 宿題(4回)の点数ならびにレポート(1回)も加味するが、宿題がよくても期末試験の成績が芳しくないと、80点以上をとることはできない。それぞれの点数を配点の中心とする複数の採点結果から、最も良い点を最終的な評価点とする。
講義構成	第1回　ガイダンス、ファイナンスについて:金融市場の機能、資金の効率的な配分 第2回　資金循環(1):フローとストック、経済のストック化、日銀資金循環 第3回　資金循環(2):日米の家計の金融資産構成比較、アブソープション・アプローチ、世界の資金循環 第4回　間接金融と直接金融:金融の区分、銀行と証券

	第5回　わが国の金融市場：金融市場の分類、短期金融市場、外国人投資家 第6回　債券(1)～現在価値：単利と複利、Net Present Value、内部収益率 第7回　債券(2)～債券の価格：債券の種類、債券の価格と利回り 第8回　債券(3)～デュレーション：金利の期間構造、フォワードレート、マコーレーのデュレーション 第9回　債券(4)～コンベクシティ：修正デュレーション、ボンド・コンベクシティ、債券投資のリスク 第10回　債券(5)～さまざまな債券：コーラブル債、変動利付債、債券発行市場、債券流通市場 第11回　モダン・ポートフォリオ理論(1)～リスクとリターン：分散、標準偏差、リスクに対する態度 第12回　モダン・ポートフォリオ理論(2)～分散投資：共分散、相関係数、効率的フロンティア 第13回　モダン・ポートフォリオ理論(3)～CAPM：無差別曲線、分離定理、マーケット・ポートフォリオ、β 第14回　債券、モダン・ポートフォリオ理論の補講 第15回　期末試験
教科書	特に指定しない
参考書・資料	美和卓『20歳からの金融入門』日本経済新聞出版社 堀之内朗・武内浩二『債券取引の知識』日経文庫 石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 岡村秀夫、田中敦、野間敏克、藤原賢哉『金融システム論』有斐閣コンパクト 福光寛・高橋元『ベーシック証券市場論』]同文館出版 小林孝雄・芹田敏夫『新・証券投資論Ⅰ理論編』日本経済新聞出版社 伊藤敬介・荻島誠司・諏訪部貴嗣『新・証券投資論Ⅱ実務編』日本経済新聞出版社
講義関連事項	第7回(5/27)、第9回(6/10)、第11回(6/24)、第13回(7/8)の回で宿題、 第3回(4/22)の回でレポート提出を示す予定です(宿題は翌週提出、レポートは1カ月後提出) ただし変更の可能性あり

担当者から一言	授業中の私語は控えてください。
その他	最初の授業のガイダンスにおいて、授業の概要、課題、評価方法などを説明します。

授業コード	31068		
授業科目名	**ファイナンスⅡ(後)**		
担当者名	石橋尚平(イシバシ　ショウヘイ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「ファイナンスⅠ」・「ファイナンスⅡ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	本講義では、金融ならびにファイナンスに関する基礎的な概念・理論、証券市場をはじめとする金融システムの仕組み、主な金融商品の内容・特徴、ファイナンスの最近の動向について解説する。 金融ならびにファイナンスについての基礎知識を身につけるだけではなく、聴講者自身の観点から、金融に関する社会問題についての論考を深めるほか、ファイナンス分野の基本的な計算能力をしっかり身につけられるようにしたい
到達目標	・当授業を履修し、活用することができると、証券アナリスト資格を取得するための一応の水準に到達することを目標とする。ただし、「経済」や「財務分析」などの科目については、各自勉強してもらいたい。 ・将来、金融業界に就職した場合や、また事業会社の財務部門に配属された場合、当講義で得られた知識が現場において活かされることを目標とする。 ・将来、金融関連を専攻する大学院や、MBAプログラムを取得する場合においても、当講義でのファイナンスの基本内容は、知識のベースとなるので、しっかりと勉強してもらいたい。
講義方法	講義ノート(word版)、パワーポイントによる講義内容(授業中に表示)、レジュメの配布、宿題ならびに課題については、My Konanを通じて行うものとする。講義では、講義内容の解説の他、例題を多く出すこととし、ファイナンスの基本的な理解を進める。また、ファイナンスの計算問題を中心とした宿題(4回)や、レポートの提出(1回)を課し、履修者が予習復習を通じて理解を深めることができるようにする。
準備学習	・ファイナンスの基本を理解するには、実際に簡単な数値例を使った問題を解くなどの練習が必要である。授業中に例題を示して練習する他、宿題(計4回)を課すので、これらの課題を理解のための機会だと 考え、自分自身で解くようにすべきである。 ・教科書は指定しないが、下記に指定する参考書・資料や、授業中に示す参考文献は、履修者が十分に活用すれば、理解をさらに深め、内容を整理することに役立つ。
成績評価	期末試験の点数を最重視する。 宿題(4回)の点数ならびにレポート(1回)も加味するが、宿題がよくても期末試験の成績が芳しくないと、80点以

	上をとることはできない。それぞれの点数を配点の中心とする複数の採点結果から、最も良い点を最終的な評価点とする。
講義構成	第1回　ガイダンス、株式(1)～わが国の株式市場 第2回　株式(2)～理論上の株価 第3回　株式(3)～株価の算定 第4回　モダン・ポートフォリオ理論(4)～効率的市場仮説 第5回　デリバティブ(1)～デリバティブとは? 第6回　デリバティブ(2)～先物 第7回　デリバティブ(3)～オプション 第8回　デリバティブ(4)～リスク中立価格 第9回　デリバティブ(5)～BSモデル 第10回　デリバティブ(6)～スワップ 第11回　国際証券投資 第12回　オルタナティブ投資 第13回　行動ファイナンス(1)～概要 第14回　行動ファイナンス(2)～事例 第15回　期末試験(後期)
教科書	特に指定しない
参考書・資料	石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 藤井英次『コア・テキスト国際金融論』新世社 角田康夫『行動ファイナンス』金融財政事情研究会 岡田克彦『行動ファイナンス入門』秀和システム 福光寛・高橋元『ベーシック証券市場論』]同文館出版 小林孝雄・芹田敏夫『新・証券投資論Ⅰ理論編』日本経済新聞出版社 伊藤敬介・荻島誠司・諏訪部貴嗣『新・証券投資論Ⅱ実務編』日本経済新聞出版社
講義関連事項	ファイナンスⅠ(前)を履修しておくことを推奨する 第2回(10/14)、第6回(11/11)、第8回(11/25)、第10回(12/9)の回で宿題、 第3回(10/14)の回でレポート提出を示す予定です(宿題は翌週提出、レポートは1カ月後提出) ただし、変更の可能性あり

担当者から一言	授業中の私語は控えてください。
その他	最初の授業のガイダンスにおいて、授業の概要、課題、評価方法などを説明します。

授業コード	55J13		
授業科目名	**プラクティカル・キャリアデザイン (C)(前)**		
担当者名	中山一郎(ナカヤマ　イチロウ)、I		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	2007年度以降入学生適用		

講義の内容	「就職活動」を「キャリアデザイン」(自分の基本とする生き方や働き方を描くこと)の始発点として位置づけ、就職活動に必要な基本的な知恵や知識やスキルを学び、納得のいく就職先を自分自身で選択し決定していける“自分づくり”を具体的な目的とします。さらには「就職活動」というものを通じて自分や社会をより深く理解し、ビジネス社会における思考法やマナーやルールの基本を身につけ、最終的には「生きる」ということや「働く」ということについても考えていきたいと思います。ゲストスピーカーとして、企業の人事担当者や就職が内定した4年次生なども招く予定にしています。自分を成長させるための講義です。
到達目標	受講者たち一人ひとりが、それぞれ納得のゆく進路や就職先を選択し決定できる。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてもどんどん実践し活かしていきましょう。
成績評価	1. キャリアデザインシート 2. 講義への出席(いかなる理由があっても、講義の場にいなかった、講義を受けていなかった学生は原　則欠席とします) 3. 講義への出席態度・参加意欲(遅刻・無用の私語・居眠り等厳禁)

	※ 以上を総合的に評価します。
講義構成	1. プロローグ ～プラクティカル・キャリアデザインの狙い～ 2. 就職活動のキホンⅠ ～就職環境の変化と企業が求める人物像～ 3. 就職活動のキホンⅡ ～就職活動プランニングを描こう～ 4. 自分づくりのキホンⅠ ～自分が思っている自分を確認しょう≪自己分析編≫～ 5. 自分づくりのキホンⅡ ～他人から見えている自分を知ろう≪他己分析編≫～ 6. ロールモデルをさがそうⅠ ～先輩たちが語る就職活動体験談～ 7. ロールモデルをさがそうⅡ ～人事担当者が語る欲しい学生・欲しくない学生～ 8. ビジネス研究のキホンⅠ ～私と社会をつなぐ業界・業種選び～ 9. ビジネス研究のキホンⅡ ～私と企業をつなぐ職種・仕事選び～ 10. 就職情報のキホンⅠ ～就職ナビのどこを見ればイイ？何を見ればイイ？～ 11. 就職情報のキホンⅡ ～キャリアセンターを120%使いこなそう～ 12. 面接対策のキホンⅠ ～集団面接にチャレンジしよう～ 13. 面接対策のキホン ～グループディスカッションにチャレンジしよう～ 14. エピローグ ～就職活動は夢実現にむけてのキャリアデザインの出発点～
教科書	必要な「レジュメ」は講義の中で随時配布します。
参考書・資料	適宜紹介します。

担当者から一言	「就職活動」は間違いなく人間をひとまわり大きく成長させてくれます。活動中は楽しいことばかりではありません。厳しく辛いこともあるでしょう。それらを乗り越えるためのタフな気力や精神力もこの講義で身につけてください。厳しくも、楽しい、そして充実した講義を皆さんといっしょに創っていきましょう。

授業コード	55A31		
授業科目名	**ベーシック・キャリアデザイン（経済）(1ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	中山一郎（ナカヤマ　イチロウ）、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限
特記事項	2007年度以降入学生適用 履修クラスについては授業時間表参照		

講義の内容	大学生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択に際して必要とされる基本的なチカラを“4つの知恵”（人と人との関係を築く知恵・情報を収集して活用する知恵・自ら考えて判断や決定をする知恵・自分の将来をイメージして描ける知恵）と名づけ、「雑談＆情報交換ペアワーク」「コミュニケーションゲーム」「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「ロールプレイング」などといった人間関係を軸としたトレーニングを14回の講義の中で行っていきます。
到達目標	「自己発見（なりたい自分を探す）」をコンセプトに、最終の学習目標としては、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、まずは自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身につけていきます。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてもどんどん実践し活かしていきましょう。
成績評価	キャリアデザインシートの提出（講義の中での気づきや感想などを記入・提出）、キャリアデザインマップの発表と提出（将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定と行動企画を作成・発表・提出）、講義への出席（一回一回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場にいなかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします）。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーション－ベーシック・キャリアデザインとは？－ 2. “なりたい私”を探そうⅠ

	3. “なりたい私”を探そうⅡ 4. 豊かな人間関係をきずこうⅠ 5. 豊かな人間関係をきずこうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ 8. 幅広い情報を活用しようⅠ 9. 幅広い情報を活用しようⅡ 10. 考える力を身につけようⅠ 11. 考える力を身につけようⅡ 12.「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 13.「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 14. “なりたい私”を実現させよう
教科書	「テキスト」は正式な履修登録後の講義で配付します。

担当者から一言	「生き方」や「働き方」の正解がたった一つだけではないという“新しい時代”や“新しい社会”がやってきました。そのような中、皆さん一人ひとりが充実した大学生活を過ごし、さらには“私らしい生き方や働き方”を実践していくためには、いったいどのような教養が必要なのでしょうか。皆さんの「これから」をいっしょに考えていきましょう。

授業コード	55A32		
授業科目名	**ベーシック・キャリアデザイン (経済)(2ｸﾗｽ)(後)**		
担当者名	中山一郎（ナカヤマ　イチロウ）、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限
特記事項	2007年度以降入学生適用 履修クラスについては授業時間表参照		

講義の内容	大学生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択に際して必要とされる基本的なチカラを“4つの知恵”（人と人との関係を築く知恵・情報を収集して活用する知恵・自ら考えて判断や決定をする知恵・自分の将来をイメージして描ける知恵）と名づけ、「雑談＆情報交換ペアワーク」「コミュニケーションゲーム」「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「ロールプレイング」などといった人間関係を軸としたトレーニングを14回の講義の中で行っていきます。
到達目標	「自己発見（なりたい自分を探す）」をコンセプトに、最終の学習目標としては、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、まずは自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身につけていきます。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてもどんどん実践し活かしていきましょう。
成績評価	キャリアデザインシートの提出（講義の中での気づきや感想などを記入・提出）、キャリアデザインマップの発表と提出（将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定と行動企画を作成・発表・提出）、講義への出席（一回一回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場にいなかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします）。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーション－ベーシック・キャリアデザインとは？－ 2. “なりたい私”を探そうⅠ 3. “なりたい私”を探そうⅡ 4. 豊かな人間関係をきずこうⅠ 5. 豊かな人間関係をきずこうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ 8. 幅広い情報を活用しようⅠ 9. 幅広い情報を活用しようⅡ 10. 考える力を身につけようⅠ 11. 考える力を身につけようⅡ 12.「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 13.「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 14. “なりたい私”を実現させよう
教科書	「テキスト」は正式な履修登録後の講義で配付します。

担当者から一言	「生き方」や「働き方」の正解がたった一つだけではないという“新しい時代”や“新しい社会”がやってきました。そのような中、皆さん一人ひとりが充実した大学生活を過ごし、さらには“私らしい生き方や働き方”を実践していくためには、いったいどのような教養が必要なのでしょうか。皆さんの「これから」をいっしょに考えていきましょう。

授業コード	31041		
授業科目名	**法人課税法（前）**		
担当者名	岡田悦美（オカダ　エミ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	主として法人税法を講義する。法人税法は所得を課税の対象とし、法人を納税義務者とすると定めている。日常の企業活動のなかで行われている取引・事実を基礎にして所得が形成されるから近隣法規の理解も要求される。 「誰が、どのような税金を、どのような場合に、どれだけ、いつ、誰に対して支払わなければならないか」を自分で判断できるようになることが目的である。
到達目標	まず、法人税法の全体像（大きな幹）を把握し、そこから個々の規定を理解することが目標である。
講義方法	法人税法は法人税の課税要件及びその手続きを定めている。したがって講義は条文を確認しつつ教科書に沿って進める。その過程で指名し発言を求め理解の程度を確認するので、受講生は積極的に授業に取り組まなければならない。
準備学習	シラバスの講義構成を見て、教科書の該当箇所を予習すること。 授業で配布した資料も合わせて復習すること。 条文に親しむこと。 新聞を読むこと。
成績評価	主として期末筆記試験による(80%)。 レポートの提出及び授業出席状況を成績評価に加算する（20%）。
講義構成	第1回　法人税の意義と性質 第2回　法人税の納税義務者と課税所得等の範囲 第3回　同族会社、事業年度、納税地の意義等 第4回　課税所得の基礎的計算構造 第5回　益金及び損金の概念 第6回　公正妥当と認められる会計処理の基準と税務調整 第7回　益金及び損金の計上時期（一般と特例） 第8回　益金の額の計算特例（「別段の定め」） 第9回　損金の額の計算特例　減価償却費・繰延資産の償却費 第10回 損金の額の計算特例　給与 第11回 損金の額の計算特例　寄付金・交際費等・租税公課 第12回 損金の額の計算特例　資産の評価損・貸倒・引当金・準備金 第13回 圧縮記帳・リース取引 第14回 欠損金の繰越控除・繰戻還付と税額の計算・申告・納付
教科書	岸田貞夫 『税法としての所得課税』[4訂版]（税務経理協会2008年）
参考書・資料	森　秀文編『平成21年版　図解法人税』（大蔵財務協会2009年）
講義関連事項	法人税法が収録された条文集を持参すること。

担当者から一言	「簿記」を既に受講していることが望ましい。 自主的に学習しない受講生は単位取得が難しいことを自覚しておいて欲しい。

授業コード	31102		
授業科目名	**簿記I（後）**		
担当者名	越智砂織（オチ　サオリ）		
配当年次	2年次	単位数	4

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	2006年度以降入学生対象		

講義の内容	企業は複式簿記のシステムにより、その活動に必要な資源である財産の増減と変動を把握し、営業活動によって生じる利益の計算を行い、その結果を財務諸表に要約して表示します。 本講義では、簿記の一連の手続きを学習します。
到達目標	基礎的な知識と技法をベースに、日本商工会議所主催簿記検定試験3級レベルを目標として、解説した後、問題を解くという演習形式で行います。 簿記は会計関連科目の最も基礎的な科目であり、この講義においては、複式簿記の基本的な構造である、会計処理方法、とりわけ日常の諸取引を中心に簿記原理を理解することを目的とします。
講義方法	講義と演習の両形式
準備学習	講義で学んだ箇所の復習をすること。
成績評価	中間試験(25%)・期末試験(60%)・授業態度(15%)
講義構成	第1回　ガイダンス、簿記の意味・目的・種類 第2回　簿記の基礎概念、取引 第3回　勘定と仕訳 第4回　決算と財務諸表 第5回　決算と財務諸表、中間試験 第6回　現金預金取引 第7回　商品売買 第8回　有価証券 第9回　手形 第10回　その他の債権債務 第11回　固定資産 第12回　売掛金と買掛金 第13回　資本金と引出金 第14回　収益と費用 第15回　期末試験
教科書	福島三千代 『サクッとうかる日商3級商業簿記　テキスト』 ネットスクール 福島三千代 『サクッとうかる日商3級商業簿記　トレーニング』 ネットスクール
参考書・資料	随時、必要に応じてレジュメを配付します。
講義関連事項	講義には、テキスト、トレーニング、レジュメ(ガイダンス時に配付)、および電卓を必ず持参して下さい。

担当者から一言	簿記は、積み重ねの学問ですから、欠席するとその部分の知識が欠け、その後の理解に多大な支障をきたします。 したがって、講義はすべて出席することが望ましいです。

授業コード	31103		
授業科目名	**簿記II(前)**		
担当者名	越智砂織(オチ　サオリ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	2006年度以降入学生対象 「簿記Ⅰ」の単位を修得済みであること		

講義の内容	講義は、商業簿記と工業簿記とにわけて、それぞれ1コマずつ用いて行います。 なお、本講義は、日商簿記2級レベルの内容ですが、受講生の多くが日商簿記3級を理解していなければ、3級の復習を中心に行います(初回の授業の時に詳細な講義内容について決めます)。
到達目標	「簿記Ⅰ」講義によって習得した基礎的な知識と技法をベースに、日本商工会議所主催簿記検定試験2級レベルを目標として、商業簿記および工業簿記について理解します。
講義方法	講義および演習形式
準備学習	簿記の基礎知識を必要としているため、「簿記Ⅰ」を修得していることが望ましい。 講義で学んだ箇所を復習すること。

成績評価	中間試験（25%）、期末試験（60%）、および授業態度（15%）
講義構成	第1回　ガイダンス、現金・預金 第2回　手形、工業簿記の基礎 第3回　有価証券、材料費 第4回　固定資産、労務費、経費 第5回　一般商品売買、個別原価計算 第6回　特殊商品売買、部門別計算 第7回　株式の発行、合併・買収、総合原価計算 第8回　剰余金の配当・処分、損失処理、中間試験 第9回　税金、社債、総合原価計算 第10回　引当金、総合原価計算 第11回　決算手続き、財務諸表 第12回　本支店会計、標準原価計算 第13回　伝票会計、直接原価計算 第14回　帳簿組織、本社工場会計 第15回　期末試験
教科書	福島三千代 『サクッとうかる日商2級　商業簿記　テキスト』 ネットスクール 福島三千代 『サクッとうかる日商2級　商業簿記　トレーニング』 ネットスクール 福島三千代 『サクッとうかる日商2級　工業簿記　テキスト』 ネットスクール 福島三千代 『サクッとうかる日商2級　工業簿記　トレーニング』 ネットスクール
参考書・資料	授業の時に必要に応じてレジュメと過去問題を配付します。
講義関連事項	テキスト、トレーニング、レジュメ、および電卓を必ず持参して下さい。

担当者から一言	初回の講義のときに、受講生の要望を聞き、その後の授業の予定を立てるつもりですから、必ず出席して下さい。

授業コード	31018		
授業科目名	**ヨーロッパ経済入門（後）**		
担当者名	中屋宏隆（ナカヤ　ヒロタカ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	講義終了直後		

講義の内容	18世紀末英国の産業革命を起点にしたヨーロッパ経済の発展プロセスを概観する。
到達目標	ヨーロッパ経済史の基礎的な知識の獲得を目標としたい。
講義方法	レジュメを配布し、パワーポイントを用いて進める。
準備学習	必要無し。
成績評価	小テスト(30点）と期末試験（70点）。
講義構成	第1回　イントロダクション 第2回　英国の産業革命 第3回　金融システムの確立 第4回　交通・通信革命と産業革命の波及 第5回　第二次産業革命と独米の台頭 第6回　パクス・ブリタニカの終焉 第7回　戦間期の英国とドイツの経済 第8回　ナチス経済と大恐慌のアメリカ 第9回　ヨーロッパ統合の胎動 第10回　ヨーロッパにおける冷戦の幕開け 第11回　ドイツ分断からヨーロッパ統合へ 第12回　ヨーロッパ経済共同体の誕生
教科書	適宜紹介する。

担当者から一言	ヨーロッパ経済に少しでも関心を持ってもらえればと思います。

授業コード	31107		
授業科目名	**労働経済（後）**		
担当者名	舟場拓司（フナバ　タクジ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	経済学部2007年度以前入学生適用		

講義の内容	この講義では，わが国の労働市場の特徴をつかむために，まず，労働力率，合計特殊出生率，労働時間，短時間労働者の割合など主要な統計指標の推移を検討する．これらの特徴が観察できる経済学による理論的根拠を考察したり，これらの指標に関して外国の数値と比較したりすることによって，理解を深める．また，失業や女性労働，教育などの人的資本投資などに関する最近の研究も紹介する．
到達目標	労働市場の出来事に関して，いくつかの見方を提示することによって，自分のストーリーを展開するための考え方が身につくと期待される．
講義方法	教科書を使わずに，ノート講義を行う．講義形式を想定しているが，受講生の数など，物理的に許される範囲で，意見交換を取り入れた，双方向授業も考えている．
準備学習	経済に関するニュースをこまめにチェックして，それに関してコメントしてみる．
成績評価	定期試験（100%）
講義構成	第1回　授業内容紹介 第2回から第4回　労働供給に関連するテーマ 労働力率　出生など 第5回から第7回　労働需要に関連するテーマ 第8回から第11回　人的資本に関連するテーマ 教育，訓練，健康など 第12回から第14回　失業に関連するテーマ 第15回　まとめ
教科書	使用しない．
参考書・資料	随時指示する．

授業コード	31074		
授業科目名	**労働経済Ⅰ（前）**		
担当者名	岡本　弥（オカモト　ヒサシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「労働経済Ⅰ」・「労働経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	わが国で近年観察される雇用状況の変化に注目しながら、労働に関連する経済問題について考える。
到達目標	新聞に日々掲載されている労働に関連する記事について、経済学的な見地から、自分なりにコメントできるようになること。
講義方法	単位取得を希望する人は、下記の2点を了解のうえ、履修登録のこと。 *成績評価においては、4年生を絶対に特別扱いしない。 *授業中の私語や携帯電話およびメールの使用は厳禁。ただし質問は歓迎。
準備学習	入門レベルのミクロ経済学の知識があることが望ましい。
成績評価	学期末試験(100点満点)+平常点（上限30点）。100点以上のときには100点とする。ただし成績不良者の救済は絶対に行わない。
講義構成	講義予定トピックは以下の通り。 *イントロダクション *賃金と雇用の決まり方

	*日本の労働市場 *労働供給 *労働需要 *年功賃金制度 *長期雇用制度
教科書	特定の教科書は使用しない。ただし、以下の参考書については、講義をより深く理解する上で役立つと思われる。
参考書・資料	*大竹文雄(1998)『労働経済学入門』日経文庫 *大橋勇雄・中村二朗(2004)『労働市場の経済学』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2000)『マテリアル人事労務管理』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2007)『新しい人事労務管理(第3版)』有斐閣アルマ *中馬宏之(1995)『労働経済学』新世社
講義関連事項	講義予定トピックは以下の通り。 *イントロダクション *賃金と雇用の決まり方 *日本の労働市場 *労働供給 *労働需要 *年功賃金制度 *長期雇用制度

授業コード	31075		
授業科目名	**労働経済 II(後)**		
担当者名	岡本　弥(オカモト　ヒサシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「労働経済Ⅰ」・「労働経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	わが国で近年観察される雇用状況の変化に注目しながら、労働に関連する経済問題について考える。
到達目標	新聞に日々掲載されている労働に関する記事について、経済学の考え方に基づいて議論できるようになること。
講義方法	単位取得を希望する人は、下記の2点を了解のうえ、履修登録のこと。 ＊成績などにおいて4年生を絶対に特別扱いしない。 ＊授業中の私語や携帯電話やメールの使用は厳禁。ただし質問は歓迎。
準備学習	入門レベルのミクロ経済学の知識があることがのぞましい。また前期の「労働経済Ⅰ」を履修することによって、理解が高まると思われる。
成績評価	学期末試験(100点満点)+平常点(上限30点)。100点以上のときには100点とする。ただし成績不良者の救済は絶対に行わない。
講義構成	講義予定トピックは以下の通り。 *さまざまな賃金格差 *失業と労働市場 *女性の労働問題 *若年者の雇用問題 *高齢者の雇用問題
教科書	特定の教科書は使用しない。ただし下記の参考書については、講義をより深く理解するうえで役立つと思われる。
参考書・資料	*大竹文雄(1998)『労働経済学入門』日経文庫 *大橋勇雄・中村二朗(2004)『労働市場の経済学』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2000)『マテリアル人事労務管理』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2007)『新しい人事労務管理(第3版)』有斐閣アルマ *中馬宏之(1995)『労働経済学』新世社